第55回 日本植物生理学会年会

会　期：2014年3月18日（火）～20日（木）

会　場：富山大学五福キャンパス
〒930-8555 富山市五福3190

懇親会：ANAクラウンプラザホテル富山
〒930-0084 富山県富山市大手町2-3
http://www.anacrowneplaza-toyama.jp/

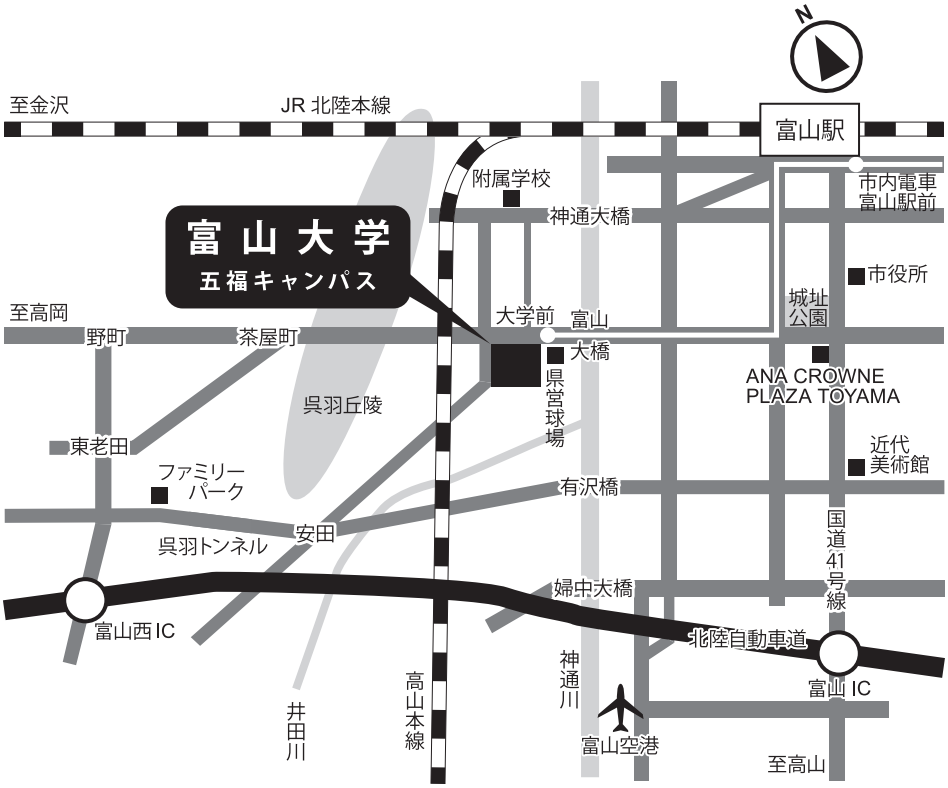
会場までの主要交通機関
構内案内図
会場案内図
1. 参加登録受付
2. 昼食案内
3. クローク
4. 保育室
5. 発表される方へ
6. アプリケーションでの要旨集の閲覧について
7. 無線LAN サービスについて
8. 座長の方へ
9. 特許
10. 禁止事項
11. 年会中の連絡方法
12. ミキサー
13. 懇親会
14. 年会特別企画「高校生生物研究発表会」
15. ランチョンセミナー
16. 関連集会
17. 学会関連委員会
18. 授賞式・受賞講演
日程表
シンポジウム
学会賞授賞式・受賞講演
関連集会
ランチョンセミナー
一般講演（口頭）
一般講演（ポスター）
座長リスト

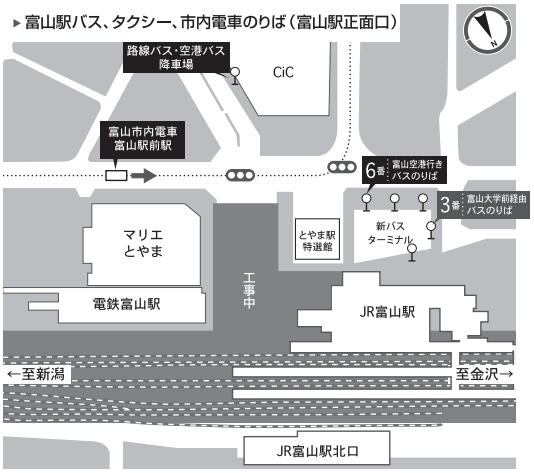
第55回日本植物生理学会年会委員会

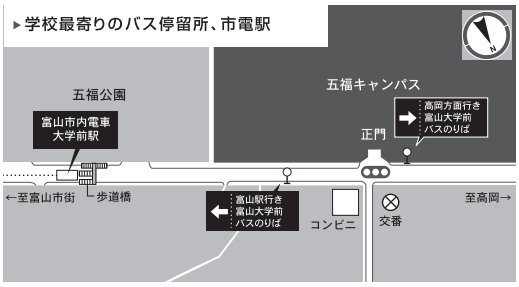
委 員 長	山田恭司
副委員長	若杉達也
総　　務	唐原一郎
会　　計	蒲池浩之
懇親会・ミキサー	蒲池浩之／山村良美
プログラム委員	荻田信二郎
シンポジウム	若杉達也
プログラム編成	黒崎文也／伊藤紀美子／岩崎俊介／酒井達也／竹能清俊／竹村美保／西内　巧／西山智明／濱田達朗／林八寿子／三ツ井敏明／和田　楓
関連集会	若杉達也
高校生発表	荘司和明
会　　場	山本将之
保 育 室	山村良美

一般社団法人 日本植物生理学会

会場までの主要交通機関







利用交通機関

JR富山駅から

バス

JR 富山駅前　富山地鉄・路線バス「富山大学経由」（富山駅南口バスターミナル３番乗り場）乗車

▼　約15分　230円

「富山大学前」バス停下車すぐ

市内電車

JR 富山駅前　市内電車「富山駅前」駅より「富山大学行き」乗車

▼　約15分　200円

「大学前駅」下車，徒歩５分

富山空港（航空機）から

バス「富山駅」行き乗車

▼　約25分　400円

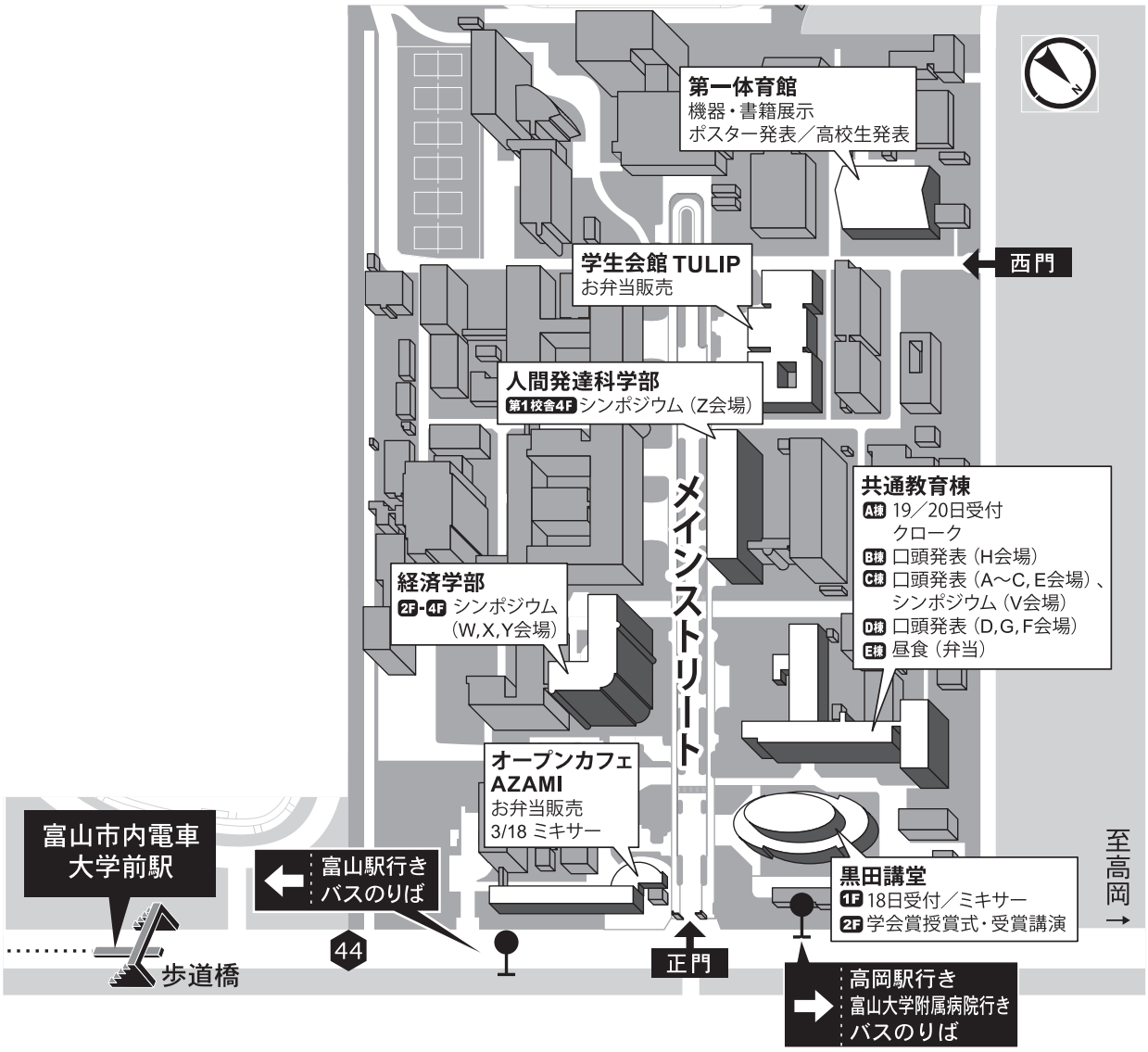
バスないし市内電車「富山駅前」

▼　（上記と同じ）

バス「富山大学前」ないし市内電車「大学前」下車

※路線バス、市内電車とも富山駅から富山大学前行きの増便をお願いしております。混雑する時間帯には、増便数の多い路線バスの方が便利です。

構内案内図

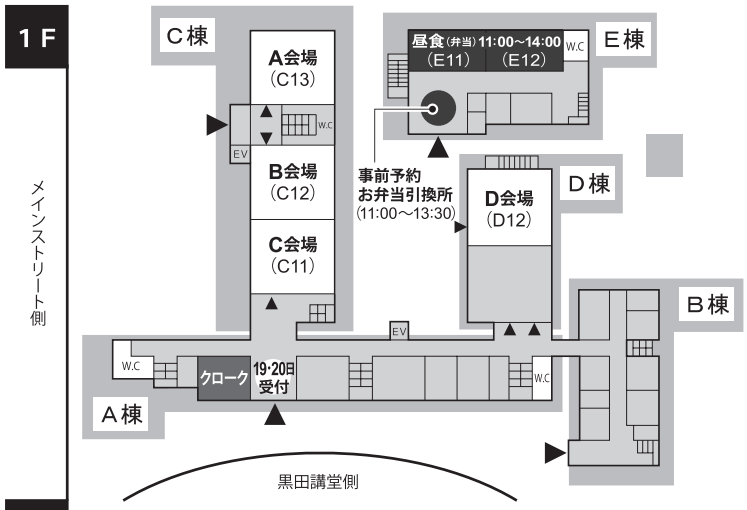

第一体育館
機器・書籍展示
ポスター発表／高校生発表
学生会館 TULIP
お弁当販売
西門
人間発達科学部
第1校舎4F シンポジウム（Z会場）
メインストリート
共通教育棟
A棟 19／20日受付
クローク
B棟 口頭発表（H会場）
C棟 口頭発表（A～C, E会場）、
シンポジウム（V会場）
D棟 口頭発表（D,G,F会場）
E棟 昼食（弁当）
経済学部
2F-4F シンポジウム
（W,X,Y会場）
オープンカフェ
AZAMI
お弁当販売
3/18 ミキサー
富山市内電車
大学前駅
富山駅行き
バスのりば
44
歩道橋
正門
黒田講堂
1F 18日受付／ミキサー
2F 学会賞授賞式・受賞講演
高岡駅行き
富山大学附属病院行き
バスのりば
至高岡

会場案内図

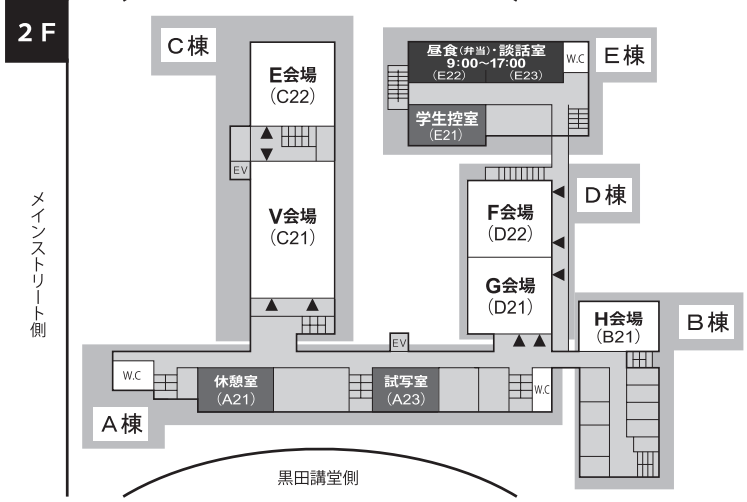
共通教育棟

教室番号の例示
C１３ ＝C棟１階３番教室

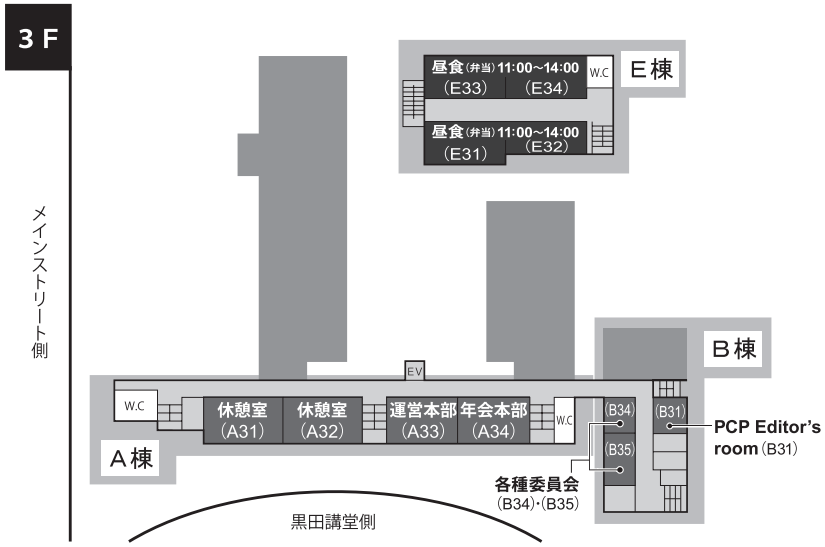
1F



2F

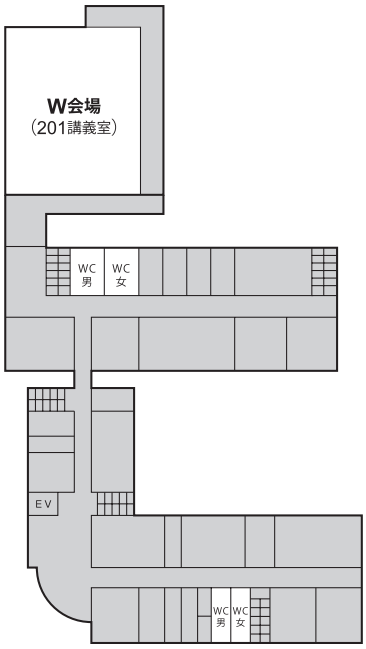


3F



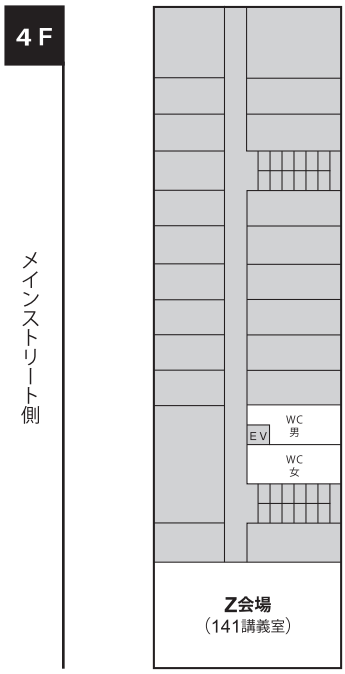
経済学部

- **X会場**(301講義室)
- **Y会場**(401講義室)



人間発達学部 第1校舎

4F



1. 参加登録受付

1）3月18日（火）午前8時30分より，黒田講堂1階会議室にて行います．受付の混雑を緩和する手だてを考えてはいますが，それでも一般講演が始まる午前9時30分ごろは混雑が予想されます．特に，18日午前すぐの時間帯に発表予定の方は，早めに受付を済ませてください．なお，3月19日（水）および20日（木）は，共通教育棟A棟1階にて受付を行います．

2）予約参加登録済みの方は，「予約参加受付」で参加受付を行って下さい．

3）参加申込みをしていない方（参加費を納入していない方）は，「当日参加受付」で参加手続きをして下さい．当日参加申込書は年会HPに掲載していますので，ご利用ください．当日参加の参加費等は，次の通りです．

なお，事前に参加費を払い込まれていない方については，オンライン登録の有無に関わらず当日参加費を申し受けます．

当日年会参加費（講演要旨集代金を含む）	
通常会員	10,000円
学生会員	6,000円
非 会 員	13,000円
懇親会費（一律）	9,000円
講演要旨集のみ	5,000円

4）会場内では，常時名札を着用して下さい．年会委員会では随時，名札の確認を行います．

5）会員・非会員を問わず，学部3年生以下の大学生と中学校・高等学校の教員・生徒は無料で参加できます．「当日参加受付」にて身分証明書を提示し，名札を受け取って下さい．無料参加者には要旨集は配布されませんが，プログラムが印刷された学会通信を先着100名に配布します．なお，要旨集は会場受付とポスター会場で閲覧できます．

2. 昼食案内

年会期間中は会場内の生協食堂が改築工事のため利用できません．会場周辺には食堂が少ないので，学生会館のTULIPと正門を入ってすぐ左側のオープンカフェAZAMIでお弁当の販売を依頼しています．数に限りはありますが，ご利用ください．事前にお申込いただきましたお弁当は11:00～13:30の間にE棟の1階で参加証に印刷された引換券と交換いたします．

オープンカフェAZAMIは営業していますが，席数が多くありませんので，あらかじめご承知おきください．また，案内図の通り，時間限定で昼食会場を設けていますので，ご利用ください．

3. クローク

クロークは共通教育棟A棟1階（会議室）に設けます．開設時間帯は以下の通りです．夜間の保管はできませんので，必ずその日のうちに荷物をお引取り下さい．また，貴重品の入ったお荷物はお預かりできません．

1日目　3月18日（火）　8:30～19:00
2日目　3月19日（水）　8:30～18:45
3日目　3月20日（木）　8:30～16:30

4. 保育室

開催期間中の3月18日（火）～20日（木），乳幼児同伴者のための保育室を開設します．保育室は，年会会場である富山大学五福キャンパス理学部校舎内に設けます．また，懇親会会場にも開設します．

詳細は年会HPでご確認ください．

5. 発表される方へ

日本植物生理学会国際委員会より，年会の国際化を促すため口頭発表・ポスター発表とも，図表は英語で作るよう提言が出されています．富山年会の発表については，下記の指針にそって図表を作成してくださいますようお願いいたします. なお, 図表の作成に当たっては,「色盲の人にもわかるバリアフリープレゼンテーション法」のサイト http://www.nig.ac.jp/color/ もご参照ください.

①口頭発表で映写するスライドの使用言語は英語とする．最後に簡潔な英語のまとめのスライドを用意する．口頭発表は英語で行うことも可とする.

②ポスターの言語も基本的には英語とする．ただし，日本語の演題名と要約をつける.

1）一般発表をされる方へ

①発表者の資格について

定款第 7 条（3）に，年会の研究発表者は本会会員に限ると定められています．発表者が本会の非会員である場合は発表前に入会手続きをお取り下さい.

②発表の形態について

一般発表の形態（ポスター発表か口頭発表か）については，申し込み時のご希望に添えるように年会委員会で決定しています．発表形態をプログラムでご確認のうえ，準備をお進め下さい.

③ポスター発表について

ポスター展示用パネルは，幅90 cm × 高さ 210 cm（床まで）のサイズです．幅90 cm 未満，高さ 120 cm 前後のポスターをご準備ください．ポスター貼り付けのためのピンは年会側で用意します.

<u>ポスターの掲示・撤去</u>

・前半の部で発表される方（演題番号が PF で始まる方）は，1 日目の 9 時 30 分から 12 時までに掲示し，2 日目の 9 時から 12 時までに撤去してください．それ以降に残ったポスターについては，年会委員会で撤去させていただきます.

・後半の部で発表される方（演題番号が PL で始まる方）は，2 日目の 12 時から 16 時までに掲示してください．撤去は，3 日目の 16 時までにお願いします．それ以降に残ったポスターについては，年会委員会で撤去させていただきます.

<u>質疑応答</u>

・前半の部のポスターの発表者は，1 日目の 16:45 ～ 18:45 に，演題番号　①奇数　②偶数　の順番でそれぞれ 1 時間ずつ,

・後半の部のポスターの発表者は，3 日目の 13:15 ～ 15:15 に，演題番号　①奇数　②偶数　の順番でそれぞれ 1 時間ずつ,

それぞれのポスターの前にて質疑応答を行ってください.

④口頭発表について

<u>口頭発表についての注意事項：</u>

・口頭発表は質疑応答を含めて 15 分を予定しています．時間に沿った進行のため，12 分の発表と 2 分 30 秒の質疑応答でお願いいたします.

・発表には液晶プロジェクターのみが使用できます．会場によってはスクリーンが複数の場合もありますが，複数のプロジェクターによる同時投影はできません.

・年会委員会では発表用のパソコンは用意できませんので，発表者は各自でご用意ください.

・発表に先立って，パソコンに外部モニターを認識させる作業を試写室で必ず行い，作動確認をお願いします．試写室は共通教育棟 A 棟 2 階 A23 教室に設けます.

・前演者が発表を終了するまでに，必ずファイルを開いておいてください.

・外部モニターの認識にリスタートが必要なパソコンの場合には予めリスタートしておいてください．また，接続はミニ Dsub15 ピン外部出力コネクターを介して行いますので，特殊な接続アダプターが必要な場合は，各自でご持参願います．
・機器の操作に補助が必要な場合は，演者ご自身で補助者を手配してください．
・発表される方は演台に用意してあるケーブルを使用し，差し終えた状態で外部モニター出力に切り替えてください．終了時には，必ず次の演者用にコネクターを外してもとの位置へ戻しておいてください．

2）シンポジウム講演者の方へ
シンポジウムでの講演は，講演時間の長さが異なる以外，一般講演の口頭発表と同様に行われます．その他の必要な事項についてはシンポジウムのオーガナイザーにご確認願います．

6. アプリケーションでの要旨集の閲覧について

前回年会に引き続き，年会要旨集の携帯端末用アプリケーションを配布いたします．アプリケーションは iOS 版と Android 版があり，対応するスマートフォンやタブレット等で要旨集が閲覧できるようになります．利用される方は App Store ならびに Google Play からダウンロードしてください．ダウンロードは3月11日（火）以降に可能となる予定です．アプリケーションの閲覧の際には，上記日程以降に送信予定のメールに記載の Password をご利用ください．要旨の閲覧は年会参加者のみ可能です．

7. 無線LAN サービスについて

無線 LAN は，年会会場内の A, C, V, W, X, Y, Z の各会場および休憩室（A21, A31, A32）においてご利用いただけます．利用を希望される方は，総合案内までお越し下さい．なお，数に限りがありますので，予めご了承ください．

8. 座長の方へ

座長を担当くださる方は，担当時間の 15 分前に会場にお集まり下さい．担当される方々で，分担を決めていただきたくお願いいたします．年会以前にご相談のうえ，分担を決めていただいて結構ですが，当日，開始前には必ず集合してご確認ください．ご協力のほどよろしくお願いいたします．

9. 特許

以前は，当年会において発表された内容について日本植物生理学会が発表証明書を発行してきました．しかし，平成22年3月の「発明の新規性喪失の例外規定の適用を受けるための出願人の手引き」の改定により，現在では当該証明書が必要となる場合はないものと考えられています．（詳しくは，http://www.jpo.go.jp/shiryou/kijun/kijun2/pdf/reigai/30jo_qa_shu.pdf#page=9 を参照してください．）したがって，当年会においては日本植物生理学会による発表証明書の発行は行わないことといたします．ご承知おきくださいますようお願いいたします．

10. 禁止事項

発表内容に関して，カメラ，ビデオ，携帯電話による撮影，もしくは講演音声の録音等を，発表者に無断で行うことを厳に禁止します．

11. 年会中の連絡方法

・年会本部への連絡の方法

3月17日（年会前日）午後～20日（年会3日目）の年会本部へのご連絡やお問い合わせは, e-mail（jspp2014@nacos.com）にてお願いします.

12. ミキサー

年会1日目（3月18日）の18:45から，オープンカフェAZAMIと黒田講堂1階会議室にてミキサーを行います．ぜひご参加ください.

13. 懇親会

年会2日目の3月19日（水）19:00からANAクラウンプラザホテル富山で開催します．ふるってご参加ください.

ANAクラウンプラザホテル富山

〒930-0084　富山県富山市大手町2-3　TEL076-495-1111　http://www.anacrowneplaza-toyama.jp/

授賞式・受賞講演の会場付近にシャトルバスを用意する予定ですので，ご利用下さい.

14. 年会特別企画「高校生生物研究発表会」

富山年会でも，高校生の皆さんに植物生理学会に直接ふれてもらうことを通して，将来一人でも多く，植物生理学者が誕生するように，また，高校の理科教育のレベルアップにも貢献できることを目指して，年会特別企画「高校生生物研究発表会」を開催します．学会員各位には，高校生の皆さんの発表に対してぜひとも積極的に参加し，議論してくださるようお願いいたします．高校生ポスター発表のプログラムは別冊子として配付します.

日　時：年会3日目　3月20日（木）　12:30～16:00

会　場：ポスター会場

主　催：第55回日本植物生理学会年会委員会

12:30～13:00　ポスター受付・掲示

13:00～13:10　開会式

13:10～14:30　ポスター説明および質疑応答，優秀ポスター投票

15:30～16:00　表彰式・閉会式（A会場）

15. ランチョンセミナー

◆PCP特別企画：「あなたの論文の第一印象を変えよう」

日　時：年会2日目　3月19日（水）12:15～13:15（スケジュールの詳細はp.71をご覧下さい）

会　場：C会場

内　容：現在，世界では年間110万報以上の論文が出版されています．たくさんの論文のなかで，あなたの論文をより目立たせる為に何ができるでしょうか？また，採択されやすい論文は何が違うのでしょうか？そのヒントは，あなたの論文の第一印象となる論文タイトルやアブストラクトの書き方にあるのかもしれません．今年のPCPランチョンセミナーでは，PCP編集実行委員がアクセス数の高いPCP論文を例に，論文をより魅力的にみせるためのヒントをご紹介します．若手研究者の皆様，そうでない皆様も，ふるってご参加ください.

※事前申し込み不要．先着100名様までにお弁当をご用意しています.

【講演者】　Editor-in-Chief:　山谷 知行（東北大学）

Editor:　木下 俊則（名古屋大学）

Andreas P Weber（Heinrich-Heine University of Dusseldorf）

Zhizhong Gong（China Agricultural University）
David Jackson（Cold Spring Harbour Laboratory）
Managing Editor: Liliana Costa

◆男女共同参画キャリアパスセミナー「支え・支えられて共に歩む」
日　時：年会3日目　3月20日（木）12:15 ～ 13:15（スケジュールの詳細は p.72 をご覧下さい）
会　場：G会場
※昨年同様お弁当とお茶を準備いたします．セミナー当日の 8 時 30 分より，引換整理券を学会本部受付で配布いたします．お弁当の引換整理券の有無にかかわらず，どなたでもご参加いただけます．

16. 関連集会

◆第16回植物オルガネラワークショップ
「オルガネラの遺伝子発現と細胞内シグナリング」
日　時：年会前日　3月17日（月）13:30 ～ 18:40（スケジュールの詳細は p.68 をご覧下さい）
会　場：理学部2階　多目的ホール
内　容：上記のワークショップを第 55 回日本植物年理学会年会のサテライトとして開催します．ワークショップへの参加は無料です．また，ミキサーの参加費は 3,500 円（予定）で，当日会場にて徴収します．ワークショップおよびミキサーへの参加希望者は 3 月 10 日（月）までに次のホームページよりお申し込み下さい．当日参加も歓迎します．
http://sfns.u-shizuoka-ken.ac.jp/pctech/workshop
連絡先：若杉達也　E-mail:wakasugi@sci.u-toyama.ac.jp
楠見健介　E-mail:kkususcb@kyushu-u.org

◆ワークショップ「茎寄生植物ネナシカズラ研究事始め」
―これからネナシカズラの研究を始める方のために―
新学術領域研究「植物細胞壁機能」共催
日　時：年会前日　3月17日（月）16:00 ～ 19:00（スケジュールの詳細は p.69 をご覧下さい）
会　場：理学部　C105教室
内　容：茎寄生植物であるネナシカズラが宿主植物に寄生する一連の過程は，環境シグナルへの応答や，異種間の細胞認識，器官再編など，興味深い未解明の生命現象の宝庫である．特に，器官形成や細胞壁の再編と情報処理，細胞間情報伝達，メタボロミクス，オルガネラ機能，遺伝子水平移動等の分野では研究材料として魅力的である．しかし，ネナシカズラの研究プラットホームは整備されているとは言いがたく，研究開始のハードルは高い．そこで，この研究集会では，ネナシカズラの研究の基本となる　①種子入手と発芽法，②寄生実験法，③トランスクリプトーム解析，④寄生反応を誘引する寄主植物代謝物質の解析，⑤レーザーマイクロダイセクションを用いた組織レベルのオミクス解析，などについて，ネナシカズラの研究者が研究の最前線の状況についての話題を提供し，研究開始のハードルを下げると同時に，研究者コミュニティーを広げて共同研究を促進することを目指しています．ネナシカズラの研究者との共同研究をお考えの方も，是非御参加頂ければと思います．
尚，弁当の用意がありますので，事前予約制とさせて頂きます．また，スペースなどの制約のため，参加人数の上限を 30 名程度とさせて頂きます．予めご了承下さい．
要事前登録：登録サイト http://cuscuta.jimdo.com/ より，所属，身分，氏名，e-mail をご入力の上，お申込み

下さい．申込み締め切り2月28日
連絡先：西谷和彦（東北大学）nishitan@m.tohoku.ac.jp
青木　考（大阪府立大学）kaoki@plant.osakafu-u.ac.jp
共催者：新学術領域研究「植物細胞壁機能」
事務局e-mail：plantcellwall@m.tohoku.ac.jp
領域URL：http://www.plantcellwall.jp/#/pro
科研費基盤A「トマト研究基盤を活用した植物寄生に伴う組織接続機構の研究」
連絡先：kaoki@plant.osakafu-u.ac.jp

◆植物生理若手の会2014（第32回講演会）
「博士号取得後のキャリアパス～企業研究者，国内PI，海外PIに聞く～」
日　時：年会1日目　3月18日（火）18:45～20:45（スケジュールの詳細はp.70をご覧下さい）
会　場：A会場
内　容：博士号取得者の数に対して大学や研究機関における定年制のアカデミックポジションの数は少なく，今後も大きな改善は望めない状況です．一方で，博士課程取得者の企業への就職も大きく伸びているとは言えません．このような状況の中，『研究者として，これからどのようなキャリアパスを描いていくか？』これは学生や若手研究者が常に考えて行かなければならない問題です．
そこで本年度の講演会では『博士号取得後のキャリアパス』をテーマに，静岡大学の大西利幸 准教授，日本農薬株式会社 岡田敦 研究主任，ドイツMax Planck研究所の津田賢一 Group Leaderをお招きしてご自身のご経験や現状についてお話して頂きます．
静岡大学の大西利幸さんは京都大学で学位を取得された後，カナダ ブリティッシュコロンビア大学Michael Smith Laboratoriesへの留学を経て，静岡大学のテニュアトラック助教に着任され，現在は同大学准教授として植物の化学防御機構やシトクロムP450酵素について先進的なご研究を行っておられます．
日本農薬株式会社の岡田敦さんは東京大学大学院農学生命科学研究科で学位を取得され，同大学生物生産工学研究センターで産学官連携研究員，及び特任助教として植物の抗菌性二次代謝産物の生産制御機構のご研究をされておられました．その後，日本農薬株式会社に就職され，現在は新規農薬の探索研究に従事されておられます．
ドイツMax Planck研究所の津田賢一さんは北海道大学で学位を取得された後，米国ミネソタ大学への留学を経て，現在はMax Planck研究所のGroup Leaderとして植物免疫について先進的な研究を行われています．
学生や若手に限らず，興味のある方はぜひこの貴重な機会にご参加頂き，研究者のキャリアパスについて様々な意見交換をして頂きたいと存じます．夕刻よりの開催ですが，皆様の御参加をお待ち申し上げております．
事前登録は不要ですが，例年通り御弁当を一括注文いたします（1,000円前後）．また，講演会終了後には講演者を含めた懇親会を行います．ご希望の方はメールにてご連絡ください(jsyppmeeting@yahoo.co.jp)．

17. 学会関連委員会

3月17日（月）　年会前日

13:30～15:00	［理学部A238］	PCP編集委員会
15:00～18:00	［理学部A238］	PCP編集実行委員会

16:00 ～ 18:00　［理学部C202］　広報委員会
17:00 ～ 18:00　［理学部C204］　学会賞選考委員会
17:00 ～ 18:00　［理学部C206］　国際委員会

3月18日（火）　年会1日目
12:30 ～ 13:30　［共通教育棟3F B35］　理事会
18:45 ～ 21:30　［共通教育棟2F D22（F会場）］　代議員会

3月19日（水）　年会2日目
12:00 ～ 13:00　［共通教育棟3F B34］　広報委員・サイエンスアドバイザー懇談会
12:30 ～ 13:30　［共通教育棟3F B35］　男女共同参画委員会

3月20日（木）　年会3日目
12:00 ～ 13:00　［共通教育棟3F B34］　GMO対応WG
13:30 ～ 14:30　［共通教育棟3F B34］　功績賞選考委員会
16:30 ～ 17:30　［共通教育棟3F A34（年会本部）］　年会引継会

18. 授賞式・受賞講演

3月19日（水）　年会2日目　16:20 ～ 18:25　黒田講堂ホール
（スケジュールの詳細はp.67をご覧ください）

Time table 2014 / 03 / 18 (Tue) 第1日目

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
A		老化・細胞死／成長制御				胚発生，細胞分化／種子形成，休眠，発芽					植物生理若手の会（18:45-20:45）
B		情報伝達／光受容体・光応答				光受容体・光応答					
C		植物微生物相互作用（免疫）				植物微生物相互作用（免疫）					
D		光化学系 I・II				光合成色素・光捕集系／光化学系 I・II					
E		栄養器官の発生・分化				栄養器官の発生・分化					
F		細胞周期・分裂				細胞骨格／細胞壁					代議員会（18:45-21:45）
G		糖質・脂質／二次代謝				二次代謝					
H		細胞内輸送・蓄積・分泌／吸収・転流・蒸散／生体膜・イオン輸送				電子伝達系・炭素代謝					
V		シンポジウム S01 Future research of C4 plant biology				シンポジウム S06 植物科学における“デザインドバイオマス”研究と展望					
W		シンポジウム S02 New frontiers in the root developmental biology				シンポジウム S07 植物の休眠―さまざまな「眠り」に共通する戦略―					
X		シンポジウム S03 葉序パターンの数理と生成機構				シンポジウム S08 アポプラストシグナルを介した器官・組織・細胞間相互作用					
Y		シンポジウム S04 植物の三大栄養素（N-P-K）の感知と利用の新理解				シンポジウム S09 植物科学が切り拓く細胞研究のフロンティア					
Z		シンポジウム S05 データベース講習会				シンポジウム S10 ライブイメージング：RI が教えてくれる植物の元素動態					
第1体育館		ポスター掲出		ポスター発表（前半）					質疑応答（奇数番号）（偶数番号）		
黒田講堂											ミキサー（18:45-20:00）
その他					理事会 共通教育棟 3F B35						

Time table 2014 / 03 / 19 (Wed) 第2日目

	9–12	12–13	14–16	16–19
A	ゲノム・EST／トランスクリプトーム／メタボローム／バイオインフォマティクス／データベース／その他		小胞輸送	
B	栄養器官の発生・分化		遺伝・生殖／光周性・リズム・時計	
C	生殖器官の発生・分化／植物ホルモン・成長調節物質		植物ホルモン・成長調節物質	
D	オルガネラ／小胞輸送		オルガネラ	
E	イオン・塩・金属		イオン・塩・金属	
F	光合成・呼吸の環境応答		電子伝達系・炭素代謝／光合成・呼吸の環境応答／その他	
G	転写制御／転写後制御		転写後制御／エピジェネティック制御／タンパク質修飾・分解	
H	温度		乾燥・水分・浸透圧／病虫害応答・傷害応答	
V	シンポジウム S11 植物発生ロジックの多元的研究		シンポジウム S15 Morphological diversity and meristem function in plants	
W	シンポジウム S12 Aquaporins in the mechanism of hydraulic and CO_2 conductance		シンポジウム S16 Frontier of Plant Epigenome Regulation	
X	シンポジウム S13 Biotic interactions mediated by plant infochemicals		シンポジウム S17 植物環境感覚研究の新しい地平を切り拓く新技術	
Y	シンポジウム S14 植物の個体制御における RNA機能		シンポジウム S18 酸化シグナルの鍵因子，活性カルボニルの多様な生理作用と制御	
Z				
第1体育館	ポスター撤去（前半）	ポスター掲出（後半）		
黒田講堂			本部企画・学会賞授賞式・受賞講演	
その他				懇親会 （ANAクラウンプラザ） （19:00-21:00）

PCP特別企画（ランチョンセミナー）
「あなたの論文の第一印象を変えよう(仮)」

Time table 2014 / 03 / 20 (Thu) 第3日目

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
A	窒素代謝・栄養代謝							高校生発表表彰式・閉会式			
B	花成										
C	細胞壁										
D	植物微生物相互作用（共生）／その他										
E	植物ホルモン・成長調節物質										
F	バイオインフォマティクス／トランスクリプトーム／技術開発／バイオリソース										
G	UV障害／レドックス制御／酸化ストレス／重力				男女共同参画キャリアパスセミナー（ランチョンセミナー）「支え・支えられて共に歩む」						
H											
V	シンポジウム S19 Open new aspects of cell-cell communication via plasmodesmata in plants										
W	シンポジウム S20 環境変動に対する植物の生存成長戦略：統合研究の新展開										
X	シンポジウム S21 植物ゲノム編集の新境地										
Y	シンポジウム S22 顕微鏡で測る―測定装置としての顕微鏡を用いた生物機能の解析										
Z											
第1体育館	ポスター発表（後半）					質疑応答（奇数番号）（偶数番号）		ポスター撤去（後半）			
第1体育館					高校生発表						
黒田講堂											

第１日目　午前　シンポジウム１　OXFORD UNIVERSITY PRESS　PCP PLANT & CELL PHYSIOLOGY　PCP sponsored symposium

3 月 18 日（火）　9:30 ～ 12:20　V 会場

Future research of C_4 plant biology

Organizers　Mitsutaka Taniguchi (Grad. Sch. of Bioagri. Sci., Nagoya Univ.)
Andreas P.M. Weber (Inst. of Plant Biochem., Heinrich-Heine Univ.)
Yuri N. Munekage (Grad. Sch. of Biol. Sci., NAIST)

09:30　Celebrating the fourth PCP/OUP sponsored symposium
Miki Matoba[1] ([1]Oxford University Press)

09:35　Opening remarks
Mitsutaka Taniguchi[1] ([1]Grad. Sch. of Bioagri. Sci., Nagoya Univ.)

● Chairperson: Mitsutaka Taniguchi

09:40　S01-1　Anatomical and ultrastructural features of C_3 and C_4 plant leaves
Hiroshi Miyake[1] ([1]Grad. Sch. of Bioagri. Sci., Nagoya Univ.)

10:05　S01-2　C_4 photosynthesis: insights from transgenic plants.
Susanne von Caemmerer[1], Jasper Pengelly[1], Hugo Alonso Cantabrana[1], Robert Furbank[2]
([1]The Australian National University, [2]CSIRO Plant Industry, Canberra)

10:30　S01-3　Towards engineering C_4 Photosynthesis: Lessons from transcriptomic and evolutionary analyses
Andreas P.M. Weber[1] ([1]Institute of Plant Biochemistry, Heinrich-Heine University)

10:55　S01-4　Promotion of cyclic electron transport during the evolution of C_4 photosynthesis
Yuri N. Munekage[1], Naoya Nakamura[1], Akiho Yokota[1] ([1]Graduate School of Biological Sciences, Nara Institute of Science and Technology)

● Chairperson: Yuri N. Munekage

11:20　S01-5　A novel C_4-metabolism-regulator, CP12-3, functioning for the adapting to light fluctuation
Tsuyoshi Furumoto[1] ([1]Letters, Ryukoku Univ.)

11:45　S01-6　A comparative analysis of C_4 photosynthetic differentiation in the panicoid grasses
Thomas Brutnell[1] ([1]Donald Danforth Plant Science Center)

12:10　Closing remarks
Yuri N. Munekage[1] ([1]Grad. Sch. of Biol. Sci., NAIST)

共　催

最先端・次世代研究開発支援プログラム
「C_4型作物の分子育種へ向けた C_4型光合成誘導システムの解明」

3 月 18 日（火）　9:30 ～ 12:20　W 会場

New frontiers in the root developmental biology

Organizers　Masaaki Umeda (NAIST; JST, CREST)
Hironaka Tsukagoshi (Nagoya Univ.; JST, PRESTO)

● Chairperson: Hironaka Tsukagoshi

09:30		Opening remarks
09:35	S02-1	The essential function of cytokinin in promoting cell elongation in *Arabidopsis* roots Masaaki Umeda[1,2], Hirotomo Takatsuka[1], Naoki Takahashi[1] ([1]Grad. Sch. Biol. Sci., NAIST, [2]JST, CREST)
10:00	S02-2	Imaging analyses of DNA replication and cell division in root development Sachihiro Matsunaga[1] ([1]Dept. Appli. Sci., Fac. Sci. Tech., Tokyo Univ. Sci.)
10:25	S02-3	Genetic pathways regulating cell fate specification and functional specialization in the Arabidopsis root Keiji Nakajima[1,2] ([1]Grad. Sch. Biol. Sci., NAIST, [2]PRESTO, JST)

● Chairperson: Masaaki Umeda

10:50	S02-4	Protein complexes of transcription factors control the stem cell niche in *Arabidopsis* roots Akie Shimotohno[1,2], Ben Scheres[1] ([1]Wageningen University, the Netherlands, [2]The University of Tokyo)
11:15	S02-5	Transcription network controls transition from proliferation to differentiation in the root via ROS Hironaka Tsukagoshi[1,2], Kaho Mabuchi[1], Wolfgang Busch[3], Philip Benfey[4] ([1]Grad. Sch. Bioagr., Univ. Nagoya, [2]PRESTO, JST, [3]GMI, [4]Duke Univ.)
11:40	S02-6	The importance of QC cell division Lieven De Veylder[1] ([1]Department of Plant Systems Biology, Ghent University-VIB, Ghent, Belgium)
12:15		Closing remarks Masaaki Umeda[1,2] ([1]NAIST, [2]JST, CREST)

3 月 18 日（火）　9:30 ～ 12:30　X 会場

葉序パターンの数理と生成機構

オーガナイザー　杉山　宗隆（東京大・院・理・植物園）
藤田　浩徳（基生研）

09:30　はじめに
杉山宗隆[1]（[1]東京大・院・理・植物園）

●座長：藤田浩徳

09:35　S03-1　フィボナッチ数列と黄金角と植物のらせん
杉山宗隆[1]（[1]東京大・院・理・植物園）

09:55　S03-2　葉序の異常を示すイネの突然変異体
伊藤純一[1]（[1]東京大院・農学生命科学）

10:20　S03-3　花器官の数の決まり方：Douady & Couder の数理モデルの発展
北沢美帆[1]，藤本仰一[1]（[1]大阪大・院・理・生物科学）

10:45　S03-4　反応拡散系モデルによる花序パターンの考察
田中吉太郎[1]，三村昌泰[2]，二宮広和[3]（[1]明治大学大学院先端数理科学研究科，[2]明治大学先端数理科学インスティテュート，[3]明治大学総合数理学部）

●座長：杉山宗隆

11:10　S03-5　Auxin response links two types of PIN1 polarization in phyllotactic organogenesis
Masahiko Furutani[1], Yasukazu Nakano[1], Masao Tasaka[1] ([1]Grad. Sch. Biol. Sci., NAIST)

11:35　S03-6　葉序の物理～葉序の理解に数学は必要か？
岡部拓也[1]（[1]静大院工）

12:00　S03-7　ウミユリ類（棘皮動物）の腕の分岐パターン
柴田朋子[1]（[1]基礎生物学研究所 生物進化研究部門）

12:25　おわりに
藤田浩徳[1]（[1]基生研）

共　　催

文部科学省科学研究費補助金　新学術領域研究
「複合適応形質進化の遺伝子基盤解明」

３月 18 日（火）　9:30 ～ 12:35　Ｙ会場

植物の三大栄養素（N-P-K）の感知と利用の新理解

オーガナイザー　小俣　達男（名大・院・生命農学）
榊原　　均（理研・CSRS）
柳澤　修一（東大・生生）

09:30　はじめに
榊原均[1]（[1]理研・CSRS）

●座長：小俣達男

09:35　S04-1　窒素栄養に応答したサイトカイニン生合成調節機構は複数存在する
榊原均[1]，木羽隆敏[1]，信定知江[1]（[1]理化学研究所環境資源科学研究センター生産機能研究グループ）

10:00　S04-2　植物の硝酸応答機構研究の新展開
柳澤修一[1]，小西美稲子[1]，鈴木渉[1]（[1]東京大学生物生産工学センター）

●座長：榊原　均

10:25　S04-3　イネ根におけるアンモニウム態窒素吸収の負の制御の新理解
早川俊彦[1]，山谷知行[1]（[1]東北大・院農）

10:50　S04-4　光合成生物の窒素過剰に対する応答の新理解
小俣達男[1]，高谷信之[1]，Yajun Chang[1]，上坂一馬[1]，前田真一[1]，井原邦夫[2]，木羽隆敏[3]，伊藤卓朗[4]，兼松璃々子[5]，愛知真木子[6]（[1]名大・院生命農学，[2]名大・遺伝子，[3]理研・CSRS，[4]慶大・先端生命研，[5]中部大・院応用生物，[6]中部大・応用生物）

●座長：柳澤修一

11:15　S04-5　植物におけるリン環境認識とリン利用の新しい視点
三村徹郎[1]，大西美輪[1]，姉川彩[1]，栗田悠子[1]，岡田和哉[1]，益田陽平[1]，菅野里美[1]，深城英弘[1]，馬場啓一[2]（[1]神戸大院・理・生物，[2]京都大・生存研）

11:40　S04-6　リン欠乏条件下に誘導される新規の植物脂質の同定とその生理学機能の解明
岡咲洋三[1]，斉藤和季[1,2]（[1]理研・CSRS，[2]千葉大・院薬）

12:05　S04-7　植物生存を支えるカリウム輸送
魚住信之[1]，浜本晋[1]，七谷圭[1]（[1]東北大学大学院工学研究科バイオ工学専攻）

12:30　おわりに
小俣達男[1]（[1]名大・院・生命農学）

共　　催

文部科学省化学研究費補助金　新学術領域研究
「植物生態学・分子生理学コンソーシアムによる陸上植物の高CO2応答の包括的解明」

CREST

新学術領域研究
ゲノム・遺伝子相関
―新しい遺伝学分野の創成―

3 月 18 日（火）　9:30 ～ 12:30　Z 会場

データベース講習会

オーガナイザー　安益　公一郎（名大・生物機能研究センター，タカラバイオ(株)）
小林　　正明（明治大・農，JST, CREST）
大柳　　一（明治大・農，JST, CREST）
矢野　健太郎（明治大・農，JST, CREST）

09:30　はじめに
矢野健太郎[1]（[1]明治大・農，JST, CREST）

●座長：安益公一郎

09:35　S05-1　Plant Genome DataBase Japan（PGDBj）―植物統合DB2013年度版の紹介―
市原寿子[1]，浅水恵理香[1]，中谷明弘[2]，中村保一[1]，平川英樹[1]，田畑哲之[1]
（[1]かずさ DNA 研究所，[2]新潟大学）

09:55　S05-2　シロイヌナズナの情報と植物遺伝子リソースをつなぐデータベース「SABRE2」
深海薫[1]，中村保一[2]，田村卓郎[3]，小林正智[1]（[1]理化学研究所バイオリソースセンター，[2]かずさ DNA 研究所，[3]ライン株式会社）

●座長：小林正明

10:15　S05-3　de novo アセンブリによる非モデルシダ植物の遺伝子発現データベースの構築について
安益公一郎[1]，小林正明[2]，田中純夢[1]，大柳一[2,3]，鈴木貴之[2]，高野知之[2]，矢野健太郎[2]，松岡信[1]（[1]名古屋大学 生物機能開発利用研究センター，[2]明治大学 農学部 生命科学科，[3]三菱スペース・ソフトウェア）

10:35　休憩

10:40　S05-4　The Plant Organelles Database (PODB) Version 3：植物オルガネラデータベースにおける環境応答情報と電子顕微鏡写真を導入した改良
真野昌二[1,2]，中村貴宣[3]，近藤真紀[1]，三輪朋樹[3]，西川周一[4]，三村徹郎[5]，長谷あきら[6]，西村幹夫[1,2]（[1]基生研・細胞生物，[2]総合研究大学院大・生命科学，[3]基生研・情報管理解析室，[4]新潟大・理・生物，[5]神戸大・院・理，[6]京大・院・理）

●座長：大柳　一

11:15　S05-5　植物の表現形質データの統合と活用
櫻井哲也[1]，秋山顕治[1]，工藤徹[2]，澤田有司[1]，松田史生[3]，榊原均[1]，斉藤和季[1,4]，篠崎一雄[1]（[1]理研・CSRS，[2]フロリダ大・園芸，[3]大阪大・院情報，[4]千葉大・院薬）

11:50　S05-6　アノテーションからゲノム情報表示までを支援する道具たち
伊藤剛[1]，熊谷真彦[1]，伊藤龍太郎[1,2]（[1]農業生物資源研究所・ゲノムインフォ，[2](株)ダイナコム）

●座長：矢野健太郎

12:25　総合討論

共　　催

科研費・新学術領域研究
「ゲノム・遺伝子相関：新しい遺伝学分野の創成」

JST CREST
「二酸化炭素資源化を目指した植物の物質生産力強化と生産物活用のための基盤技術の創出」

３月 18 日（火）　13:45 ～ 16:45　Ｖ会場

植物科学における“デザインドバイオマス”研究と展望

オーガナイザー　坂本　亘（岡山大・植物研）
出村　拓（奈良先端大・バイオ）

●座長：出村　拓

13:45		はじめに 福田裕穂[1]（[1]東大院・理）
13:50	S06-1	低肥料などの不良環境に耐えるバイオマスのデザインに向けて 藤原徹[1]，小八重善裕[1]，矢野幸司[1]（[1]東大院・農・植物栄養）
14:15	S06-2	ソルガムにおけるバイオマス関連重要形質のデザイン 佐塚隆志[1]（[1]名大・生物機能開発利用研究センター）
14:45	S06-3	バイオマスデザインのための光合成と葉緑体機能の改良 坂本亘[1]，Lingang Zhang[1]，小田知里[1]，高見常明[1]，加藤裕介[1]（[1]岡山大・資源植物科学研究所）

●座長：榊原　均

15:10	S06-4	木本におけるデザインドバイオマス 中野仁美[1]，Xiang Yu[2]，大谷美沙都[2]，出村拓[1,2]（[1]奈良先端大・バイオ，[2]理研・環境資源科学研究センター）
15:35	S06-5	芳香族バイオポリマー開発への挑戦 高谷直樹[1]，金子達雄[2]，老沼研一[1]（[1]筑波大院・生命環境系，[2]北陸先端大・マテリアルサイエンス研究科）
16:05	S06-6	バイオマス特性評価法とバイオリファイナリーへの適用 近藤昭彦[1]，川口秀夫[1]，中村聡子[1]，寺村浩[1]（[1]神戸大院・工・応用化学）
16:35		総合討論

共　　催

文部科学省　グリーン・ネットワーク・オブ・エクセレンス事業（GRENE）
植物科学分野
「植物 CO2 資源化研究拠点ネットワーク（NC-CARP）」

3 月 18 日（火）　13:45 ～ 16:30　W 会場

植物の休眠―さまざまな「眠り」に共通する戦略―

オーガナイザー　服部　束穂（名大生物機能センター）
経塚　淳子（東大農学生命）

●座長：経塚淳子

13:45　はじめに
経塚淳子[1]（[1]東大農学生命）

13:50　S07-1　種子休眠と発芽―胚成長の停止と再開という視点から
加賀谷安章[1]，脇坂恵[1]，加賀谷道子[1]，岩田昇悟[2]，加藤大和[2]，山本章子[2]，武田真[2]，服部束穂[2]（[1]三重大学生命科学研究支援センター，[2]名古屋大学生物機能開発利用研究センター）

14:15　S07-2　遺伝子発現プロファイル比較から見えてきた種子発芽と腋芽成長で共通する遺伝子発現制御機構
立松圭[1]，南原英司[2]（[1]基礎生物学研究所，[2]トロント大）

14:40　S07-3　麦類の種子休眠制御遺伝子の解析
中村信吾[1]，Mohammad Pourkheirandish[1]，森重弘美[1]，久保佑太[2]，中村雅子[2]，市村和也[2]，川東広幸[3]，Goetz Henzel[4]，Mohammad Sameri[3]，安倍史高[1]，佐藤和広[5]，金森裕之[3]，呉健忠[3]，松本隆[3]，矢野昌裕[3]，小松田隆夫[3]（[1]農研機構作物研，[2]香川大・農，[3]農業生物資源研，[4]IPK，[5]岡山大・植物研）

15:05　S07-4　温帯果樹の季節的休眠制御に関与する *DORMANCY-ASSOCIATED MADS-box* 遺伝子の機能解析
山根久代[1]，田尾龍太郎[1]（[1]京大・院農学）

●座長：服部束穂

15:30　S07-5　腋芽の休眠―休眠にともなうメリステム活性の変化とその制御機構
経塚淳子[1]，駱楽[1]，高橋徳[1]（[1]東大農学生命）

15:55　S07-6　コケ植物における無性芽の発生と休眠
石崎公庸[1]（[1]神戸大・院・理）

16:20　最後に
服部束穂[1]（[1]名大生物機能センター）

３月 18 日（火）　13:45 ～ 16:45　X 会場

アポプラストシグナルを介した器官・組織・細胞間相互作用

オーガナイザー　佐藤　　忍（筑波大・生命環境）
西谷　和彦（東北大・院・生命科学）

13:45　はじめに
西谷和彦[1]（[1]東北大・院・生命科学）

● 座長：山口信次郎

13:50　S08-1　Regulation of directional pollen tube growth by secreted molecules
Masahiro Kanaoka[1], Motoki Kuzuya[1], Kei Hattori[2], Tetsuya Higashiyama[1,2,3]
([1]Grad School Science, Nagoya University, [2]WPI-ITbM, Nagoya University, [3]ERATO Higashiyama Live-Holonics Project)

14:15　S08-2　アブラナ科植物の和合・不和合受粉過程における情報伝達系の解析
岩野恵[1]，伊藤花菜江[1]，五十嵐元子[1]，浅野（下里）裕子[1]，高山誠司[1]（[1]奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科）

14:40　S08-3　根粒発生開始を司る核内倍加を介した新規制御系
寿崎拓哉[1,2]，川口正代司[1,2]（[1]基生研・共生システム，[2]総研大・生命科学）

● 座長：佐藤　忍

15:05　S08-4　植物のキチンエリシターを介した病原菌認識機構
賀来華江[1]，Rita Berisio[2]，Antonio Molinaro[3]，渋谷直人[1]（[1]明治大・農，[2]IBB-CNR，[3]Univ. Naple）

15:30　S08-5　ストリゴラクトンの動態と機能
山口信次郎[1]（[1]東北大・生命科学）

15:55　S08-6　ホウ酸架橋されたペクチンによるホウ素栄養応答
三輪京子[1,2]（[1]北海道大学・創成，[2]さきがけ、JST）

16:20　総合討論

共　　催
新学術領域研究 「植物細胞壁機能」

3 月 18 日（火）　13:45 ～ 16:40　Y 会場

植物科学が切り拓く細胞研究のフロンティア

オーガナイザー　濱田　隆宏（東大・院・総合文化）
藤本　　優（東大・院・農学生命）

●座長：濱田隆宏

13:45		はじめに
13:50	S09-1	植物細胞の分裂様式～動物との共通性と独自性 五島剛太[1]（[1]名古屋大学 大学院理学研究科 生命理学専攻）
14:15	S09-2	植物の核膜がもつ新しい役割 田村謙太郎[1]，岩渕功誠[1]，深尾陽一朗[2]，近藤真紀[3]，岡本圭史[1]，上田晴子[1]，西村幹夫[3]，西村いくこ[1]（[1]京大・院理・植物，[2]奈良先端大・植物グローバル，[3]基生研・細胞生物）
14:35	S09-3	細胞内自己分解システム・オートファジーによる選択的オルガネラ分解 吉本光希[1]，柴田美智太郎[2,3]，及川和聡[4]，近藤真紀[2]，佐藤繭子[5]，豊岡公徳[5]，白須賢[5]，西村幹夫[2,3]，大隅良典[6]（[1]フランス国立農学研究所，[2]基生研・細胞生物，[3]総研大・生命科学，[4]新潟大・農，[5]理研・環境資源科学研究センター，[6]東工大・統合研究院）
15:00	S09-4	母性遺伝の分子機構を視る 西村芳樹[1]（[1]京都大学理学研究科生物科学専攻植物学系植物分子遺伝学研究室）

●座長：藤本　優

15:25	S09-5	細胞壁パターンを導く空間シグナルの動態 小田祥久[1,2]，長島慶宜[1]，杉山友希[3]，福田裕穂[1]（[1]東京大・院理・生物科学，[2]科学技術振興機構・さきがけ，[3]東京大・理・生物）
15:45	S09-6	植物が独自に獲得した膜交通システム － その分子制御機構の解明 伊藤瑛海[1]，上田貴志[1,2]，中野明彦[1,3]（[1]東大・院・理，[2] さきがけ，[3]理研・光量子工学）
16:05	S09-7	真核細胞と葉緑体の協調増殖機構 宮城島進也[1]（[1]国立遺伝学研究所）
16:30		総合討論

3月18日（火）　13:45～16:45　Z会場

ライブイメージング：RIが教えてくれる植物の元素動態

オーガナイザー　藤巻　秀（原子力機構・量子ビーム）
田野井　慶太朗（東大院・農）
古川　純（筑波大・CRiED）

13:45　はじめに
藤巻秀[1]（[1]原子力機構・量子ビーム）

●座長：古川　純

13:50　S10-1　植物ポジトロンイメージング（PETIS）の技術的概観
藤巻秀[1]（[1]原子力機構・量子ビーム）

14:05　S10-2　植物における汎用RIを用いた非破壊RIイメージング
田野井慶太朗[1]，中西友子[1]（[1]東大院・農）

14:20　S10-3　高精細RIイメージング手法の開発
廣瀬農[1]，田野井慶太朗[1]，中西友子[1]（[1]東大院・農）

14:35　S10-4　植物研究用RIイメージング技術の開発：ガンマカメラとコンプトンカメラについて
河地有木[1]（[1]原子力機構・量子ビーム）

●座長：田野井　慶太朗

14:55　S10-5　PETISを利用した鉄、亜鉛、マンガンの動態解析
中西啓仁[1]（[1]東大院・農）

15:10　S10-6　グルタチオン施用の炭素固定・転流促進効果のPETISによる定量的解析
小川健一[1,2]（[1]岡山生物研 (RIBS Okayama)，[2]JST、CREST）

15:25　S10-7　PETISによるカドミウム吸収動態解析と経根吸収イメージング
中村進一[1]（[1]秋田県大・生物資源）

15:40　S10-8　ミクロRIイメージングシステムによるシロイヌナズナ根端の^{33}Pイメージング
菅野里美[1]，田野井慶太朗[2]，中西友子[2]（[1]神戸大学 理学研究科，[2]東大院・農）

15:55　S10-9　リアルタイムイメージングを用いたイネ地上部への元素輸送メカニズムの解析
小林奈通子[1]，杉田亮平[1]，田野井慶太朗[1]，中西友子[1]（[1]東大院・農）

16:10　S10-10　複数核種同時イメージングによる元素動態解析
古川純[1]（[1]筑波大・CRiED）

16:30　総合討論

3 月 19 日（水）　9:00 ～ 12:00　V 会場

植物発生ロジックの多元的研究

オーガナイザー　塚谷　裕一（東大・院・理）

09:00　はじめに
塚谷裕一[1]（[1]東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻）

● 座長：伊藤（大橋）恭子

09:05　S11-1　葉の発生を司るロジックを探る
塚谷裕一[1]（[1]東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻）

● 座長：柿本辰男

09:30　S11-2　維管束幹細胞形成の分子機構
伊藤（大橋）恭子[1]，片山博文[1]，福田裕穂[1]（[1]東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻）

● 座長：深城英弘

09:55　S11-3　環境に応答した発生プログラム調節
柿本辰男[1]，Archana Kumari[1]，Dominique Bergmann[2]，Pawan Jewaria[3]（[1]阪大・院理，[2]Dept. Biol, Stanford Univ.，[3]Univ. Tuebingen）

● 座長：河内孝之

10:20　S11-4　根の成長・発生ロジックの解明に向けて：オーキシンを介した側根形成機構
深城英弘[1]（[1]神戸大・院・理）

● 座長：平井優美

10:45　S11-5　ゼニゴケ研究地平への投射：オーキシン信号伝達を例に
河内孝之[1]，加藤大貴[1]，西浜竜一[1]，大和勝幸[2]，石崎公庸[3]（[1]京大・院・生命科学，[2]近大・生物理工，[3]神戸大・院・理）

● 座長：塚谷裕一

11:10　S11-6　植物個体発生を支える代謝ネットワークの解明
平井優美[1]（[1]理研・環境資源科学研究センター）

11:35　総合討論

3 月 19 日（水）　9:00 ～ 11:55　W 会場

Aquaporins in the mechanism of hydraulic and CO_2 conductance

Organizers　Maki Katsuhara (IPSR, Okayama Univ.)
Yuko T. Hanba (Grad. Sch. Sci. Tech., Kyoto Instit. Tech.)
Masayoshi Maeshima (Grad. Sch. Bioagri. Sci., Nagoya Univ.)

09:00　Opening remarks
Maki Katsuhara[1] ([1]IPSR, Okayama Univ.)

● Chairperson: Maki Katsuhara

09:05　S12-1　A unique aquaporin member in plasma membrane contributes to plant response to heat.
Ayako Tsuchihira[1], Karine Prado[2], Yuko Hanba[3], Izumi Mori[3], Christophe Maurel[2], Masayoshi Maeshima[1]([1]Grad. Sch. Bioagr. Sci., Nagoya Univ., [2]BPMP, SupAgro/INRA/CNRS, Montpellier, France, [3]Grad. Sch. Sci. Tech., Kyoto Inst. Tech., [4]Inst. Plant Sci. Resource, Okayama Univ.)

09:35　S12-2　Possible Involvement of Aquaporins in Responses of Mesophyll Conductance to ABA and CO_2
Yusuke Mizokami[1], Ko Noguchi[1], Ichiro Terashima[1] ([1]Grad. Sch. Sci., Univ. Tokyo)

10:05　S12-3　The effect of aquaporin McMIPB and RsPIP2 on leaf photosynthesis of tobacco and eucalyptus plants
Yuko Hanba[1], Miki Kawase[1], Yusaku Onishi[1], Ayako Tsuchihira[2], Masayoshi Maeshima[2], Maki Katsuhara[3], Naomi Kodama[5], Tetsu Kawazu[4] ([1]Grad. Sch. Sci. Tech., Kyoto Inst. Tech., [2]Grad. Sch. Bioagr. Sci., Nagoya Univ., [3]Inst. Plant Sci. Res., Okayama Univ., [4]Forest Tech. Lab., Oji Hold. Corp., [5]Div. Agrometeor., NIAES)

10:35　Coffee break

● Chairperson: Yuko T. Hanba

10:45　S12-4　CO_2 Permeability of PIP2 Aquaporins
Izumi C Mori[1], Jiye Rhee[1], Mineo Shibasaka[1], Shizuka Sasano[1], Toshiyuki Kaneko[1,2], Tomoaki Horie[1,3], Maki Katsuhara[1] ([1]IPSR, Okayama Univ., [2]Grad. Sch. Med., Okayama Univ., [3]Facul. Textile Sci., Shinshu Univ.)

● Chairperson: Yuko T. Hanba

11:15　S12-5　Preliminary Dissection of CO2 permeability of a Cyanobacterium
Xiaodong Ding[1], Yoshichika Kitagawa[2], Maki Katsuhara[3], Ikuko Iwasaki[2], Giuseppe Calamita[4] ([1]Dep. Neurol. Univ. Texas, [2]Akita Pref. Univ., [3]IPSR, Okayama Univ., [4]Biotech. Biopharm., Univ. Bari Aldo Moro)

11:45　Closing remarks
Masayoshi Maeshima[1] ([1]Grad. Sch. Bioagri. Sci., Nagoya Univ.)

3 月 19 日（水）　9:00 ～ 11:50　X 会場

Biotic interactions mediated by plant infochemicals

Organizers　Hiroshi Abe (RIKEN BRC)
Ivan Galis (OKAYAMA University)

09:00　Opening remarks
Hiroshi Abe[1] ([1]RIKEN BRC)

● Chairperson: Hiroshi Abe

09:05　S13-1　First steps towards understanding of rice defense mechanisms against herbivores
Ivan Galis[1], Kabir Md Alamgir[1], Atsushi Miyake[1], Kaori Fukumoto[1], Yuko Hojo[1]
([1]Institute of Plant Science and Resources, Okayama University)

09:25　S13-2　Plant-derived terpene-related compounds that induce resistance against insect herbivores and diseases
Shigemi Seo[1], Naoto Tajima[1], Mika Murata[1], Taketo Fujimoto[1], Takayuki Mizukubo[2], Hiroshi Abe[3], Ichiro Mistuhara[1], Atsushi Mochizuki[4] ([1]National Institute of Agrobiological Sciences, [2]National Agriculture and Food Research Organization, [3]RIKEN BRC, [4]National Institute for Agro-Environmental Sciences)

● Chairperson: Shigemi Seo

09:45　S13-3　Win-win relationship between plant virus and its vector insect using host plant defense system
Hiroshi Abe[1], Yasuhiro Tomitaka[2], Shigemi Seo[3], Tamito Sakurai[4], Soichi Kugimiya[5], Takeshi Shimoda[2], Shinya Tsuda[2], Masatomo Kobayashi[1] ([1]RIKEN BioResource Center, [2]National Agricultural Research Center, [3]National Institute of Agrobiological Sciences, [4]National Agricultural Research Center for Tohoku Region, [5]National Institute for Agro-Environmental Sciences)

10:05　S13-4　Symbiont-mediated plant adaptation in phloem-feeding insects
Tsutomu Tsuchida[1], Akiko Fujiwara[1], Shigeru Matsuyama[2], Ryuichi Koga[3], Takema Fukatsu[3] ([1]University of Toyama, [2]University of Tsukuba, [3]AIST)

10:25　S13-5　Secretion of flavonoids from soybean roots and its effect on the rhizosphere microbes
Akifumi Sugiyama[1], Kazufumi Yazaki[1] ([1]RISH, Kyoto Univ.)

● Chairperson: Ivan Galis

10:45　S13-6　Molecular dialogues between host plants and symbiotic microbes
Haruko Imaizumi-Anraku[1] ([1]National Institute of Agrobiological Sciences)

11:05　S13-7　Plant-nematode parasitic interaction and the hijack of host symbiosis genes
Hikota Miyazawa[1], Shuhei Hayashi[1], Perry Bateman[2], Jennifer Goodman[2], Takuya Suzaki[3], Masayoshi Kawaguchi[3], Jose Gutierrez-Marcos[2], Derek Bartlem[1] ([1]Hokkaido University, Japan, [2]University of Warwick, UK, [3]National Institute for Basic Biology, Japan)

11:25　S13-8　Plant-plant communications in rhizosphere: interactions and signaling between root parasites and their host plants
Satoko Yoshida[1], Juliane K. Ishida[1,3], Takanori Wakatake[1,2], Songkui Cui[1], Ken Shirasu[1,2]
([1]RIKEN CSRS, [2]Grad. Sch. Sci., Univ. Tokyo, [3]Grad. Sch. Agri. Life Sci., Univ. Tokyo)

11:45　Closing remarks
Ivan Galis[1] ([1]OKAYAMA University)

3 月 19 日（水）　9:00 ～ 11:58　Y 会場

植物の個体制御における RNA 機能

オーガナイザー　大谷　美沙都（理研・CSRS）
中村　　崇裕（九大・農）

09:00　はじめに
大谷美沙都[1]（[1]理研・CSRS）

● 座長：中村崇裕

09:05　S14-1　植物の高い再生能力を支える pre-mRNA スプライシング制御機構
大谷美沙都[1]，出村拓[1,2]，杉山宗隆[3]（[1]理研・CSRS，[2]奈良先端・バイオ，[3]東京大・院・理・植物園）

09:29　S14-2　環境変化に適応するための mRNA 分解制御
鈴木悠也[1]，以西史織[1]，荒江星拓[2]，峯田克彦[3]，平井優美[4]，山口淳二[1,5]，Pamela J. Green[6]，内藤哲[1,7]，千葉由佳子[1,5,8]（[1]北大院・生命，[2]北大・理，[3]北大院・情報，[4]理研・CSRS，[5]北大院・理，[6]Univ., Delaware，[7]北大院・農，[8]JST・さきがけ）

09:53　S14-3　poly（A）特異的 RNA 分解酵素（PARN）の植物特有の機能
平山隆志[1]（[1]岡山大・植物研）

10:17　S14-4　イネ細胞質雄性不稔性／稔性回復に見られるミトコンドリア RNA のプロセッシング
鳥山欽哉[1]，風間智彦[1]（[1]東北大・院農）

● 座長：大谷美沙都

10:41　S14-5　植物 RNA ウイルスの翻訳・複製とリンクした細胞間移行の分子機構
海道真典[1]，奥野哲郎[1]（[1]京都大・院農）

11:05　S14-6　シロイヌナズナにおける tasiRNA 生成の分子機構
吉川学[1]（[1]農業生物資源研究所）

11:29　S14-7　PPR motif：オルガネラ研究から RNA/DNA 操作ツールの開発へ
中村崇裕[1]，八木祐介[1]（[1]九大・農）

11:53　おわりに
中村崇裕[1]（[1]九大・農）

3 月 19 日（水）　13:30 ～ 16:10　V 会場

Morphological diversity and meristem function in plants

Organizer　Yutaka Sato (Nagoya University)

● Chairperson: Yutaka Sato

13:30
Opening remarks
Yutaka Sato[1] ([1]Nagoya University)

13:35　S15-1
TRICOT, a novel common regulator of root nodule development and shoot apical meristem maintenance
Takuya Suzaki[1,2], Masayoshi Kawaguchi[1,2] ([1]National Institute for Basic Biology, [2]School of Life Science, The Graduate University for Advanced Studies)

14:00　S15-2
Heterochronic effects of the *big embryo1* mutant on scutellum and lateral organ development in maize.
Masaharu Suzuki[1], Yutaka Sato[2], Shan Wu[1], Donald R. McCarty[1] ([1]University of Florida, [2]Nagoya University)

14:25　S15-3
Evolutionary developmental transcriptomics reveals a gene regulatory network generating inter-specific diversity in plant leaf shape
Yasunori Ichihashi[1,2,3], Neelima Sinha[3] ([1]RIKEN, CSRS, [2]JSPS, [3]UC Davis)

● Chairperson: Masaharu Suzuki

14:50　S15-4
Conservations and diversities of embryo morphology and patterning in plants
Yutaka Sato[1] ([1]Graduate School of Bioagricultural Sciences, Nagoya University)

15:15　S15-5
Regional Interaction during *Arabidopsis* Flower Primordium Formation
Mitsuhiro Aida[1] ([1]Grad. Sch. Biol. Sci., NAIST)

15:40　S15-6
A novel pathway for control of shoot meristem size by redox regulation of a bZIP transcription factor in maize.
Mike Pautler[1], Fang Yang[1], Huyen Bui[1], Andrea Eveland[1], Dave Jackson[1] ([1]Delbruck, Cold Spring Harbor Lab)

16:05
Closing remarks
Masaharu Suzuki[1] ([1]University of Florida)

CREST

新学術領域研究
ゲノム・遺伝子相関
―新しい遺伝学分野の創成―

3 月 19 日（水）　13:30 ～ 16:10　W 会場

Frontier of Plant Epigenome Regulation

Organizers　Motoaki Seki (RIKEN CSRS; JST CREST)
Tetsu Kinoshita (Nagahama Inst. Bio-Sci. Technol.)

13:30　Opening remarks
Motoaki Seki[1,2] ([1]RIKEN CSRS, [2]JST CREST)

● Chairperson: Motoaki Seki

13:35　S16-1　The molecular mechanism for transcriptional gene silencing in Arabidopsis
Zhizhong Gong[1] ([1]China Agricultural University)

14:05　S16-2　The epigenetic role of the conserved Fe-S cluster biogenesis protein DRE2 in Arabidopsis thaliana
Diana Buzas[1], Miyuki Nakamura[2], Testu Kinoshita[1] ([1]Faculty of Bioscience, Nagahama Institute of Bio-Science and Technology, Shiga, Japan, [2]Dept. of Plant Biology and Forest Genetics The Swedish University of Agricultural Sciences (SLU) PO Box 7080, SE-750 07 Uppsala, Sweden)

14:25　S16-3　Environmental response and epigenetic regulation of transposable elements in plants.
Hidetaka Ito[1,2] ([1]Hokkaido University, [2]JST PRESTO)

14:45　S16-4　Control of intragenic heterochromain in Arabidopsis
Hidetoshi Saze[1] ([1]Plant Epigenetics Unit, Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University)

● Chairperson: Tetsu Kinoshita

15:05　S16-5　Epigenome Analysis of the Cell-Fate Determination and Transition
Yosuke Tamada[1,2], Tetsuya Kurata[3,4], Yuji Hiwatashi[1,2], Yukiko Kabeya[1], Tomoaki Nishiyama[3,5], Takashi Murata[1,2], Mitsuyasu Hasebe[1,2,3] ([1]Div. Evol. Biol., Natl. Inst. Basic Biol., [2]Sch. Life Sci., Grad. Univ. Adv. Stud., [3]ERATO, JST, [4]Grad. Sch. Biol. Sci., Nara Inst. Sci. Tech., [5]Adv. Sci. Res. Cntr., Kanazawa Univ.)

15:25　S16-6　HDA6: an epigenetic integrator in Arabidopsis.
Jong-Myong Kim[1], Taiko To[2], Motoaki Seki[1,3,4] ([1]RIKEN CSRS, [2]NIG, [3]Yokohama City Univ. Kihara Biol. Inst., [4]CREST)

15:45　S16-7　A rice DDM1-deficient line: similarities and differences with *ddm1* in *Arabidopsis thaliana*.
Hisataka Numa[1], Katsushi Yamaguchi[2], Shuji Shigenobu[2], Yoshiki Habu[1,3]
([1]NIAS Agrogenomics Res Center, [2]NIBB Core Res Facil, [3]JST CREST)

16:05　Closing remarks
Tetsu Kinoshita[1] ([1]Nagahama Inst. Bio-Sci. Technol.)

共　　催

科研費・新学術領域研究
「ゲノム・遺伝子相関：新しい遺伝学分野の創成」

JST CREST
「二酸化炭素資源化を目指した植物の物質生産力
強化と生産物活用のための基盤技術の創出」

3 月 19 日（水）　13:30 ～ 16:15　X 会場

植物環境感覚研究の新しい地平を切り拓く新技術

オーガナイザー　長谷　あきら（京大院・理）

13:30　はじめに
長谷あきら[1]（[1]京大院・理）

●座長：上村松生

13:40　S17-1　少数細胞を対象とした遺伝子発現解析技術の開発
梶山智晴[1]，神原秀記[1]（[1](株)日立製作所 中央研究所）

14:00　S17-2　光刺激に対する遺伝子発現応答の組織／器官特異性
長谷あきら[1]，梶山智晴[2]，綿引和巳[1]，望月伸悦[1]，神原秀記[2]（[1]京都大・院理，[2]日立製作所・中央研）

14:10　S17-3　植物を対象とした質量顕微鏡装置開発と植物の代謝物解析への応用
高橋勝利[1]（[1]産総研・計測フロンティア研究部門）

14:30　S17-4　質量顕微鏡による植物代謝産物の分布解析
三村徹郎[1]，姉川彩[1]，山本浩太郎[1]，大西美輪[1]，深城英弘[1]，山崎真巳[2]，高橋勝利[3]（[1]神戸大院・理・生物，[2]千葉大院・薬学，[3]産総研・計算フロンティア）

14:40　S17-5　フェムト秒レーザー誘起衝撃力と原子間力顕微鏡を用いた微小な植物試料の堅さ評価
細川陽一郎[1]（[1]奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学研究科）

15:00　S17-6　フェムト秒レーザーを用いた光依存的オルガネラ間接着力評価
及川和聡[1,2]，真野昌二[2]，林誠[3]，山田健志[2]，近藤真紀[2]，東正一[2]，渡辺正勝[4]，三ツ井敏明[1]，飯野敬矩[5]，重政彰徳[5]，細川陽一郎[5]，西村幹夫[2]（[1]新潟大農・応生化，[2]基生研・細胞生物，[3]長浜バイオ大・バイオサイエンス，[4]光産業創成大，[5]奈良先端・物質創成）

15:10　休憩

●座長：長谷あきら

15:25　S17-7　反応ネットワークの摂動応答を数理的に予測する
望月敦史[1,2]，Bernold Fiedler[3]（[1]理化学研究所・望月理論生物学研究室，[2]CREST, JST，[3]Institute of Mathematics, Free University of Berlin）

15:50　S17-8　システムズ・バイオロジー研究に向けた大規模データ解析とバイオインフォマティクス
矢野健太郎[1,2]，小林正明[1,2]，大柳一[1,2]（[1]明治大・農・バイオインフォマティクス，[2]JST, CREST）

共　　催
新学術領域研究 「植物環境感覚」

３月19日（水）　13:30 ～ 16:15　Ｙ会場

酸化シグナルの鍵因子，活性カルボニルの多様な生理作用と制御

オーガナイザー　真野　純一（山口大・総合科学セ）
三宅　親弘（神戸大・農）

●座長：山内靖雄

13:30　S18-1　活性カルボニル―酸化傷害分子としての理解からシグナル作用の解明へ
真野純一[1]（[1]山口大・総合科学セ）

14:00　S18-2　Mechanisms of production and scavenging of dicarbonyls in photosynthetic organisms: Why do not plants suffer from diabetes?
Chikahiro Miyake[1] ([1]Kobe University)

14:25　S18-3　活性酸素シグナルによる植物免疫・細胞死の制御と活性カルボニル
朽津和幸[1,2]，北畑信隆[1]，助川夏雄[1]，中内愛由子[1]，賀屋秀隆[1,3]，木村幸恵[1,4]，真野純一[5]（[1]東京理科大・理工・応用生物科学，[2]東京理科大・総合研究機構，[3]東京大・理・生物科学，[4]チュービンゲン大，[5]山口大・総合科学セ）

●座長：三宅親弘

14:50　S18-4　植物による大気中活性カルボニル化合物の吸収と解毒
松井健二[1]（[1]山口大・院医）

15:15　S18-5　気孔閉口シグナル伝達因子としてのカルボニル化合物
宗正晋太郎[1]，真野純一[2]，村田芳行[1]（[1]岡山大院・環境生命，[2]山口大・総合科学セ）

15:40　S18-6　環境ストレス応答シグナル分子として機能する活性カルボニル～反応性短鎖揮発性化合物～
山内靖雄[1]（[1]神戸大院・農）

●座長：真野純一

16:05　総合討論

3 月 20 日（木）　9:00 ～ 12:00　V 会場

Open new aspects of cell-cell communication via plasmodesmata in plants

Organizers　Tomomichi Fujita (Fac. of Sci., Hokkaido Univ.)
Munenori Kitagawa (Fac. of Sci., Hokkaido Univ.)

● Chairperson: Tomomichi Fujita

09:00　Opening remarks
Tomomichi Fujita[1] ([1]Fac. of Sci., Hokkaido Univ.)

● Chairperson: Michitaka Notaguchi

09:00　S19-1　Regulation of cell-cell diffusion of macromolecules via plasmodesmata in filamentous tissue of the moss *Physcomitrella patens*
Munenori Kitagawa[1], Tomomichi Fujita[1] ([1]Fac. of Sci., Hokkaido Univ.)

09:25　S19-2　Cell-to-cell variability of protein trafficking dynamics in leaf primordia
Kensuke Kawade[1] ([1]RIKEN CSRS)

● Chairperson: Kensuke Kawade

09:50　S19-3　The role of plasmodesmal transport in the physiology of higher plants
Johannes Liesche[1], Helle J. Martens[1], Alexander Schulz[1] ([1]Dept Plant Environm Sci, Univ Copenhagen)

10:30　S19-4　Identification of phloem-mobile mRNAs through the analysis of hetero-graft samples
Michitaka Notaguchi[1,2], Takamasa Suzuki[1,2], Tetsuya Higashiyama[1,2,3] ([1]Graduate School of Science, Nagoya University, [2]ERATO Higashiyama Live-Holonics Project, [3]Institute of Transformative Bio-Molecules, Nagoya University)

● Chairperson: Alexander Schulz

10:55　S19-5　The role of plasmodesmata in phloem loading and the responses of plasmodesmal biogenesis to high CO2 atmosphere
Ikuo Nishida[1], Zhongrui Duan[1], Yuki Fujiki[1] ([1]Grad Schl Sci Eng, Saitama University)

11:20　S19-6　Mechanisms of transcription factor transport through plasmodesmata in the shoot apical meristem.
Rachappa Balkunde[1], Huyen Bui[1], Dave Jackson[1] ([1]Cold Spring Harbor Lab)

● Chairperson: Tomomichi Fujita

12:00　Closing remarks
Tomomichi Fujita[1] ([1]Fac. of Sci., Hokkaido Univ.)

3 月 20 日（木）　9:00 ～ 12:00　W 会場

環境変動に対する植物の生存成長戦略：統合研究の新展開

オーガナイザー　篠崎　和子（東大院・農学生命科学）
佐竹　暁子（北大院・地球環境科学）

09:00　はじめに

● 座長：佐竹暁子

09:05　S20-1　環境ストレス時の細胞伸長と生長制御
戸高大輔[1]，工藤まどか[1]，趙宇[1]，有賀遥平[1]，本多剛志[1]，佐藤輝[1]，篠崎一雄[2]，篠崎和子[1]（[1]東大院・農学生命科学，[2]理研・環境資源科学研究センター）

09:33　S20-2　環境ストレス時の細胞分裂と生長制御
伊藤正樹[1,2]（[1]名古屋大・院・生命農学，[2]JST, CREST）

10:01　S20-3　イネのケイ素輸送におけるカスパリー線の役割とトランスポーター配置
櫻井玄[1]，馬建鋒[2]，佐竹暁子[3]，横沢正幸[4]，山地直樹[2]，三谷奈見季（[1]独立行政法人農業環境技術研究所，[2]岡山大学資源植物科学研究所，[3]北海道大学，[4]静岡大学）

● 座長：篠崎和子

10:29　S20-4　イネ維管束ネットワーク上のショ糖転流と顆粒成長モデル
佐竹暁子[1]，関元秀[1]，Francois Feugier[1]，池田真由子[2]，北野英己[2]，Xian-Jun Song[2]，芦苅基行[2]，中村巴瑠花[3]，石山敬貴[3]，山谷知行[3]（[1]北大院・環境，[2]名大・生物機能開発利用センター，[3]東北大院・農）

10:57　S20-5　イネの深水ストレス回避機構の分子メカニズム
芦苅基行[1]，永井啓祐[1]，近藤悠真[1]，Kuroha Takeshi[1]（[1]名古屋大学・生物機能開発利用研究センター）

11:25　S20-6　Novel Epigenetic Regulation in Plant Abiotic Stress Responses
金鍾明[1]，藤泰子[1,2]，関原明[1,3,4]（[1]理研・環境資源科学研究センター・植物ゲノム発現，[2]遺伝研・育種遺伝，[3]横浜市大・木原生研，[4]JST・CREST）

11:53　総合討論

共　　催

文部科学省科学研究費補助金　新学術領域研究
「植物環境突破力：大地環境変動に対する植物の生存・生長突破力の分子的統合解析」

3 月 20 日（木）　9:00 ～ 12:00　X 会場

植物ゲノム編集の新境地

オーガナイザー　刑部　敬史（徳島大・農工商連携セ）

09:00　S21-1　ゲノム編集最前線―ゲノム編集をうまく使うために―
刑部敬史[1]（[1]徳島大学，農工商連携センター）

● 座長：刑部敬史

09:20　S21-2　ジーンターゲッティングと高精度・高効率マーカー除去系を利用したゲノム改変
横井彩子[1]，土岐精一[1,2]（[1]生物研・ゲノム機能，[2]横浜市大・木原生研）

09:50　S21-3　―CRISPR/TALEN/ZFN―植物ゲノム編集技術の基盤と環境応答能の改変
刑部祐里子[1]（[1]理研・環境資源科学セ）

10:20　S21-4　TALEN の代謝工学研究への応用
村中俊哉[1]，安本周平[1]，福島エリオデット[1]，關光[1]（[1]阪大院・工・生命先端）

● 座長：刑部祐里子

10:50　S21-5　高効率形質転換系のためのアグロバクテリウムの分子育種
野中聡子[1]（[1]筑波大学 生命環境系・遺伝子実験センター）

11:20　S21-6　新エレクトロポレーション法による植物種子・藻類への遺伝子導入と新パーティクル・ガン法による遺伝子導入
松本光二朗[1]，早川靖彦[1]（[1]ネッパジーン(株)）

11:50　総合討論

3 月 20 日（木）　9:00 ～ 12:00　Y 会場

顕微鏡で測る―測定装置としての顕微鏡を用いた生物機能の解析

オーガナイザー　村田　　隆（基生研・生物進化）
稲田　のりこ（奈良先端大・バイオ・植物グローバル）

09:00　はじめに
村田隆[1,2]（[1]基生研・生物進化，[2]総研大・生命科学）

●座長：村田　隆

09:10　S22-1　細胞の温度を測る
稲田のりこ[1]，林晃之[1]，福田七穂[1]，内山聖一[2]（[1]奈良先端大・バイオ・植物グローバル，[2]東京大学大学院薬学系研究科）

09:35　S22-2　オートファジー動態の定量的モニタリング
花俣繁[1]，来須孝光[1,2,3]，岡田全朗[1]，須田晶子[1]，河村康希[1]，塚田慧美[1]，朽津和幸[1,2]（[1]東京理科大・理工・応用生物科学，[2]東京理科大・総合研究機構，[3]東京工科大・応用生物）

10:00　S22-3　蛍光相関分光法と FRET を用いた細胞内タンパク質恒常性維持機構の解明
北村朗[1]（[1]北海道大学大学院 先端生命科学研究院 細胞機能科学分野）

●座長：稲田のりこ

10:25　S22-4　ルシフェラーゼを用いた細胞レベルでの遺伝子発現の定量解析
今井章裕[1]，村田隆[1,2]，Liechi Zhang[1,2]，Philip N. Benfey[3]，長谷部光泰[1,2]（[1]基生研，[2]総研大・生命科学，[3]デューク大・システムズバイオロジーセンター）

10:50　S22-5　蛍光寿命や近赤外光を応用したイメージング技術開発
三輪佳宏[1]，田中順子[1]，杉山結香[2]，坂口翔太[2]（[1]筑波大・医学医療系，[2]筑波大・人間総合，）

11:15　S22-6　光退色法によるタンパク質動態の定量的解析
村田隆[1,2]（[1]基生研・生物進化，[2]総研大・生命科学）

11:40　総合討論
稲田のりこ[1]（[1]奈良先端大・バイオ・植物グローバル）

3 月 19 日（水）　16:20 ～ 18:25　黒田講堂ホール

本部企画

16:20　学会法人化の報告とお知らせ　前会長・前幹事長

日本植物生理学会授賞式
特別賞・奨励賞・PCP 論文賞

16:35　選考経過報告

16:50　賞状授与

日本植物生理学会特別賞
イネを用いた花成制御と植物免疫機構の研究
島本功[1]（[1]奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科）

受賞講演

17:05　A01　日本植物生理学会奨励賞
遺伝子共発現に基づく遺伝子機能推定プラットフォームの開発
大林武[1]（[1]東北大学大学院情報科学研究科）

17:25　A02　日本植物生理学会奨励賞
概日リズムに関わる転写制御ネットワークの発見
中道範人[1]（[1]名古屋大学 WPI トランスフォーマティブ生命分子研究所）

17:45　A03　PCP論文賞
金谷重彦[1]（[1]奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科）
Farit Mochamad Afendi, Taketo Okada, Mami Yamazaki, Aki Hirai-Morita, Yukiko Nakamura, Kensuke Nakamura, Shun Ikeda, Hiroki Takahashi, Md. Altaf-Ul-Amin, Latifah K. Darusman, Kazuki Saito and Shigehiko Kanaya (2012)
KNApSAcK Family Databases: Integrated Metabolite-Plant Species Databases for Multifaceted Plant Research (*Plant Cell Physiol.* 53(2), e1.)

18:00　A04　PCP論文賞
西村岳志[1]（[1]首都大学大学院理工学研究科）
Takeshi Nishimura, Naoyuki Matano, Taichi Morishima, Chieko Kakinuma, Ken-ichiro Hayashi, Teruya Komano, Minoru Kubo, Mitsuyasu Hasebe, Hiroyuki Kasahara, Yuji Kamiya and Tomokazu Koshiba (2012)
Identification of IAA Transport Inhibitors Including Compounds Affecting Cellular PIN Trafficking by Two Chemical Screening Approaches Using Maize Coleoptile Systems (*Plant Cell Physiol.* 53(10), 1671–1682.)

大会前日　午後　関連集会

3 月 17 日（月）　13:30 ～ 18:40　富山大学 理学部 2 階 多目的ホール

（http://www.sci.u-toyama.ac.jp/aboutus/guide.html）

第 16 回植物オルガネラワークショップ「オルガネラの遺伝子発現と細胞内シグナリング」

世話人（50 音順）：小保方潤一，加藤裕介，河野重行，楠見健介，小林裕和，西村芳樹，林田信明，宮沢 豊，若杉達也

13:30	開会・世話人挨拶

セッション 1：オルガネラの遺伝子発現制御（13:35 ～ 15:05）

13:35 ～ 14:05	巨大RNA結合タンパク質ファミリーによる転写後制御システム 藤井壮太[1]，佐藤望[1]，鹿内利治[1,2]（[1]京都大学，[2]CREST）
14:05 ～ 14:35	植物特異的ミトコンドリア mRNA poly(A) 制御機構 平山隆志（岡山大学）
14:35 ～ 15:05	シロイヌナズナ葉緑体Clp プロテアーゼの基質探索 Kenji Nishimura, Yukari Asakura, Giulia Friso, Jitae Kim, Soo-hyun Oh, Heidi Rutschow, Lalit Ponnala, Klaas J. van Wijk (Cornell University)
15:05 ～ 15:20	休憩

セッション 2　オルガネラの進化と細胞内ネットワーク形成（15:20 ～ 17:20）

15:20 ～ 15:50	単膜系ペルオキシソーム分裂マシンの構造・機能解析とその起源 井元祐太[1,2]，大沼みお[2,3]，黒岩晴子[2,3]，河野重行[1,3]，黒岩常祥[2,3] （[1]東京大学，[2]立教大学，[3]JST・CREST）
15:50 ～ 16:20	色素体の成立と貯蔵多糖代謝の進化 鈴木英治（秋田県立大学）
16:20 ～ 16:50	気孔の CO_2 シグナリング，細胞膜から細胞膜へ 橋本（杉本）美海，射場厚（九州大学）
16:50 ～ 17:20	色素体分化と概日時計機構を支える核と葉緑体間のシグナル伝達 華岡光正（千葉大学）
17:20 ～ 17:30	休憩
17:30 ～ 18:30	特別講演「生物発光リアルタイム測定系の開発と生物時計研究」 石浦正寛（名古屋大学 名誉教授）
18:30	総合討論
18:40	閉会
19:00	ミキサー 富山大学 大学生協 Open Cafe AZAMI（五福キャンパス正門横）

上記のワークショップを第 55 回日本植物年理学会年会のサテライトとして開催します．ワークショップへの参加は無料です．また，ミキサーの参加費は 3,500 円（予定）で，当日会場にて徴収します．ワークショップおよびミキサーへの参加希望者は 3 月 10 日（月）までに次のホームページよりお申し込み下さい．当日参加も歓迎します．http://sfns.u-shizuoka-ken.ac.jp/pctech/workshop

連絡先：若杉　達也（wakasugi@sci.u-toyama.ac.jp）
楠見　健介（kkususcb@kyushu-u.org）

大会前日　午後　関連集会

3 月 17 日（月）　16:00 ～ 19:00　理学部 C105 教室

ワークショップ「茎寄生植物ネナシカズラ研究事始め」
―これからネナシカズラの研究を始める方のために―
新学術領域研究「植物細胞壁機能」共催

世話人：西谷　和彦（東北大学）
青木　　考（大阪府立大学）

16:00　開会

以下の 4 つの話題を提供し，食事を挟んで参加者間で情報交換を行います．

話題 1　「ネナシカズラ研究を始めるために―採種，発芽，寄生実験，遺伝子解析―」
若杉達也，山田恭司（富山大学），古橋勝久（名古屋植物資源研究所）

話題 2　「ネナシカズラ（*Cuscuta japonica*）のトランスクリプトーム de novo アセンブリ」
池上大輔，青木考（大阪府立大学）

話題 3　「レーザーマイクロダイセクション法によるネナシカズラ寄生根の組織特異的なオミクス解析を目指して」
横山隆亮，柴田航希，堀江佐知子，牧雅之，西谷和彦（東北大学）

話題 4　「ネナシカズラの揮発性化合物活用戦略―宿主探索と節足動物の誘引―」
松井健二（山口大学）

19:00　閉会

3 月 18 日（火）　18:45 ～ 20:45　A 会場

植物生理若手の会 2014（第 32 回講演会）
博士号取得後のキャリアパス　～企業研究者，国内 PI，海外 PI に聞く～

18:45 ～ 18:55	世話人挨拶（門田・清水・宮本）
18:55 ～ 19:30	「アカデミック PI の実際―テニュアトラック制度の経験を踏まえて―」 大西利幸（静岡大，准教授）
19:30 ～ 20:05	「応用研究と基礎研究のギャップ　砂の上に城が建つこともある．でもそれでいいの？」 岡田敦（日本農薬株式会社，研究主任）
20:05 ～ 20:40	「世界のアカデミアを歩む」 津田賢一（Group Leader / Max Planck Institute for Plant Breeding Research (Germany)）
20:40 ～ 20:45	総合討論（門田・清水・宮本）

責任者：門田康弘（The Sainsbury Laboratory, UK）
清水崇史（理化学研究所　環境資源科学研究センター）
宮本皓司（帝京大学理工学部）

E-mail：jsyppmeeting@yahoo.co.jp

植物生理若手の会 website：http://www014.upp.so-net.ne.jp/jsypp/

3 月 19 日（水）　12:15 ～ 13:15　C 会場

PCP 特別企画
あなたの論文の第一印象を変えよう
— Tips for authors: how to make your paper more attractive —

PCP編集委員会主催・OUP協力

12:15
PCP編集長からのご挨拶［日本語・英語］
Welcome note from the Editor-in-Chief [Japanese/English]
山谷知行（東北大学）
Tomoyuki Yamaya (Tohoku University)

12:20
何が論文のインパクトに違いをもたらすのか［日本語］
Most read articles: what makes the difference? [Japanese]
木下俊則（名古屋大学）
Toshinori Kinoshita (Nagoya University)

12:30
論文をより魅力的にみせるためにはどうすればよいのか：
カバーレター・タイトル・アブストラクトの書き方［英語］
Improving the presentation of your paper
— *Including tips on how to prepare cover letters, titles and abstracts*. [English]
リリアナ・コスタ（PCP Managing Editor）
Liliana Costa (PCP Managing Editor)

12:45
海外からみた PCP［英語］
Publishing your paper in PCP—views from across the globe [English]
アンドレアス・ウェバー（ハインリヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ校）
Andreas P Weber (Heinrich-Heine University of Dusseldorf)
ジジョン・ゴン（中国農業大学）
Zhizhong Gong (China Agricultural University)
デイビッド・ジャクソン（コールド・スプリング・ハーバー研究所）
David Jackson (Cold Spring Harbour Laboratory)

13:00
質疑応答・ディスカッション［日本語・英語］
Questions & Discussion (Japanese/English)
PCP Editors and staff to answer questions from the audience

※本セミナーはランチョンセミナーです．先着100名様までにお弁当とお茶をご用意しています．事前申し込みは不要です．

3 月 20 日（木）　12:15 ～ 13:15　G 会場

男女共同参画キャリアパスセミナー（ランチョンセミナー）
「支え・支えられて共に歩む」

進行：日本植物生理学会男女共同参画委員会

（敬称略）

12:15	学会長挨拶 西村いくこ 会長
12:18	「男女共同参画学協会連絡会」の幹事学会の準備状況報告 男女共同参画員会委員長　田中寛
12:25	今，研究所や大学で進められている男女共同参画活動 1.「農研機構における男女共同参画の取組について」 農研機構 男女共同参画推進室 室長　水町功子 2.「助けられて子育て中」 富山大学大学院理工学研究部 准教授　小林かおり

※昨年同様お弁当とお茶を準備いたします．セミナー当日の 8 時 30 分より，引換整理券を学会本部受付で配布いたします．お弁当の引換整理券の有無にかかわらず，どなたでもご参加いただけます．

一般講演（口頭）プログラム

●第１日　３月18日（火）　午前(9:30–12:30)

時　間	A会場	B会場	C会場	D会場
	老化・細胞死／成長制御	情報伝達／光受容体・光応答	植物微生物相互作用（免疫）	光化学系Ⅰ・Ⅱ
9:30	1aA01 ストレス誘導性細胞死制御に関与する細胞膜マイクロドメインタンパク質 石川寿樹[1], 内宮博文[2], 川合真紀[1,2]（[1]埼玉大・院理工, [2]埼玉大・IEST）	1aB01 C/N応答におけるCa^{2+}制御型プロテインキナーゼの機能解析 安田盛貴, 佐藤長緒, 山口淳二（北海道大学大学院生命科学院）	1aC01 Ⓔ MARK32はPtoDC3000への抵抗性を正に制御する 玄康洙[1], 松井英譲[1], 野村有子[1], 白須賢[2], 中神弘史[1]（[1]理化学研究所 環境資源科学研究センター 植物プロテオミクス研究ユニット, [2]理化学研究所 環境資源科学研究センター 植物免疫研究グループ）	1aD01 フィコビリソーム由来蛋白質のチラコイド膜からの選択的脱離を可能とするPG-surfactantベースの新規界面活性剤の合成とPSIIの新規単離精製手法への応用 鈴木智之[1], 小枝周平[1], 野地智康[1], 川上恵典[2], 南後守[2], 出羽毅久[1], 田中俊樹[1], 水野稔久[1], 神谷信夫[2]（[1]名古屋工業大学大学院工学研究科, [2]阪市大複合先端研）
9:45	1aA02 タバコBY-2細胞を用いた軟腐菌Erwinia carotovora培養液誘導性プログラム細胞死における液胞膜の動態観察 平川由美[1], 桧垣匠[1], 馳澤盛一郎[1,2]（[1]東京大・院・新領域, [2]JST・先端計測）	1aB02 光周性経路による気孔開口調節と*TERMINAL FLOWER2*の関与 安藤英伍[1], 井上晋一郎[1], 後藤弘爾[2], 木下俊則[1,3]（[1]名大院・理・生命, [2]岡山生物研, [3]名大・WPI-ITbM）	1aC02 Ⓔ MARK1は植物免疫応答おいて細胞死を負に調節する因子である 松井英譲, 野村有子, 中神弘史（理化学研究所 環境資源科学研究センター 植物プロテオミクス研究ユニット）	1aD02 【演題取り下げ】
10:00	1aA03 オートファジーの欠損がイネの栄養成長と窒素転流へ与える影響の解析 林田泰和[1], 和田慎也[1], 来須孝光[2], 朽津和幸[2], 牧野周[1], 石田宏幸[1]（[1]東北大・院農, [2]東京理科大・理工）	1aB03 Tyrosine dephosphorylation of OsMPK6 is a node of abscisic-acid-mediated suppression of salicylic-acid defense signaling in rice Yoshihisa Ueno, Riichiro Yoshida, Mitsuko Kishi-Kaboshi, Chang-Jie Jiang, Shingo Goto, Hirohiko Hirochika, Hiroshi Takatsuji (Natl. Inst. Agrobiol. Sci.)	1aC03 Ⓔ 苔類ゼニゴケを用いたMAMP応答機構の解明 四井いずみ[1], 松井英譲[1], 野村有子[1], 西浜竜一[2], 河内孝之[2], 中神弘史[1]（[1]理化学研究所環境資源科学研究センター植物プロテオミクス研究ユニット, [2]京都大学大学院生命科学研究科遺伝子特性学分野）	1aD03 Mutagenesis of D1-N298 impaired photosystem II activity in *Chlamydomonas reinhardtii* Hiroshi Kuroda[1,2], Natsumi Kodama[1,2], Xiao-Yu Sun[1], Yuichiro Takahashi[1,2]（[1]Graduate School of Natural Science and Technology, Okayama University, [2]JST-CREST）
10:15	1aA04 Coordinated leaf growth through the action of sister Zn-finger transcription factors in Arabidopsis Tetsuya Kurata (Grad. Sch. Biol., Sci., NAIST)	1aB04 ABA依存のリン酸化によるシロイヌナズナbHLH型転写因子の単量体化と転写抑制 高橋洋平, 島崎研一郎（九州大・院理・生物科学）	1aC04 Ⓔ Apoplastic Immunity against Bacteria in Arabidopsis Yiming Wang, Kenichi Tsuda (Max Planck Inst for Plant Breeding Res)	1aD04 Functional analysis of Photosystem II deficient mutant in *Chlamydomonas* Yousuke Shimoda[1], Hisashi Ito[1,2], Atsushi Takabayashi[1,2], Ayumi Tanaka[1,2]（[1]Institute of Low Temperature Science, Hokkaido University, [2]CREST, JST）
10:30	1aA05 COP9シグナロソーム と相互作用するTrihelix proteinの機能解析 中井秀人[1], 安喜史織[2], Alexander Heyl[3], 青山卓史[1], 柘植知彦[1]（[1]京都大・化研, [2]奈良先端大・バイオ, [3]Inst. Biology, Free Univ. Berlin）	1aB05 CO_2シグナル伝達因子HT1キナーゼのアリルを用いた機能解析 橋本（杉本）美海[1], 祢宜淳太郎[1], 門田慧奈[1], 中野利彬[1], 磯貝泰弘[2], 射場厚[1]（[1]九大・院・理・生物科学, [2]富山県立大・工・生物工学）	1aC05 Ⓔ Layered pattern receptor signalling confers robustness to plant basal immunity Kohji Yamada[2], Yusuke Saijo[1,2,3]（[1]Grad. Sch. Biol. Sci., [2]Max Planck Inst. Plant Breeding Research, [3]JST. PRESTO）	1aD05 光化学系IIにおけるチロシンY_Zの水素結合構造とプロトン移動 中村伸, 長尾遼, 高橋亮太, 野口巧（名古屋大院・理）
10:45	1aA06 シロイヌナズナの*SAC51* mRNAの翻訳を促進するサーモスペルミンの作用機構 高野綾香, 石塚壮一, 蔡青青, 本瀬宏康, 高橋卓（岡山大学大学院自然科学研究科）	1aB06 コムギ無細胞翻訳系を基盤としたアブシジン酸シグナル伝達因子の網羅的機能解析技術 根本圭一郎[1], 関原明[2], 篠崎一雄[2], 澤崎達也[1]（[1]愛媛大・PROS, [2]理研・CSRS）	1aC06 Live imaging-based dissection of Arabidopsis immune responses Shigeyuki Betsuyaku[1,2], Hiroo Fukuda[2]（[1]JST PRESTO, [2]Grad. Sch. Sci., Univ. Tokyo）	1aD06 光化学系IIにおいてMn除去は非ヘム鉄の酸化還元電位を変動させるか？ 加藤祐樹, 野口巧（名古屋大学・院理学）

E会場	F会場	G会場	H会場	V会場	W会場	X会場	Y会場	Z会場	時間
栄養器官の発生・分化	細胞周期・分裂	糖質・脂質／二次代謝	細胞内輸送・蓄積・分泌／吸収・転流・蒸散／生体膜・イオン輸送	シンポジウムS01 Future research of C_4 plant biology（9:30－12:20）	シンポジウムS02 New frontiers in the root developmental biology（9:30－12:20）	シンポジウムS03 葉序パターンの数理と生成機構（9:30－12:30）	シンポジウムS04 植物の三大栄養素(N-P-K)の感知と利用の新理解（9:30－12:35）	シンポジウムS05 データベース講習会（9:30－12:30）	9:30
1aE01 受容体キナーゼ発現ライブラリーを用いたRGF受容体の同定 篠原秀文, 松林嘉克（基礎生物学研究所）	1aFa01 Ⓔ The Anaphase-Promoting Complex/Cyclosome Regulates Microtubule Structures through the Cell Cycle Shinichiro Komaki[1], Takashi Ishida[1], Jefri Heyman[2], Takahiro Hamada[3], Takashi Hashimoto[3], Lieven De Veylder[2], Keiko Sugimoto[1]（[1]CSRS, Riken, [2]VIB, Ghent, [3]NAIST）	1aG01 紅藻*Cyanidioschyzon merolae*における脂質代謝関連酵素の網羅的な局在解析 毛利奈津美[1], 森山崇[1,2], 桜井健太[1,2], 関根康介[1,2], 佐藤直樹[1,2]（[1]東京大・院総合文化, [2]JST, CREST）	1aH01 Visualization and evaluation of secretion of organic substances from soybean root to soil using $^{11}CO_2$ and a positron-emitting tracer imaging system (PETIS) Yong-Gen Yin[1], Nobuo Suzui[1], Naoki Kawachi[1], Satomi Ishii[1], Atsushi Koyanagi[1,2], Takuji Nakamura[3], Takuro Shinano[4], Shu Fujimaki[1]（[1]Japan Atomic Energy Agency, [2]Tokyo Univ. Sci., [3]Hokkaido Agri. Res. Cent., NARO, [4]Tohoku Agri. Res. Cent., NARO）						
1aE02 Ⓔ Comparative analyses of RTFL peptide family on control of plant organogenesis Pin Guo[1,2], Asami Yoshimura[2], Naoko Ishikawa[3], Takahiro Yamaguchi[4], Keiko Sakakibara[2], Takayuki Kohchi[5], Youhao Guo[1], Hirokazu Tsukaya[2]（[1]College of Life Science, Wuhan University, Wuhan 430071, Hubei, China, [2]Department of Biological Sciences, Graduate School of Science, University of Tokyo, 7-3-1 Hongo, Tokyo 113-0033 Japan, [3]Saitama Museum of Natural History, Nagatoro 1417-1, Nagatoro, Saitama, 369-1305, Japan, [4]Acel, Inc. SIC1 1201, 5-4-21 Nishihashimoto, Midori-ku, Sagamihara, kanagawa, 252-0131, Japan, [5]Graduate School of Biostudies, Kyoto University, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, Japan）	1aFa02 Ⓔ Transcriptional dynamics underlying wound-induced callus formation Momoko Ikeuchi, Akira Iwase, Mikiko Kojima, Hitoshi Sakakibara, Keiko Sugimoto（RIKEN CSRS）	1aG02 藻類におけるリン脂質合成系の比較ゲノムによる再検討 佐藤直樹[1,2], 櫻井健太[1,2], 毛利奈津美[1], 森山崇[1,2]（[1]東京大・院総合文化, [2]JST, CREST）	1aH02 Visualization of source and sink strength in *Arabidopsis thaliana* using $^{11}CO_2$ and a positron-emitting tracer imaging system (PETIS) Nobuo Suzui[1], Atsushi Koyanagi[1,2], Naoki Kawachi[1], Yong-Gen Yin[1], Satomi Ishii[1], Hiroaki Shimada[2], Shu Fujimaki[1]（[1]QuBS, JAEA, [2]Dept. Biol. Sci. & Tech, Tokyo Univ. Sci.）						9:45
1aE03 根粒原基を誘導するミヤコグサNINは*CLE*遺伝子を標的として根粒形成を抑制する 征矢野敬[1,4], 平川英樹[2], 佐藤修正[2,3], 林誠[4], 川口正代司[1]（[1]基生研, [2]かずさDNA研, [3]東北大院 生命科学, [4]生物研）	1aFa03 Ⓔ Chemical genetic approach to identify the substrates of A-type cyclin-dependent kinase Hirofumi Harashima[1], Philippe Hammann[2], Keiko Sugimoto[1], Arp Schnittger[3]（[1]CSRS, Riken, [2]IBMC, CNRS, France, [3]IBMP, CNRS, France）	1aG03 Ⓔ A Novel Δ15 Fatty Acid Desaturase Involved in Synthesis of Octadecapentaenoic Acid, 18:5, in the Haptophyta *Emiliania huxleyi* Tomonori Kotajima[1,3], Yoshihiro Shiraiwa[2,3], Iwane Suzuki[2,3]（[1]Grad. Sch. Life & Environ. Sci., Univ. Tsukuba, [2]Fac. Life & Environ. Sci., Univ. Tsukuba, [3]JST/CREST）	1aH03 Upstream open reading frames regulate boron-dependent translation of a boron transporter BOR1 Izumi Aibara[1], Tatsuya Hirai[1], Kyoko Miwa[2]（[1]Grad. Sch. Environ. Sci., Hokkaido Univ., [2]CRIS., Hokkaido Univ.）						10:00
1aE04 clv2エンハンサー突然変異体の単離と機能解析 元満文音[1], 志水法子[1], 重信秀治[2], 長谷部光泰[2,4], 山口勝司[2], 山田昌史[3], 石田喬志[1], 澤進一郎[1]（[1]熊大院・自然科学, [2]基生研, [3]Duke大, [4]総研大・基礎生物）	1aFa04 ヒメツリガネゴケにおけるキネシン5の局在・機能解析 内藤晴子, 三木智博, 仁科桃子, 五島剛太（名古屋大学・理・生命理学）	1aG04 カルジオリビンリモデリング酵素ホモログとその変異体の解析 片山健太[1,2,3,4], 藤岡-川本真理[4,5], 神田雅子[2], 山下寛子[2], 出村政彬[2], 和田元[3,4], 有村慎一[2], 堤伸浩[2]（[1]学振, [2]東京大・院農, [3]東京大・院理, [4]東京大・院総合文化, [5]北大・院医）	1aH04 イネ節における鉄の分配に関与する輸送体の探索と機能解析 山地直樹, 佐々木明正, 柏野美帆, 馬建鋒（岡山大学資源植物科学研究所）						10:15
1aE05 ペプチドホルモン受容体BAM1によるCLEペプチドシグナル伝達機構の解析 志水法子[1], 石田喬志[1], 田畑亮[2], 重信秀治[2], 長谷部光泰[2,3], 山口勝司[2], 山田昌史[4], 澤進一郎[1]（[1]熊大院・自然科学, [2]基生研, [3]総研大・基礎生物, [4]Duke大）	1aFa05 Functional analysis of the cytokinetic kinesin NACK using *Marchantia polymorpha* Ryuichi Nishihama, Takayuki Kohchi（Grad. Sch. Biostudies, Kyoto Univ.）	1aG05 ミトコンドリア形態の均一性に関わる*FZR1* (*FUZOROI1*)の機能解析 出村政彬[1], 片山健太[1], 岡咲洋三[2], 斉藤和季[2,3], 堤伸浩[1], 有村慎一[1]（[1]東大・院農, [2]理研・CSRS, [3]千葉大・院薬）	1aH05 落葉性木本植物のリン酸分配・転流機構の解析 栗田悠子[1], 馬場啓一[2], 大西美輪[1], 姉川彩[1], 小菅桂子[1], 七條千津子[1], 石崎公庸[1], 深城英弘[1], 三村徹郎[1]（[1]神戸大・院・理, [2]京都大・生存研）						10:30
1aE06 茎頂・根端分裂組織に異常を示すシロイヌナズナ突然変異体*cli2*の解析 木下温子[1], 田畑亮[2], 志水法子[3], 山田昌史[4], 重信秀治[2], 山口勝司[2], 長谷部光泰[2,5], 福田裕穂[6], 瀬尾光範[1], 神谷勇治[1], 澤進一郎[3]（[1]理研・CSRS, [2]基生研, [3]熊本大・院・自然科学, [4]Duke大, [5]総研大・基礎生物, [6]東大・院・理）	1aFa06 Alternative mechanism of DNA replication initiation by dnaA deletion in cyanobacteria Ryudo Ohbayashi[1], Satoru Watanabe[1], Yu Kanesaki[2], Taku Chibazakura[1], Hirofumi Yoshikawa[1]（[1]Dept. Biosci., Tokyo Univ. Agric., [2]Genome Reserch Center, Tokyo Univ. Agric.）	1aG06 リン欠乏条件を活用した植物葉における油脂増産系の構築 下嶋美恵[1], 円由香[1], 太田啓之[1,2,3]（[1]東京工業大学バイオ研究基盤支援総合センター, [2]東京工業大学地球生命研究所, [3]JST, CREST）	1aH06 植物細胞リン酸輸送機構とその進化について 藤原ひとみ[1], 大西美輪[1], 坂山英俊[1], 石崎公庸[1], 関本弘之[2], 西山智明[3], 七條千津子[1], 深城英弘[1], 三村徹郎[1]（[1]神戸大・院理・生物, [2]日本女子大・理・物生, [3]金沢大・学際科学実験センター）						10:45

Ⓔ＝発表の言語は英語

●第１日　３月18日（火）　午前(9:30–12:30)

時　間	A会場	B会場	C会場	D会場
	老化・細胞死／成長制御	情報伝達／光受容体・光応答	植物微生物相互作用（免疫）	光化学系Ⅰ・Ⅱ
11:00	1aA07 シロイヌナズナの道管分化に対するサーモスペルミン合成阻害剤の効果 吉本香織, 高村浩由, 門田功, 本瀬宏康, 高橋卓（岡山大学大学院自然科学研究科）	1aB07 Functional analysis of SnRK2 gene family in *Physcomitrella patens* Ryoko Otake[1], Toshiharu Yonehara[1], Andrew C.Cuming[2], Daisuke Takezawa[3], Teruaki Taji[1], Takahisa Hayashi[1], Yoichi Sakata[1]（[1]Dep. of Bioscience, Tokyo Univ. of Agriculture, [2]Univ. of Leeds, [3]Graduate School of Science and Engineering, Saitama Univ.）	1aC07 *R*遺伝子の多様化機構の解明のための有用ツールの発見・構築とその利用 打田直行[1,2], 小川与比古[2], 森明子[3], 猪狩和成[2], 森田(寺尾)美代[3], 田坂昌生[2]（[1]名古屋大・WPI-ITbM, [2]NAIST・バイオ, [3]名古屋大・農）	1aD07 シアノバクテリアの光化学系Ⅱにおける表在性蛋白質と水分解中心との相互作用 長尾遼[1], 中西華代[1], 鞆達也[2,3], 野口巧[1] （[1]名古屋大院・理, [2]東京理大・理, [3]JST・さきがけ）
11:15	1aA08 活性酸素種(ROS)による根の成長制御機構の解析 馬渕果穂[1], Wolfgang Busch[2], 石黒澄衛[1], Philip Benfey[3], 塚越啓央[1,4]（[1]名大院・生命農, [2]GMI, [3]Duke Univ., [4]JST・さきがけ）	1aB08 3つのシアノバクテリオクロム型光受容体がもつc-di-GMPシグナリングへの寄与 榎本元[1], 成川礼[1,2], 池内昌彦[1,3]（[1]東大・院・総合文化, [2]JST さきがけ, [3]JST CREST）	1aC08 AtRLCK1によるCERK1を介したキチンシグナリングの選択的な制御 新屋友規[1,2], 山口公志[3], 出崎能丈[2], 山田健太[3], 鈴木丸陽[2], 船間亮汰[3], 中島正登[2], 小林佳弘[2], 竹田潤[2], 賀来華江[2], 川崎努[3], 渋谷直人[2]（[1]岡山大・植物研, [2]明治大・農, [3]近畿大・農）	1aD08 Binding of the extrinsic subunits in the higher plant PSII complex Taishi Nishimura[1], Chihiro Uno[2], Kunio Ido[1], Ryo Nagao[2], Yoichiro Fukao[3], Takumi Noguchi[2], Fumihiko Sato[1], Kentaro Ifuku[1,4] （[1]Grad. Sch. Bio., Univ. Kyoto, [2]Grad. Sch. Sci., Univ. Nagoya, [3]NAIST, [4]JST, PRESTO）
11:30	1aA09 イネのMn輸送に関わる変異体の解析 田中伸裕[1], 浦口晋平[1,2], 大森良弘[1], 斎藤彰宏[1,3], 梶川昌孝[1,4], 藤原徹[1]（[1]東京大学・院農学生命, [2]バイロイト大学, [3]東京農業大学・応用生物化学, [4]京都大学・院生命科学）	1aB09 モデルシアノバクテリア*Nostoc punctiforme*を用いた光色応答の解析 広瀬侑[1,2], 三澤直美[1]（[1]豊橋技術科学大学・エレクトロニクス先端融合研究所, [2]豊橋技術科学大学・環境生命工学系）	1aC09 Ⓔ AtRLCK1 Regulates MAPKKKa Mediated Activation Of MAP Kinase In Chitin-triggered Immunity Koji Yamaguchi[1], Kenta Yamada[1], Tomomi Shirakawa[1], Ryota Funama[1], Kazuya Ishikawa[1], Mari Narusaka[2], Yoshihiro Narusaka[2], Kazuya Ichimura[3], Tamo Fukamizo[1], Naoto Shibuya[4], Tsutomu Kawasaki[1]（[1]Grad. School of Agriculture, Kinki Univ, [2]RIBS Okayama, [3]Faculty of Agriculture, Kagawa Univ, [4]Dept. Life Sci., Meiji Univ）	1aD09 葉緑体プロテアーゼFtsHと共精製されるタンパク質の探索と解析 加藤裕介, 坂本亘（岡山大学 資源植物科学研究所）
11:45	1aA10 An Arabidopsis thaliana Cu-sensitive mutant revealed roles of tyrosylprotein sulfotransferase in ethylene production Tao Wu[1,2], Takehiro Kamiya[1], Hiroko Shimizu-Yumoto[3], Naoyuki Sotta[1], Katsushi Yamaguchi[4], Shuji Shigenobu[4], Yoshikatsu Matsubayashi[4], Toru Fujiwara[1]（[1]Plant Nutrition, Univ Tokyo, [2]Northeast Agric. Univ. Harbin, [3]NARO Inst Floricult. Sci., [4]Nat. Inst. Basic Biol.）	1aB10 苔類ゼニゴケにおける転写因子HY5を介した光形態形成制御機構 竹谷千尋[1], 井上佳祐[1], 石崎公庸[2], 西浜竜一[1], 河内孝之[1]（[1]京大・院生命科学, [2]神戸大・院理）	1aC10 AtRLCK1 Functions as a MAPKKK Kinase in Chitin-Induced Immune Signaling Kenta Yamada[1], Koji Yamaguchi[1], Kohei Yamauchi[1], Kazuya Ishikawa[1], Mika Nomoto[2], Kazuya Ichimura[2], Yasuomi Tada[2], Tamo Fukamizo[1], Naoto Shibuya[3], Tsutomu Kawasaki[1]（[1]Grad. School of Agriculture, Kinki Univ, [2]Faculty of Agriculture, Kagawa Univ, [3]Dept. Life Sci., Meiji Univ）	1aD10 多孔質ガラス中のナノ空間における光化学系Ⅱコア複合体から cyt c_6への電子伝達 野地智康[1], 鈴木孝直[1], 近藤政晴[1], 川上恵典[2], 神哲郎[3], 渡辺麻衣[4], 池内昌彦[4], 浅井智広[5], 大岡宏造[6], 伊藤繁[7], 神谷信夫[2], 出羽毅久[1] （[1]名工大院工, [2]大阪市大院複合先端, [3]産総研, [4]東大院総合文化, [5]立命館大生命科学, [6]大阪大学院理, [7]名大院遺伝子）
12:00		1aB11 フィトクロムによるトマト芽生えのフック巻込みに関わる植物ホルモン 香山大輝[1], 周伊テイ[2], 高原綾子[2], 姉川彩[1], 大西美輪[1], 石崎公康[1], 深城英弘[1], 三村徹郎[1], 橋本徹[3], 七條千津子[1]（[1]神戸大•院理, [2]神戸大•理, [3]魚崎生科研）		1aD11 メチルビオロゲン修飾新規可溶化試薬を用いた光化学系Ⅰからの光誘起電子移動挙動の評価 小枝周平[1], 水野稔久[1], 野地智康[1], 川上恵典[2], 出羽毅久[1], 田中俊樹[1], 南後守[2], 伊藤繁[3], 杉安和憲[4], 竹内正之[4], 神谷信夫[1,2]（[1]名古屋工業大学大学院, [2]阪市大複合先端研, [3]名古屋大学, [4]物材機構）
12:15				

E会場	F会場	G会場	H会場	V会場	W会場	X会場	Y会場	Z会場	時間
栄養器官の発生・分化	細胞周期・分裂	糖質・脂質／二次代謝	細胞内輸送・蓄積・分泌／吸収・転流・蒸散／生体膜・イオン輸送	シンポジウムS01 Future research of C_4 plant biology（9:30－12:20）	シンポジウムS02 New frontiers in the root developmental biology（9:30－12:20）	シンポジウムS03 葉序パターンの数理と生成機構（9:30－12:30）	シンポジウムS04 植物の三大栄養素(N-P-K)の感知と利用の新理解（9:30－12:35）	シンポジウムS05 データベース講習会（9:30－12:30）	
1aE07 シロイヌナズナ葉ディスクを用いた木部・篩部分化系の確立 近藤侑貴[1], 齊藤知恵子[1], 藤田貴志[1], 杉山宗隆[2], 福田裕穂[1]（[1]東大・院・理, [2]東大・院・理・植物園）	1aFa07 リボソーム生合成不全がシロイヌナズナの根端成長に及ぼす影響の細胞動力学的解析 大林祝[1], 杉山宗隆[2], 岩元明敏[1]（[1]東京学芸大・自然・生命, [2]東京大・院・理・植物園）	1aG07 Salt-induced expression of NICOTINE2-locus genes encoding ETHYENE RESPONSE FACTOR-family transcription factors in tobacco Tsubasa Shoji, Takashi Hashimoto（Graduate School of Biological Sciences, Nara Institute of Science and Technology）	1aH07 Ⓔ 細胞膜プロトンポンプの活性化に関わるプロテインキナーゼの解析 南杏鶴[1], 中村英[1], 高橋大輔[2], 井上晋一郎[1], 高橋宏二[1], 上村松生[2,3], 木下俊則[1,4]（[1]名古屋大院・理・生命理学, [2]岩手大院・連合農学, [3]岩手大・農・寒冷バイオ, [4]名古屋大院・WPI-ITbM）						11:00
1aE08 シロイヌナズナ木部細胞分化転換の初期過程の解析 菅原杏子, 近藤侑貴, 福田裕穂（東大・院理学）	1aFa08 Ⓔ The function of RBR in the pluripotent stem cells during stomatal development Asuka Kuwabara, Johannes Fuetterer, Wilhelm Gruissem（Department of Biology, ETH Zurich, Switzerland）	1aG08 タバコNicotine Uptake Permease transporterの機能解析 加藤啓太[1], 庄司翼[1], 士反伸和[2], 橋本隆[1]（[1]奈良先端大・バイオ, [2]神薬大・生薬）	1aH08 細胞膜に局在するHLA3と葉緑体包膜に局在するLCIAは緑藻クラミドモナスのHCO_3^-輸送に働く 山野隆志, 佐藤江美, 井口ひろ, 福澤秀哉（京大・院・生命）						11:15
1aE09 維管束幹細胞の木部分化に関わる転写因子の解析 齊藤真人, 近藤侑貴, 福田裕穂（東大院・理）	1aFa09 Ⓔ Essential role of MYB3R transcription factors in genotoxic stress response Poyu Chen[1], Masaki Ito[2,3], Masaaki Umeda[1,3]（[1]NAIST, [2]Grad. Sch. Bioagr. Sci., Nagoya Univ., [3]JST, CREST）	1aG09 【演題取り下げ】	1aH09 CO_2輸送体スクリーニング法の開発 中原由揮, 柴坂三根夫, 且原真木（岡山大・植物研）						11:30
1aE10 LONESOME HIGHWAYを介する維管束分化初期過程の解析 片山博文, 福田裕穂, 伊藤(大橋)恭子（東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻）	1aFa10 Cytokinin signaling is involved in DNA stress response in *Arabidopsis* roots. Naoki Takahashi[1], Masaaki Umeda[1,2]（[1]Grad. Sch. Bio. Sci., NAIST, [2]JST, CREST）	1aG10 Identification of the glucosyltransferase gene supplying *p*-hydroxybenzoyl-glucose required to 7-polyacylation of anthocyanin in delphinium Yuzo Nishizaki[1], Nobuhiro Sasaki[2], Motoki Yasunaga[1], Taira Miyahara[1], Emi Okamoto[1], Yukio Hirose[3], Mitsutoshi Okamoto[3], Yoshihiro Ozeki[1]（[1]Grad. Sch. Tokyo univ of Agri & Tech, [2]Iwate Biotechnology Research Center, [3]Ehime Research Inst of Agriculture, Forestry and Fisheries）	1aH10 沈水植物ヤナギモにおける水輸送タンパク質PIPの働き 小菅桂子[1], 松本研人[1], 篠野静香[2], 柴坂三根夫[2], 飯田聡子[1], 且原真木[2]（[1]神戸大・院理学, [2]岡山大・資源植物科学研）						11:45
1aE11 Ⓔ ESR1 functions downstream of WIND1 to mediate wound-induced cell reprogramming in Arabidopsis. Akira Iwase, Mariko Ohnuma, Momoko Ikeuchi, Hirofumi Harashima, Keiko Sugimoto（RIKEN CSRS）		1aG11 オシロイバナにおけるベタレイン生合成に関わる *CYP76AD3* 遺伝子のゲノム構造解析 鈴木万里子[1], 徳本廣子[2], 宮原平[1], 佐々木伸大[3], 小関良宏[1]（[1]農工大・工・生命, [2]国立医薬品食品衛生研究所, [3]岩手生物工学研究所）	1aH11 アジサイの青色発色に関わる液胞膜型アルミニウム輸送体の大量発現系の確立 中林由香里[1], 根岸孝至[1], 鈴木博視[2], 大嶋篤典[2], 藤吉好則[2], 吉田久美[1]（[1]名大院 情報科学, [2]名大 CeSPI）						12:00
			1aH12 ALMT1輸送体のアルミニウムによる活性化におけるN末端側とC末端側領域の機能解析 佐々木孝行[1], 土屋善幸[1], 有吉美智代[1], 古市卓也[1,2], 山本洋子[1]（[1]岡山大・植物研, [2]岐阜女子大・家政学部）						12:15

Ⓔ＝発表の言語は英語

●第１日　3月18日（火）　午後（13:45–17:15）

時　間	A会場	B会場	C会場	D会場
	胚発生，細胞分化／種子形成，休眠，発芽	光受容体・光応答	植物微生物相互作用（免疫）	光合成色素・光捕集系／光化学系Ⅰ・Ⅱ
13:45	1pA01 Detection Of Leaf Morphological Trait Loci In Mizuna And Mibuna By QTL Analysis Yaichi Kawakatsu[1], Kaori Kaminoyama[1], Kaori Igarashi[2], Hokuto Nakayama[1,3], Nakao Kubo[4], Kentaro Yano[2], Seisuke Kimura[1] ([1]Faculty. Life Sci., Kyoto Sangyo Univ., [2]Faculty Agri., Meiji Univ., [3]Japan Society for the Promotion of Science, [4]Grad. Sch. Agri., Kyoto prefectural univ.)	1pB01 低温処理で誘導されるオルガネラ定位運動の青色光依存性 小笠原有香，藤井雄太，児玉豊（宇都宮大・バイオセンター）	1pC01 活性酸素種の生成パターンを指標とした植物免疫活性化剤の探索と作用機構の解析 北畑信隆[1]，八木智華子[1]，吉川岳史[1]，助川夏雄[1]，来須孝光[1,2,3]，浅見忠男[4]，朽津和幸[1,2] （[1]東京理科大・理工・応用生物科学，[2]東京理科大・総合研究機構，[3]東京工科大・応用生物，[4]東京大・農学生命科学）	1pD01 Segregation and characterization of the *menD* disrupted mutant of the *Thermosynechococcus elongatus* depleted of PhQ Hiroaki Yoshino[1], Yasunori Inoue[2], Masahiko Ikeuchi[1] ([1]Grad. Sch. Arts and Sci., Univ. Tokyo, [2]Grad. Sch. Sci. and Tech., Tokyo Univ. of Sci.)
14:00	1pA02 カルスからの再分化過程に異常を示す新規エビ変異体の探索 西村泰介[1,2]，山本章子[1]，武田真[1]，服部束穂[1] （[1]名古屋大学 生物機能開発利用研究センター 植物細胞機能分野，[2]科学技術振興機構 さきがけ）	1pB02 シロイヌナズナ葉緑体アンカーにおけるアクチン結合蛋白質ビリンの役割 小松原彩加，貴傳名亮太，高松秀安，高木慎吾（大阪大・院・理）	1pC02 サリチル酸シグナルにおける新奇NPR1相互作用因子の機能解析 野元美佳[1]，森毅[2]，Rajinikanth Mohan[3]，岡和[1]，時澤睦朋[4]，秋光和也[2]，山本義治[4]，Xinnian Dong[3]，多田安臣[5]（[1]愛媛大・院・連合農，[2]香川大・農，[3]Duke Univ.，[4]岐阜大・応用生物，[5]香川大・総セ）	1pD02 光化学系量比の改変による光合成活性への影響 渡辺麻衣[1,2]，奥田裕紀子[1,2]，池内昌彦[1,2] （[1]東大院 総合文化，[2]JST CREST）
14:15	1pA03 ATML1 activates the expression of *ACR4* during initiation of epidermal cell fate Nozomi Takada, Ayaka Yoshida, Shinobu Takada (Department of Biological Sciences, Graduate School of Science, Osaka University)	1pB03 Blue Light Regulation of *ZmPHOT1* and *ZmPHOT2* Genes and a Possible Involvement of Zmphot1 on Phototropism in Maize Coleoptiles Hiromi Suzuki[1], Takeshi Nishimura[1,2], Akeo Kadota[1], Takeshi Kanegae[1], Tomokazu Koshiba[1] ([1]Dept. of Biol. Sci., Univ., Tokyo Metropolitan, [2]Nat. Inst. Agrobiol. Sci.)	1pC03 JAZ-MYCモジュールを介したNO初期認識機構の解明 三田村梨帆[1]，野元美佳[2]，森毅[1]，時澤睦朋[3]，山本義治[3]，多田安臣[4]（[1]香川大・農，[2]愛媛大・院・連合農，[3]岐阜大・応用生物，[4]香川大・総セ）	1pD03 Distribution of chlorophyll *f* in the natural microbial mat Satoshi Ohkubo[1,2], Shogo Matsumoto[2], Hideaki Miyashita[2,3] ([1]Grad. Sch. Sci. and Eng., Saitama Univ., [2]Grad. Sch. Human and Environ. Stud., Kyoto Univ., [3]Grad. Sch. Global Environ. Stud., Kyoto Univ.)
14:30	1pA04 グルコース応答性遺伝子産物であるAtNuGAP1核タンパク質は胚発生に関与する 石田哲也，柳澤修一（東大・生物生産工学研究センター）	1pB04 シロイヌナズナの根の光屈性におけるオーキシンの機能と作用機序の解析 木村太郎[1]，芳賀健[1]，林謙一郎[2]，Yunde Zhao[3]，竹林裕美子[4]，笠原博幸[4]，酒井達也[1] （[1]新潟大院・自然科学，[2]岡山理科大・理，[3]カリフォルニア大・サンディエゴ校，[4]理研・CSRS）	1pC04 Ⓔ エフェクター認識後の*NbRBOHB*プロモーター活性化に複数のWRKY型転写因子が関与する 安達広明[1]，石濱伸明[2]，中野孝明[3]，宮川典子[4]，吉岡美樹[1]，八丈野孝[5]，白須賢[2]，吉岡博文[1] （[1]名大院生農，[2]理研PSC，[3]住友化学，[4]JA全農営技セ，[5]愛媛大農）	1pD04 Induction of Chlorophyll *f* in the Artificial Microbial Mat Shogo Matsumoto[1], Satoshi Ohkubo[3], Ryoma Kamikawa[1,2], Hideaki Miyashita[1,2] ([1]Grad. Sch. Human Environ. Studies, Kyoto Univ., [2]Grad. Sch. Global Environ. Studies, Kyoto Univ., [3]Grad. Sch. Sci. and Eng., Saitama Univ.)
14:45	1pA05 シロイヌナズナの種子貯蔵タンパク質変異体における油脂蓄積と種子収量の増加 藤木友紀，工藤一正，鹿又秀蔵，西田生郎（埼玉大・院・理工）	1pB05 シロイヌナズナ胚軸の一次正光屈性および二次正光屈性におけるD6プロテインカイネースの役割 芳賀健[1]，Claus Schwechheimer[2]，酒井達也[1] （[1]新潟大・院・自然科学，[2]ミュンヘン工科大学）	1pC05 Ⓔ Elucidation of mechanisms of small GTPase OsRac1 activation by R protein Pit through OsSPIKE1 Yoji Kawano, Ko Shimamoto (Nara Institute of Science and Technology)	1pD05 クロロフィル*f*を持つシアノバクテリアのエネルギー移動機構の解析 篠田稔行[1]，秋本誠志[2,3]，Min Chen[4]，Suleyman I. Allakverdiev[5,6]，鞆達也[1,7]（[1]東京理科大学・理学部，[2]神戸大学分子フォト研究センター，[3]JST CREST，[4]School of Biological Sciences, University of Sydney, Australia，[5]Institute of Plant Physiology, Russian Academy of Sciences, Moscow, Russia，[6]Institute of Basic Biological Problems, Russian Academy of Sciences, Pushchino, Moscow Region, Russia，[7]JST さきがけ）
15:00	1pA06 種子登熟時におけるVOZ転写因子の役割 佐藤雅彦[1]，朽名夏麿[2]，市川美恵[1]，山崎加奈子[1]（[1]京都府大・院生命環境科学，[2]東京大・院新領域創成科学）	1pB06 青色光受容体photの膜局在メカニズム 鈴木友美，長谷あきら（京大・院理学）	1pC06 Ⓔ OsPUB44 Positively Regulates PAMPs-induced Resistance In Rice Kazuya Ishikawa[1], Koji Yamaguchi[1], Kento Inoue[1], Satomi Yoshimura[1], Kazuaki Sakamoto[1], Yuichiro Muraguchi[1], Shiori Kitano[1], Madoka Ogawa[1], Seiji Tsuge[2], Tsutomu Kawasaki[1] ([1]Graduate School of Agriculture, Kinki University, [2]Graduate School of Agriculture, Kyoto Prefectural University)	1pD06 Chlorophyllide *a* 還元酵素で新たに見出された C8位ビニル還元活性の進化的意義 原田二朗[1]，溝口正[2]，塚谷祐介[2,3]，横野牧生[4]，田中歩[4,5]，民秋均[2]（[1]久留米大・医，[2]立命館大院・生命科学，[3]JST・さきがけ，[4]北大・低温研，[5]JST・CREST）
15:15	1pA07 シロイヌナズナ種子の休眠と発芽におけるフラボノイドの役割 岩本拓也[1]，大槻瞳[1]，島村昌幸[2]，明石智義[2]，藤茂雄[1,3]，青木俊夫[2]，川上直人[1]（[1]明大・農，[2]日大・生物資源，[3]トロント大・細胞システム生物学）	1pB07 フォトトロピンによるBLUS1のリン酸化は気孔開口の初期過程である 武宮淳史[1]，杉山直幸[2,3]，藤本宏[1]，堤俊文[1]，山内翔太[1]，樋山麻美[1]，多田安臣[4]，John M. Christie[5]，島崎研一郎[1]（[1]九大院・理，[2]慶大・先端生命研，[3]京大・薬，[4]香大・農，[5]University of Grasgow）	1pC07 イネはEF-Tuタンパク質のN末端ペプチドであるefl18とは異なる領域を認識して免疫反応を誘導する。 古川岳人，稲垣宏明，高井亮太，平井洋行，蔡晃植（長浜バイオ大・院バイオ）	1pD07 クロロフィリド*a*還元酵素の導入による近赤外光吸収型色素の遺伝子工学的生産 塚谷祐介[1,2,3]，原田二朗[4]，野亦次郎[5]，溝口正[3]，藤田祐一[5]，民秋均[3]（[1]東工大・地球生命研究所，[2]JST・さきがけ，[3]立命館大院・生命科学，[4]久留米大・医，[5]名大院・農）

E会場	F会場	G会場	H会場	V会場	W会場	X会場	Y会場	Z会場	時間
栄養器官の発生・分化	細胞骨格／細胞壁	二次代謝	電子伝達系・炭素代謝	シンポジウムS06 植物科学における〝デザインドバイオマス〟研究と展望（13:45–16:45）	シンポジウムS07 植物の休眠—さまざまな「眠り」に共通する戦略—（13:45–16:30）	シンポジウムS08 アポプラストシグナルを介した器官・組織・細胞間相互作用（13:45–16:45）	シンポジウムS09 植物科学が切り拓く細胞研究のフロンティア（13:45–16:40）	シンポジウムS10 ライブイメージング：RIが教えてくれる植物の元素動態（13:45–16:45）	13:45
1pE01 Ⓔ Adventures in Root Architecture: the *Brachypodium distachyon buzz* mutant Karen Sanguinet（Iwate University）	1pF01 アブシジン酸は表皮細胞の突起形成と微小管の脱重合を引き起こす 高谷彰吾[1], 橋本隆[3], 平山隆志[2], 高橋卓[1], 本瀬宏康[1]（[1]岡山大・院自然科学, [2]岡山大・IPSR, [3]奈良先端大・院バイオ）	1pG01 ナデシコ目植物におけるフラボノイド合成に関わるMYB転写因子 田中明日香, 岩瀬かおり, 原田理紗子, 由田和津子, 作田正明（お茶の水大・院生命科学）	1pH01 アイスプラントのCAM化過程のクロロフィル蛍光測定による解析 松岡達也[1], 是枝晋[2], 園池公毅[1]（[1]早稲田大・教育, [2]埼玉大・理）						
1pE02 ミチタネツケバナとシロイヌナズナをもちいた根の皮層層数制御の分子遺伝学的解析 豊倉浩一[1], 坂根雅人[2], 三村徹郎[1], 工藤洋[2], 深城英弘[1]（[1]神戸大学大学院理学研究科, [2]京都大学生態学研究センター）	1pF02 二次細胞壁形成時に機能する新規微小管付随タンパク質の同定 杉山友希[1], 小田祥久[1,2], 福田裕穂[1]（[1]東京大・院理・生物科学, [2]科学技術振興機構・さきがけ）	1pG02 Ⓔ Functional analysis of double bond reductase 2 (DBR2) in *Artemisia absinthium* Paskorn Muangphrom[1], Munenori Suzuki[1], Hikaru Seki[1], Aya Komori[2], Ery Odette Fukushima[1], Toshiya Muranaka[1]（[1]Grad. Sch. Eng., Osaka Univ., [2]Kihara Inst. Biol. Res., Yokohama City Univ.）	1pH02 クロロフィル蛍光測定によるシアノバクテリアの呼吸およびCO_2取込み能の解析 小川敬子, 園池公毅（早稲田大・教育）						14:00
1pE03 Imaging analysis of *Arabidopsis* lateral root organogenesis Tatsuaki Goh[1,2], Soazig Guyomarc'h[3], Hidehiro Fukaki[1], Laurent Laplaze[3], Malcolm J. Bennett[2]（[1]Grad. Sch. Sci., Kobe Univ., [2]CPIB, Univ. of Nottingham, [3]IRD, UMR DIADE (IRD/UM2)）	1pF03 Ⓔ TOGカラムを用いた植物材料からのチューブリン大量精製法とその応用 堀田崇, 藤田智史, 橋本隆（奈良先端大・バイオ）	1pG03 チャ由来香気成分配糖体化酵素，CsUGT1の同定 小埜栄一郎[1], 大上将司[2], 豊永宏美[1], 大場幸江[2], 村田純[4], 堀川学[4], 水谷正治[5], 大西利幸[2,3]（[1]SIC（株）研究部, [2]静大院農, [3]静大グリーン研, [4]サントリー生命科学財団, [5]神戸大院農）	1pH03 プラスチックバッグを用いたシアノバクテリアの光生物学的水素生産 北島正治[1], 増川一[2,3], 櫻井英博[3], 井上和仁[1,3]（[1]神奈川大・生物, [2]JSTさきがけ, [3]神奈川大・光合成水素生産研）						14:15
1pE04 Actin Rearrangement Is Essential For Rapid Cell Elongation In Arabidopsis Roots Hirotomo Takatsuka[1], Masaaki Umeda[1,2]（[1]Nara Institute of Science and Technology, [2]CREST, JST）	1pF04 Functional analysis of novel Arabidopsis proteins that associate with microtubule nucleation sites Noriyoshi Yagi, Takahiro Hamada, Masayoshi Nakamura, Mayumi Kawaguchi, Takehide Kato, Takashi Hashimoto（Grad. Sch. Biol. Sci., NAIST）	1pG04 チャ由来の香気成分前駆配糖体化酵素CsUGT2の機能解析 大上将司[1], 小埜栄一郎[2], 豊永宏美[2], 道羅英夫[3], 大場幸江[1], 堀川学[4], 水谷正治[5], 大西利幸[1,3]（[1]静岡大学大学院農学研究科, [2]サントリーグローバルイノベーションセンター（株）研究部, [3]静岡大学グリーン科学技術研究所, [4]（公財）サントリー生命科学財団 生物有機科学研究所, [5]神戸大学大学院農学研究科）	1pH04 A novel type of UDP-glucose pyrophosphorylase (CugP) for all cyanobacteria Kaisei Maeda[1], Rei Narikawa[1,2], Masahiko Ikeuchi[1,3]（[1]Department of Life Sciences (Biology), Graduate School of Arts and Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan, [2]Japan Science and Technology Agency (JST), PRESTO, Saitama, Japan, [3]Japan Science and Technology Agency (JST), CREST, Saitama, Japan）						14:30
1pE05 Ⓔ Differentiation and functional specialization of Arabidopsis root cap by NAC transcription factors Masako Kamiya[1], Shinya Higashio[1], Atsushi Ishomoto[1], Miyako Nakanishi[1], Shunsuke Miyashima[1], Keiji Nakajima[1,2]（[1]Laboratory of Plant Developmental Signaling, Grad. Sch. Biol. Sci., NAIST, [2]PRESTO, JST）	1pF05 細胞分裂における表層アクチン繊維および細胞分裂面形成の経時観察 湖城恵[1], 桧垣匠[1], 朽名夏麿[1], 安原裕紀[2], 馳澤盛一郎[1,3]（[1]東京大・院・新領域, [2]関西大・化学生命工学, [3]JST先端計測）	1pG05 Ⓔ Combinatorial biosynthesis of plant triterpenoids in engineered yeast Ery Odette Fukushima[1,2], Hikaru Seki[2,3], Satoru Sawai[3], Munenori Suzuki[2,4], Kiyoshi Ohyama[3,5], Kazuki Saito[3,6], Toshiya Muranaka[2,3]（[1]Front. Res. Center, Grad. Sch. of Eng., Osaka University, [2]Dept. Biotech., Grad. Sch. of Eng., Osaka University, [3]RIKEN CSRS, [4]KNC Labs., [5]Dept. Chem. Mat. Sci., TITECH, [6]Grad. Sch. of Pharm. Sci., Chiba University）	1pH05 Regulation of Sucrose Synthesis in the Nitrogen-fixing Cyanobacterium *Anabaena* sp. PCC 7120 Shigeki Ehira[1,2,3,4], Satoshi Kimura[3], Masayuki Ohmori[2,3]（[1]Grad. Sch. Sci. Eng., Tokyo Metropolitan Univ., [2]Fac. Sci. Eng., Chuo Univ., [3]Grad. Sch. Sci. Eng., Saitama Univ., [4]PRESTO, JST）						14:45
1pE06 Molecular bases of unusual shoot and leaf development in one-leaf plants Naoko Ishikawa[1,2], Hirokazu Tsukaya[2]（[1]Saitama Mus. Natural History, [2]Grad. Sch. Sci., Univ. Tokyo）	1pF06 速度改変型キメラミオシンXIの発現により明らかになってきた原形質流動の機能と制御 富永基樹[1,5], 伊藤光二[2], 原口武士[2], 横田悦雄[3], 新免輝男[3], 山本啓一[2], 中野明彦[1,4]（[1]理研・ライブセルイメージング, [2]千葉大・院生物, [3]兵県大・院生命理学, [4]東大・院生物科学, [5]JST・さきがけ）	1pG06 合成生物学的手法によるグリチルレチン酸生産に向けたP450ナチュラルバリアントの探索 澤井学[1], 福島エリ オデット[2,3], 大山清[1,4], 關光[1,2,3], 村中俊哉[1,2,3], 斉藤和季[1,5]（[1]理研CSRS, [2]阪大院・工, [3]横浜市大・木原生研, [4]東工大院・理工, [5]千葉大院・薬）	1pH06 Pre-steady state kinetic studies of redox reactions of ferredoxin-NADP$^+$ oxidoreductases from *Bacillus subtilis* and *Rhodopseudomonas palustris* with NADP$^+$/H Daisuke Seo[1], Hidehiro Sakurai[2], Pierre Setif[3], Takeshi Sakurai[1]（[1]Grad. Sch. Nat. Sci. Tec., Kanazawa Univ., [2]Res. Inst. PhotBio. Hyd. Prod., Kanagawa Univ., [3]iBiTec-S, CEA Saclay）						15:00
1pE07 an3依存的補償作用に関与する外的因子の検討 江崎和音[1], 川出健介[2], 堀口吾朗[3], 塚谷裕一[1]（[1]東京大学大学院 理学系研究科 生物科学, [2]理研CSRS, [3]立教大学 理学部 生命理学科）	1pF07 二次壁特異的プロモーターによるキシログルカナーゼの発現 井上友紀[1], 江利川遼[1], 海田るみ[1], 太治輝昭[1], 坂田洋一[1], 林隆久[1], 高田直樹[2], 谷口亨[3], 馬場啓一[4], 桐生智明[5], 山中望[5], 古田裕三[5]（[1]東京農業大・バイオ, [2]森林総研・森林バイオ, [3]森林総研・育種セ, [4]京大・生存研, [5]京府大・院生命環）	1pG07 植物トリテルペノイドサポニン生合成制御機構の解明 田村啓太[1], 關光[1,2], 平岡靖子[2], 持田恵一[3], 斉藤和季[3], 村中俊哉[1,2]（[1]阪大院・工・生命先端, [2]横浜市大・木原生研, [3]理研・CSRS）	1pH07 光合成電子伝達複合体の蓄積に関与する新規チラコイドタンパク質の解析 山本宏[1,2], 鹿内利治[1,2]（[1]京都大院・理・植物分子遺伝, [2]CREST・JST）						15:15

Ⓔ＝発表の言語は英語

●第１日　3月18日（火）　午後（13:45–17:15）

時　間	A会場	B会場	C会場	D会場
	胚発生，細胞分化／種子形成，休眠，発芽	光受容体・光応答	植物微生物相互作用（免疫）	光合成色素・光捕集系／光化学系Ⅰ・Ⅱ
15:30	1pA08 光発芽抑制因子、PIL5とSOMの作用は高温で誘導され、植物ホルモン合成と発芽の高温阻害を制御する 渡邊飛鳥[1]，藤茂雄[1,4]，Soohwan Lim[2]，Jeongmoo Park[2]，重山拓摩[1]，山口信次郎[3]，南原英司[4]，神谷勇治[5]，Giltsu Choi[2]，川上直人[1]（[1]明大・農，[2]KAIST，[3]東北大院・生命科学，[4]トロント大・細胞システム生物学，[5]理研・環境資源科学研究センター）	1pB08 気孔孔辺細胞青色光情報伝達因子を欠く変異体の探索と機能解析 山内翔太[1]，武宮淳史[2]，堤俊文[1]，待木美佳[2]，鳥崎研一郎[2]（[1]九州大・システム生命，[2]九州大・理学研究院）	1pC08 イネにおける植物病原細菌の鞭毛タンパク質フラジェリンの受容とその情報伝達機構の解析 桂木雄也，小栗章成，森本匠，片山貴等，村上貴彦，高井亮太，蔡晃植（長浜バイオ大・院バイオ）	1pD08 BchJタンパク質の暗所作動型プロトクロロフィリド還元酵素に対する作用 山梨香緒里，藤田祐一（名大院・生命農・植生）
15:45	1pA09 Is there alternative receptor(s) for gibberellin in rice aleurone cells? Kenji Yano，Koichiro Aya，Ko Hirano，Makoto Matsuoka（Bioscience and Biothechnology Center Nagoya University.）	1pB09 リン酸化プロテオームによる孔辺細胞情報伝達因子の探索と機能解明 樋山麻美[1]，武宮淳史[2]，杉山直幸[3,4]，鳥崎研一郎[2]（[1]九州大院・システム生命，[2]九州大院・理，[3]京大・薬，[4]慶大・先端生命研）	1pC09 LysM型受容体キナーゼの機能解析から見えてきた植物防御ー共生応答の進化 中川知己[1]，宮田佳奈[1]，古崎利紀[2]，香西雄介[3]，小澤憲二郎[3]，石井一夫[2]，梅原洋佐[3]，宮本綾乃[1]，小八重善裕[4]，秋山康紀[5]，賀来華江[1]，西澤洋子[3]，渋谷直人[1]（[1]明治大学・農，[2]農工大，[3]生物研，[4]東大・院農，[5]大阪県立大・院生命）	1pD09 ラン藻におけるProtoporphyrinogen IX oxidase遺伝子の多様性 木幡亮哉[1]，村上明男[2,4]，藤田祐一[3]，伊藤寿[1,4]，田中歩[1,4]，田中亮一[1,4]（[1]北大・低温研，[2]神戸大・内海域セ，[3]名大・院生命農，[4]CREST／JST）
16:00	1pA10 イネ生殖分子機構の解明と操作を基盤としたアポミクシスへの挑戦 笠原竜四郎[1,4]，木下佳裕[2]，東山哲也[2,3,4]（[1]科学技術振興機構 さきがけ，[2]名大・院・理，[3]科学技術振興機構 ERATO，[4]名大・ITbM）	1pB10 青色光依存の気孔開口における孔辺細胞葉緑体の役割 末次憲之[1]，高見常明[1,2]，蛭子雄太[3]，飯干智穂子[1]，土井道生[4]，鳥崎研一郎[1]（[1]九州大学大学院 理学研究院 生物科学部門，[2]岡山大学 資源植物科学研究所 光環境適応研究グループ，[3]九州大学大学院 システム生命科学府，[4]九州大学大学院 基幹教育院）	1pC10 木質細胞の異常分化と葉の新生を誘導するウイルスタンパク質の機能解析 厚見剛，冨田麗子，関根健太郎（岩手生工研）	1pD10 Characterization of a *HemN* homolog encoding an oxygen-independent coporoporphyrinogen III oxidase-related protein in *Arabidopsis thaliana* Yuki Akiyama[1]，Ayumi Tanaka[1,2]，Ryouichi Tanaka[1,2]（[1]Inst. Low Temp. Sci., Hokkaido Univ.，[2]CREST/JST）
16:15		1pB11 光合成に依存した細胞膜プロトンポンプのリン酸化の解析 奥村将樹[1]，井上晋一郎[1]，高橋宏二[1]，木下俊則[1,2]（[1]名古屋大・院理・生命理学，[2]名古屋大・WPI-ITbM）	1pC11 Ⓔ A PAMP elicitor from Phytophthora infestans induces active oxygen species and the hypersensitive response in potato Naotaka Furuichi[1]，Kazutoshi Yokokawa[1]，Hisakazu Okamura[2]，Masatoshi Ohta[2]（[1]Lab Plant Mol Pathology，[2]Grad Sch Science and Technology）	1pD11 The Role of NOL and NYC1 in the Acclimation to High Light Conditions in *Arabidopsis thaliana* Rei Sato[1]，Hisashi Ito[1,2]，Ayumi Tanaka[1,2]（[1]Inst. Low Temp. Sci., Hokkaido Univ.，[2]CREST/JST）
16:30				1pD12 Novel grana-localized proteins, RIQ1 and RIQ2, are involved in NPQ induction and the regulation of grana structure in *Arabidopsis*. Ryo Yokoyama[1]，Hiroshi Yamamoto[1]，Kentaro Ifuku[2]，Satomi Takeda[3]，Maki Kondo[4]，Yoichiro Fukao[5]，Mikio Nishimura[4]，Toshiharu Shikanai[1]（[1]Grad. Sch. Sci., Kyoto Univ.，[2]Grad. Sch. Biostudies, Kyoto Univ.，[3]Grad. Sch. Sci., Osaka Pref. Univ.，[4]NIBB，[5]Plant Global Education, NAIST）
16:45				
17:00				

E会場	F会場	G会場	H会場	V会場	W会場	X会場	Y会場	Z会場	時　間
栄養器官の発生・分化	細胞骨格／細胞壁	二次代謝	電子伝達系・炭素代謝	シンポジウムS06 植物科学における〝デザインドバイオマス〟研究と展望（13:45–16:45）	シンポジウムS07 植物の休眠―さまざまな「眠り」に共通する戦略―（13:45–16:30）	シンポジウムS08 アポプラストシグナルを介した器官・組織・細胞間相互作用（13:45–16:45）	シンポジウムS09 植物科学が切り拓く細胞研究のフロンティア（13:45–16:40）	シンポジウムS10 ライブイメージング：RIが教えてくれる植物の元素動態（13:45–16:45）	15:30
1pE08 The DExH type helicase DNA DAMAGE INDUCIBLE1 functions in DNA repair pathway in *Arabidopsis thaliana* Tetsuya Hisanaga[1], Keiko Sugimoto[2], Hirokazu Tsukaya[1] ([1]Grad. Sch. Sci., Univ. Tokyo, [2]CSRS, RIKEN)	1pF08 カラマツアラビノガラクタンにおけるβ-ヤリド試薬の特異的相互作用部位 佐藤一樹[1], 北澤仁成[2], 吉見圭永[2], 小竹敬久[2], 円谷陽一[2]（[1]埼玉大・理, [2]埼玉大院・理工）	1pG08 人工ヌクレアーゼTALENによるトリテルペノイド生合成酵素遺伝子の破壊 安本周平[1], 關光[1], 福島エリオデット[1], 佐久間哲史[2], 山本卓[2], 村中俊哉[1]（[1]阪大院・工, [2]広大院・理）	1pH08 NDH-光化学系I超複合体に介在するLhca6の分子進化 大谷卓人, 山本宏, 鹿内利治（京都大 院理学）						
1pE09 コケ植物ANGUSTIFOLIAに関する比較解析 服部考郎[1], 石崎公庸[2], 武智克彰[3], 榊原恵子[1], 高野博嘉[3], 河内孝之[4], 塚谷裕一[1]（[1]東大・院・理, [2]神戸大・院・理, [3]熊本大・院・自然科学, [4]京大・院・生命科学）	1pF09 放射性セシウムの動態 林隆久[1], 安川知里[1], 野中美貴[1], 青木翔子[1], 板倉正晃[1], 海田るみ[1], 太治輝昭[1], 坂田洋一[1], 大林宏也[2], 上原巌[2], 馬場啓一[3], 坪倉正治[4]（[1]東京農業大学バイオサイエンス学科, [2]東京農業大学森林総合科学科, [3]京都大学生存圏研究所, [4]東京大学医科学研究所）	1pG09 ナス科植物ステロイドグリコアルカロイド生合成に関わる16位水酸化を触媒するジオキシゲナーゼの機能解析 中安大[1], 梅基直行[2], 大山清[3,4], 渡辺文太[5], 村中俊哉[4,6], 斉藤和季[4,7], 杉本幸裕[1], 水谷正治[1]（[1]神戸大院・農, [2]キリン・基盤研, [3]東工大院・理工, [4]理研CSRS, [5]京大・化研, [6]大阪大院・工, [7]千葉大院・薬）	1pH09 PGR5/PGRL1-dependent cyclic electron transport around PSI contribute to the CO2 assimilation on C4 photosynthesis in Flaveria bidentis Naoya Nakamura, Kaoru Morikawa, Akiho Yokota, Yuri Nakajima Munekage (Grad. Sch. Biol. Sci., NAIST)						15:45
1pE10 苔類ゼニゴケにおける頂端細胞の選択を介した青色光依存的な背腹性決定機構 芦原悠紀子[1], 小松愛乃[1], 西浜竜一[1], 石崎公庸[2], 河内孝之[1]（[1]京大・院・生命, [2]神大・院・理学）	1pF10 *Arabidopsis thaliana* callose synthase mutants are sensitive to calcium deficiency. Yusuke Shikanai[1], Satomi Takahashi[1], Mutsumi Yamagami[2], Shuji Shigenobu[3], Katsushi Yamaguchi[3], Takehiro Kamiya[1], Toru Fujiwara[1]（[1]Univ. Tokyo, [2]IES, [3]NIBB）	1pG10 Investigation of P450s involved in steroidal saponin biosynthesis from *Dioscorea esculenta* (Togedokoro) Hyoung Jae Lee[1], Rie Yamamura[1], Takashi Kawasaki[1], Masaru Nakayasu[1], Bunta Watanabe[2], Michio Onjo[3], Yukihiro Sugimoto[1], Masaharu Mizutani[1]（[1]Grad. Sch. Agric. Sci., Univ. Kobe, [2]Inst. Chem. Res., Univ. Kyoto, [3]Faculty Agric., Univ. Kagoshima）	1pH10 CP12-GAPDH-PRK複合体形成によるカルビン回路制御の構造的基盤 松村浩由[1], 清水伸隆[2], 木津奈都子[1], 吉田将康[1], 荒武将弘[1], 溝端栄一[1], 田茂井政宏[3], 和田野晃[4], 重岡成[3], 井上豪[1]（[1]阪大院・工, [2]高エネ機構・物構研, [3]近畿大・農, [4]阪府大院・生環科）						16:00
1pE11 気孔のクラスター化を誘導する新規低分子化合物の解析 阪井裕美子, 菅野茂夫, 嶋田知生, 西村いくこ（京大・院理）	1pF11 カスパリー線形成に関与する変異株の同定と解析 神谷岳洋[1], 李保海[1], John Danku[2], David Salt[2], 山上睦[3], 藤原徹[1]（[1]東大院・農, [2]アバディーン大学, [3]環境技術研）	1pG11 ニンニクの含硫二次代謝物アリインの生合成に関与する酵素遺伝子群の同定と機能解析 吉本尚子[1], 矢部綾美[1], 小沼美沙都[1], 杉野由佳[1], 中林亮[2], 上山正恵[3], 鎌田庸宏[3], 今井真介[3], 角愼一郎[4], 恒吉唯充[4], 斉藤和季[1,2]（[1]千葉大院・薬, [2]理研CSRS, [3]ハウス食品, [4]湧永製薬）	1pH11 イネ葉の一生において窒素供給量が光合成機能因子のmRNA量に及ぼす影響 山岡千尋, 鈴木雄二, 牧野周（東北大・院農学）						16:15
		1pG12 シロイヌナズナ花粉特異的フラボノールの高次配糖化酵素遺伝子の機能同定とその局在性 榊原圭子[1], 中林亮[1], 菅原聡子[1], 峠隆之[1], 伊藤卓也[1], 小柳美寿々[2], 北島満里子[2], 高山廣光[2], 斉藤和季[1,2]（[1]理研・CSRS, [2]千葉大院・薬）	1pH12 コムギRubisco小サブユニット遺伝子(TaRBCS)のイネへの導入と機能解析 保科絢子, 菅野圭一, 菅原あつ子, 近藤依里, 鈴木雄二, 牧野周（東北大・院農）						16:30
		1pG13 オミックス統合解析によるネギ類の代謝育種研究 澤田有司[1], 中林亮[1], 執行正義[2], 佐藤修正[3], 若生忠幸[4], 佐藤心郎[1], 山田豊[1], 森哲哉[1], 坂田あかね[1], 斉藤和季[1,5], 平井優美[1]（[1]理研CSRS, [2]山口大 農学, [3]東北大・院生命科学, [4]農研機構 野茶研, [5]千葉大院 薬）							16:45
		1pG14 Ⓔ Photoautotrophic Production of Bioplastics by Cyano Nyok Sean Lau[1,2], Foong Choon Pin[1,2], Yukio Kurihara[1], Sudesh Kumar[2], Minami Matsui[1]（[1]RIKEN CSRS, BMEP, [2]Universiti Sains Malaysia）							17:00

Ⓔ＝発表の言語は英語

●第２日　３月19日（水）　午前（9:00–12:00）

時　間	A会場	B会場	C会場	D会場
	ゲノム・EST／トランスクリプトーム／メタボローム／バイオインフォマティクス／データベース／その他	栄養器官の発生・分化	生殖器官の発生・分化／植物ホルモン・成長調節物質	オルガネラ／小胞輸送
9:00	2aA01 Ⓔ Serendipitous identification of a new Iflavirus-like virus infecting tomato, and its subsequent characterization Muhammad Saqib[1,2], Stephen Wylie[2], Michael Jones[2]（[1]National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST), [2]WA SABC, SVLS, Murdoch University, Australia）	2aB01 シロイヌナズナのAS1:AS2-ARF3経路はリボソームRNA前駆体のプロセシング阻害による葉の向背軸性の崩壊を防ぐ 町田泰則[1], 松村葉子[1], 大林祝[2], 杉山崇高[2], 石橋奈々子[1], サエスーヴァスケスジュリオ[3], 小鳥晶子[4], 町田千代子[4]（[1]名古屋大理・院生命, [2]東京大学理・院植物, [3]ベルビニュアン大学, [4]中部大学・応用生物学）	2aC01 コムギにおけるイオンビーム・ミュータント・パネルの作成とplastochron突然変異体の同定 村井耕二[1], 田平千香子[1], 漆川直希[1], 風間裕介[2], 阿部知子[3]（[1]福井県大・生物資源, [2]理研・イノベーションセンター, [3]理研・仁科センター）	2aD01 シャペロン、プロテアーゼ、オートファジーが支えるペルオキシソームの機能転換 後藤（山田）志野[1], 真野昌二[1,2], 中森ちひろ[1], 近藤真紀[1], 山脇隆一[3], 加藤朗[3,4], 西村幹夫[1,2]（[1]基生研・細胞生物, [2]総合研究大学院大学・生命科学, [3]新潟大・院・自然科学, [4]新潟大・理・生物）
9:15	2aA02 ブラキポディウム完全長cDNAの解析とムギ類ゲノム情報との統合 持田恵一[1,2], 上原由紀子[1], 高橋史憲[1], 吉田拓広[1], 櫻井哲也[1], 篠崎一雄[1]（[1]理化学研究所環境資源科学研究センター, [2]横浜市立大学木原生物学研究所）	2aB02 シロイヌナズナのAS1-AS2-ETT経路による葉の向背軸分化のメカニズムの解明 中川彩美[1], 高橋広夫[2], 高橋真理[3], 伊藤卓馬[1], 小鳥晶子[1], 町田泰則[3], 町田千代子[1]（[1]中部大・応用生物, [2]千葉大院・園芸, [3]名古屋大院・理）	2aC02 TAW1とBOPの相互作用によるイネ花序形成の制御 徳永浩樹, 吉田明希子, 山崎諒, 経塚淳子（東大院・農学生命科学）	2aD02 ERボディの膜特異的に局在するMEBタンパク質の解析 山田健志[1,2], 永野惇[3], 西村いくこ[3], 西村幹夫[1,2]（[1]基生研・細胞生物, [2]総研大・生命科学, [3]京大院・理）
9:30	2aA03 高等植物におけるshort open reading framesの機能解析 樋口（竹内）美栄子[1], 吉積毅[2], 清水みなみ[1], 大橋千広[1], 松井南[3], 篠崎一雄[1], 花田耕輔[1,4]（[1]理研CSRS・機能開発, [2]慶應大学・先端生命科学研究所, [3]理研CSRS・合成ゲノミクス, [4]九州工大・生命情報工学）	2aB03 Analysis of function of Type IB *DNA TOPISOMERASE* in establishment of leaf adaxial-abaxial polarity in *Arabidopsis thaliana* Mari Takahashi[1], Ayami Nakagawa[2], Mami Yamasaki[3], Kazuki Saito[3], Yasunori Machida[1], Chiyoko Machida[2]（[1]Grad. Sch. Sci., Univ. Nagoya, [2]Grad. Sch. Bio Sci., Univ. Chubu, [3]Grad. Sch. Pharmaceutical Sci., Univ. Chiba）	2aC03 ゼニゴケ*MpLFY*ノックアウト株の表現型解析 丹羽優喜[1], 酒井友希[1], 肥後あすか[1], 遠藤求[1], 山口礼子[1], 石崎公庸[2], 大和勝幸[2], 西浜竜一[1], 河内孝之[1], 荒木崇[1]（[1]京都大・院・生命, [2]神戸大・院・理, [3]近畿大・生物理工）	2aD03 葉にオイルボディを異常蓄積する*loa1*変異体の解析 島田貴士[1], 嶋田知生[2], 岡咲洋三[3], 斉藤和季[3,4], 高野義孝[1], 西村いくこ[2]（[1]京大・院農, [2]京大・院理, [3]理研・CSRS, [4]千葉大）
9:45	2aA04 *Limnothrix* sp. ABRG5-3株のゲノム配列決定とシアノバクテリアの中での系統関係 田島直幸[1], 兼崎友[2], 佐藤修正[3], 吉川博文[4], 丸山史人[5], 黒川顕[6], 太田啓之[7], 田畑哲之[8], 高根澤陽[9], 西澤智康[9], 朝山宗彦[9], 佐藤直樹[1]（[1]東京大・院総合文化, [2]東京農大・生物資源ゲノム解析セ, [3]東北大・院生命科学, [4]東京農大・応生科, [5]東京医科歯科大・院医歯学総合, [6]東工大・院生命理工, [7]東工大・バイオ研究基盤支援総合セ, [8]かずさDNA研究所, [9]茨城大・農）	2aB04 シロイヌナズナのAS1-AS2遺伝子が関わる葉の初期発生分化におけるDNA複製関連因子の役割解明 Quy Toan Luong[1], 浅井俊晴[1], 氣多澄江[1], 中川彩美[1], 石橋奈々子[2], 町田泰則[2], 町田千代子[1]（[1]中部大学大学院 応用生物学研究科, [2]名古屋大学大学院 理学研究科）	2aC04 Effects of RABBIT EARS ectopic expression in *Arabidopsis thaliana* flowers Seiji Takeda, Mariko Noguchi（Cell and Genome Biology, Graduate School of Life and Environmental Sciences, Kyoto Prefectural University）	2aD04 KAKU4とLINC1は協調して核膜の支持に働く 後藤千恵子[1], 田村謙太郎[1], 深尾陽一朗[2], 嶋田知生[1], 西村いくこ[1]（[1]京大・院理, [2]奈良先端大・バイオ・植物グローバル）
10:00	2aA05 苔類ゼニゴケにおける転写因子レパートリー 白川一, 井上佳祐, 石崎公庸, 西浜竜一, 河内孝之（京大院・生命科学）	2aB05 シロイヌナズナの葉の発生初期におけるAS1・AS2-ETT経路によるサイトカイニン合成の制御 小鳥晶子[1], 石橋奈々子[2], 小嶋美紀子[3], 高橋広夫[4], 香田佳那[1], 榊原均[3], 町田泰則[2], 町田千代子[1]（[1]中部大・応用生物, [2]名大院・理・生命理学, [3]理研・PSC, [4]千葉大院・園芸）	2aC05 花芽分化を制御する転写因子LMI2の未熟種子クチクラ形成における機能 大島良美[1], 鳴海貴子[2], 高木優[1,3], 光田展隆[1]（[1]産総研・生物プロセス, [2]香川大・農, [3]埼玉大・環境科学）	2aD05 細胞膜型アクアポリンOsPIP1;1のN端領域と細胞内輸送 松本直, 渡部絵梨子, 土岐みさ, 岩崎郁子（秋田県立大 生物資源 植物機能科学）

E会場	F会場	G会場	H会場	V会場	W会場	X会場	Y会場	時間
イオン・塩・金属	光合成・呼吸の環境応答	転写制御／転写後制御	温度	シンポジウムS11 植物発生ロジックの多元的研究（9:00－12:00）	シンポジウムS12 Aquaporins in the mechanism of hydraulic and CO_2 conductance（9:00－11:55）	シンポジウムS13 Biotic interactions mediated by plant infochemicals（9:00－11:50）	シンポジウムS14 植物の個体制御におけるRNA機能（9:00－11:58）	9:00
2aE01 シロイヌナズナにおけるイノシトール-1-リン酸およびアルギニンを介した耐塩機構 鈴木あかね, Aftab Ahmad, 丹羽康夫, 小林京子, 小林裕和（静岡県大・院薬食生命・食品栄養科学）	2aF01 つくばみらいFACEサイトのイネの葉の呼吸速度の高CO_2応答 野口航[1], 杉浦大輔[1], 宮澤真一[1], 常田岳志[2], 臼井靖浩[3], 中村浩史[4], 酒井英光[3], 長谷川利拡[3], 寺島一郎[1]（[1]東京大・理, [2]農環研・物質循環, [3]農環研・大気環境, [4]太陽計器（株））	2aG01 Ⓔ Metabolic engineering using a nitrogne-responsive response regulator in cyanobacteria Takashi Osanai[1,2], Akira Oikawa[1], Keiji Numata[1], Hiroko Iijima[1], Ayuko Kuwahara[1], Kazuki Saito[1], Masami Hirai[1]（[1]RIKEN, CSRS, [2]JST PRESTO）	2aH01 Ⓔ CHARACTERIZING THE ROLE OF SMALL OPEN READING FRAMES IN ABIOTIC STRESS TOLERANCE Khurram Bashir[1], Kentaro Nakaminami[1], Mieko Higuchi[2], Takeshi Yoshizumi[3], Masanori Okamoto[4], Minami Shimizu[2], Chihiro Ohashi[2], Maho Tanaka[1], Minami Matsui[5], Kazuo Shinozaki[2], Kousuke Hanada[2,6], Motoaki Seki[1,7]（[1]Plant Genomic Network Research Team, RIKEN CSRS, [2]Gene Discovery Research Group, RIKEN CSRS, [3]Inst Adv Biosci, Keio University, [4]Arid Land Research Center, Tottori University, [5]Synthetic Genomics Research Team, RIKEN CSRS, [6]Frontier Research Academy for Young Researchers, Kyushu Institute of Technology, [7]Kihara Institute for Biological Research, Yokohama City University）					
2aE02 Identification of salt tolerance genes via FOX hunting system using 9,569 *Thellungiella* full length cDNA clone Takuya Fukuuchi[1], Motoaki Seki[2], Kazuo Shinozaki[2], Yoichi Sakata[1], Takahisa Hayashi[1], Teruaki Taji[1]（[1]Dept. of Biosci., Tokyo univ. of Agri., [2]Riken, CSRS）	2aF02 Manipulation of stomatal opening increases photosynthesis and productivity Yin Wang[1], Ko Noguchi[2], Natsuko Ono[3], Shin-Ichiro Inoue[3], Ichiro Terashima[2], Toshinori Kinoshita[1,3]（[1]Institute of Transformative Bio-Molecules (ITbM) Nagoya University, [2]Dept. of Biological Sciences, Graduate School of Science,The University of Tokyo, [3]Division of Biological Science, Graduate School of Science, Nagoya University）	2aG02 ラン藻におけるCO_2欠乏応答性遺伝子*ccmR*の上流領域の機能解析 夏目卓実, 武田誠也, 原拓人, 西村崇史, 前田真一, 小俣達男（名大・院・生命農）	2aH02 Ⓔ Cellular auxin homeostasis under high temperature is regulated through a SORTING NEXIN 1- dependent endosomal trafficking pathway Taiki Hanzawa[1], Kyohei Shibasaki[2], Takahiro Numata[1], Yukio Kawamura[1], Thierry Gaude[3], Abidur Rahman[1]（[1]Cryobiofrontier Research Centre, Faculty of Agriculture, Iwate University, [2]Plant Biology Division, Samuel Roberts Noble Foundation, [3]INRA - French National Institute for Agricultural Research）					9:15
2aE03 Functional analysis of a transporter gene conferring salt tolerance to *Arabidopsis* via FOX hunting using *Thellungiella* cDNAs Yuko Nagashima[1], Motoaki Seki[2], Kazuo Shinozaki[2], Yoichi Sakata[1], Takahisa Hayashi[1], Teruaki Taji[1]（[1]Dep. of Bioscience, Tokyo Univ. of Agriculture, [2]PSC, RIKEN）	2aF03 リン欠乏下で誘導される呼吸鎖バイパス経路AOXの生理的役割の解析 愛知平達, 野口航（東大・院・理）	2aG03 Ⓔ A Protein Phosphatase Involved in Light-Regulated Expression of Photosynthesis Genes in *Arabidopsis* Chloroplasts Paweena Chuenwarin[1], Azumi Shimazaki[1], Masanori Shimizu[2], Masakazu Katsumata[3], Hirokazu Kobayashi[1]（[1]Lab. Plant Mol. Improv., Grad. Sch. Integr. Pharm. Nutr. Sci., Univ. Shizuoka, [2]Sch. Health Promot. Sci., Tokoha Univ., [3]Central Res. Lab., Hamamatsu Photonics K.K.）	2aH03 Ⓔ UBP1b is related to heat stress responses in plants Cam Chau Nguyen[1,2], Kentaro Nakaminami[2], Shuhei Kobayashi[1,2], Yukio Kurihara[3], Motoaki Seki[2,4]（[1]Department of Genome System Science, Yokohama City University, [2]Plant Genomic Network Research Team, RIKEN CSRS, [3]Synthetic Genomics Research Team, RIKEN CSRS, [4]Kihara Institute for Biological Research, Yokohama City University）					9:30
2aE04 Vigna属野生種群が独自に獲得した耐塩性機構の解明 内藤健[1], Sompong Chankaew[2], 小木曽映里[1], 井関洸太朗[1], 坂井寛章[1], 友岡憲彦[1]（[1]農業生物資源研究所, [2]Kasetsart University）	2aF04 葉における光合成系と呼吸系の相互作用 姜振祥[1], 吉田啓亮[2], 寺島一郎[1], 野口航[1]（[1]東大・院・理・生物科学, [2]東工大・資源研）	2aG04 シロイヌナズナの細胞死制御因子LSD1はAux/IAAとの相互作用を介してオーキシン応答を制御する 荒瀬文, 西本奈未, 柴田至, 天野晃彰, 上中弘典（鳥取大・農）	2aH04 シアノバクテリアHsp90のコシャペロンと、Hsp90とHsp70のシャペロン協同作用 仲本準, 大瀧拳（埼玉大・院理工学）					9:45
2aE05 耐塩性シアノバクテリアにおけるマイコスポリン様アミノ酸合成経路の塩ストレス応答 景山伯春[1], Rungaroon Waditee-Sirisattha[2], Warangkana Sopun[2], 田中義人[1], 高倍昭洋[1,3]（[1]名城大・院総合学術, [2]チュラロンコン大・理, [3]名城大・総合研）	2aF05 'C4化' タバコにおける水利用効率および乾燥ストレス耐性の向上：$\delta^{13}C$の測定およびメタボローム解析とアミノ酸分析による性格付け 泉井桂[1], 西村隆秀[2], 高木祐子[1], 明渡絵里朱[2], 秋田求[1,2], 蘆田弘樹[3], 横田明穂[3], 陀安一郎[4], 中山泰宗[5], 傳寶雄大[5], 福崎英一郎[5], 平野博人[6], 三輪哲也[6]（[1]近畿大・先端技術研, [2]近畿大・生物理工, [3]奈良先端大・バイオサイエンス, [4]京大・生態研究セ, [5]大阪大・院工, [6]味の素（株）・イノベーション研）	2aG05 Semidominant gain-of-function mutation in rice microRNA gene caused by *nDart* insertion Kazuo Tsugane[1], Mika Hayashi-Tsugane[1], Masahiko Maekawa[2]（[1]Natl. Inst. Basic Biol., [2]Inst. Plant Sci.Res.,Okayama Univ.）	2aH05 シロイヌナズナHSP90のTIR1のシャペロンとしての役割の解析 渡辺悦子[1], 山田健志[1,2], 西村幹夫[1,2]（[1]基生研・細胞生物, [2]総合研究大学院大・生命科学）					10:00

Ⓔ＝発表の言語は英語

●第２日　３月19日（水）　午前（9:00–12:00）

時　間	A会場	B会場	C会場	D会場
	ゲノム・EST／トランスクリプトーム／メタボローム／バイオインフォマティクス／データベース／その他	栄養器官の発生・分化	生殖器官の発生・分化／植物ホルモン・成長調節物質	オルガネラ／小胞輸送
10:15	2aA06 シロイヌナズナ属人工異質倍数体でのホメオログ発現比率のゲノムワイド解析 清水(稲継)理恵[1], 赤間悟[2], 瀬々潤[2], 清水健太郎[1]（[1]チューリヒ大・進化生態, [2]東工大・院情報理工・計算工学）	2aB06 シロイヌナズナの葉の向背軸極性分化におけるAS1-AS2によるETTIN遺伝子のgene body DNAメチル化制御 町田千代子[1], ヴィアル・プラデルシモン[1], 岩崎まゆみ[1], 中川彩美[1], 高田絵莉[1], 伊藤草馬[1], 町田泰則[2]（[1]中部大・応用生物, [2]名大院・理・生命理学）	2aC06 microRNAによるHD-ZIPIII転写因子の発現制御が胚珠の形成に果たす役割 橋本佳世[1,2], 本田美波[2], 立松圭[3], 岡田清孝[3], 奈良久美[4], 中島敬二[2,5]（[1]奈良女子大・院, [2]奈良先端大・バイオ, [3]基生研, [4]奈良女子大・自然科学, [5]JST・さきがけ）	2aD06 植物細胞におけるゴルジ体ダイナミクスの解析 伊藤容子[1], 植村知博[1], 藤本優[2], 上田貴志[1,3], 中野明彦[1,4]（[1]東大・院・理, [2]東大・院・農学生命, [3]さきがけ, [4]理研・光量子工学研究領域）
10:30	2aA07 シロイヌナズナ近縁多年草の自然集団におけるトランスクリプトームの季節変動 永野惇[1,2], 本庄三恵[1], 川越哲博[1], 杉坂次郎[1], 工藤洋[1]（[1]京大・生態研, [2]JST・さきがけ）	2aB07 地下茎に形成される腋芽の発生メカニズムに関する解析 吉田明希子[1], 寺田康彦[2], 巨瀬勝美[2], 芦刈基行[3], 経塚淳子[1]（[1]東大・院農生命, [2]筑波大学・院数理物質科学, [3]名大・院生命農）	2aC07 Ⓔ Construction of a set of chimeric repressors driven by flower-specific promoters isolated from cyclamen (*Cyclamen persicum* Mill.) Ichiro Kasajima[1], Katsutomo Sasaki[1], Yuri Tanaka[2], Daisuke Aruga[2], Teruhiko Terakawa[2], Norihiro Ohtsubo[1]（[1]Instituite of Floricultural Science (NIFS), NARO, [2]Hokko Chemical Industry Co., Ltd.）	2aD07 シロイヌナズナ培養細胞におけるアミロプラスト分化機構の解析 恩田和幸, 江波和彦, 華岡光正（千葉大院・園芸）
10:45	2aA08 シロイヌナズナ芽生えの脱黄化応答におけるメタボローム解析 小塚俊明[1], 高橋勝利[2], 澤田有司[3], 平井優美[3], 長谷あきら[1]（[1]京大・院理・生物, [2]産総研・計測フロンティア, [3]理研・CSRS）	2aB08 Ⓔ Transcriptional control of cell differentiation in optimizing plant growth Bart Rymen[1], Nobutaka Mitsuda[2], Masaru Ohme-Takagi[2], Minami Matsui[1], Keiko Sugimoto[1]（[1]RIKEN CSRS, [2]National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST)）	2aC08 Ⓔ シロイヌナズナの自殖の進化：分子遺伝学と進化生物学を組み合わせたアプローチ 清水健太郎[1], 土松隆志[1,2], 角井宏行[1], 山崎美紗子[1], Chow-Lih Yew[1]（[1]チューリッヒ大学・理・進化環境, [2]グレゴールメンデル研究所）	2aD08 高温ストレス下での花粉成熟過程における小胞体品質管理の役割 杉山智之[1], 山本雅也[2], 遠藤斗志也[2], 西川周一[1,2]（[1]新潟大・理・生物, [2]名大・院・理）
11:00	2aA09 トマト果実肥大に及ぼす代謝変動解明のためのシステム生物学的アプローチ 福島敦史[1], 西澤具子[1], 小林誠[1], 彦坂晶子[2], 後藤英司[2], 斉藤和季[1,3], 草野都[1,4]（[1]理研CSRS, [2]千葉大・園芸, [3]千葉大院・薬, [4]木原生物研）	2aB09 シロイヌナズナPLDzeta1による細胞内情報伝達 島村亮太[1], 安斎尚子[1,2], 加藤真理子[1], 谷口雅俊[1,3], 大橋洋平[1,4], 柘植知彦[1], 青山卓史[1]（[1]京都大学化学研究所, [2]協和発酵バイオ, [3]名古屋大学生命農学研究科, [4]MRC Laboratory of Molecular Biology）	2aC09 Physiological Analysis of OsTAGG2, a Rice β-Glucoside Glucosidase with Higher Hydrolytic Activity towards Salicylic Acid β-Glucoside Ryosuke Takeda[1], Wataru Saburi[1], Nami Himeno[1], Shinji Wakuta[1], Hideyuki Matsuura[1], Ryozo Imai[2], Hirokazu Matsui[1], Haruhide Mori[1]（[1]Res. Fac. Agr., Hokkaido Univ., [2]Hokkaido Agr. Res. Ctr., NARO）	2aD09 シロイヌナズナダイナミン様タンパク質DRP2AとDRP2Bはポストゴルジ膜交通経路において協調的に機能する 黄嘉禾[1], 藤本優[1], 入江明[1], 藤原正幸[2], 深尾陽一朗[2], 有村慎一[1], 堤伸浩[1]（[1]東大・院農, [2]奈良先端大・バイオ・植物ユニット）
11:15	2aA10 シロイヌナズナにおけるフラボノイド過剰蓄積による非生物学的ストレス耐性の向上 中林亮[1], 榊原圭子[1], 浦野薫[1], 鈴木実[1], 山田豊[1], 西沢具子[1], 松田史生[2], 小嶋美紀子[1], 榊原均[1], 篠崎一雄[1], Anthony Michael[3], 峠隆之[4], 山崎真巳[5], 斉藤和季[1,5]（[1]理研CSRS, [2]大阪大学・院・情報科学, [3]University of Texas Southwestern Medical Center, [4]Max-Planck Institute, [5]千葉大学・院・薬）	2aB10 動物神経系CRIPTと相同なシロイヌナズナ緑化抑制タンパク質 青木亮裕[1], 清水正則[2], 澤崎達也[3], 小林裕和[1]（[1]静岡県大・院薬食生命, [2]常葉大・健康プロデュース, [3]愛媛大・無細胞センター）	2aC10 二量体型ABA受容体の活性化は、気孔の閉鎖、ABA応答性遺伝子の発現誘導、乾燥ストレス耐性をもたらす 岡本昌憲[1], Francis Peterson[2], Sean Cutler[3]（[1]鳥取大・乾地研, [2]Med. Coll. of Wisconsin, [3]UC Riverside）	2aD10 C末領域の機能に注目した，シロイヌナズナRAB5 GEF, VPS9aの機能解析 砂田麻里子[1], 郷達明[4], 上田貴志[1,3], 中野明彦[1,2]（[1]東京大・院理系・植物, [2]理研・光量子工学, [3]さきがけ, [4]神戸大・院理）
11:30	2aA11 乾燥環境下における単子葉植物（イネ・トウモロコシ）特異的シス因子の同定 圓山恭之進[1], 後藤新悟[1], 中島一雄[1], 山本義治[2], 櫻井哲也[3]（[1]国際農研・生物資源・利用, [2]岐阜大・応用生物, [3]理研・環境資源科学セ）		2aC11 シロイヌナズナのABA受容体PYLの強力なアンタゴニスト 三村尚毅[1], 轟泰司[2]（[1]静岡大学農学部, [2]静岡大学大学院農学研究科）	2aD11 ゼニゴケRAB21の機能とその進化的意義の解析 南野尚紀[1], 恵良厚子[1,2], 金澤建彦[1], 砂田麻里子[1], 西山智明[3], 西浜竜一[4], 河内孝之[4], 中野明彦[1,5], 上田貴志[1,6]（[1]東大院・理, [2]遺伝研, [3]金沢大・学際科学実験センター, [4]京大院・生命科学, [5]理研RAP・ライブセル分子イメージング, [6]JST さきがけ）
11:45	2aA12 TOMATOMICS: An Integrated Database for Omics Information in Tomato Kentaro Yano[1], Takayuki Suzuki[1], Masaaki Kobayashi[1], Maasa Kanno[1], Kyoko Morimoto[1], Koh Aoki[2]（[1]Bionformatics Lab., Sch. of Agri., Meiji Univ., [2]Grad. School of Life Environ. Sci., Osaka Pref. Univ.）			

E会場	F会場	G会場	H会場	V会場	W会場	X会場	Y会場	時　間
イオン・塩・金属	光合成・呼吸の環境応答	転写制御／転写後制御	温度	シンポジウムS11 植物発生ロジックの多元的研究（9:00－12:00）	シンポジウムS12 Aquaporins in the mechanism of hydraulic and CO_2 conductance（9:00－11:55）	シンポジウムS13 Biotic interactions mediated by plant infochemicals（9:00－11:50）	シンポジウムS14 植物の個体制御におけるRNA機能（9:00－11:58）	
2aE06 トウモロコシ鉄栄養変異体 *ys3* はムギネ酸類分泌トランスポーター遺伝子TOM1に変異がある 野副朋子[1], 中西啓仁[1], 西澤直子[2]（[1]東大院・農, [2]石川県立大・生物資源）	2aF06 コケの光障害耐性：低温蛍光寿命が示す光エネルギー制御機構の違いが異なる光環境適応を生みだす 伊藤繁[1], 山川壽佑[2], Ulrich Heber[3]（[1]名大・遺伝子, [2]名大・生命農学, [3]ビュルツブルグ大）	2aG06 植物の新奇転写抑制モチーフ –真核生物に保存された転写抑制機構の解析– 伊藤岳, 岡村僚太, 佐久間哲史, 山本卓, 高橋陽介（広島大院・理）	2aH06 耐冷性の喪失：幼穂形成前の低水温が冷害危険期のイネ穎花の遺伝子発現に及ぼす影響 鈴木健策[1], 松村尚和[1], 青木直大[2], 大杉立[2], 下野裕之[3]（[1]農研機構・東北農研, [2]東京大・院農学生命, [3]岩手大・農）					10:15
2aE07 鉄結合性 RING-finger タンパク質 OsHRZ による鉄欠乏応答と鉄蓄積の制御 小林高範[1,2], 長坂征治[3], 瀬野浦武志[2], 板井玲子[3], 中西啓仁[3], 西澤直子[2]（[1]科学技術振興機構 さきがけ, [2]石川県大・生物資源工学, [3]東大院・農）	2aF07 シアノバクテリアの光阻害防御機構における熱放散の役割 草間友里[1], 井上修平[1], 園池公毅[2], 高市真一[3], 西山佳孝[1]（[1]埼玉大院・理工, [2]早稲田大学 教育・総合科学学術院, [3]日本医大・生物）	2aG07 転写抑制ペプチドSRDXによる遺伝子転写抑制機構の解析 中井勇介[1], 野村有子[2], 中神弘史[2], 高木優[1,3], 藤原すみれ[1]（[1]産総研・生物プロセス, [2]理研・CSRS, [3]埼玉大・環境科学研究センター）	2aH07 低温ストレス応答に関わるCBF応答性遺伝子のmRNA分解制御 以西史織[1], 峯田克彦[2], 平井優美[3], 鈴木悠也[1], 山口淳二[1,4], 内藤哲[1,5], 千葉由佳子[1,4]（[1]北大院・生命, [2]北大院・情報, [3]理研・CSRS, [4]北大院・理, [5]北大院・農）					10:30
2aE08 シロイヌナズナにおける鉄吸収関連遺伝子のジベレリンによる誘導 松岡啓太[1], 古川純[1], ビダディハニエ[1], 朝比奈雅志[2], 山口信次郎[3], 佐藤忍[1]（[1]筑波大・院生命環境, [2]帝京大・理工・バイオ, [3]東北大・院生命科学）	2aF08 シアノバクテリア翻訳因子EF-Tuの酸化傷害と光化学系IIの強光応答 神保晴彦, ユッタナシリクルラヤコーン, 永野孝典, 西山佳孝（埼玉大・院・理工）	2aG08 転写抑制因子に転写活性化ドメインを付加した系統の網羅的作出および解析 藤原すみれ[1], 木越景子[1], 濱嶋麻裕[1], 秋田睦[1], 鄭貴美[1], 坂本真吾[1], 中井勇介[1], 光田展隆[1], 高木優[1,2]（[1]産総研・生物プロセス, [2]埼玉大・環境科学）	2aH08 ブルーベリー枝の氷核活性の分布と役割 村川裕基[1,2], 山崎秀幸[1], 岸本正[1], 朽津和幸[2], 石川雅也[1]（[1]農業生物資源研, [2]東京理科大・院理工学）					10:45
2aE09 シュガービートの適合溶質の合成・輸送・蓄積機構 田中義人[1], 山田奈々[2], 柴田卓弥[1], 高橋宙之[3], 高倍鉄子[4], 高倍昭洋[1,4]（[1]名城大・院総合学術, [2]BIOTEC, NSTDA, Thailand, [3]農研機構・北海道農業研究センター, [4]名城大・総合研）	2aF09 レドックス応答性転写因子PpsRの光合成遺伝子発現制御におけるcis配列の重要性 清水隆之[1], Zhuo Cheng[2], 松浦克美[3], 増田真二[4,5], Carl. E Bauer[2]（[1]東工大・生命理工, [2]インディアナ大, [3]首都大・理工, [4]東工大・バイオセンター, [5]東工大・地球生命研）	2aG09 Polycistronic expression of RNA silencing suppressor using IRES Yukio Kurihara, Emiko Kurihara, Minami Matsui（Synthetic Genomics Research Team, Biomass Engineering Program Coorperation Division, RIKEN CSRS）	2aH09 シナレンギョウ枝の凍結挙動と髄に含まれる新規氷核活性物質 豊増孝之, 山崎秀幸, 石川雅也（生物資源研・植物科学・植物機能）					11:00
2aE10 シロイヌナズナにおいて亜鉛恒常性維持を担う転写因子bZIP19が発現制御する因子の同定 稲葉尚子, 深尾陽一朗（奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 植物グローバル）	2aF10 野外の植物6種における光化学系II光阻害と光環境の関係性の解析 宮田一範, 寺島一郎（東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻植物生態学研究室）	2aG10 AtPrp43 RNAヘリカーゼの機能解析 後藤翔, 青山卓史, 柘植知彦（化研・京都大）						11:15
2aE11 シロイヌナズナにおける小胞体局在型亜鉛輸送体AtMTP12の解析 藤原崇志, 河内美樹, 前島正義（名大院・生命農）	2aF11 FtsHプロテアーゼ高発現植物における光合成機能とストレス耐性に関する研究 羽田野和実[1], 加藤裕介[2], 坂本亘[2]（[1]岡山大学大学院 環境生命科学研究科, [2]岡山大学 資源植物科学研究所）	2aG11 スプライソソーム構成因子群とCSNは植物形態形成に重要な働きを担う 張俊[1,2], 安喜史織[3], 後藤翔[1], 中井秀人[1], 青山卓史[1], 嘉瞿礼[2], 柘植知彦[1]（[1]化研・京都大, [2]北京大・生命科学, [3]奈良先端大・バイオ）						11:30
	2aF12 ラン色細菌のABCトランスポーターSltB2とSltC2は酸性ストレス耐性に関与する 田原寛子[1], 田崎理澄[1], 松橋歩[1], 内山純爾[2], 松本幸次[3], 太田尚孝[1,2]（[1]東理大・理, [2]東理大・総研・RNA, [3]埼玉大・理）							11:45

Ⓔ＝発表の言語は英語

●第２日　３月19日（水）　午後（13:30–16:15）

時　間	A会場	B会場	C会場	D会場
	小胞輸送	遺伝・生殖／光周性・リズム・時計	植物ホルモン・成長調節物質	オルガネラ
13:30	2pA01 シロイヌナズナ保存型RAB5エフェクター候補・EREXの解析 桜井一[1], 中野明彦[1,2], 上田貴志[1,3]（[1]東大・院理系, [2]理研・光量子工学, [3]さきがけ）	2pB01 *Collapsed Abnormal Pollen1* Gene Encoding the Arabinokinase-Like Protein Is Involved in Pollen Development in Rice. Kenji Ueda[1], Fumiaki Yoshimura[1], Akio Miyao[2], Hirohiko Hirochika[2], Ken-Ichi Nonomura[3], Hiroetsu Wabiko[1]（[1]Fac. Biores. Sci., Akita Pref. Univ., [2]Natl. Inst. Agr. Biol. Sci., [3]Natl. Inst. Genet.）	2pC01 根端におけるDWF4の発現に対する光の影響に関する研究 坂口潤, 渡邊雄一郎（東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻）	2pD01 順遺伝子学的手法を用いた孔辺細胞特異的葉緑体機能の解析 祢冥淳太郎[1], 楠見健介[1], 宗正晋太郎[2,3], 藤田麻友美[1], Julian Schroeder[2], 射場厚[1]（[1]九州大院・理・生物科学, [2]University of California, San Diego, [3]岡山大院・環境生命）
13:45	2pA02 植物の液胞輸送経路の解析 海老根一生[1], 井上丈司[1], 井藤純[2], 伊藤瑛海[1], 植村知博[1], 郷達明[3], 安部弘[4], 佐藤健[5], 中野明彦[1,6], 上田貴志[1,7]（[1]東大院・理・生物科学, [2]奈良先端大・バイオ, [3]神大・院・理, [4]理研・長田抗生物質, [5]東大院・総合文化, [6]理研・光量子工学, [7]JST・さきがけ）	2pB02 Ⓔ Cytoskeleton dynamics in fertilization of acentrosomal Arabidopsis Tomokazu Kawashima[1], Daisuke Maruyama[2], Yuki Hamamura[2], Tetsuya Higashiyama[2,3], Frederic Berger[1]（[1]Temasek Life Sciences Laboratory, [2]Division of Biological Science, Graduate School of Science, Nagoya University, [3]JST ERATO Higashiyama-Live Holonics Project, Nagoya University）	2pC02 BRI1のエンドサイトーシスにおけるブラシノステロイド情報伝達経路上の7回膜貫通タンパク質BIL4の制御機構の解析 山上あゆみ[1], 齊藤知恵子[2], 中澤美紀[3], 松井南[3], 作田正明[4], 中野明彦[2], 長田裕之[1,3], 浅見忠男[5,6], 中野雄司[1,3,6]（[1]理研・抗生物質研究室, [2]東大院・理, [3]理研 CSRS, [4]お茶大院, [5]東大院・農生科, [6]JST・CREST）	2pD02 Autophagy for Photodamaged Chloroplast in Arabidopsis Masanori Izumi[1], Hiroyuki Ishida[2], Amane Makino[2], Jun Hidema[1]（[1]Grad. Sch. Life Sci., Tohoku Univ., [2]Grad. Sch. Agri. Sci., Tohoku Univ.）
14:00	2pA03 シロイヌナズナにおける*vam3-1*変異の抑圧変異体の解析 竹元廣大[1], 海老根一生[1,2], 田畑亮[3], 山口勝司[3], 重信秀治[3], 山田昌史[4], 長谷部光泰[3,5], 澤進一郎[6], 中野明彦[1,7], 上田貴志[1,8]（[1]東大院・理, [2]感染研・寄生動物, [3]基生研, [4]Duke大, [5]総研大・生命科学, [6]熊本大院・自然科学, [7]理研・光量子工学, [8]さきがけ）	2pB03 花粉管誘引ペプチドAtLURE1の受容とシグナル伝達に関わる受容体様キナーゼの同定 武内秀憲[1,3], 東山哲也[1,2,3]（[1]名大・院・理, [2]名大・WPI-ITbM, [3]JST・ERATO）	2pC03 花茎伸長を促進するブラシノステロイド情報伝達因子BIL7のBIN2、BSU1、BIL1との相互作用機構の解析 宮地朋子[1,2], 市川尚斉[3], 松井南[3], 藤岡昭三[1,3], 長田裕之[1,3], 浅見忠男[2,4], 中野雄司[1,3,4]（[1]理研・抗生物質研究室, [2]東京大学大学院・農生科・応生化, [3]理研・CSRS, [4]JST-CREST）	2pD03 イネのtriple-targeting CPD光回復酵素のミトコンドリア移行シグナル配列に関する研究 高橋さやか[1], 寺西美佳[1], 高橋正明[1], 高橋文雄[2,3], 日出間純[1]（[1]東北大・院・生命科学, [2]立命館大・院・生命, [3]JST・さきがけ）
14:15	2pA04 MAG5はCOPII構成因子と相互作用しCOPIIコートを安定化する 高木純平[1], Luciana Renna[2], 高橋英之[1], 河本恭子[1], 田村謙太郎[1], Giovanni Stefano[2], 深尾陽一朗[3], 近藤真紀[4], 西村幹夫[4], 嶋田知生[1], Federica Brandizzi[2], 西村いくこ[1]（[1]京大院・理, [2]Dept. of Energy, Michigan State Univ., [3]奈良先端大・バイオ・植物グローバル, [4]基生研・細胞生物）	2pB04 維管束の概日時計は主要時計としての性質を持つ 遠藤求[1], 清水華子[1], Brenda Chow[2], Steve Kay[2], 荒木崇[1]（[1]京都大学 大学院 生命科学研究科 分子代謝制御学, [2]南カリフォルニア大学）	2pC04 新規植物ペプチドホルモンをコードする可能性を持つブラシノステロイド情報伝達因子BIL3の機能発現機構の解析 吉澤江里子[1,2,5], 山上あゆみ[1,5], 中澤美紀[3], 松井南[3], 作田正明[2], 長田裕之[1,3], 浅見忠男[4,5], 中野雄司[1,3,5]（[1]理研・抗生物質研究室, [2]お茶大院・生命科学, [3]理研・CSRS, [4]東大院・農生科, [5]JST・CREST）	2pD04 シロイヌナズナRPOTmpの葉緑体光防護における役割 金丸研吾, 山口泰広, 李棟梁, 一林久雄, 野村裕也, 宇野知秀, 山形裕士（神戸大・院農）
14:30	2pA05 An *Arabidopsis* Vacuolar Sorting Factor, GFS9, Is Required For Endosomal And Vacuolar Biogenesis Takuji Ichino, Kentaro Fuji, Tomoo Shimada, Hideyuki Takahashi, Yasuko Koumoto, Haruko Ueda, Kentaro Tamura, Ikuko Hara-Nishimura（Grad. Sch. Sci., Kyoto Univ.）	2pB05 Ambient temperature signal feeds into the circadian clock transcriptional circuitry through the EC nighttime repressor in Arabidopsis thaliana Takafumi Yamashino, Yuji Nomoto, Takeshi Mizuno（Grad. Sch. Bioagr., Nagoya Univ.）	2pC05 葉面積増大に関わるブラシノステロイド情報伝達因子BIL8の細胞内機能の解明 中田元基[1,2], 山上あゆみ[1], 市川尚斉[3], 松井南[3], 藤岡昭三[1], 長田裕之[1], 久城哲夫[2], 浅見忠男[1,4,5], 中野雄司[1,3,5]（[1]理研・抗生物質, [2]明大院・農化, [3]理研・CSRS, [4]東大院・農生化, [5]JST CREST）	2pD05 A mutable albino allele in rice reveals that formation of thylakoid membranes requires *SNOW-WHITE LEAF1* gene Mika Hayashi-Tsugane[1], Masahiko Maekawa[2], Kazuo Tsugane[1]（[1]Natl. Inst. Basic Biol., [2]Inst. Plant Sci. Res., Okayama Univ.）
14:45	2pA06 シロイヌナズナAP-2アダプター複合体のダイナミクス 山岡尚平[1,2], 下野裕貴[2], 白川一[1], 深尾陽一朗[3], 川瀬貴士[2], 初谷紀幸[4], 田村謙太郎[2], 嶋田知生[2], 西村いくこ[2]（[1]京大院・生命科学, [2]京大院・理, [3]奈良先端大・植物グローバル, [4]北大院・医）	2pB06 Temperature signal feeds into the circadian clock through the evening complex to regulate PIF4-dependent temperature-adaptive control of hypocotyl elongation in *Arabidopsis thaliana* Yuji Nomoto, Takafumi Yamashino, Takeshi Mizuno（Grad. Sch. Bioagr., Nagoya Univ.）	2pC06 BES1/HSP90複合体がブラシノステロイド情報伝達で果たす役割 重田友明[1], 財前裕一[2], 杉元康志[1], 中村考志[3], 松尾友明[1], 岡本繁久[1]（[1]鹿児島大・院連農研, [2]鹿児島大・院農研, [3]京府大・院生環）	2pD06 Ⓔ VIPP1 is a partially disordered protein at the C-terminal extension that confers structural flexibility at the chloroplast envelope upon stress Lingang Zhang, Wataru Sakamoto（Institute of Plant Science and Resources, Okayama University）

E会場	F会場	G会場	H会場	V会場	W会場	X会場	Y会場	時　間
イオン・塩・金属	電子伝達系・炭素代謝／光合成・呼吸の環境応答／その他	転写後制御／エピジェネティック制御／タンパク質修飾・分解	乾燥・水分・浸透圧／病虫害応答・傷害応答	シンポジウムS15 Morphological diversity and meristem function in plants（13:30－16:10）	シンポジウムS16 Frontier of Plant Epigenome Regulation（13:30－16:10）	シンポジウムS17 植物環境感覚研究の新しい地平を切り拓く新技術（13:30－16:15）	シンポジウムS18 酸化シグナルの鍵因子，活性カルボニルの多様な生理作用と制御（13:30－16:15）	13:30
2pE01 陸上植物に進化的に保存された転写因子STOP1のヒメツリガネゴケAl耐性機構における役割 小島伊織[1], 小松憲治[2], 兼井雅和[1], 斉京由泰[1], 伊藤弘樹[3], 小山博之[3], 太治輝昭[1], 林隆久[1], 坂田洋一[1]（[1]東京農大・バイオ, [2]東京農大短大・生物生産, [3]岐阜大・応用生物）	2pF01 Analysis of plastid signaling in *Marchantia* Harue Ibata[1], Kimitsune Ishizaki[2], Ryuichi Nishihama[3], Takayuki Kohchi[3], Akira Nagatani[1], Nobuyoshi Mochizuki[1]（[1]Grad. Sch. Sci., Univ. Kyoto, [2]Grad. Sch. Sci., Univ. Kobe, [3]Grad. Sch. Sci., Univ. Kyoto）	2pG01 Functional analysis of Arabidopsis Nuclear Poly(A) Binding Proteins in plant development and morphogenesis Shunya Sato[1,2], Myung-Hee Kim[2], Ryozo Imai[1,2]（[1]Grad. Sch. Agr., Hokkaido Univ., [2]NARO., Hokkaido Agr. Res. Ctr.）	2pH01 MIZ2/GNOM is involved in subcellular localization of MIZ1 in the root cortex during hydrotropism of Arabidopsis roots Noriyuki Kuya[1], Hideyuki Takahashi[2], Yutaka Miyazawa[1]（[1]Fac. Sci., Yamagata Univ., [2]Grad. School of Life Sci., Tohoku Univ.）					
2pE02 タバコBY-2細胞におけるアルミニウムによる*VPE*遺伝子の発現誘導と細胞死 刈谷耕輝, 土屋善幸, 佐々木孝行, 山本洋子（岡山大・植物研）	2pF02 Ethanol production by *Synechocystis* sp. PCC 6803 transformed with genes from *Zymomonas mobilis* Z6 Hidenori Hayashi[1], Keigo Iseki[2]（[1]Proteo-Sci. Center, Ehime Univ., [2]Grad. Sch. Sci. Eng., Ehime Univ.）	2pG02 Dissecting the interactions of SE with DCL1 and RNA in Arabidopsis microRNA biogenesis Yuji Iwata[1,2], Nina Fedoroff[1,3], Samir Hamdan[1]（[1]King Abdullah University of Science and Technology, [2]Osaka Prefecture University, [3]Pennsylvania State University）	2pH02 Water Loss Sensitivity Varies with the Difference of *slac1* Promoter Region between Col and Ws of *Arabidopsis thaliana* Hiroe Imai[1], Masanori Tamaoki[1,2]（[1]Grad. Sch. Life and Env. Sci., Univ. Tsukuba, [2]National Institute for Environmental Studies）					13:45
2pE03 STOP1転写制御システムにおける有機酸輸送体遺伝子の複雑転写制御 伊藤弘樹[1], 小林安文[2], 杉本美貴[1], 小林佑理子[1], 井内聖[3], 小林正智[3], 小山博之[1]（[1]岐阜大 応生, [2]岐阜大 連農, [3]理研BRC）	2pF03 海産性ラン藻*Synechococcus* sp. PCC 7002 POP株における遊離脂肪酸生産の解析 小島幸治[1,4], 松本宇生[1,4], 稲葉浩子[1,4], 伊藤卓朗[2,4], 中東憲治[2,4], 池田和貴[2,4], 小俣達男[3,4], 愛知真木子[1,4]（[1]中部大・応用生物, [2]慶應大・先端研, [3]名大・院・生命農学, [4]JST-CREST）	2pG03 Ⓔ Biological function of antisense RNAs that are synthesized by RNA-dependent RNA polymerases under abiotic stress Akihiro Matsui[1], Kei Iida[2,5], Katsushi Yamaguchi[3], Maho Tanaka[1], Junko Ishida[1], Taeko Morosawa[1], Shuji Shigenobu[3], Kazuo Shinozaki[4], Tetsuro Toyoda[5], Motoaki Seki[1,6]（[1]Plant Genomic Network Research Team, RIKEN CSRS, [2]Medical Research Support Center, Graduate School of Medicine, Kyoto University, [3]NIBB Core Research Facilities, National Institute for Basic Biology, [4]Gene Discovery Research Group, RIKEN CSRS, [5]RIKEN ACCC, [6]Kihara Institute for Biological Research, Yokohama City University）	2pH03 イネの気孔閉鎖因子SLAC1の機能の生育段階依存性 楠見健介, 橋村綾菜, 射場厚（九州大院・理・生物科学）					14:00
2pE04 STOP2はSTOP1転写因子制御下にあるAlと低pH耐性関連遺伝子の転写を活性化する 小林佑理子[1], 大山慶直[1], 小林安文[1], 伊藤弘樹[1], 井内聖[2], 藤田美紀[3], 趙成日[1], Tazib Tanveer[1], Markkandan Ganesan[1], 小林正智[2], 小山博之[1]（[1]岐阜大・応用生物, [2]理研BRC, [3]理研PSC）	2pF04 細胞の表層構造の改変によるラン藻*Synechococcus elongatus* PCC7942由来の脂肪酸生産株における生育不良の緩和 加藤明宏[1], 鵜瀬和秀[1], 速水響平[1], 松浦美祥[2], 高谷信之[1,5], 池田和貴[4,5], 小島幸治[3,5], 愛知真木子[3,5], 前田真一[1,5], 小俣達男[1,5]（[1]名大・院・生命農, [2]名大・農, [3]中部大・応用生物, [4]慶大・先端生命研, [5]JST CREST）	2pG04 Ⓔ Loss of 5′-3′ Exoribonuclease XRN4 Function Enhances Heat Tolerance in Arabidopsis Hai Anh Nguyen[1,2], Akihiro Matsui[1], Makoto Hayashi[3], Van Dong Nguyen[2], Motoaki Seki[1,4]（[1]Plant Genomic Network Research Team, RIKEN Center for Sustainable Resource Science, [2]National Key Laboratory, Agricultural Genetics Institute, Vietnam, [3]Department of Bioscience, Nagahama Institute of Bio-Science and Technology, [4]Kihara Institute for Biological Research, Yokohama City University）	2pH04 Ⓔ Inter-tissue signal transfer of abscisic acid from vascular cells to guard cells Takashi Kuromori, Eriko Sugimoto, Kazuo Shinozaki（RIKEN CSRS）					14:15
2pE05 細胞膜表面をターゲットとしたシロイヌナズナのアルミニウムストレスの解析 小林安文[1], 小林佑理子[1], 渡部敏裕[2], 我妻忠雄[3], Thomas B. Kinraide[4], 小山博之[1]（[1]岐阜大・応生, [2]北大院・農, [3]山形大・農, [4]USDA-ARS）	2pF05 ラン藻*Synechococcus elongatus* PCC 7942を用いた脂肪酸生産に対する窒素制限の影響 鵜瀬和秀[1], 上坂一馬[1,5], 高谷信之[1,5], 池田和貴[4,5], 加藤明宏[1], 速水響平[1], 小島幸治[3,5], 愛知真木子[3,5], 前田真一[1,5], 井原邦夫[2,5], 小俣達男[1,5]（[1]名大・院・生命農, [2]名大・遺伝子, [3]中部大・応用生物, [4]慶大・生命先端研, [5]JST CREST）	2pG05 Ⓔ Analyses of *Arabidopsis* RRP44A, a catalytic center of RNA exosome Naoyoshi Kumakura[1], Hiroka Otsuki[1], Masanao Sato[2], Mika Nomoto[3], Yasuomi Tada[3], Atsushi Takeda[1,4], Yuichiro Watanabe[1]（[1]Dept. of Life Sci., Univ. Tokyo, [2]Devi. of Dev. Genetics, Nat. Inst. for Basic Biology, [3]Life Sci. Res. Cent., Kagawa Univ., [4]Dept. of Biotech., Ritsumeikan Univ.）	2pH05 ヒメツリガネゴケのABA誘導性脱水耐性に関わる因子群の解析 倉本健司[1], 四井いずみ[1], 世良田聡[2], 仲哲治[2], 太治輝昭[1], 林隆久[1], 坂田洋一[1]（[1]東京農大・院・バイオ, [2]医薬基盤研）					14:30
2pE06 シロイヌナズナにおけるアルミニウム及び低pH耐性のゲノムワイド関連解析 中野友貴[1], 大橋聖[1], 山中啓史[1], 井内聖[2], 小林正智[2], 山本義治[1], 小山博之[1], 小林佑理子[1]（[1]岐阜大・応生, [2]理研BRC）	2pF06 クロロフィル*d*を有するシアノバクテリア*Acaryochloris marina*での順遺伝学的解析のためのトランスポゾンタギング系の開発 渡部和幸[1], 三室守[1], 土屋徹[1,2]（[1]京都大学大学院人間・環境学研究科, [2]京都大学大学院地球環境学堂）	2pG06 ホウ素に応答してリボソームは最小uORF、AUGUAAで停止する。 田中真幸[1], 三輪京子[2], 千葉由香子[3], 尾之内均[4,5], 内藤哲[3,4], 藤原徹[1,5]（[1]東京院・農, [2]北大・創成, [3]北大院・生命, [4]北大院・農, [5]CREST, JST）	2pH06 *Arabidopsis thaliana* Zu-0のイオンビーム照射種子を用いた 塩馴化能欠損株の解析 笹生保孝[1], 有賀裕剛[1], 吉原亮平[2], 長谷純宏[2], 鳴海一成[2], 井内聖[3], 小林正智[3], 坂田洋一[1], 林隆久[1], 太治輝昭[1]（[1]東京農業大・バイオ, [2]原子力機構・量子ビーム, [3]理研・BRC）					14:45

Ⓔ＝発表の言語は英語

●第２日　３月19日（水）　午後（13:30–16:15）

時　間	A会場	B会場	C会場	D会場
	小胞輸送	遺伝・生殖／光周性・リズム・時計	植物ホルモン・成長調節物質	オルガネラ
15:00	2pA07 Dynamin-mediated Endocytosis is Required for Polar Localization and Boron-induced Degradation of BOR1 in *Arabidopsis thaliana*. Akira Yoshinari[1], Masaru Fujimoto[2], Taro Amano[1], Satoshi Naito[3], Junpei Takano[1] （[1]Grad. Sch. Agr., Hokkaido Univ., [2]Grad. Sch. Agr. Life Sci., Univ. Tokyo, [3]Grad. Sch. Life Sci., Hokkaido Univ.）	2pB07 Identification of Transcriptional Regulators Controlling *CONSTANS* Expression for Photoperiodic Flowering in *Arabidopsis* Shogo Ito[1], Greg Golembeski[2], Micheal Kwon[2], Ghislain Breton[3], Tomotsugu Koyama[4], Masaru Ohme- Takagi[5], Steve A. Kay[6]（[1]Institute of advanced research, Nagoya Univ., [2]Dept. of Biol., UW., USA, [3]IBP, UTHealth, USA, [4]Bioorganic Research Inst., Suntory Foundation for Life Sci., [5]IEST, Saitama Univ., [6]Dept. of BISC, Dana and David Dornsife College of Letters, Arts and Sciences, USC USA）	2pC07 浮イネの節間伸長におけるジベレリン制御機構の解明. 綾野まどか[1], 可児隆弘[1], 黒羽剛[1], 永井啓祐[1], 榊原均[2], 小嶋美紀子[2], 芦苅基行[1]（[1]名大・高次生体, [2]理研・CSRS）	2pD07 シロイヌナズナにおける誘導的人工マイクロRNAを用いた主要葉緑体膜脂質MGDGの機能解析 藤井祥[1], 小林康一[1], Krishna Niyogi[2], 中村友輝[3], 和田元[1]（[1]東大・院・教養学部, [2]Dept. Plant Microbial Biol., Univ. California Berkeley, [3]Academia Sinica）
15:15	2pA08 Pharmacological Analysis of the Polar Localization of an Arabidopsis Borate/boric Acid Transporter, BOR1 Shinji Wakuta[1], Satoshi Naito[2], Junpei Takano[1] （[1]Grad. Sch. Agr., Hokkaido Univ., [2]Grad. Sch. Life Sci., Hokkaido Univ.）	2pB08 KaiC intersubunit communication facilitates robustness of circadian rhythms in cyanobacteria Yohko Kitayama[1], Taeko Nishiwaki-Ohkawa[2], Takao Kondo[1]（[1]Grad. Sch. Sci., Univ. Nagoya, [2]ITbM, Univ. Nagoya）	2pC08 DELLAタンパク質はzinc finger型転写因子の仲介により転写活性化能を発揮する 吉田英樹[1], 平野恒[1], 佐藤友美[1], 光田展隆[2], 野元美佳[3], 前尾健一郎[4], 纐纈永里子[1], 三谷理恵[1], 川村真結子[1], 石黒澄衛[4], 多田安臣[5], 高木優[2,6], 松岡信[1], 上口(田中)美弥子[1]（[1]名大・生物機能研究センター, [2]産総研・生物プロセス, [3]愛媛大・連合農学, [4]名大院・生命農, [5]香川大学総合生命科学研究センター, [6]埼玉大・環境科学）	2pD08 葉緑体に局在する新規mRNA分解酵素の解析 鈴木悠也[1], 平井優美[2], 高橋広夫[3], 山口淳二[1,4], 千葉由佳子[1,4,5]（[1]北大院・生命, [2]理研CSRS, [3]千葉大院・園芸, [4]北大院・理, [5]JST・さきがけ）
15:30	2pA09 *VAN4* encodes a putative TRS120 that is required for normal cell growth and vein development in arabidopsis Satoshi Naramoto[1,2], Tomasz Nodzynski[3], Tomoko Dainobu[1], Teruyo Okada[1], Jiri Friml[3,4], Hiroo Fukuda[1]（[1]Dept. Biol. Sci., Grad. Sch. Sci., Univ. Tokyo, [2]Dept. Life Sci., ICU, [3]Mendel Centre, CEITEC, Masaryk Univ., [4]IST Austria）		2pC09 ジャスモン酸応答性NPFタンパク質はジベレリン輸送を介して雄ずいの発達を制御する 斉藤洸[1], 及川貴也[2], 浜本晋[3], 石丸泰寛[2], 内海知弥[1], 陳静[1], 金森美有[1], 関本(佐々木)結子[4], 増田真二[4,5], 神谷勇治[6], 瀬尾光範[6], 魚住信之[3], 上田実[2], 太田啓之[4,5]（[1]東工大・院生命理工, [2]東北大・院理, [3]東北大・院工, [4]東工大・ELSI, [5]東工大・バイオセンター, [6]理研・CSRS）	2pD09 ヒメツリガネゴケの3種類のタンパク質性RNase Pの解析 杉田千恵子, 田中惟睦, 米谷一樹, 香村吉洋, 杉田護（名大・遺伝子）
15:45	2pA10 Ⓔ FAB1-mediated trafficking controlled polarity of PINs and abundance and AUX1 平野朋子[1,2]（[1]京府大・生命環境, [2]京都工芸繊維大学）		2pC10 プリン代謝中間体アラントインはジャスモン酸応答を惹起する 高木紘[1], 江草真由美[2], 渡邊俊介[1], 松浦恭和[3], 森泉[3], 平山隆志[3], 島田裕士[1], 上中弘典[2], 坂本敦[1]（[1]広島大・院理, [2]鳥取大・農, [3]岡山大・植物研）	2pD10 ヒメツリガネゴケの葉緑体RNA編集因子の同定 一瀬瑞穂, 内田雅人, 杉田護（名大・遺伝子）
16:00			2pC11 イネマイクロアレイを用いたフェアリーリング誘起物質による植物生長促進メカニズムの解明 大門靖史[2], 崔宰熏[2], 河岸洋和[2], 本橋令子[1] （[1]静大・農, [2]静大・グリーン科学技術研究所）	2pD11 植物葉緑体におけるppGppの主要標的分子はグアニル酸キナーゼである 野村勇太[1], 泉厚志[3], 福永芳規[1], 楠見健介[2], 射場厚[2], 中平洋一[3], 野澤彰[3], 戸澤譲[3] （[1]愛媛大院・理工, [2]九州大院・理, [3]愛媛大・PROS）

E会場	F会場	G会場	H会場	V会場	W会場	X会場	Y会場	時間
イオン・塩・金属	電子伝達系・炭素代謝／光合成・呼吸の環境応答／その他	転写後制御／エピジェネティック制御／タンパク質修飾・分解	乾燥・水分・浸透圧／病虫害応答・傷害応答	シンポジウムS15 Morphological diversity and meristem function in plants（13:30－16:10）	シンポジウムS16 Frontier of Plant Epigenome Regulation（13:30－16:10）	シンポジウムS17 植物環境感覚研究の新しい地平を切り拓く新技術（13:30－16:15）	シンポジウムS18 酸化シグナルの鍵因子，活性カルボニルの多様な生理作用と制御（13:30－16:15）	
2pE07 シロイヌナズナリンゴ酸トランスポーター*ALMT1*遺伝子のアルミニウム応答の解析 時澤睦朋[1], 小林安文[1], 齋藤竜典[2], 小林佑理子[2], 井内聖[3], 小林正智[3], 野元美佳[4], 多田安臣[5], 山本義治[2], 小山博之[2]（[1]岐大 連農, [2]岐大 応生, [3]理研BRC, [4]愛媛大 連農, [5]香大 総セ）	2pF07 ラン藻の無機炭素濃縮機構解明に向けたRNA-Seq法によるアプローチ 上坂一馬[1,4], 西村崇史[1], 岡田友子[1], 前田真一[1,4], 愛知真木子[2,4], 井原邦夫[3,4], 小俣達男[1,4]（[1]名古屋大院・生命農, [2]中部大・応用生物, [3]名古屋大・遺伝子, [4]JST, CREST）	2pG07 複数のuORFが関与するuORFペプチド配列依存的な翻訳制御機構 村上佳鈴[1], 工藤凜[2], 小山博章[1], 木俣薫織[2], 五十嵐卓哉[2], 竹本まり子[1], 大谷美沙都[3], 高橋広夫[4], 内藤哲[1,5], 尾之内均[1]（[1]北大・院農, [2]北大・農, [3]理研・BMEP, [4]千葉大・院園芸, [5]北大・院生命）	2pH07 カリウム輸送によるシロイヌナズナの生長とストレス応答制御 刑部祐里子[1], 篠崎和子[2], 篠崎一雄[1]（[1]理研・環境資源科学セ, [2]東大院・農学生命科学）					15:00
2pE08 Ⓔ Identification and characterization of a low calcium sensitive mutant in Arabidopsis thaliana Baohai Li[1], Takehiro Kamiya[1], Mutsumi Yamagami[2], Katsushi Yamaguchi[3], Shuji Shigenobu[3], Toru Fujiwara[1]（[1]Lab of Plant Nutrition and Fertilizers, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo, [2]Institute for Environmental Sciences, [3]National Institute for Basic Biology）	2pF08 次世代シーケンサーによるC3/C4光合成型Eleocharis vivipara の De novo トランスクリプトーム解析 原田大士朗[1], 大和勝幸[1], 泉井桂[2], 秋田求[1]（[1]近畿大学生物理工学部生物工学科細胞工学研究室, [2]近畿大学生物理工学部先端技術総合研究所）	2pG08 タバコ葉緑体rps16 mRNAの翻訳抑制にかかわるシス配列の同定 中邨真之, 杉浦昌弘（名大・遺伝子）	2pH08 Environmental response of aquaporin expressions in the rice roots under natural weather conditions Tsuneo Kuwagata[1], Mari Murai-Hatano[2], Junko Ishikawa-Sakurai[2], Hidehiro Hayashi[2]（[1]National Institute for Agro-environmental Sciences, [2]NARO Tohoku Agricultural Research Center）					15:15
2pE09 OsHMA3輸送体の組織局在の改変による低カドミウム米作出の試み 馬建鋒, 夏継星, 山地直樹（岡山大学資源植物科学研究所）		2pG09 茎頂メリステムのDNAメチローム解析 辻寛之[1], 才原徳子[1], 東陽子[1], 三浦史仁[2], 玉置祥二郎[3], 倉田哲也[3], 伊藤隆司[2], 島本功[1]（[1]奈良先端大・バイオサイエンス・植物分子遺伝学, [2]東京大学大学院・理学系研究科, [3]奈良先端大・バイオサイエンス・植物グローバル）	2pH09 Two *Arabidopsis* Chloroplast PP2Cs Which are Down-regulated Under Biotic Stress are Responsible for Pathogenic Bacteria Growth Chiharu Akimoto-Tomiyama[1], Ayako Furutani[2], Hirokazu Ochiai[1]（[1]Plant-Microbe Interaction Research Unit, NIAS, [2]Gene Research Center, Ibaraki University）					15:30
2pE10 イネのヒ素耐性と分配に関与する輸送体の解析 山木智史[1], 山地直樹[1], Won Yong Song[2], Youngsook Lee[2], 馬建鋒[1]（[1]岡山大学 植物研, [2]POSTECH）		2pG10 シロイヌナズナ26Sプロテアソームによるヘテロクロマチン制御機構の解析 佐古香織[1], 山口淳二[2], 関原明[1]（[1]理研CSRS・植物ゲノム発現, [2]北大・院理）	2pH10 Disarming the jasmonate-dependent plant defense makes non-host Arabidopsis plants accessible to the American serpentine leafminer, Liriomyza trifolii Hiroshi Abe[1], Ken Tateishi[2], Shigemi Seo[2], Soichi Kugimiya[3], Masami Yokota Hirai[4], Yuji Sawada[4], Yoshiyuki Murata[5], Takeshi Shimoda[6], Kaori Yara[6], Masatomo Kobayashi[1]（[1]RIKEN BioResource Center, [2]National Institute of Agrobiological Sciences, [3]National Institute for Agro-Environmental Sciences, [4]RIKEN Center for Sustainable Resource Science, [5]Okayama University, [6]National Agricultural Research Center）					15:45
		2pG11 Arabidopsis DOK1 encodes a functional dolichol kinase involved in protein glycosylation Yuki Nakamura[1,3], Chen Chia-En[1], Kazue Kanehara[1,2]（[1]Institute of Plant and Microbial Biology, Academia Sinica, Taiwan, [2]Muroran Institute of Technology, Muroran, Japan, [3]Japan Science and Technology Agency, PRESTO, Saitama, Japan）	2pH11 線虫感染過程におけるCLAVATA伝達系の関与 江島千佳[1], Ngan Bui Thi[1], 田畑亮[2], 佐藤博[1], 石田喬志[1], 澤進一郎[1]（[1]熊大・院・自然, [2]基生研）					16:00

Ⓔ＝発表の言語は英語

●第３日　３月20日（木）　午前（9:00–12:30）

時　間	A会場	B会場	C会場	D会場
	窒素代謝・栄養代謝	花成	細胞壁	植物微生物相互作用（共生）／その他
9:00	3aA01 緑藻クラミドモナスでの性分化と脱性分化に及ぼすNO_3^-とNH_4^+の効果 中西純代, 川田友里, 大坪繭子, 田村典明（福岡女子大・人間環境・環境理）	3aB01 FD-FT複合体形成を制御するタンパク質キナーゼの探索と同定 川本望[1], 笹部美知子[2], 遠藤求[1], 町田泰則[3], 荒木崇[1]（[1]京大・院・生命, [2]弘前大・農学生命, [3]名大・院・理）	3aC01 The matrix polysaccharide (1;3,1;4)-β-D-glucan is involved in silicon-dependent strengthening of rice cell wall Mari Kaneko[1], Natsumi Kido[2], Ryusuke Yokoyama[2], Tsuyoshi Yamamoto[3], Jun Furukawa[3], Hiroaki Iwai[3], Shinobu Satoh[3], Kazuhiko Nishitani[2]（[1]Faculty of Science, Tohoku University, [2]Graduate School of Life Sciences, Tohoku University, [3]Graduate School of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba）	3aD01 ミヤコグサPLENTYによる根粒数の新規制御機構 養老瑛美子[1,2], 吉田千枝[3], 寿崎拓哉[1,2], 川口正代司[1,2]（[1]基生研・共生システム, [2]総研大・生命科学, [3]東大・院理）
9:15	3aA02 ラン藻と高等植物の葉緑体の亜硝酸イオン取り込み活性の解析 前田真一, 小俣達男（名古屋大・生命農）	3aB02 Ⓔ Arabidopsis florigen FT binds to diurnally oscillating phospholipids that accelerate flowering Yuki Nakamura[1,2,3,4], Andres Fernando[3], Kazue Kanehara[1], Yu-Chi Liu[1], Doermann Peter[4], Coupland George[3]（[1]Institute of Plant and Microbial Biology, Academia Sinica, Taiwan, [2]JST, PRESTO, Japan, [3]Max-Planck-Institute for Plant Breeding Research, Germany, [4]IMBIO, Univ. Bonn, Germany）	3aC02 Ⓔ Boron Accelerates Cellulose Synthase Complexes Velocity and Cellulose Content in *Arabidopsis* Ke Li[1], Clara Sanchez Rodriguez[2], Takehiro Kamiya[1], Kyoko Miwa[3], Toshiro Matsunaga[4], Staffan Persson[2], Toru Fujiwara[1]（[1]Univ. Tokyo, [2]Max Planck Institute of Molecular Plant Physiology, [3]Sousei, Hokkaido Univ., [4]National Agricultural Research Center）	3aD02 セイヨウミヤコグサSuper growing root系統における根粒着生減少変異体の表現型解析 矢野翼[1], 山本昭洋[2], 佐伯雄一[2], 明石良[2]（[1]宮崎大・院農工, [2]宮崎大・農）
9:30	3aA03 Ⓔ ABI1, a negative regulator of abscisic acid signalling, regulates plant growth in response to balance of carbon and nitrogen availability in *Arabidopsis* Yu Lu[1], Takeo Sato[1], Izumi Mori[2], Takakazu Matsuura[2], Takashi Hirayama[2], Junji Yamaguchi[2]（[1]Graduate School of Life Science, Hokkaidou University, [2]Institute of Plant Science and Resources, Okayama University）	3aB03 イネにおけるTFL1ホモログRCNの機能解析 鈴木美穂, 田岡健一郎, 石川理恵, 島本功（奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科植物分子遺伝学研究室）	3aC03 シロイヌナズナKDO-8-フォスファターゼ候補タンパク質の解析 原朋美, 王櫻霖, 小林優, 間藤徹（京都大・院農）	3aD03 ジベレリンシグナルが菌根共生・根粒共生に及ぼす影響 武田直也[1,2], 小嶋美紀子[3], 榊原均[3], 川口正代司[1,2]（[1]基礎生物学研究所, [2]総研大, [3]理化学研究所）
9:45	3aA04 ユビキチンリガーゼATL31はCO_2/Nバランスに応答した葉の老化制御に関与する 青山翔紀[1], Thais Huarancca Reyes[1], Lorenzo Guglielminetti[2], 陸宇[1], 森田嘉恵[1], 佐藤長緒[1], 山口淳二[1]（[1]北海道大・院生命, [2]Deparment of Agriculture, Food and Environment, Univ. Pisa）	3aB04 ジャガイモ塊茎形成におけるチューベリゲン複合体の機能解析 田岡健一郎, 張禎日, 齋藤亜美, 清水かな恵, 島本功（奈良先端大・バイオ）	3aC04 ポリガラクツロナーゼ構成発現ポプラの引張あて材形成による姿勢制御 馬場啓一[1], 桐生智明[2], 山中望[2], 古田裕三[2], 林隆久[3]（[1]京大・生存研, [2]京府大・院生命環, [3]東農大・バイオ）	3aD04 【演題取り下げ】
10:00	3aA05 14-3-3タンパク質による植物C/N応答制御ネットワークの解析 佐藤長緒[1], Yu Lu[1], 安田盛貴[1], 草野都[2], 斉藤和季[2,3], 野村有子[2], 中神弘史[2], 深尾陽一朗[4], 山口淳二[1]（[1]北大院・理, [2]理研・CSRS, [3]千葉大院・薬, [4]奈良先端大・植物グローバル）	3aB05 Molecular Mechanism of Short-Day Plant Rice Floral Repression Under Long Day Conditions Yasue Nemoto[1], Yasunori Nonoue[2,3], Masahiro Yano[1], Takeshi Izawa[1]（[1]National Institute of Agrobiological Sciences, [2]Institute of the Society for Techno-innovation of Agriculture, Foresty and Fisheries, [3]Iwate Agricultural Research Center）	3aC05 プロトプラストを用いた一次細胞壁再生制御機構の解析 米田新[1], 出村拓[1,2]（[1]奈良先端大・バイオ, [2]理研・環境資源）	3aD05 Ⓔ Quantitative analysis of the frequency of recolonization in collapsed arbuscule-containing cells in rice mycorrhizal roots by means of live imaging system Yoshihiro Kobae. Toru Fujiwara（Grad. Sch. Agric., Univ. Tokyo）
10:15	3aA06 シロイヌナズナにおける根圏へ分泌されるプロテアーゼの生理的な役割 北川優里, 濱田達朗（石川県大・資源研）	3aB06 Development of rice having controllable flowering time by treatment with agrochemicals Ryo Okada, Naokuni Endo-Higashi, Yasue Nemoto, Takeshi Izawa（Functional Plant Research Unit, Division of Plant sciences, National Institute of Agrobiological Sciences）	3aC06 シロイヌナズナ子葉の表皮組織形成に対するセルラーゼ処理の影響 桧垣匠[1], 秋田佳恵[1], 朽名夏麿[1], 馳澤盛一郎[1,2]（[1]東京大・院・新領域, [2]JST・先端計測）	3aD06 リンドウ越冬芽の休眠制御機構の探索 高橋秀行[1], 金野尚武[2], 今村智弘[1], 竹田匠[1]（[1]岩手生物工学研究センター, [2]宇都宮大学）
10:30	3aA07 恒常的窒素制限条件下のシロイヌナズナの代謝系の高CO_2応答から見えてきた植物の窒素適応 高谷信之[1], 伊藤卓朗[2,3,4], 木羽隆敏[5], 宮本哲郎[1], 森万里江[1], 前田真一[1], 小俣達男[1]（[1]名大・院・生命農, [2]慶大・先端生命研, [3]慶大・政策・メディア, [4]JST・PRESTO, [5]理研・CSRS）	3aB07 シロイヌナズナ*fkf1*サプレッサースクリーニングによる花成時期変異体の単離と解析 矢作道枝[1], 高瀬智歌[2], 清末知宏[1,2]（[1]学習院大・院・自然科学, [2]学習院大・理・生命科学）	3aC07 スクロース水溶液水浸処理によるシロイヌナズナ葉の気孔分布への影響 秋田佳恵[1], 桧垣匠[1], 馳澤盛一郎[1,2]（[1]東京大・院・新領域, [2]JST・先端計測）	3aD07 オジギソウのアグロバクテリウムを用いた形質転換法の確立 真野弘明[1], 藤井知美[1,2], 住川直美[1], 日渡祐二[3], 長谷部光泰[1,2]（[1]基生研・生物進化, [2]総研大・生命科学, [3]NPPC, IBERS, Aberystwyth Univ.）

E会場	F会場	G会場	V会場	W会場	X会場	Y会場	時間
植物ホルモン・成長調節物質	バイオインフォマティクス／トランスクリプトーム／技術開発／バイオリソース	UV障害／レドックス制御／酸化ストレス／重力	シンポジウムS19 Open new aspects of cell-cell communication via plasmodesmata in plants（9:00–12:00）	シンポジウムS20 環境変動に対する植物の生存成長戦略：統合研究の新展開（9:00–12:00）	シンポジウムS21 植物ゲノム編集の新境地（9:00–12:00）	シンポジウムS22 顕微鏡で測る—測定装置としての顕微鏡を用いた生物機能の解析（9:00–12:00）	9:00
3aE01 ストリゴラクトンが発芽を刺激する遺伝学メカニズムの解析 土屋雄一朗[1,2], 藤茂雄[2], 木下俊則[1], Peter Mccourt[2]（[1]名古屋大学大学院理学研究科 生命理学専攻, [2]トロント大学CSB）	3aF01 新しいDNAマイクロアレイデータ解析webサービスAtCAST3.0 筧雄介, 嶋田幸久（横浜市立大学木原生物学研究所植物応用ゲノム科学部門）	3aG01 葉緑体H_2O_2応答性bHLH転写因子は光酸化的ストレス応答に関与する 岡本泰[1], 野志昌弘[2], 田茂井政宏[1,2], 高木優[3,4], 丸田隆典[5], 石川孝博[5], 重岡成[1,2]（[1]近畿大院・農・バイオ, [2]近畿大・農・バイオ, [3]産総研・生物プロセス, [4]埼玉大・環境科学, [5]島根大・生資科・生命工）					
3aE02 デブラノン類はストリゴラクトンの複数の作用を個別にミミックできる 福井康祐[1,2], 加藤雄太[1], 山上大智[1,2], 中村秀光[1,2], 浅見忠男[1,2]（[1]東大院・農生科・応生化, [2]JST-CREST）	3aF02 Construction of gene expression networks and comparative analysis of networks among multiple plant species. Masaaki Kobayashi[1], Tomoyuki Takano[1], Takayuki Suzuki[1], Yohei Sasaki[1], Shin Terashima[1], Hayato Matsumura[1], Hiromi Toyoshima[1], Kyoko Morimoto[1], Maasa Kanno[1], Koji Yokoyama[1], Yuuki Yoshida[1], Hiroshi Chiba[2], Yoshifumi Tada[2], Akifumi Shimizu[3], Koichiro Aya[4], Makoto Matsuoka[4], Masao Watanabe[5], Keita Suwabe[6], Kentaro Yano[1]（[1]Sch. Agri., Meiji Univ., [2]TOHOKU CHEMICAL Co., Ltd., [3]Sch. of Environmental Sci., Univ. of Shiga pref., [4]Bioscience and Biotechnology Center, Nagoya Univ., [5]G. Sch. of Life Sci., Tohoku Univ., [6]G. Sch./Fac. of Bioresources, Mie Univ.）	3aG02 ホメオドメインロイシンジッパー転写因子は酸化的ストレス応答に関与する 大和開[1], 問田英里[2], 野志昌弘[3], 田茂井政宏[2,3], 吉村和也[4], 高木優[5,6], 丸田隆典[1], 澤嘉弘[1], 石川孝博[1], 重岡成[2,3]（[1]島根大・生資科・生命工, [2]近畿大院・農・バイオ, [3]近畿大・農・バイオ, [4]中部大・応生・食栄, [5]産総研・生物プロセス, [6]埼玉大・環境科学）					9:15
3aE03 Ⓔ Sucrose restores strigolactone production in shoot-removed rice plants Kaori Yoneyama, Takaya Kisugi, Xioanan Xie, Takahito Nomura, Koichi Yoneyama（Weed Science Center, Utsunomiya University）	3aF03 Ⓔ A new technique for constructing a large-scale kinetic model to comprehensively understand metabolic regulatory mechanisms Kansuporn Sriyudthsak[1,2], Yuji Sawada[1], Yukako Chiba[3,4], Yui Yamashita[3], Shigehiko Kanaya[2,5], Hitoshi Onouchi[2,6], Toru Fujiwara[2,7], Satoshi Naito[3,6], Fumihide Shiraishi[8], Masami Yokota Hirai[1,2]（[1]CSRS, RIKEN, [2]JST, CREST, [3]Grad. Sch. Life. Sci., Hokkaido Univ., [4]Facul. Sci., Hokkaido Univ., [5]Grad. Sch. Info. Sci., NAIST, [6]Grad. Sch. Agr., Hokkaido Univ., [7]Grad. Sch. Agr. Life Sci., Unvi. Tokyo, [8]Grad. Sch. Biore. Bioenvtl. Sci., Kyushu Univ.）	3aG03 Ⓔ Redox regulation of the translation factor EF-Tu in the cyanobacterium *Synechocystis* sp. PCC 6803 Rayakorn Yutthanasirikul[1], Takanori Nagano[1], Takashi Kanamori[2], Takuya Ueda[3], Takamitsu Haruyama[4], Hiroki Konno[4], Keisuke Yoshida[5], Toru Hisabori[5], Yoshitaka Nishiyama[1]（[1]Grad. Sch. Sci. Eng., Saitama Univ., [2]GeneFrontier Co., [3]Grad. Sch. Frontier Sci., Univ. Tokyo, [4]Bio-AFM., Inst. Sci. Eng., Kanazawa Univ., [5]Chem. Res. Lab., Tokyo Inst. Tech.）					9:30
3aE04 インドールピルビン酸を経由するオーキシン生合成のフィードバック制御がオーキシンホメオスタシス維持に重要である 鈴木優志[1,2], 山崎千秋[1], 三井麻利江[1], 筧雄介[1], 三谷由佳[1,2], 中村郁子[1], 石井貴広[3], 添野和雄[3], 嶋田幸久[1,2]（[1]横浜市大・木原生研, [2]理研・植物センター, [3]農研機構・近中四農研）	3aF04 葉の三次元画像を対象とした新規の領域分割アルゴリズム 川瀬貴士, 菅野茂夫, 嶋田知生, 西村いくこ（京大・院理学研究科）	3aG04 シアノバクテリア*Synechocystis* sp. PCC 6803におけるチオレドキシンと相互作用する転写因子の探索 門脇太朗[1], 原怜[2], 野亦次郎[2], 久堀徹[2], 日原由香子[1]（[1]埼玉大・院・理工, [2]東工大・資源研）					9:45
3aE05 シロイヌナズナ切断花茎の組織癒合に対するオーキシン応答因子ARF6・ARF8とジャスモン酸の関与 朝比奈雅志[1], Weerask Pitaksaringkarn[2], 松岡啓太[2], 清水美甫[2], 石黒澄衛[3], 湯本絵美[1], 横田孝雄[1], 山根久和[1], 佐藤忍[2]（[1]帝京大・理工・バイオ, [2]筑波大・生命環境, [3]名古屋大・院・生命農学）	3aF05 ハイパースペクトル画像分類に基づく葉緑体光定位運動突然変異株の単離 松田修[1], 末次憲之[1], 内田誠一[2], 和田正三[1], 射場厚[1]（[1]九州大学大学院理学研究院生物科学部門, [2]九州大学大学院システム情報科学研究院情報知能工学部門）	3aG05 基部陸上植物ゼニゴケのUV-B応答機構の解析 宮城祐太[1], 平口尚樹[1], 伊藤孝志[1], 植村泰将[1], 武田圭祐[1], 海老澤政彦[1], 山沖美穂[1], 菅間俊[1], 森戸健[1], 西浜竜一[2], 石崎公庸[3], 河内孝之[2], 近藤陽一[1]（[1]関東学院大学, [2]京大院・生命科学, [3]神戸大院・理）					10:00
3aE06 転写因子の相互作用によるゼニゴケのオーキシン信号伝達ネットワーク 加藤大貴[1], 神埜勝[1], 白川一[1], 石崎公庸[1,2], 西浜竜一[1], 河内孝之[1]（[1]京大・院・生命, [2]神戸大・院・理・生物）	3aF06 ナショナルバイオリソースプロジェクト「トマト」におけるMicro-Tomトマト変異体リソースの整備 四方雅仁[1], 星川健[1], 有泉亨[1], 福田直也[1], 久保康隆[2], 金山喜則[3], 青木考[4], 江面浩[1]（[1]筑波大・生命環境, [2]岡山大・院自然科学, [3]東北大・院農学, [4]大阪府立大・院生命環境科学）	3aG06 放射性物質汚染土壌で栽培した植物における遺伝子組換え頻度の検証 玉置雅紀[1], 澤田寛子[1], 坂本綾子[2], 遠藤真咲[3], 土岐精一[3], 塚原啓太[1]（[1]国環研・生物センター, [2]原子力機構・変異誘発, [3]生物研・先端ゲノム）					10:15
3aE07 Diversity of auxin sensitivities of Aux/IAAs Yasushi Mitao, Tatsuo Kakimoto（Grad. Sch. Sci., Univ. Osaka）	3aF07 ゼニゴケを用いた有用遺伝子探索システムの構築 近藤陽一[1], 宮城祐太[1], 生江亮介[1], 久保寺美登[1], 関川萌美[1], 滝澤達哉[1], 吉積毅[2], 松井南[2], 石崎公庸[3,4], 河内孝之[3]（[1]関東学院大学, [2]理研・環境資源, [3]京大院・生命科学, [4]神戸大・院・理）	3aG07 南極に生育する陸生光合成生物の光阻害波長依存特性と生育微気象環境について 小杉真貴子[1], 黒沢則夫[2], 川又明徳[3], 亀井保博[4], 工藤栄[1], 伊村智[1]（[1]国立極地研究所生物圏研究グループ, [2]創価大学大学院・工学研究科, [3]愛媛県総合科学博物館, [4]基礎生物学研究所 自然科学研究機構）					10:30

Ⓔ＝発表の言語は英語

●第３日　３月20日（木）　午前（9:00–12:30）

時　間	A会場	B会場	C会場	D会場
	窒素代謝・栄養代謝	花成	細胞壁	植物微生物相互作用（共生）／その他
10:45	3aA08 シロイヌナズナは2つの低親和型グルタミン合成酵素を使い分けて根でアンモニウムを同化する 小西範幸, 石山敬貴, 丸郁美, 松岡香矢, 早川俊彦, 山谷知行, 小島創一（東北大・院農学）	3aB08 *PnFT2*によるアサガオの貧栄養ストレス応答花成の制御 山田瑞樹[1], 竹能清俊[2]（[1]新潟大・院・自然科学, [2]新潟大・理・生物）	3aC08 二次細胞壁形成で発現する遺伝子の網羅的機能解析 遠藤暁詩, 楢本悟史, 齊藤知恵子, 福田裕穂（東京大・院・理）	3aD08 シロイヌナズナエコタイプの気孔応答の多様性 小西史高[1], 門田慧奈[1], 祢宜淳太郎[1], 高橋將[1], 後藤伸治[2], 射場厚[1]（[1]九州大・理・生物科学, [2]理研BRC・客員）
11:00	3aA09 Strigolactone-independent reduction of tiller number in rice mutant lacking *cytosolic glutamine synthetase1;2* or *NADH-glutamate synthase1* Miwa Ohashi[1], Keiki Ishiyama[1], Atsushi Hanada[2], Soichi Kojima[1], Toshihiko Hayakawa[1], Yoshiya Seto[2], Shinjiro Yamaguchi[2], Tomoyuki Yamaya[1]（[1]Grad. Sch. Agr., Univ. Tohoku, [2]Grad. Sch. Life Sciences., Univ. Tohoku）		3aC09 ゼニゴケ気室の発生初期段階ではNOPPERABO1のE3ユビキチンリガーゼ活性が必須である 水谷未耶[1], 石崎公庸[2], 増田晃秀[1], 嶋村正樹[3], 西浜竜一[1], 河内孝之[1]（[1]京大・院・生命科学, [2]神戸大・院・理, [3]広島大・院・理）	3aD09 Ⓔ Characterization of functional small peptides in plant abiotic stress responses Kentaro Nakaminami[1], Mieko Higuchi[2], Takeshi Yoshizumi[3], Masanori Okamoto[4], Khurram Bashir[1], Minami Shimizu[2], Chihiro Ohashi[2], Maho Tanaka[1], Minami Matsui[5], Kazuo Shinozaki[2], Motoaki Seki[1,6], Kousuke Hanada[2,7]（[1]Plant Genomic Network Research Team, RIKEN CSRS, [2]Gene Discovery Research Group, RIKEN CSRS, [3]Inst Adv Biosci, Keio University, [4]Arid Land Research Center, Tottori University, [5]Synthetic Genomics Research Team, RIKEN CSRS, [6]Kihara Institute for Biological Research, Yokohama City University, [7]Frontier Research Academy for Young Researchers, Kyushu Institute of Technology）
11:15	3aA10 The proper use of glutamine produced by cytosolic GS1;1 is critical for metabolic and organelle homeostasis in rice Miyako Kusano[1,2], Atsushi Fukushima[1], Kazuhiro Funayama[3], Mayumi Tabuchi-Kobayashi[3], Tomoko Nishizawa[1], Makoto Kobayashi[1], Mayumi Wakazaki[1], Mayuko Sato[1], Kiminori Toyooka[1], Kumiko Osanai-Kondo[1], Yoshinori Utsumi[1], Motoaki Seki[1,2], Soichi Kojima[2], Kazuki Saito[1,4], Tomoyuki Yamaya[2]（[1]RIKEN CSRS, [2]KIHARA Inst. Biol.l Res., YCU, [3]Grad. Sch. Agr. Sci., Tohoku Univ., [4]Grad. Sch. Pharm. Sci., Chiba Univ.）			
11:30	3aA11 ミヤコグサの*ARN1*は窒素濃度に応じた根の伸長を制御する 矢野幸司[1], 寿崎拓哉[2,3], 梅原洋佐[4], 佐藤修正[5], 田畑哲之[5], 河内宏[4], 林誠[4], 川口正代司[2,3], 藤原徹[1]（[1]東大院・農学生命科学, [2]基生研, [3]総研大, [4]生物研, [5]かずさDNA研）			
11:45	3aA12 高等植物の硝酸応答を担うNLP転写因子の機能ドメインの解析 小西美稲子, 鈴木渉, 柳澤修一（東京大・生物生産工学研究センター）			
12:00				
12:15				

E会場	F会場	G会場	V会場	W会場	X会場	Y会場	時間
植物ホルモン・成長調節物質	バイオインフォマティクス／トランスクリプトーム／技術開発／バイオリソース	UV障害／レドックス制御／酸化ストレス／重力	シンポジウムS19 Open new aspects of cell-cell communication via plasmodesmata in plants（9:00–12:00）	シンポジウムS20 環境変動に対する植物の生存成長戦略：統合研究の新展開（9:00–12:00）	シンポジウムS21 植物ゲノム編集の新境地（9:00–12:00）	シンポジウムS22 顕微鏡で測る—測定装置としての顕微鏡を用いた生物機能の解析（9:00–12:00）	
3aE08 Studies on the auxin metabolism in sterol methyltransferase mutant Masatoshi Nakamoto[1], Schmit Anne-Catherine[2], Hubert Schaller[2], Daisaku Ohta[1]（[1]Grad. Sch. Life. Envi, Osaka Pref. Univ, [2]Inst. Plant Mol. Bio. CNRS, Univ. Strasbourg）	3aF08 Establishment of *in planta* transformation using peptide-based carrier. Takeshi Yoshizumi[1], Yutaka Kodama[2], Masaru Tomita[1,3], Mitsuhiro Itaya[1,3], Keiji Numata[4]（[1]Inst. Adv. Biosci., Keio Univ., [2]C- Bio, Utsunomiya Univ., [3]Env. Info., Keio Univ., [4]CSRS, RIKEN）	3aG08 シロイヌナズナの重力屈性に関与するDGE1、DGE2およびDTLの相互作用因子の探索 谷口雅俊[1], 湯淺朝子[2], 鈴木可奈子[1], 深尾陽一朗[2], 藤原正幸[2], 田坂昌生[2], 森田(寺尾)美代[1]（[1]名古屋大学大学院・生命農学研究科, [2]奈良先端科学技術大学院大学・バイオサイエンス研究科）					10:45
3aE09 *AUX/IAA19* プロモーター活性におけるオーキシンフィードバック回路と *AUX/IAA* 優性変異体の影響 久保田真実[1], 孫惠慧[2,3], 綿引雅昭[3]（[1]北大院・生命, [2]中国農業大・農学生物工学, [3]北大・理学）	3aF09 CRISPR/Cas システムを利用したイネの標的変異 遠藤真咲[1], 三上雅史[1,2], 土岐精一[1,2]（[1]生物研 ゲノム機能, [2]横浜市立大）	3aG09 シロイヌナズナ重力屈性に関与するDGE2,DTLタンパク質の機能解析 湯淺朝子[1], 谷口雅俊[2], 鈴木可奈子[2], 田坂昌生[1], 森田(寺尾)美代[2]（[1]奈良先端科学技術大学院大学・バイオサイエンス研究科, [2]名古屋大学大学院・生命農学研究科）					11:00
3aE10 Study of the auxin signaling in roots of *Arabidopsis thaliana* using GWAS Takehiko Ogura, Wolfgang Busch, Wohlrab Bonnie（Busch Group, Gregor Mendel Institute of Molecular Plant Biology）	3aF10 シロイヌナズナ種子における組換えタンパク質の大量生産法 金井雅武[1], 杉山真也[2], 近藤真紀[1], 山田健志[1], 溝上雅史[2], 西村幹夫[1]（[1]基生研・細胞生物, [2]国立国際・肝疾患）						11:15
3aE11 マメ科植物ミヤコグサにおける根粒菌シグナルとサイトカイニンシグナルのクロストーク 廣田敦子, 林誠（NIAS）	3aF11 Research and Development of High-throughput Genotyping System for Tailor-made Breeding of Bioenergy Crop, *Sorghum bicolor* Hajime Ohyanagi[1,2,3], Masaaki Kobayashi[1,2], Hiromi Toyoshima[1,2], Tomoyuki Takano[1], Hideki Takanashi[2,4], Atsushi Nagano[5,6], Hitoshi Tainaka[2,4], Tsuyoshi Tokunaga[2,7], Takashi Sazuka[2,8], Hiroyoshi Iwata[2,4], Nobuhiro Tsutsumi[2,4], Kentaro Yano[1,2]（[1]Sch. of Agri., Meiji Univ., [2]CREST, JST, [3]Mitsubishi Space Software Co., Ltd., [4]G. Sch. of Agricultural and Life Sci., The Univ. of Tokyo, [5]Center for Ecological Research, Kyoto Univ., [6]PRESTO, JST, [7]Earth Note, Co. Ltd., [8]Bioscience and Biotechnology Center, Nagoya Univ.）						11:30
	3aF12 Ⓔ Highly Reproducible and Sensitive Genome-Wide Digital mRNA Counting using Molecular Barcoding in a Next Generation Sequencing Workflow Kaori Fukuhara, Katsuyuki Shiroguchi（RIKEN Integrative Medical Sciences）						11:45
	3aF13 バッチモード能動学習による顕微鏡画像の自動分類 朽名夏麿[1], 馳澤盛一郎[1,2]（[1]東京大・院新領域, [2]JST・先端計測）						12:00
	3aF14 CRISPR/Cas9によるゼニゴケのゲノム編集 菅野茂夫[1], 白川一[2], 高木純平[1], 松田頼子[2], 嶋田知生[1], 西村いくこ[1], 河内孝之[2]（[1]京大 院理, [2]京大 院生命）						12:15

Ⓔ＝発表の言語は英語

一般講演（ポスター）プログラム

■ 光合成色素・光捕集系

PF001　Development of a novel cryogenic microscope and its application to the fluorescence spectroscopy of single photosystem I complexes
Keisuke Namie[1], Wataru Katoh[2], Hanayo Nakanishi[2], Takumi Noguchi[2], Fukumura Hiroshi[1], Shibata Yutaka[1] ([1]Department of Chemistry, Graduate School of Science, Tohoku university, [2]Department of Physics, Graduate School of Science, Nagoya university)

PF002　Chlorophyll protein complexes in geranylgeranyl reductase mutant of the green alga *Chlamydomonas reinhardtii*
Sireesha Kodru[1], Krishna K. Niyogi[2], Yuichiro Takahashi[1,3] ([1]Graduate School of Natural Science and Technology, Okayama University, [2]Department of Plant and Microbial Biology, University of California, Berkeley, [3]JST-CREST)

PF003　Dedicated comparison of light-harvesting dynamics between the cyanobacterial and higher plant photosystem II
Ahmed Ali[1], Yutaka Shibata[1], Ryo Nagao[2], Takumi Noguchi[2], Hiroshi Fukumura[1] ([1]Department of Chemistry, Graduate School of Science, Tohoku University, [2]Division of Material Science (Physics), Graduate School of Science, Nagoya University)

PF004　緑藻クラミドモナスのステート遷移および qE の新奇変異株の単離
大西紀和，鎌田このみ，皆川純（基礎生物学研究所）

PF005　暗所子葉緑化変異体からの緑化しない変異体の単離
松山知樹[1]，浅見忠男[2]（[1]理研，[2]東大院・農生科・応生化）

PF006　非光変換型水溶性クロロフィル結合タンパク質(Class II WSCP)のクロロフィル結合およびクロロフィル識別の分子機構の解明
高橋重一，柳内春奈，内田朗，中山克己，佐藤浩之（東邦大・理・生物分子）

■ 光化学系 I・II

PF007　光化学系 I を光阻害から防御する機構の局在解析
矢野健治郎，田中赳裕，園池公毅（早稲田大学 教育・総合科学学術院）

PF008　Photosynthetic characteristics of phosphatidylglycerol-deficient Arabidopsis mutant
Koichi Kobayashi[1], Kaichiro Endo[1], Haruka Hori[1], Sho Fujii[1], Krishna Niyogi[2], Hajime Wada[1] ([1]Grad. Sch. Arts Sci., Univ. Tokyo, [2]Dept. Plant Microbial Biol., UC Berkeley)

PF009　Hierarchical coarse-graining kinetic model of photosystem II including excitation-energy and electron transfer processes
Takeshi Matsuoka[1], Shigenori Tanaka[1], Kuniyoshi Ebina[2] ([1]Graduate School of System Informatics, Kobe University, [2]Graduate School of Human Development and Environment, Kobe University)

PF010　パルス ELDOR 法を用いた光化学系 II 酸素発生系の光活性化における Mn^{2+}結合サイトの同定
浅田瑞枝，三野広幸（名古屋大院・理）

PF011　ホスファチジルグリセロール結合部位の改変が光化学系 II に及ぼす影響
遠藤嘉一郎[1]，水澤直樹[2]，沈建仁[3]，山田聖人[4]，鞆達也[4,5]，小林康一[1]，和田元[1,6]（[1]東大・院・総合文化，[2]法政大・生命科学，[3]岡山大・院・自然科学，[4]理科大・理，[5]JST・さきがけ，[6]JST・CREST）

PF012　ENDOR 法による Mn クラスターの Ca イオン除去が水素結合ネットワークに与える効果
長嶋宏樹，三野広幸（名古屋大院・理）

PF013　共生藻 *Symbiodinium* spp. OAH-1 の光化学系 I 標品の単離とその性質
清水信介[1]，松尾高稔[1]，春原沙季[1]，長尾遼[2]，鈴木健裕[3]，堂前直[3]，高橋俊一[4]，鞆達也[1,5]（[1]東京理科大学・理学部，[2]名古屋大学・理学部，[3]理研・グローバル研究クラスタ，[4]Australian National University，[5]JSTさきがけ）

■ 電子伝達系・炭素代謝

PF014　The Role of PSI Cyclic Electron Transport in the Formation of Proton Motive Force
Caijuan Wang, Hiroshi Yamamoto, Toshiharu Shikanai (Department of Botany, Graduate School of Science, Kyoto University)

PF015　裸子植物の光合成における酸素還元反応（メーラー反応）の解析
日田盛華，白尾正涼，津山孝人（九大・農）

PF016　C4 植物維管束鞘細胞特異的な電子伝達経路の解析
藤本奈々，田副雄士，石川規子，佐藤文彦，遠藤剛（京都大 院生命科学）

PF017　光合成能強化シロイヌナズナの生育初期における C/N バランス制御
田茂井政宏[1,2]，大鳥久美[1,2]，Daniel Padilla-Chacon[1,2]，田部記章[1,2]，重岡成[1,2]（[1]近畿大・農・バイオ，[2]JST, CREST）

PF018　紅藻シアニジオシゾンにおける細胞内局在解析に基づいた炭素代謝経路図の作製
森山崇[1,2]，佐藤直樹[1,2]（[1]東京大・総合文化，[2]JST・CREST）

PF019　Identification and characterization of *CARBON ASSIMILATION RATE 8* that increases rates of leaf photosynthesis by increasing stomatal aperture in rice
Shunsuke Adachi[1,2], Utako Yamanouchi[2], Takanari Tanabata[3], Jian Sun[2], Tadashi Hirasawa[4], Toshio Yamamoto[2], Junichi Yonemaru[2] ([1]JST, PRESTO, [2]Natl. Inst. Agrobiol. Sci., [3]RIKEN CSRS, [4]Grad. Sch. of Agr., Tokyo Univ. of Agr. and Tech.)

■ 光合成・呼吸の環境応答

PF020　変動光が光化学系 I と II の光阻害に及ぼす影響
河野優，寺島一郎（東大・院・理・植物生態）

PF021　赤潮藻類における光化学系 II の光阻害に対する温度の影響
桑原悠輔[1]，濱口卓也[2]，紫加田知幸[3]，西山佳孝[1,2]（[1]埼玉大・理・分子生物，[2]埼玉大・院・理工，[3]水研セ・瀬水研）

PF022　Characterization of Acclimation of Photosynthetic electron transport chain to Low temperature in the Prasinophyte *Ostreococcus*
Fumihiro Itoh[1], Yoshihiro Shiraiwa[2,3], Iwane Suzuki[2,3] ([1]Grad. Sch. Life & Environ. Sci., Univ. Tsukuba, [2]Fac. Life & Environ. Sci., Univ. Tsukuba, [3]JST/CREST)

PF023　高温ストレスを受けたコムギにおけるチラコイド膜の構造変化を伴う光化学系の再編成：熱放散とステート遷移の誘導
丸谷曜子[1]，山内靖雄[1]，秋本誠志[2]，井上加奈子[1]，池田健一[1]，水谷正治[1]，杉本幸裕[1]（[1]神戸大院・農，[2]神戸大・分子フォト）

PF024　アイスプラントの CAM 化で促進されるプロモーター活性の日周制御
Muhammad Abul Kalam Azad[1]，永田健斗[2]，大西純一[1]，是枝晋[3]（[1]埼玉大･院･理工，[2]埼玉大･理，[3]埼玉大･分析セ）

PF025　シロイヌナズナのチラコイド膜形態変化に伴う光化学系 II／I 比および強光反応性の変化
据貴志[2]，野末はつみ[1]，熊崎茂一[4]，野末雅之[3]（[1]信州大・先進植物工場研究教育センター，[2]信州大・院・理工学系，[3]信州大・繊維・応生学系，[4]京大・理・化学）

PF026　シアノバクテリア *Leptolyngbya boryana* のゲノムリシークエンスによる暗所での従属栄養生育を促進する変異の同定
平出優人[1]，上坂一馬[1]，井原邦夫[2]，藤田祐一[1]（[1]名大・院生命農，[2]名大・遺伝子）

PF027　シアノバクテリアの *pmgA* 破壊株の光混合栄養条件下における疑似復帰変異体の解析
西島良樹[1]，兼崎友[2]，吉川博文[3]，日原由香子[1]（[1]埼玉大・院・理工，[2]東京農大・ゲノムセンター，[3]東京農大・バイオ）

PF028　非光化学消光（NPQ）の誘導における PGR5 依存の循環的電子伝達の役割と寄与率
佐藤諒一[1]，太田啓之[2]，増田真二[2]（[1]東工大・院生命理工，[2]東工大・バイオセンター）

PF029　ヘテロシスト形成に伴う遺伝子発現とチラコイド膜光化学系変化の同時タイムラプス顕微分光測定
野末秀穂[1]，佐藤直樹[2]，豊島正和[3]，得平茂樹[4,5]，寺嶋正秀[1]，熊崎茂一[1,5]（[1]京大・院理，[2]東大・院総合文化，[3]神戸大・院理，[4]首都大・理工，[5]JST・さきがけ）

PF030　PsbP-Like protein 1 (PPL1) の光化学系 II 超複合体における分子機能
草間翔子[1]，松井信太郎[1]，佐藤文彦[1]，伊福健太郎[1,2]（[1]京大院・生命，[2]JST さきがけ）

PF031　Search of the chemical compounds which alleviates thermal damage of photosynthetic electron-transport systems
Fumiyoshi Myouga[1], Kumiko Osanai[1], Takeshi Nakano[1], Tamio Saito[2], Hiroyuki Osada[2], Kazuo Shinozaki[1] ([1]Gene Dis. Res. Group, RIKEN CSRS, [2]Chem. Bank, RIKEN CSRS)

PF032　Distinct photoacclimation responses in the symbiotic dinoflagellate (*Symbiodinium*) species under environmental stresses
Yusuke Aihara, Jun Minagawa (NIBB)

PF033　ユビキチンリガーゼ ATL31 及び ATL6 の二重変異体は光強度依存的な *HemA1* の転写抑制による黄化現象を呈する
前川修吾[1]，高林厚史[2]，山本宏子[1]，田中歩[2]，佐藤長緒[1]，山口淳二[1]（[1]北大院・生命，[2]北大・低温研）

PF034　シロイヌナズナにおける柵状組織を発達させる葉自律的シグナルと長距離シグナルの解析
宗景(中島)ゆり，井上史生，米田有希，横田明穂（奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科）

PF035　単細胞紅藻 *Galdieira sulphuraria* 新規単離株における糖添加時の細胞応答の解析
重信直人[1]，兼崎友[2]，渡辺智[1]，千葉櫻拓[1]，吉川博文[1,2]（[1]東京農大・応生科・バイオ，[2]東京農大・ゲノム解析センター）

PF036　鉄欠乏オオムギ光化学系の含鉄タンパク質蓄積パターンの特徴
富澤隆章，齋藤彰宏，樋口恭子（東農大・院・農化）

PF037　鉄欠乏オオムギの葉緑体における鉄の分布
小川智美，齋藤彰宏，樋口恭子（東京農業大学・院・農芸化学）

■ 窒素代謝・栄養代謝

PF038　Unique properties of sulfite reductase homologs for nitrite and sulfite reduction in *Cyanidioschyzon merolae*.
Kohsuke Sekine[1,3], JuYaen Kim[2], Toshiharu Hase[2], Naoki Sato[3] ([1]KOMEX, Univ. Tokyo, [2]Inst. for Prot. Res., Osaka Univ., [3]Grad. Sch. of Arts & Sci., Univ. Tokyo)

PF039　シアノバクテリア *Leptolyngbya boryana* の窒素固定を制御する転写活性化タンパク質 PatB のレポーター解析
辻本良真[1]，神谷成美[2]，藤田祐一[1]（[1]名古屋大・院生命農，[2]名古屋大・農）

PF040　硫酸イオントランスポーター SULTR2;1 の機能とその発現調節機構・細胞内局在の関連
中村俊貴，丸山明子（九州大学農学研究院植物栄養学分野）

PF041　鉄欠乏オオムギにおけるソース・シンクの代謝適応応答
岩瀬潤，月居佳史，名倉大貴，齋藤彰宏，三輪睿太郎，樋口恭子（東農大・院・農化）

PF042　Crosstalk between Nitrogen and Copper homeostasis in *Arabidopsis thaliana*
Melanie Mermod[1], Teruyuki Kurata[2], Takehiro Kamiya[3], Toru Fujiwara[3], Toshiharu Shikanai[1] ([1]Graduate School of Science, Kyoto University, Kyoto, [2]Graduate School of Agriculture, Kyushu University, Fukuoka, [3]Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo, Tokyo)

PF043　The Nitrate Transporter NRT2.5 Plays a Role in Nitrate Acquisition and Remobilization in Nitrogen-Starved Adult Arabidopsis
Takatoshi Kiba[1], Lina Lezhneva[2], Ana Belen Feria-Bourellier[2], Florence Lafouge[2], Stephanie Boutet-Mercey[2], Nino Niccolo[2], Hitoshi Sakakibara[1], Francoise Daniel-Vedele[2], Anne Krapp[2] ([1]RIKEN CSRS, [2]INRA, Institut Jean-Pierre Bourgin)

PF044　シロイヌナズナ実生に対するプリン分解中間体アラントインの成長促進作用の検証
渡邊俊介[1]，秋吉信宏[2]，YiPing HAN[1]，島田裕士[1,2]，坂本敦[1,2]（[1]広島大院・理，[2]広島大・理）

■ その他

PF045　ラン藻のヘテロシスト形成頻度増大による水素生産性の向上
増川一[1,2]，櫻井英博[2]，井上和仁[3]（[1]JSTさきがけ，[2]神奈川大・光合成水素生産研，[3]神奈川大・理）

PF046　クラミドモナスにおける MDH1 タンパク質の機能解析
小澤真一郎[1,2,3]，Dominique Drapier[3]，Richard Kuras[3]，Stephan Eberhard[3]，Francis-André Wollman[3]，Yves Choquet[3]（[1]岡山大・理・生物，[2]科学技術振興機構 CREST，[3]UMR7141 CNRS/UPMC パリ生物物理化学研究所）

PF047　シアノバクテリア *Synechocystis* sp. PCC 6803 の代謝に薬剤添加が及ぼす影響の解析
青木彩夏，園池公毅（早稲田大・教育）

PF048　多孔性シリカ粒子に吸着したヘリオバクテリア反応中心コアタンパクの分光学的諸性質
大岡宏造[1]，野地智康[2]，浅井智広[3]，武藤梨沙[4]，栗栖源嗣[4]，伊藤繁[5]（[1]大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻，[2]名古屋工業大学大学院工学研究科未来材料創成工学専攻，[3]立命館大学生命科学部生命情報学科，[4]大阪大学たんぱく質研究所，[5]名古屋大学遺伝子実験施設）

PF049　イネの初期生育速度に関与する要因の生理学的解析
永井雄基[1]，砂川裕貴[2]，望月麻衣[2]，廣津直樹[1,2]（[1]東洋大・院生命化学，[2]東洋大・生命科学）

■ 遺伝・生殖

PF050　Characterization of a protamine-like protein from the liverwort *Marchantia polymorpha* L.
Shigeyuki Tsukamoto[1], Takuya Motohashi[1], Satoshi Hirao[1], Kimitsune Ishizaki[2], Takayuki Kohchi[3], Lixy Yamada[4], Hitoshi Sawada[4], Katsuyuki T. Yamato[1] ([1]B.O.S.T., Kinki Univ., [2]Grad. Sch. Sci., Kobe Univ., [3]Grad. Sch. Biostudies, Kyoto Univ., [4]Grad. Sch. Sci., Nagoya Univ.)

PF051　Isolation And Characterization Of A Hieracium Hybrid Line Exhibiting Only The Autonomous Endosperm Formation In Apomixis
Daisuke Ogawa, Susan Johnson, Steven Henderson, Anna Koltunow (Plant Industry, CSIRO)

PF052　ヒメミカヅキモの－型細胞特異的遺伝子 *CpMinus1* の解析
小宮あゆみ[1]，阿部淳[1]，川井絢子[1]，鈴木穣[2]，豊田敦[3]，藤山秋佐夫[3]，大槻涼[1]，土金勇樹[1]，西山智明[4]，関本弘之[1]（[1]日本女子大・理，[2]東大院・新領域，[3]遺伝研，[4]金沢大・学際）

PF053　助細胞-胚乳融合における細胞骨格の役割
丸山大輔[1,2]，河島友和[2]，東山哲也[1,3]，Frédéric Berger[2]（[1]名大・トランスフォーマティブ生命分子研究所（WPI-ITbM），[2]Temasek Life Sciences Laboratory，[3]JST ERATO 東山ライブホロニクスプロジェクト・名大）

■ 花成

PF054　ザゼンソウの花成ホルモン(SrFT)が熱産生に及ぼす影響の検討
稲葉靖子[1]，増子(鈴木)潤美[2]，片山陽子[1]，渡辺正夫[2]，稲葉丈人[3]（[1]宮崎大・TT推進，[2]東北大・院生命科学，[3]宮崎大・農）

PF055　Genome wide integration analysis of flowering network in *Arabidopsis thaliana*
Eriko Sasaki[1], Edward J. Osborne[2], Zhang Pei[1,3], Marie-Stanislas Remigereau[3], Magnus Nordborg[1] ([1]Gregor Mendel Institute of Molecular Plant Biology, [2]Department of Biology, University of Utah, [3]University of Southern California)

PF056　シロイヌナズナ *pect1-4* 変異体が示す早期花成の誘導メカニズム
矢竹美樹[1]，生貝咲貴[2]，大鶴真寿美[1]，中川繭[3]，藤木友紀[1,2]，西田生郎[1,2]（[1]埼玉大・院理工，[2]埼玉大・理，[3]弘前大・男女共同参画推進室）

PF057　ワサビ(*Wasabia japonica*)花成誘導に対する日長および光質の影響
中俣孝一[1]，大木島晃[2]，野末雅之[2]，野末はつみ[4]，久保浩義[3]（[1]信州大・院・理工学系，[2]信州大・繊維・応生学系，[3]信州大・理・生物，[4]信州大・先進植物工場研究教育センター）

■ 光周性・リズム・時計

PF058　スギの温度に伴う日周性の変化
能勢美峰[1]，田村美帆[2]，三嶋賢太郎[1]，井城泰一[1]，坪村美代子[1]，栗田学[1]，渡辺敦史[1,2]（[1]森林総合研究所 林木育種センター，[2]九州大学大学院 農学研究院）

PF059　ヒメツリガネゴケの生物時計遺伝子の発現解析
龍昌志[1]，出口大和[2]，手塚裕紀[1]，青木摂之[1]（[1]名大院・情報科学，[2]名大・情報文化）

PF060　ウキクサ植物にみられる概日リズム多様性
村中智明，岡田全朗，小山時隆（京都大学・理・植物）

PF061　外環境の明暗周期に影響を受ける植物細胞概日リズムにおける *ELF3* の役割
岡田全朗，村中智明，小山時隆（京都大・理・植物）

■ 胚発生，細胞分化

PF062　Isolation of the suppressor mutants that avoid ectopic xylem vessel formation in *Arabidopsis*
Harunori Kawabe[1], Misato Ohtani[2], Masatoshi Yamaguchi[3], Minoru Kubo[1], Tetsuya Kurata[1], Tomoaki Sakamoto[1], Arata Yoneda[1], Ko Kato[1], Taku Demura[1,2] ([1]Bio. Sci., NAIST, [2]CSRS, RIKEN, [3]IEST, Saitama Univ.)

PF063　イネ種子の胚–胚乳比率を規定する胚周辺胚乳領域の解析
桧原健一郎，小林裕美，伊藤純一，長戸康郎（東大院農学生命科学）

PF064　イネの胚発生における根の初期発生過程の解明
木富悠花，桧原健一郎，長戸康郎，伊藤純一（東大院・農学生命科学）

PF065　VND7 過剰発現による致死性を抑圧する新規因子の遺伝学的単離
鈴木崇臣[1,2]，竹林有理佳[2]，佐野亮輔[3]，倉田哲也[3]，本橋令子[1]，大谷美沙都[2]，出村拓[2,3]（[1]静岡大・農，[2]理研・CSRS・BMEP，[3]奈良先端・バイオ）

■ 種子形成，休眠，発芽

PF066　非典型 Aux/IAA タンパク質 IAA30 は種子休眠の獲得に関わる
脇坂恵[1]，加賀谷道子[1]，山本章子[2]，竹林裕美子[3]，瀬尾光範[3]，服部東穂[2]，加賀谷安章[1]（[1]三重大・生命科学セ，[2]名大・生物機能セ，[3]理研・CSRS）

PF067　発光レポーターを使った種子成熟遺伝子の発芽後抑制に異常を示すシロイヌナズナ変異株の網羅的スクリーニング
河合都妙[1]，棚橋亮弥[1]，小内清[2]，前尾健一郎[3]，石浦正寛[2]，中村研三[1]（[1]中部大・応用生物，[2]名古屋大・遺伝子，[3]名古屋大・院・生命農）

PF068　種子成熟遺伝子の発現における B3 転写因子 HSI2 と HSL1 の機能
河合都妙[1]，鵜飼聖子[3]，御堂育子[1]，塚越啓央[3,4,5]，前尾健一郎[3]，小内清[2]，石浦正寛[2]，中村研三[1]（[1]中部大・応用生物，[2]名古屋大・遺伝子，[3]名古屋大・院・生命農，[4]名古屋大・院・PhD登龍門，[5]PRESTO, JST）

■ 栄養器官の発生・分化

PF069　Canalization-based vein formation in a growing leaf
Sangwoo Lee[1,2], Yoshihiro Morishita[1] ([1]RIKEN CDB, [2]Kyushu Univ.)

PF070　Molecular Mechanisms that Determine Pericycle Cell Identity
Ye Zhang[1], Nobutaka Mitsuda[2], Takeshi Yoshizumi[3], Yoichi Kondo[3], Masaru Takagi[2], Minami Matsui[3], Tatsuo Kakimoto[1] ([1]Department of Biology, Graduate School of Science, Osaka University, [2]National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, [3]Plant Science Center, RIKEN Yokohama Institute)

PF071　茎頂分裂組織特異的転写因子 ISH1, ISH2 の協調作業による根部での地上部様器官の形成
戸松創[1]，花野滋[1]，小林康一[2]，近藤侑貴[3]，別役重之[4]，瀧田英司[1,4]，山道桂子[5]，太田啓之[5]，細内敦[1]，小澤馨史[1]，長瀬隆弘[1]，尾形善之[1]，櫻井望[1]，鈴木秀幸[1]，増田建[2]，福田裕穂[3]，柴田大輔[1]（[1]かずさDNA研，[2]東京大・院総合文化，[3]東京大・院理，[4]JSTさきがけ／東京大・院理，[5]東工大・バイオ）

PF072　Auxin Accumulation Suggests A Role in Haustorium Development in Orobanchaceae
Takanori Wakatake[1,2], Satoko Yoshida[2], Ken Shirasu[1,2] ([1]Grad. Sch. Sci., Univ. Tokyo, [2]Yokohama Inst. RIKEN)

PF073　葉原基の向背軸極性の制御に関わる *PHB* と *FIL* の発現動態を模倣する数理モデルの実用性
爲重才覚[1,2]，藤田浩徳[2]（[1]名大 lTbM，[2]基生研）

PF074　シロイヌナズナ ESR1 結合タンパク質の同定
坂野弘美，久保慈子，青木宏和，志水裕司（中部大・応用生物・環境生物）

PF075　シロイヌナズナにおける花茎の肥大成長制御に関わる新規転写抑制因子の単離およびその機能解析
鄭貴美[1]，鈴木馨[1]，高木優[1,2]，藤原すみれ[1]（[1]産総研・生物プロセス，[2]埼玉大・環境科学）

PF076　Transcriptional regulation of post-mitotic cell growth by GT2 transcription factors
Christian Breuer, Ayako Kawamura, Keiko Sugimoto (RIKEN CSRS)

PF077　リボソームタンパク質 RPL4D の GFP 標識とその機能性についての解析
堀口吾朗[1,2]，中田未友希[2]，塚谷裕一[3]（[1]立教大学・理・生命，[2]立教大学・理・生命理センター，[3]東大・院・理）

PF078　Arabidopsis WIND1 promotes callus formation in rapeseed, tomato and tobacco
Mariko Ohnuma[1], Akira Iwase[1], Nobutaka Mitsuda[2], Momoko Ikeuchi[1], Chie Koizuka[3], Koichi Kawamoto[4], Jun Imamura[3], Hiroshi Ezura[4], Keiko Sugimoto[1] ([1]RIKEN CSRS, [2]AIST Bioproduct. Res. Inst., [3]Grad. Sch. of Agri., Tamagawa Univ., [4]Univ. Tsukuba)

■ 生殖器官の発生・分化

PF079　イネにおける芒（のげ）形成遺伝子の同定と栽培化プロセスにおける考察
古田智敬[1]，上原奏子[1]，米田典夫[1]，安井秀[2]，吉村淳[2]，芦苅基行[1]（[1]名古屋大学 生物機能研究センター，[2]九州大学）

PF080　イネの生殖器官発達におけるオートファジーの新たな役割
来須孝光[1,2]，花俣繁[2]，小谷野智子[2]，久保貴彦[3]，八木智華子[2]，野口祐平[2]，北畑信隆[2]，二平耕太朗[2]，永田典子[4]，大西孝幸[5]，岡咲洋三[6]，石川雅也[7]，和田慎也[8]，宮尾安藝雄[9]，斉藤和季[6]，多田雄一[1]，石田宏幸[8]，木下哲[5]，倉田のり[3]，朽津和幸[2,10]（[1]東京工科大・応用生物，[2]東京理科大・理工・応用生物，[3]国立遺伝研･系統生物，[4]日本女子大･理･物質生物科学，[5]長浜バイオ大・バイオサイエンス，[6]理研・環境資源科学・統合メタボロミクス，[7]農業生物資源研・植物生産生理機能，[8]東北大・農・植物栄養生理，[9]農業生物資源研・先端ゲノム，[10]東京理科大・総合研究機構）

PF081　シロイヌナズナの COPII 構成因子 Sec23 の遺伝子破壊株に見られる花の形態異常に対するマイクロアレイ解析
田中優史[1]，重信秀治[2]，中川強[1]（[1]島根大学・総科センター・遺伝子，[2]基生研）

■ 老化・細胞死

PF082　オルガネラヌクレアーゼ DPD1 は老化葉において葉緑体 DNA 分解に関与する
村上華穂，高見常明，坂本亘（岡山大・植物研）

PF083　DPD1 の機能欠損は老化葉の葉緑体遺伝子発現に影響する
高見常明，村上華穂，坂本亘（岡大・植物研）

PF084　鉄欠乏オオムギ下位葉の老化に伴って早期に発現が誘導される遺伝子の解析
樋口恭子，小林奈保子，内田裕也，齋藤彰宏（東京農業大学 応用生物科学部 生物応用化学科 植物生産化学研究室）

■ 成長制御

PF085　*OsGLK1* Regulates Cell Differentiation and Metabolic Functions in Bamboo Pn (rpc00047) Cells
Shinjiro Ogita[1], Taiji Nomura[1], Fumiaki Hirose[2], Hiroaki Ichikawa[2], Yasuo Kato[1] ([1]Biotechnology Research Center, Toyama Prefectural University, [2]National Institute of Agrobiological Sciences)

PF086　*ERECTA* 受容体シグナリングによるシロイヌナズナ胚軸維管束の二次成長制御機構の解析
池松朱夏[1,2]，野田口理孝[3]，東山哲也[1,2,3]，鳥居啓子[1,4,5]，田坂昌生[6]，打田直行[1,6]（[1]名古屋大・WPI-ITbM，[2]名古屋大・理，[3]JST-ERATO，[4]ワシントン大，[5]HHMI，[6]NAIST・バイオ）

PF087　シロイヌナズナ胚軸の維管束の肥大成長に関わるシグナルクロストークの解析
松原健太[1,2,3]，池松朱夏[1,3]，平川有宇樹[1]，東山哲也[1,3,4]，鳥居啓子[1,5,6]，田坂昌生[2]，打田直行[1,2]（[1]名古屋大・WPI-ITbM，[2]NAIST・バイオ，[3]名古屋大・理，[4]JST-ERATO，[5]ワシントン大，[6]HHMI）

PF088　*ERECTA* ファミリー変異体の解析から探る茎頂分裂組織の新規制御機構
木村友香[1]，田坂昌生[1]，打田直行[2]（[1]NAIST・バイオ，[2]名古屋大・WPI-ITbM）

PF089　分泌性ペプチドホルモン EPFL4/6 とその受容体 ERECTA による花茎伸長制御の解析
野中菜乃美[1]，池松朱夏[2,3]，田坂昌生[1]，打田直行[1,2]（[1]NAIST・バイオ，[2]名古屋大・WPI-ITbM，[3]名古屋大・理）

PF090　大気中二酸化窒素は正の植物成長調節因子である
高橋美佐[1]，坂本敦[1]，塚谷裕一[2]，森川弘道[1]（[1]広島大・院理，[2]東大・院理）

■ 植物ホルモン・成長調節物質

PF091　Actin isovariant ACT7 regulates root meristem development through modulating PIN1 mediated auxin transport
Takahiro Numata[1], Muthugapatti Kandasamy[2], Richard Meagher[2], Abidur Rahman[1] ([1]Grad. CRC.,Univ. Iwate, [2]Genetics. Sci.,Univ. Georgia)

PF092　Is the origin of strigolactones a photo-oxidation product from carotenoids?
Tadasu Teramoto[1], Koichi Yoneyama[2], Kohki Akiyama[3], Shinjiro Yamaguchi[4], Nobuhiro Hirai[1] ([1]Grad. Sch. Agric., Kyoto Univ., [2]Weed Sci. Center, Utsunomiya Univ., [3]Grad. Sch. Life & Environ. Sci., Osaka Pref. Univ., [4]Grad. Sch. Life Sci., Tohoku Univ.)

PF093　ABA-activated SnRK2s phosphorylate Ser^{45} in an ABA-responsive transcription factor AREB1
Ryosuke Terao[1], Kazuo Shinozaki[2], Taishi Umezawa[1,3] ([1]BASE, Tokyo Univ. Agric. Tech., [2]RIKEN CSRS, [3]PRESTO, JST)

PF094　ストリゴラクトン受容・シグナル伝達における D14 の機能とその分子メカニズムの解析
中村英光[1,2]，薛友林[1]，宮川拓也[1]，侯峰[1]，秦慧民[1]，福井康祐[1,2]，石玄[1]，伊藤瑛海[3]，伊藤晋作[1]，Seung-Hyun Park[1]，宮内裕美子[1]，浅野敦子[1]，戸塚直哉[1]，上田貴志[3,4]，田之倉優[1]，浅見忠男[1,2]（[1]東大院・農生科，[2]CREST，[3]東大院・理，[4]さきがけ）

PF095　雌雄異株植物ホウレンソウの内生植物ホルモン分析
西尾佳樹[1,2]，軸丸裕介[3]，関本均[2]，神谷勇治[3]，横田孝雄[4]，野村崇人[1]（[1]宇都宮大・雑草セ，[2]宇都宮大・院農，[3]理研・PSC，[4]帝京大・バイオ）

PF096　シロイヌナズナの根の生育に対するイソプロチオランの影響の解析
草島美幸，宮嵜樹，宮下範大，前原恭兵，與多垣内雄也，仲下英雄（東農大・生応化）

PF097　シュートの重力屈性位置決定に対するブラシノステロイドの役割
山崎千秋[1]，立川巴[1]，藤岡昭三[2]，中村郁子[1]，嶋田幸久[1]（[1]公立大学法人 横浜市立大学 木原生物学研究所 植物応用ゲノム科学部門，[2]理化学研究所）

PF098　オーキシン生合成阻害剤を用いたトマトにおけるオーキシン生理作用の解析
菊地理絵[1]，東出忠桐[2]，成川恵[1,3]，添野和雄[4]，嶋田幸久[1]（[1]横浜市大・木原生研，[2]農研機構・野茶研，[3]東理大・理工，[4]農研機構・近中四農研）

PF099　ストリゴラクトンはイネのラミナジョイント部の屈曲を負に制御する
山上大智[1,3]，伊藤晋作[1,2]，浅見忠男[1,3]（[1]東大院・農生科・応生化，[2]東農大・応生科・バイオ，[3]JST CREST）

PF100　ジベレリン生合成酵素遺伝子 *AtGA20ox2* のフィードバック制御機構の解析
森雅彦，渡邊哲史，深澤壽太郎，伊藤岳，高橋陽介（広島大学・院・理）

PF101　低濃度レベルのオーキシンによって発現制御される新しいオーキシン応答性遺伝子群の発見
石田遥介[1]，筧雄介[1]，林謙一郎[2]，浅見忠男[3]，嶋田幸久[1]（[1]横浜市大・木原生研，[2]岡山理科大・生物化学，[3]東京大院・農生科）

PF102　薬用植物スコパリア由来の 2 種の *ent*-kaurene oxidase の単離と発現解析
市谷圭，馬渕彩香，山村良美，黒崎文也（富山大院・薬）

PF103　薬用植物スコパリア由来の環化酵素 *ent*-kaurene synthase の機能解析
大下絢子，山村良美，黒崎文也（富山大院・ 薬）

PF104　SnRK2-substate 1 negatively regulates ABA signaling in Arabidopsis
Kozue Ishizuka[1], Risa Suzuki[1], Toshinori Kozaki[2], Kazuo Ishii[2], Kazuo Shinozaki[3], Taishi Umezawa[1,4] ([1]BASE, Tokyo Univ. Agric. Tech., [2]Agric. Genome, Tokyo Univ. Agric. Tech., [3]RIKEN CSRS, [4]PRESTO, JST)

PF105　根圏高 pH 条件におけるオオムギ根伸長とサイトカイニンの関係
太田紗津記[1]，榊原均[2]，小嶋美紀子[2]，三輪睿太郎[1]，樋口恭子[1]（[1]東農大・院・農化，[2]理研環境資源科学研究センター）

PF106　シロイヌナズナの脇芽の生長と根の拡散生長は窒素栄養により制御される
杉浦菜月[1]，米山香織[1]，来生貴也[1]，謝肖男[1]，山口信次郎[2]，米山弘一[1]，野村崇人[1]（[1]宇都宮大・雑草セ，[2]東北大・生命科学）

PF107　培養細胞を用いた根寄生植物 *Striga hermonthica* の内生ストリゴラクトン分析
阿部聡子[1]，謝肖男[1]，来生貴也[1]，米山香織[1]，吉田聡子[2]，白須賢[2]，米山弘一[1]，野村崇人[1]（[1]宇都宮大・雑草セ，[2]理研・環境資源セ）

PF108　タマネギの成長段階による 6 種類の *FT* 遺伝子の発現量の変化
田頭みなみ，金田剛史（愛媛大学理工学研究科 環境機能科学専攻 植物形態学研究室）

■ その他

PF109　トマトを用いた連続光障害の分子遺伝学的解析
後藤弘爾，田村勝徳（岡山県生物科学研）

PF110　花器官特異的プロモーターと転写因子キメラリプレッサーの組合せによる 新形質花きの創出
佐々木克友[1]，山口博康[1]，笠島一郎[1]，寺川輝彦[2]，大坪憲弘[1]（[1](独）農業・食品産業技術総合研究機構 花き研究所，[2]北興化学工業株式会社 開発研究所）

PF111　水素化金属がもたらす植物への影響と可能性
菅野晶子，渡辺弘恵，及川胤昭（(株）TAANE）

■ 細胞周期・分裂

PF112　単細胞紅藻シゾンにおける DNA 複製評価系の構築
大庭優作，山口智也，佐藤淳，千葉櫻拓，渡辺智，吉川博文（東京農大・バイオ・微生物分子遺伝学研究室）

PF113　Analysis of functional specificity of Arabidopsis SMR-type CDK inhibitors
Hidekazu Iwakawa[1], Masaaki Umeda[1,2] ([1]NAIST, [2]JST, CREST)

PF114　Functional Analysis of GRAS Family Transcription Factor that Regulates Asymmetric Cell Division in *Physcomitrella patens*
Yutaro Saiki[1], Ayako Ichiriki[1], Minoru Kubo[2], Yutaka Suzuki[3], Sumio Sugano[3], Mitsuyasu Hasebe[2,4,5], Tomomichi Fujita[6] ([1]Grad. Sch. Life Sci., Univ. Hokkaido, [2]ERATO, JST, [3]Grad. Sch. Frontier Sci., Univ. Tokyo, [4]Sch. Life Sci., SOKENDAI, [5]Div. of Evol. Biol., NIBB, [6]Grad. Sch. Sci., Univ. Hokkaido)

PF115　植物ゲノムの恒常性維持に働く DNA 損傷応答因子のマスターレギュレーター SOG1 の制御メカニズム
愿山（岡本）郁[1,2]，小林純也[3]，木村成介[1]（[1]京産大・総合生命，[2]日本学術振興会，[3]京大・放生研）

PF116　細胞質分裂におけるイネ NACK の機能解析
駒井健太（長浜バイオ大学 植物遺伝学研究室）

PF117　塩ストレス下の植物において見られる R1R2R3-Myb による細胞周期の抑制
奥村徹[1]，伊藤正樹[1,2]（[1]名古屋大・院・生命農学，[2]JST, CREST）

PF118　細胞質分裂を制御する MAPK の下流因子の探索: 新奇キネシンタンパク質の機能解析
笹部美知子[1]，西村慎吾[2]，松永幸大[3]，町田泰則[2]（[1]弘前大・農学生命・生物，[2]名大院・理・生命，[3]東理大・理工・応用生物）

■ オルガネラ

PF119　シロイヌナズナにおいてグリコール酸/グリセリン酸トランスポーターを コードする *AtLrgB/PLGG1* のヒメツリガネゴケ相同遺伝子 *PpLrgB* の機能解析
中原仁[1]，武智克彰[1]，明賀史純[2]，佐藤博[3]，滝尾進[1,4]，高野博嘉[1]（[1]熊本大・院自然科学，[2]理研CSRS・機能開発，[3]熊本大・理学，[4]熊本大・沿岸域センター）

PF120　CFM1, a nucleus-encoded CRM domain protein involved in the splicing of chloroplast group II introns in higher plants
Yukari Asakura[1], Chiyori Arai[1], Syouta Kunihiro[1], Taiichiro Seki[1], Alice Barkan[2], Isao Hasegawa[1] ([1]Dept. Chem. Life Sci., Coll. Bioresour. Sci., Nihon Univ., [2]IMB, Univ. of Oregon, USA)

PF121　Targeting of a polytopic membrane protein to the inner envelope membrane of chloroplasts involves multiple transmembrane segments
Kumiko Okawa[1], Hitoshi Inoue[2], Fumi Adachi[1], Katsuhiro Nakayama[1], Yasuko Ito-Inaba[3], Schnell Danny[2], Susumu Uehara[1], Takehito Inaba[1] ([1]Fac. Agr., Univ. Miyazaki, [2]Dept. of Biochem. and Mol. Biol., Univ. Massachusetts, [3]Tenure Track System, Univ. Miyazaki)

PF122　概日リズム情報の共有に関わる核と葉緑体間のシグナル伝達
石井健雄[1]，加藤麻衣子[1]，Zeenat B. Noordally[2]，Kelly A. Atkins[3]，Jelena Kusakina[3]，東美由紀[4]，田中寛[4,5]，Antony N. Dodd[3]，華岡光正[1,4]（[1]千葉大・院園芸，[2]University of Edinburgh，[3]University of Bristol，[4]東大・分生研，[5]東工大・資源研）

PF123　Quantification of a bacterial alarmone ppGpp, accumulated in Arabidopsis thaliana, by using LC-ESI-MS/MS
井原雄太[1]，太田啓之[2]，増田真二[2]（[1]東京工業大学院生命理工学研究科生体システム専攻，[2]東京工業大学 バイオ研究基盤支援総合センター）

PF124　Investigating the role of RNA binding protein complexes in prolamine mRNA sorting to the endoplasmic reticulum
Kosuke Ariga[1], Jack Harvey Chambers[1], James Andrew Hage[1], Lasse Wetterstad Jensen[1], Shoko Ueno[1], Sorata Gus Watanabe[1], Andrew James Crofts[1,2] ([1]Akita International University, [2]Akita Prefectural University)

PF125　Characterization of a Conserved Substrate Selector ClpS1 for Plastid Clp Protease System in Arabidopsis
Kenji Nishimura[1], Yukari Asakura[1], Giulia Friso[1], Jitae Kim[1], Soo-hyun Oh[1], Heidi Rutschow[1], Lalit Ponnala[2], Klaas J. van Wijk[1] ([1]Dept. of Plant Biology, Cornell Univ., [2]Computational Biology Service Unit, Cornell Univ.)

PF126　Subcellular Localization Of Peroxisomes During Spermatogenesis In *Chara braunii*
Wataru Nakano, Yasuko Hayashi (Grad. Sci. Tech.,Niigata Univ.)

PF127　Localization Analysis Of Proteins That Are Involved In Material Transport To Glyoxysomes In *Arabidopsis thaliana*
Masayoshi Otomo[1], Shoji Mano[2], Makoto Hayashi[3], Mikio Nishimura[2], Yasuko Hayashi[1] ([1]Dept. Env., Fac. Sci., Univ. Niigata, [2]Dept. Cell Biol., Natl. Inst. Basic Biol., [3]Dept., Biosci., Nagahama Inst. Bio-sci. Tech.)

PF128　シロイヌナズナの葉緑体リボソーム 30S サブユニット形成における補助因子の機能解析
山崎覚[1]，鈴木康祐[2]，明賀史純[3]，篠崎一雄[3]，本橋令子[1,2]（[1]静岡大･農，[2]静岡大･院･農，[3]理研･CSRS）

PF129　葉緑体とミトコンドリアのゲノム安定性維持におけるヒメツリガネゴケ MSH1 の役割
小田原真樹，木下善仁，勝田小夜子，原田千鶴，関根靖彦（立教大学理学部生命理学科）

PF130　ミトコンドリア局在機械受容チャネル MSL1 の機能解析
艾原佐紀[1]，原田尚実[1]，市川美恵[1]，古市卓也[2]，椎名隆[1]（[1]京府大・生命，[2]岐阜女大・家政）

PF131　シロイヌナズナにおける RelA/SpoT ホモログ RSH を介した C/N バランスの制御機構
朴木里奈[1]，前川未来翔[1]，水澤一樹[1]，太田啓之[2,3,4]，増田真二[2]（[1]東工大・院生命理工，[2]東工大・バイオセンター，[3]JST・CREST，[4]ELSI）

PF132　シロイヌナズナにおける *LINC* 遺伝子破壊株の表現型解析
坂本勇貴[1]，杉山智哉[2]，松永幸大[2]，高木慎吾[1]（[1]大阪大・院・理，[2]東理大・理工・応用生物）

■ 細胞骨格

PF133　NIMA 関連キナーゼによるチューブリンのリン酸化は細胞成長に関与する
本瀬宏康[1]，高谷彰吾[1]，酒井達也[2]，小澤真一郎[1]，高橋裕一郎[1]，高橋卓[1]（[1]岡山大学・院・自然科学，[2]新潟大学・院・自然科学）

PF134　ヒメツリガネゴケにおけるキネシン 14 の局在・機能解析
山田萌恵，仁科桃子，五島剛太（名古屋大学・理・生命理学）

PF135　ヒメツリガネゴケ原糸体における細胞質微小管生成過程の可視化
中岡由貴[1,2]，谷知巳[2]，五島剛太[1,2]（[1]名古屋大学院・理・生命，[2]米国海洋生物学研究所）

PF136　レタスの根毛形成に必要な表層微小管配列ランダム化を誘導する光の種類の特定
小川真沙実，針谷若菜，西村拓海，小野寺瞳，高橋秀典（東邦大・院理学）

■ 細胞壁

PF137　イネ NST 転写因子による双子葉植物の木質改変
坂本真吾[1]，吉田光毅[2]，高木優[1,3]，光田展隆[1]（[1]産総研・生物プロセス，[2]大成建設･技術センター，[3]埼玉大・環境科学）

PF138　イネのペクチンメチル化関連遺伝子変異体の解析
長谷川和也，鎌田志保美，中村敦子，青原勉，佐藤忍，岩井宏暁（筑波大 生命環境）

PF139　Analysis of a cell wall protein involved in cell polarity in protonemata of *Physcomitrella patens*
Junling Ren (Hokkaido Univ.,Grad.Sch.of Life Sci.)

PF140　ヘミセルロース改変イネにおけるいもち病害抵抗性反応の解析
小原崇司[1]，中村敦子[1]，住吉美奈子[1]，長谷川和也[1]，青原勉[1]，兵頭洋美[1]，南栄一[2]，佐藤忍[1]，岩井宏暁[1]（[1]筑波大・生命環境，[2]生物研）

PF141　Functional analysis of *Tracheary Element Differentiation-Related6 (TED6)* and *TED7* in secondary cell wall formation
Nur Ardiyana Rejab[1], Yuki Muto[2], Satoshi Endo[3], Ko Kato[1], Masatoshi Yamaguchi[4,5], Arata Yoneda[1], Taku Demura[1,6] ([1]Biol. Sci., NAIST, [2]UEDA-SEIYU CO.,LTD., [3]Biol. Sci., Univ. Tokyo, [4]IEST, Saitama Univ., [5]PRESTO, JST, [6]CSRS, RIKEN)

PF142　Immunocytochemical detection of rhamnogalacturonan II on forming cell plates
Ye Zhou, Tatsuya Awano, Keiji Takabe, Masaru Kobayashi, Toru Matoh (Grad. Sch. Agr., Kyoto Univ.)

PF143　Processing and membrane trafficking of a cell-wall enzyme, AtPME35
Rin Asaoka, Shoko Hongo, Ryusuke Yokoyama, Kazuhiko Nishitani (Grad. Sch. Life Sci., Tohoku Univ.)

PF144　Analysis of cell wall regeneration process of Arabidopsis mesophyll protoplasts
Daisen Kohama[1], Hiroaki Kuki[2], Rin Asaoka[2], Naoki Shinohara[2], Ryusuke Yokoyama[2], Kazuhiko Nishitani[2] ([1]Faculty of Science, Tohoku University, [2]Graduate School of Life Sciences, Tohoku University)

■ 小胞輸送

PF145　細胞増殖期および定常状態期における分泌系オルガネラの電顕アトラス解析
豊岡公徳[1]，佐藤繭子[1]，朽名夏麿[2]，若崎眞由美[1]，澤木史江[3]，桧垣匠[2]，馳澤盛一郎[2]，永田典子[3]，松岡健[4]（[1]理研・CSRS，[2]東京大・院新領域，[3]日本女子大・理，[4]九州大院・植物栄養）

PF146　BEX1/ARF1A1C is required for BFA-sensitive recycling of PIN auxin transporters and auxin-mediated development in Arabidopsis
Hirokazu Tanaka[1], Tomasz Nodzynski[2], Saeko Kitakura[1], Tomomi Ishikawa[1], Tatsuo Kakimoto[1], Jiri Friml[2,3] ([1]Grad. Sch. Sci., Osaka Univ., [2]CEITEC, Masaryk Univ., [3]IST Austria)

PF147　シロイヌナズナクラスリン輸送における AP 複合体と積荷タンパク質との相互作用の解析
松波絵里香[1]，中川強[2]，地阪光生[1]，長屋敦[1]，横田一成[1]，西村浩二[2]（[1]島根大・生物資源，[2]島根大・総科セ・遺伝子）

PF148　Ni 過剰に曝されたタバコ培養細胞内で形成される酸性小胞様コンパートメントの解析
山口萌，齋藤彰宏，三輪睿太郎，樋口恭子（東農大・院・農化）

■ 転写制御

PF149　シアノバクテリア *Synechocystis* sp. PCC 6803 における *cpc* オペロン近傍の ncRNA の解析
工藤恒[1]，川島広太[2]，上田恭彬[1]，Wolfgang R. Hess[3]，日原由香子[2]（[1]埼玉大・理，[2]埼玉大・院・理工，[3]フライブルグ大学）

PF150　能動過程としてのシアノバクテリアの大規模転写抑制機構

高野壮太朗[1]，園池公毅[2]，岩崎秀雄[1]（[1]早稲田大学 理工学術院 先進理工学研究科 電気・情報生命専攻，[2]早稲田大学 教育・総合科学学術院）

PF151　窒素条件で異なるヒメツリガネゴケの硝酸イオン輸送体遺伝子 *NRT2；1* と *NRT2;3* の発現の制御機構の解析

能手良佳[1]，小澤藍子[1]，小内清[2,3]，辻本良真[1]，高谷信之[1]，前田真一[1]，石浦正寛[2,3]，小俣達男[1]（[1]名大院・生命農，[2]名大・遺伝子，[3]JST先端）

PF152　モウセンゴケ属植物 3 種の NO_3^-耐性の差異を決定する要因の解析

兼松璃々子[1]，豊田歩[1]，上坂一馬[2]，上野薫[1]，小俣達男[2]，南基泰[1]，愛知真木子[1]（[1]中部大・院・応用生物，[2]名古屋大・院・生命農）

PF153　Genome-wide study of KNOX regulatory network reveals brassinosteroid catabolism genes important for shoot meristem function in rice

Katsutoshi Tsuda[1], Nori Kurata[2], Hajime Ohyanagi[2], Sarah Hake[1] ([1]University of California, Berkeley, [2]National Institute of Genetics)

PF154　イネのサクラネチン生合成酵素遺伝子 *OsNOMT* のジャスモン酸依存的な発現機構の解析

小川哲史，野尻秀昭，岡田憲典（東大・生物生産工学研究センター）

PF155　ヒメツリガネゴケにおける Group-A bZIP 転写因子の機能解析

猿橋正史[1]，佐藤加奈[2]，竹澤大輔[1]，坂田洋一[2]（[1]埼玉大院・理工学，[2]東京農大・バイオ）

PF156　Analysis of the transcriptional regulation mechanism of VND and NST in secondary cell wall formation

Taizo Tamura[1], Masatoshi Yamaguchi[2,3], Hitoshi Endo[1], Arata Yoneda[1], Minoru Kubo[1], Ko Kato[1], Taku Demura[1,4] ([1]Grad. Sch. Bio., NAIST, [2]IEST, Univ. Saitama, [3]PRESTO, JST, [4]CSRS, RIKEN)

PF157　Screening of Heat shock transcriptional factor A1d interacting proteins using bimolecular fluorescence complementation (BiFC) analysis in *Escherichia coli*

Ryota Nosaka[1], Tomomi Nakamura[1], Kota Kobayashi[1], Noriaki Tanabe[2], Takanori Maruta[3], Yukinori Yabuta[4], Masahiro Tamoi[1,2], Shigeru Shigeoka[1,2] ([1]Dept. Adv. Biosci., Grad. Sch. Agr., Kinki Univ., [2]Dept. Adv. Biosci., Fac. Agr., Kinki Univ., [3]Dept. Life Sci. Biotechnol., Fac. Life Environ. Sci., Shimane Univ., [4]Fac. Agr., Tottori Univ.)

PF158　シロイヌナズナ熱ショック転写因子 HsfA4c による HsfA2 の発現を介した熱ストレス応答機構

野坂亮太[1]，薮田行哲[2]，丸田隆典[3]，田茂井政宏[1]，重岡成[1]（[1]近畿大院・農・バイオ，[2]鳥取大・農・生資環，[3]島根大・生資科・生命工）

PF159　MYB 転写因子はシロイヌナズナ ACS6 の ROS 応答に関与する

安藤福代[1]，太田優子[2]，宮倉友貴[2]，和田卓也[2]，須藤隆[1]，園田雅俊[1,2]，佐藤隆英[1,2]（[1]千葉大・院・園芸，[2]千葉大・園芸）

■ 転写後制御

PF160　*In vitro* RNA 編集における RNA 結合タンパク質の経時変化

立川誠[1]，長谷川綾香[2]，八木祐介[3]，高林厚史[2,4]，種村尚典[2]，溝田香織[2]，諏佐瑞穂[1]，野村明子[1,5]，阪本康司[2]，石浦正寛[2]，若杉達也[5]，中村崇裕[3]，小保方潤一[1,2]（[1]京都府大・院生命環境，[2]名大・遺伝子，[3]九大・農，[4]北大・低温研，[5]富山大・理）

PF161　植物 microRNA による遺伝子発現抑制の特異性に関する研究

唐戸俊介[1]，都筑正行[1]，竹田篤史[2]，渡邊雄一郎[1]（[1]東京大・総合文化，[2]立命館大・院生命科学）

PF162　高温ストレス応答における RNA 分解タンパク質 DCP 凝集機構とその役割

元村一基，Nhat Quy Le Thi，濱田隆宏，渡邊雄一郎（東大・院総合文化）

PF163　タバコ葉緑体 *in vitro* スプライシング系の改良

湯川眞希[1,2]，長谷川桂子[1]，杉浦昌弘[1,2]（[1]名市大院・システム自然，[2]名大・遺伝子）

PF164　ファストプランツの成長過程における α-tubulin Lys^{40} アセチル化修飾の動態解析

中川海人，網野翔，今村綾（長浜バイオ大学大学院バイオサイエンス研究科植物遺伝学研究室）

■ 糖質・脂質

PF165 *Synechocystis* sp. PCC6803 の Slr2019 は酸耐性に必須である
松橋歩[1]，田原寛子[1]，市川雄太[1]，内山純爾[2]，小川覚[3]，吉原利一[4]，太田尚孝[1,2]（[1]東理大・理，[2]東理大・総研・RNA，[3]三重大・医，[4]電中研）

PF166 高温ストレス条件下におけるシロイヌナズナ葉の脂質解析
東泰弘[1]，岡咲洋三[1]，明賀史純[1]，篠崎一雄[1]，斉藤和季[1,2]（[1]理研CSRS，[2]千葉大・院薬学）

PF167 Structural modification of glycogen in cyanobacteria by heterologous expression of branching enzymes
Yuumi Sugawara, Nobuyuki Hagiwara, Eiji Suzuki (Fac. Bioresource Sci., Akita Pref. Univ.)

PF168 Analysis on triacylglycerol metabolisms in *Nannochloropsis* NIES-2145 in nutrient deplete conditions
Takashi Nobusawa[1,2], Hiroyuki Ohta[1,2,3] ([1]Center for Biological Resources and Informatics, Tokyo Tech., [2]JST, CREST, [3]ELSI, Tokyo Tech.)

PF169 種子登熟初期から後期にかけて高発現するプロモーターの構築
青柳俊広，福田夏美，木嵜暁子（静岡大学理学部）

PF170 シロイヌナズナ 12S グロブリン変異体の遺伝子破壊と *BnDGAT1* の過剰発現の効果
稲野辺愛[1]，工藤一正[2]，加藤あすか[1]，藤木友紀[1,2]，西田生郎[1,2]（[1]埼玉大・理，[2]埼玉大・院・理工）

PF171 PAH1/PAH2 過剰発現体における窒素欠乏耐性機構の解析
吉竹悠宇志[1]，佐藤諒一[2]，村川雅人[2]，円由香[3]，駿河航[2]，中村友輝[4]，下嶋美恵[3]，太田啓之[3,5,6]（[1]東工大・生命理工学，[2]東工大・院生命理工学，[3]東工大・バイオセンター，[4]台湾アカデミアシニカ・植物及微生物学研究所，[5]JST・CREST，[6]東工大・ELSI）

PF172 緑藻クラミドモナスのホスファチジルコリンに関する研究
桜井健太[1,2]，佐藤直樹[1,2]（[1]東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻生命環境科学系，[2]JST, CREST）

PF173 リン欠乏時のシロイヌナズナ葉における小胞体-葉緑体間の脂質供給経路の解析
大谷亮介[1]，円由香[2]，下嶋美恵[2]，増田真二[2,4]，太田啓之[2,3,4]（[1]東工大・院生命理工学，[2]東工大・バイオ研究基板支援総合センター，[3]JST・CREST，[4]ELSI）

PF174 リン欠乏時の *Arabidopsis thaliana* の葉における TAG 蓄積に関与する新規因子 *CXL1* の解析
望月仁志[1]，成瀬孝史[2]，下嶋美恵[3]，太田啓之[3,4,5]（[1]東工大・院生命理工学，[2]産総研・生命情報工学研究センター，[3]東工大・バイオセンター，[4]JST・CREST，[5]東工大・地球生命研）

PF175 車軸藻植物門クレブソルミディウムの細胞外脂質の分析
近藤智[1,2]，堀孝一[3,4]，信澤岳[3,4]，大高きぬ香[1]，下嶋美恵[3]，太田啓之[1,3,4,5]（[1]東工大院・生命理工，[2]北興化学工業(株)，[3]東工大・バイオセンター，[4]JST, CREST，[5]東工大・地球生命研究所）

■ 二次代謝

PF176 Cloning and Characterization of Copper Amine Oxidase from Quinolizidine-alkaloid Accumulating *Lupinus angustifolius*
Somnuk Bunsupa[1], Kaori Aoyagi[1], Kazuki Saito[1,2], Mami Yamazaki[1] ([1]Grad. Sch. Pharm., Chiba Univ., [2]RIKEN CSRS)

PF177 Carotenoid Biosynthesis genes in liverwort, *Marchantia polymorpha* (2)
Miho Takemura[1], Takashi Maoka[1,2], Norihiko Misawa[1] ([1]Res. Inst. Biores. Biotech., Ishikawa Pref. Univ., [2]Res. Inst. Prod. Dev.)

PF178 Biosynthetic pathways of momilactones, a specialized diterpene compound produced in evolutionally diverse plants moss and rice
Kaoru Fujiwara[1], Sho Miyazaki[2], Koji Miyamoto[3], Hisakazu Yamane[3], Hideaki Nojiri[1], Hiroshi Nozaki[4], Ken-ichiro Hayashi[4], Hiroshi Kawaide[2], Kazunori Okada[1] ([1]Biotechnology Research Center, The University of Tokyo, [2]Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology, [3]Department of Bioscience, Teikyo University, [4]Department of Biochemistry, Okayama University of Science)

PF179 イネ二次代謝形質のゲノムワイドアソシエーション解析
松田史生[1,2]，岡咲洋三[1]，中林亮[1]，Zhigang Yang[1]，米丸淳一[3]，江花薫子[3]，矢野昌裕[3]，斉藤和季[1,4]（[1]理研CSRS，[2]阪大院・情報科学，[3]農業生物資源研究所，[4]千葉大院・薬）

PF180 緑化毛状根を用いたフラボノール合成酵素遺伝子の機能解析
島村昌幸，明石智義，青木俊夫（日本大・生物資源）

PF181 *EcbHLH1* を発現抑制したハナビシソウ形質転換体における生合成酵素遺伝子の発現およびアルカロイド蓄積の解析
本村幸也，山田泰之，島田友恵，佐藤文彦（京大院 生命科学）

PF182　Arabidopsis Response Regulator 14 の生理機能解析
橋川博一[1]，高林佑輔[2]，萬年一斗[2]，高橋征司[2]，本橋令子[3]，古山種俊[4]，中山亨[2]（[1]東北大学工学部，[2]東北大学工学研究科，[3]静岡大学大学院農学研究科，[4]東北大学多元物質科学研究所）

PF183　cDNA Cloning And Characterization Of Prenyltransfeases For Coumarins From Grapefruits
Ryosuke Munakata[1], Alexandre Olry[2], Masaharu Mizutani[3], Célia Krieger[2], Fazeelat Karamat[2], Alain Hehn[2], Akifumi Sugiyama[1], Kazufumi Yazaki[1], Frédéric Bourgaud[2] ([1]RISH, Kyoto Univ., [2]Nancy Univ., [3]Grad. Sch. Agric. Sci., Kobe Univ.)

PF184　*Hevea brasiliensis* のシス型プレニル鎖延長酵素遺伝子群のクローニングと機能解析
青木裕一，鈴木一樹，高橋征司，中山亨（東北大学大学院 工学研究科）

PF185　Environmentally Benign Process for the Preparation of Antimicrobial Tulipalin B from Tulip Biomass
Shohei Kawakami, Emiko Hayashi, Taiji Nomura, Shinjiro Ogita, Yasuo Kato (Biotechnol. Res. Center, Toyama Pref. Univ.)

PF186　*Botryococcus braunii* B 品種におけるスクアレンエポキシダーゼ様遺伝子の単離と機能解析
内田英伸[1,2]，住本惟光[1,2]，福永有佑[1,2]，松永茂樹[1,2]，岡田茂[1,2]（[1]東大・農，[2]JST・CREST）

PF187　RNA-seq によるイワタバコ科植物シンニンギア花弁のトランスクリプトーム解析
西原昌宏，山田恵理，藤田晃平，佐々木伸大（岩手生工研セ）

■ 細胞内輸送・蓄積・分泌

PF188　Biosynthesis of D-galactose by UDP-glucose 4-epimerase 4 is required for endomembrane organization in root epidermal cells of Arabidopsis thaliana.
上原匡貴[1]，汪社亮[1]，神谷岳洋[2]，重信秀治[3]，山口勝司[3]，藤原徹[2]，内藤哲[1,4]，高野順平[1]（[1]北大院農，[2]東大院農，[3]基生研，[4]北大院生命）

PF189　オウレン液胞膜に局在するベルベリン輸送体の解析
高梨功次郎[1]，山田泰之[2]，佐藤文彦[2]，矢崎一史[1]（[1]京大・生存研，[2]京大院・生命科学）

■ 吸収・転流・蒸散

PF190　イネの節で局在する輸送体 OsZIP3 は亜鉛の優先的分配に関与する
佐々木明正，山地直樹，柏野美帆，三谷奈見季，馬建鋒（資源植物科学研究所 岡山大学）

■ 生体膜・イオン輸送

PF191　アブシジン酸によるシロイヌナズナ黄化芽生えの伸長抑制の分子機構
林優紀[1]，高橋宏二[1]，井上晋一郎[1]，木下俊則[1,2]（[1]名古屋大・院理，[2]名古屋大・WPI-ITbM）

PF192　ホウ酸トランスポーター AtBOR3 は低ホウ素条件下における根の伸長抑制に必要である
高田茂樹[1]，北翔一[2]，岩元明敏[2]，三輪京子[3]，内藤哲[1]，高野順平[1]（[1]北海道大学農学院，[2]東京学芸大学 教育学部 自然科学系広域科学講座生命科学分野，[3]北海道大学 創成研究機構）

PF193　高気温処理がイネ種子アクアポリン発現量に及ぼす影響、及び GUS によるイネ種子特異的アクアポリンの組織発現特性解析
林秀洋[1,2]，村井（羽田野）麻理[1]，石川（櫻井）淳子[1]（[1]農研機構・東北農研，[2]岩手大・院農学）

PF194　VHP1-mGFP による自然な液胞ダイナミクスと H^+-PPase 発現様式の観察
瀬上紹嗣，前島正義（名古屋大学大学院生命農学研究科）

PF195　アメリカネムノキの就眠運動を駆動するカリウム放出型チャネル
石丸泰寛[1]，及川貴也[1]，浜本晋[2]，楊剛強[1]，魚住信之[2]，上田実[1]（[1]東北大学大学院理学研究科，[2]東北大学大学院工学研究科）

PF196　ヨシ根における Na 輸送体様遺伝子の発現パターンの特徴
鎌田裕，樋口恭子（東農大・院・農化）

PF197　シロイヌナズナ実生のシュートにおけるアクアポリン遺伝子 *PIP2;1* の発現と根の水動態との関連性の検討
長井理香[1]，土平絢子[2]，前島正義[2]，奈良久美[3]（[1]奈良女子大学大学院人間文化研究科生物科学専攻，[2]名古屋大学大学院生命農学研究科，[3]奈良女子大学研究院自然科学系生物科学領域）

PF198　植物ポリアミントランスポーター AtLAT ファミリーの機能解析
藤田美紀，篠崎一雄（理化学研究所環境資源科学研究センター）

■ その他

PF199　酸感受性変異体 *stop1* の低酸素ストレス応答の解析
榎本拓央，伊藤弘樹，小林安文，小林佑理子，小山博之（岐阜大.応用生物）

PF200　RNA polymerase III-dependent novel non-coding RNAs in Arabidopsis and rice
Wu Juan, Toshihiro Okada, Toru Fukushima, Maho Nishida, Toshiyuki Nagai, Yasushi Yukawa (Grad. Schl. Nat. Sci., Nagoya City Univ.)

■ 情報伝達

PF201　シロイヌナズナの機械受容チャネル MCA2 を欠損した株の新たな表現型
中野正貴，鮫島梨花，飯田秀利（東京学芸大学 教育学部 生命科学分野）

PF202　過酸化水素に対する転写応答のマイクロアレイ解析と転写制御配列の *in silico* 予測
日恵野綾香[1]，Naznin Most. Hushna Ara[1]，百町満朗[1,2]，澤木克亘[1]，小山博之[1,2]，樋口美栄子[3,4]，花田耕介[3,4]，松井南[4]，時澤睦朋[1]，趙成日[2]，山本義治[1,2,4]（[1]岐阜大・連農，[2]岐阜大・応生，[3]九工大・若手，[4]理研・CSRS）

PF203　Mg-キラターゼ I サブユニット 1 と Mg-プロトポルフィリン IX メチルトランスフェラーゼの気孔開度調節への関与
富山将和[1]，井上晋一郎[1]，都築朋[1]，曽田翠[1]，沖垣友季子[1]，森本小百合[1]，大石貴矢[1]，高橋宏二[1]，木下俊則[1,2]（[1]名大・院理・生命理学，[2]名大・WPI−ITbM）

PF204　孔辺細胞における青色光に依存した細胞膜 H^+-ATPase のリン酸化に関与するプロテインキナーゼの探索
林真妃[1]，井上晋一郎[1]，上野宜久[2]，高橋宏二[1]，木下俊則[1,3]（[1]名古屋大・院生命理学，[2]生物研，[3]名古屋大・WPI-ITbM）

PF205　Membrane rigidification under cold condition contributes to freezing tolerance mediated by MEKK1-MKK2-MPK4 cascade
Tomoyuki Furuya[1], Daisuke Matsuoka[1], Takashi Nanmori[1,2] ([1]Grad. Sch. Agr. Sci., Kobe Univ., [2]Research Center for Environmental Genomics, Kobe Univ.)

PF206　植物生産における旱生原理と情報伝達の応用 - 落花生の部分根系乾燥
秦斐斐[1]，徐会連[2]，常婷婷[3]，李鳳蘭[4]（[1]山東省落花生研究所，[2]公益財団法人自然農法国際研究開発センター，[3]河海大学，[4]東北農業大学）

PF207　植物生産における旱生原理と情報伝達の応用 - トマトに多量窒素施肥から由来する土壌塩漬
常婷婷[2]，徐会連[1]，徐啓聡[1]，李鳳蘭[3,4]，于立娜[3]，秦斐斐[5]（[1]公益財団法人自然農法国際研究開発センター，[2]河海大学，[3]日照市農業科学研究院，[4]東北農業大学，[5]山東省落花生研究所）

PF208　ヒメツリガネゴケの ABA シグナル伝達経路における PP2C 下流因子の解析
坪俊介[1]，桑村麻由里[1]，本多慶匡[2]，梅澤泰史[2]，竹澤大輔[3]，林隆久[1]，太治輝昭[1]，坂田洋一[1]（[1]東京農業大・バイオ，[2]東京農工大・院・BASE，[3]埼玉大学・院・理工学研究科）

■ 光受容体・光応答

PF209　赤潮渦鞭毛藻 *Karenia mikimotoi* の中層定位と光環境との関係
紫加田知幸[1]，宮村和良[2]，鬼塚剛[1]，坂本節子[1]，山口峰生[1]（[1]水研セ・瀬水研，[2]大分農水セ）

PF210　Analysis Of Phase Response Of Arabidopsis To Light Pulses With Different Wavelength.
Takayuki Ohara[1], Isao Tokuda[1], Shinya Okamura[2], Hirokazu Fukuda[2] ([1]Grad. Sch. Science & Engineering., Rits Univ., [2]Grad. Sch. Engineering., Osaka Prefecture Univ.)

PF211　A putatively distinct control of phototropism to blue-light and red-light in gametophytic shoots of the moss Physcomitrella patens
Liang Bao[1], Kotaro Yamamoto[2], Tomomichi Fujita[2] ([1]Hokkaido Univ., Grad. Sch. of Life Sci., [2]Hokkaido Univ., Fac. of Sci.)

PF212　フィトクロム相互作用因子 *VASCULAR PLANT ONE-ZINC FINGER* (*VOZ*) による暗所における植物の生長制御の解析
安居佑季子[1,2]，横藤陽[1]，平野博之[2]，河内孝之[1]（[1]京大院・生命科学，[2]東大院・理）

PF213　Tyrosine Phosphorylation Regulates the Activity of Phytochrome Photoreceptors
Kazumasa Nito[1,2], Catherine Wong[3], Mikio Nishimura[1], John Yates III[3], Joanne Chory[2,4] ([1]Cell Mech., NIBB, [2]Plant Bio., Salk, [3]Chem. Physiol., Scripps, [4]HHMI)

PF214　シロイヌナズナにおける強光・低温ストレス応答の関連解析
速水菜月[1]，石野はるか[1]，内藤彩乃[1]，日恵野綾香[1]，樋口美栄子[2,3]，花田耕介[2,3]，松井南[3]，山本義治[1,3]（[1]岐阜大,応用生物科学，[2]九州工業大学若手フロンティア研究アカデミー，[3]理化学研究所CSRS）

PF215　機能誘導系を利用した転写因子過剰発現系統より単離した光情報伝達変異体の解析
嶋田勢津子[1]，近藤陽一[1,2]，吉積毅[1]，岡義人[1,3]，堀井陽子[1]，栗山朋子[1]，川島美香[1]，松井南[1]（[1]理研・CSRS，[2]関東学院・工・物質生命，[3]Institute of Crop Science, The Chinese Academy of Agricultural Sciences）

PF216　クリプトクロムはシロイヌナズナにおける多様な低温応答の一端を担う
今井裕之[1]，河村幸男[1]，長谷あきら[2]，上村松生[1]（[1]岩手大・農・寒冷バイオ，[2]京都大・院・理）

■ UV 障害

PF217　UV-B ストレスがタバコ BY-2 培養細胞の増殖と生存率に与える影響
高橋真哉[1,2]，朽名夏麿[1]，竹内裕一[3]，馳澤盛一郎[1,2]（[1]東京大・院・新領域，[2]JST先端計測，[3]東海大・生物）

PF218　紫外線 UVB がウキクサのフロンド発生に及ぼす影響
顔暁露，長谷部大樹，日出間純（東北大・院・生命科学）

■ レドックス制御

PF219　ユーグレナにおけるチオレドキシンシステムの生理機能解明
玉木峻[1]，丸田隆典[1]，澤嘉弘[1]，重岡成[2]，石川孝博[1]（[1]島根大・生物資源・生命工，[2]近畿大・農・バイオ）

PF220　*Anabaena* sp. strain PCC 7120 における NifU 蛋白質による FeS クラスター形成は Trx に依存する
野亦次郎[1]，前田真希[2]，井須敦子[1]，井上和仁[2]，久堀徹[1]（[1]東工大・資源，[2]神奈川大・理・生物）

PF221　Cys-rich CuZn-SOD の SH 基はレドックス制御を受けるのか? —変異導入組換え SOD を用いた解析—
白江好友，小西章尋，河上恵理，金松澄雄（南九州大・食品）

PF222　葉緑体型 NADPH 加水分解酵素（AtNUDX19）はストレス/ホルモン応答のバランス制御に関与する
丸田隆典[1]，吉田幸史[2]，小川貴央[3]，田茂井政宏[2,3]，吉村和也[4]，重岡成[2,3]（[1]島根大・生資科・生命工，[2]近畿大院・農・バイオ，[3]近畿大・農・バイオ，[4]中部大・応生・食栄）

PF223　一過的発現系を用いたシロイヌナズナ ADP-リボース/NADH 加水分解酵素 (AtNUDX6, 7)が生物的／非生物的ストレス応答に及ぼす影響の解析
高田梨沙[1]，小川貴央[2]，村本亘平[3]，吉村和也[3]，田茂井政宏[1,2]，重岡成[1,2]（[1]近畿大院・農・バイオ，[2]近畿大・農・バイオ，[3]中部大院・応生・食栄）

■ 酸化ストレス

PF224　シロイヌナズナメタカスパーゼ遺伝子破壊体における葉緑体ストレスによる細胞死誘導解析
坪田卓也[1]，猪原瑠美[2]，加藤智也[1]，佐野才和[2]，上土井優貴[2]，岡部楓[2]，鈴木寛[1,2]，岩崎行玄[1,2]，林潤[2]（[1]福井県大・院生物資源，[2]福井県大・生物資源）

PF225　鉄欠乏耐性作物オオムギにおけるスーパーオキシドディスムターゼ（SOD）の鉄欠乏による誘導
樋口恭子，尾畑玲，齋藤彰宏（東農大・応生・化学）

■ 温度

PF226　シロイヌナズナ NF-YC10 は乾燥・高温ストレス誘導性転写因子 DREB2A と相互作用し、高温ストレス特異的な標的遺伝子発現に寄与する
佐藤輝[1]，溝井順哉[1]，田中秀典[1]，圓山恭之進[2]，秦峰[2]，刑部祐里子[1]，篠崎一雄[3]，篠崎和子[1]（[1]東大院・農学生命科学，[2]国際農研・生物資源利用，[3]理研・環境資源科学研究セ）

PF227　低温シグナル伝達因子 ICE1 と相互作用するカルモジュリン様タンパク質の解析
三浦謙治[1]，芝勇人[1]，中澤真知子[1]，Jian-Kang Zhu[2]（[1]筑波大・生命環境，[2]パドゥー大・園芸）

PF228　急激な温度降下で生じるセントポーリア葉の傷害誘導メカニズム
大西美輪[1]，角浜憲明[1]，高橋大輔[2]，七條千津子[1]，石崎公庸[1]，深城英弘[1]，上村松生[2,3]，鈴木祥弘[4]，三村徹郎[1]（[1]神戸大院・理，[2]岩手大院・連合農学，[3]岩手大・農・寒冷バイオ，[4]神奈川大・理）

PF229　シロイヌナズナにおける低温誘導性の転写因子遺伝子 *DREB1* の転写制御機構の解析
戸田智美[1]，城所聡[1]，溝井順哉[1]，篠崎一雄[2]，篠崎和子[1]（[1]東大院・農学生命科学，[2]理研・環境資源科学研究セ）

PF230　ダイズの環境ストレス応答に関わる DREB1 転写因子の機能解析
城所聡[1]，渡邉慶太郎[1]，大堀鉄平[1]，森脇崇[1]，圓山恭之進[2]，Nang Myint Phyu Sin Htwe[2]，藤田泰成[2]，溝井順哉[1]，篠崎一雄[3]，篠崎和子[1]（[1]東大院・農学生命科学，[2]国際農研・生物資源利用，[3]理研・環境資源科学研究セ）

PF231　高温による乳白米の発生における α-アミラーゼの機能
中田克，宮下朋美，羽方誠，黒田昌治，山口武志，山川博幹（中央農研北陸センター）

PF232　シロイヌナズナにおける HSP70 の細胞内局在制御因子 Hikeshi 相同遺伝子の機能解析
小泉慎也[1]，大濱直彦[1]，溝井順哉[1]，篠崎一雄[2]，篠崎和子[1]（[1]東大院・農学生命科学，[2]理研・環境資源科学研究セ）

PF233　シロイヌナズナにおけるフィトクロム相互作用因子 VOZ を介した凍結耐性の制御機構
横藤陽，安居佑季子，河内孝之（京大・院生命科学）

PF234　高温環境下におけるスイートバジルの抗酸化活性変化の解析
礒田真奈帆，森茉理絵，佐野俊夫（法政大・院・生命機能）

PF235　低温馴化メカニズムに関与していると考えられる GPI アンカー型タンパク質
高橋大輔[1]，冨永陽子[2]，河村幸男[1,2]，上村松生[1,2]（[1]岩手大・院・連合農学，[2]岩手大・農・寒冷バイオ）

PF236　Cold Acclimation of A Novel Model Grass Species *Brachypodium distachyon*
Takato Nakayama[1], Daisuke Takahashi[2], Yukio Kawamura[1,2], Matsuo Uemura[1,2] ([1]Cryobiofrontier Research Center, Faculty of Agriculture, Iwate University, Morioka, JAPAN, [2]The United Graduate School of Agricultural Sciences, Iwate University, Morioka, Japan)

PF237　穏やかな高温ストレスが Micro-Tom の花粉形成過程に与える影響
安岡瞳[1]，増田理美[2]，原田雄太[1]，佐藤隆英[1]，園田雅俊[1]（[1]千葉大・院・園芸，[2]千葉大・園芸）

■ 乾燥・水分・浸透圧

PF238　6 種のイネ乾燥応答性プロモーターの比較解析と生育阻害を起こさずに乾燥耐性を増強するためのプロモーターの利用
中島一雄[1]，ジャン アサド[1]，ラバーニ アシク[1]，戸高大輔[1]，圓山恭之進[1]，後藤新悟[1]，篠崎一雄[2]，篠崎和子[3]（[1]国際農研・生物資源利用，[2]理研・環境資源科学セ，[3]東大院・農学生命科学）

PF239　ダイズ品種の冠水耐性とプロテオームの比較解析
南條洋平[1]，Hee-Young Jang[2]，Hong-Sig Kim[2]，平賀勧[1]，Sun-Hee Woo[2]，小松節子[1]（[1]農研機構 作物研究所，[2]忠北大学）

PF240　オオムギ種子における液胞膜型アクアポリンの水輸送活性の調節
宇都木繁子，柴坂三根夫，且原真木（岡山大学・植物研）

PF241　イネの一次根における通気組織形成初期の X 線マイクロ CT による非侵襲三次元観察
松澤勇介[1]，坂東理史[1]，山内大輔[2]，玉置大介[2]，上杉健太郎[3]，峰雪芳宣[2]，唐原一郎[1]（[1]富山大・院・理工，[2]兵庫県大・院・生命理学，[3]高輝度光科学研究センター）

PF242　耐塩性シロイヌナズナが有する塩馴化能のトランスクリプトーム解析
有賀裕剛[1]，香取拓[1]，井内聖[2]，小林正智[2]，坂田洋一[1]，林隆久[1]，太治輝昭[1]（[1]東京農大学・バイオ，[2]理研・BRC）

PF243　*In Planta* Functional Analysis of the Drought-responsive *GmCKX13* Gene from Soybean
Yasuko Watanabe[1], Chien Van Ha[1], Dung Tien Le[2,3], Rie Nishiyama[1], Uyen Tran[1], Hitoshi Sakakibara[1], Lam-Son Phan Tran[1] ([1]CSRS, RIKEN, [2]AGI, Vietnam, [3]VAAS, Vietnam)

PF244　*Arabidopsis* histidine phosphotransfer proteins, AHP2, AHP3 and AHP5 function as redundant negative regulators of drought stress response
Rie Nishiyama[1], Yasuko Watanabe[1], Marco Leyva-Gonzalez[2], Chien Van Ha[1], Yasunari Fujita[3], Maho Tanaka[1], Motoaki Seki[1], Kazuko Yamaguchi-Shinozaki[4], Kazuo Shinozaki[1], Luis Herrera-Estrella[2], Lam-Son Phan Tran[1] ([1]RIKEN CSRS, [2]LANGEBIO, Mexico, [3]JIRCAS, [4]Grad. Sch. Agric. Life Sci., Univ. Tokyo)

PF245　Strigolactone: a positive regulator of plant responses to drought and salt stress
Chien Ha[1], Marco A. Leyva-Gonzalez[2], Yuriko Osakabe[3], Uyen Tran[1], Rie Nishiyama[1], Yasuko Watanabe[1], Maho Tanaka[4], Motoaki Seki[4], Shinjiro Yamaguchi[5], Van Dong Nguyen[6], Kazuko Yamaguchi-Shinozaki[7], Kazuo Shinozaki[3], Luis Herrera-Estrella[2], Lam-Son Phan Tran[1] ([1]Signaling Pathway Research Unit, RIKEN Center for Sustainable Resource Science, Yokohama, 230-0045, Japan, [2]Laboratorio Nacional de Genomica para la Biodiversidad (LANGEBIO), [3]Gene Discovery Research Group, RIKEN Center for Sustainable Resource Science, Yokohama, 230-0045, Japan, [4]Plant Genomic Network Research Team, RIKEN Center for Sustainable Resource Science, Yokohama, 230-0045, Japan, [5]Laboratory of Bioactive Molecules, Graduate School of Life Sciences, Tohoku University, Sendai, Miyagi 980-8577, Japan, [6]National Key Laboratory of Plant Cell Biotechnology,

Agricultural Genetics Institute, Vietnamese Academy of Agricultural Science, Pham-Van-Dong Str., Hanoi, Vietnam, [7]Laboratory of Analytical Chemistry, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8657, Japan)

PF246　乾燥ストレス下でのイネ穂ばらみ期における網羅的発現解析
後藤新悟，圓山恭之進，中島一雄（国際農研・生物資源利用）

■ イオン・塩・金属

PF247　シロイヌナズナ MRC-32 変異体におけるカドミウム蓄積能向上メカニズムの解析
渡辺明夫，中村咲耶，清水都乃，佐藤奈美子，櫻井健二，高橋秀和，赤木宏守（秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科）

PF248　ホンモンジゴケにおける銅輸送性 P-type ATPase の解析
野村俊尚[1]，井藤賀操[1]，朽名夏麿[2]，馳澤盛一郎[2]，榊原均[1]（[1]理研・CSRS，[2]東大・院・新領域）

PF249　シロイヌナズナにおいて SnRK2 およびそれらの相互作用因子、SDB1 プロテインキナーゼが調節する新規な生理応答の発見
最上惇郎[1]，藤田泰成[2,3]，吉田拓也[1]，月居佳史[1]，中神弘史[4]，野村有子[4]，藤原徹[1]，西田翔[1]，柳澤修一[5]，石田哲也[5]，森本恭子[1]，城所聡[1]，溝井順哉[1]，篠崎一雄[4]，篠崎和子[1]（[1]東大院・農学生命科学，[2]国際農研・生物資源利用，[3]筑波大院・生命環境，[4]理研・環境資源科学研究セ，[5]東大・生セ）

PF250　イネ科野生植物メリケンカルカヤ由来の SAMS 遺伝子と ABC transporter 遺伝子の Al ストレス耐性機構における機能解析
江崎文一，稲田真利，内海かおり（岡山大 資植研）

PF251　トマト根におけるマグネシウム欠乏による 5-アミノレブリン酸代謝への影響
三神達也，長田武（摂南大・理工）

PF252　トマト鉄吸収に及ぼす *Pseudomonas fluorescens* の影響
大保卓郎，長田武（摂南大学理工学部生命科学科生命環境科学研究室）

PF253　水銀によるトマトのメタロチオネイン様タンパク質の発現に及ぼす影響
長田武（摂南大・理工）

PF254　Proton-ATPase is involved in the mechanism of alkali tolerance in alkaligrass
Xue Zhang[1], Katsuyoshi Shimizu[2], Koji Nomura[1] ([1]Grad. Sch. Life and Environ. Sci., Univ. Tsukuba, [2]Fac. Life and Environ. Sci., Univ. Tsukuba)

PF255　愛知県および和歌山県の蛇紋岩土壌地帯に分布する植物の化学特性
堀太紀[1]，松嶋舞[2]，水野隆文[2]（[1]三重大・生資，[2]三重大・院生資）

PF256　Function of *NAC103* in boron toxicity in roots of *Arabidopsis thaliana*
Naoyuki Sotta[1], Takuyua Sakamoto[1], Takehiro Kamiya[1], Shinichiro Sawa[2], Ryo Tabata[2], Masashi Yamada[3], Mitsuyasu Hasebe[4,5], Shuji Shigenobu[4,5], Katsushi Yamaguchi[4], Toru Fujiwara[1,6] ([1]Grad. Sch. Agr. Life Sci. Univ. Tokyo, [2]Grad. Sch. Sci. Tech. Kumamoto Univ., [3]Dep. Biol. IGSP Ctr. System Biol. Duke Univ., [4]Div. Evolutionally Biol., NIBB, [5]Grad. Sch. Advanced Studies, Dep. Basic Biol., [6]CREST. JST)

PF257　リンゴ酸トランスポーター AtALMT1 活性化機構薬理学解析
安佐伊美夏[1]，小林安文[1]，小郷尚久[2]，小林佑理子[1]，浅井章良[2]，小山博之[1]（[1]岐阜大・応生，[2]静県大・薬学院・創薬探索センター）

PF258　重金属蓄積性樹木リョウブに Ni, Co 施用が与える影響
山口毅志[1]，竹中千里[2]，富岡利恵[2]，東亜紗子[2]（[1]名古屋大・農学部，[2]名古屋大・院生命農学）

PF259　Synechococcus sp. NKBG15041c のストマチンのキャラクタリゼーション
山田晃世，杉山純哉，小関良宏（東京農工大学工学部生命工学科）

PF260　異なる栽培媒体中のナトリウムイオンが苗段階のイネの耐塩性に及ぼす影響
名倉理紗[1]，シアングリュー ミーシャイ[2]，登尾浩助[3]（[1]明治大学大学院農学研究科，[2]タイ国カセサート大学 National Center for Genetic Engineering and Biotechnology, Rice Gene Discovery Unit，[3]明治大学農学部）

■ 病虫害応答・傷害応答

PF261　部分翻訳された白葉枯病真性抵抗性類似遺伝子は圃場抵抗性機能を持つ
青木秀之，矢頭治，斎藤浩二（農研機構・中央農業総合研究センター・作物開発研究領域）

PF262　葉緑体 Ca^{2+}センサー CAS を介した防御応答遺伝子発現の制御
下谷紘司，青山真夕，中井香奈，山岡征矢，佐野智，椎名隆（京府大・院・生命環境）

PF263　Delivery of gene encoding Cry1Ac into a local waxy maize variety of Vietnam
Thu Pham Thi Ly, Huong Pham Thi, Dung Le, Dong Nguyen, Ham Le Huy (Agricultural Genetics Institute, VAAS)

PF264　シロイヌナズナにおけるストレス応答リグニン蓄積と小胞体ストレスとの関係の解析
中妻直登[1]，野崎守[2]，佐藤康[3]（[1]愛媛大・理・生物，[2]愛媛大・ベンチャービジネスラボラトリー，[3]愛媛大・院・理工）

PF265　イネの虫害抵抗性発現における JA 応答性 bHLH 型転写因子 RERJ1 の役割
河村奈央子[1]，宮本皓司[1,4]，小澤理香[2]，高林純示[2]，宮尾安藝雄[3]，廣近洋彦[3]，野尻秀昭[1]，山根久和[4]，岡田憲典[1]（[1]東大・生物生産工学研究センター，[2]京大・生態学研究センター，[3]農業生物資源研究所，[4]帝京大学理工学部バイオサイエンス学科）

PF266　エンバク β-アミリン合成酵素遺伝子を過剰発現したイネでは白葉枯病に対する病害抵抗性が亢進していた
稲垣善茂[1]，西羅達一朗[1]，中辻由加里[1]，楠和輝[1]，池田宏介[1]，後藤優太[1]，眞野愛弓[1]，オズボーン アン[2]，能年義輝[1]，豊田和弘[1]，白石友紀[3]，山本幹博[1]，一瀬勇規[1]（[1]岡山大・院環境生命（農），[2]ジョンイネスセンター・代謝生物学，[3]岡山県生物研）

PF267　The diterpene sclareol represses the root-knot nematode infection through induction of ethylene-dependent lignifiation in Arabidopsis
Taketo Fujimoto[1], Hiroshi Abe[2], Takayuki Mizukubo[3], Shigemi Seo[1] ([1]NIAS Plant-Microbe Interactions Research Unit, [2]RIKEN Bio Resource Center Experimental Plant Division, [3]NARC Plant Protection Division)

PF268　珪藻のウイルス抵抗性はバクテリアの存在によって誘導される
木村圭[1,2]，外丸裕司[1]（[1]（独）水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所，[2]（独）日本学術振興会 特別研究員PD）

PF269　Involvement of OsJAZ8-interacting transcription factor in JA-induced resistance to rice bacterial blight in rice
Daisuke Tamaoki, Hodaka Shishido, Shoko Yamada, Shiduku Taniguchi, Kazuya Akimitsu, Kenji Gomi (Fac. of Agr., Kagawa Univ.)

PF270　Characterization of jasmonate-induced sesquiterpene synthase: product of which has an antifungal activity against *Magnaporthe oryzae* in rice
Shiduku Taniguchi, Seika Miyoshi, Daisuke Tamaoki, Shoko Yamada, Keiichiro Tanaka, Yuya Uji, Suzumi Tanaka, Kazuya Akimitsu, Kenji Gomi (Fac. of Agr., Kagawa Univ.)

PF271　Analysis of OsJAZ8-mediated transcription factor in jasmonate signaling in rice
Shoko Yamada, Suzumi Tanaka, Hodaka Shishido, Yuya Uji, Daisuke Tamaoki, Kazuya Akimitsu, Kenji Gomi (Fac. of Agr., Kagawa Univ.)

PF272　イネ FOX ナズナ系統を用いた *R.solani* 抵抗性遺伝子の単離
前田哲[1]，Joseph G. Dubouzet[1]，近藤陽一[2]，市川尚斉[2]，小田賢司[3]，松井南[2]，廣近洋彦[1]，森昌樹[1]（[1]農業生物資源研，[2]理研 PSC，[3]岡山県農林水産総合センター生物科学研究所）

■ 植物微生物相互作用（共生）

PF273　Transcriptome analysis of *Cuscuta japonica* in the parasitic site to its host
Daisuke Ikeue[1], Yoshiyuki Ogata[1], Zang Wenna[2], Schudoma Christian[2], Walther Dirk[2], Kragler Friedrich[2], Koh Aoki[1] ([1]Grad. Sch. Life Environ. Sci., Osaka Pref. Univ., [2]Max Plank Institute of Molecular Plant Physiology)

PF274　Functional genomics に向けたミヤコグサゲノム基盤情報の構築
佐藤修正[1,2]，平川英樹[2]，田畑哲之[2]，Vikas Gupta[3]，Katharina Markmann[3]，Haojie Jin[3]，Niels Sandal[3]，Jens Stougaard[3]，Stig Andersen[3]（[1]東北大・院生命科学，[2]かずさDNA研，[3]Aarhus Univ.）

PF275　Measuring Intracellular and Extracellular pH with GFP Derivatives in Rhizobia Consisting Symbiosis
Yoko Kiuchi, Kazuhiko Saeki (Department of Biological Sciences, Graduate school of Humanities and Sciences, Nara Women's University)

PF276　フタバネゼニゴケにおけるキチン防御応答遺伝子の発現解析
宮本綾乃[1]，古崎利紀[2]，榊原恵子[3]，石崎公庸[4]，緒方法親[2]，石井一夫[2]，嶋村正樹[5]，賀来華江[1]，河内孝之[6]，渋谷直人[1]，中川知己[1]（[1]明治大・農，[2]農工大・農学ゲノム，[3]東大・理，[4]神戸大・理，[5]広島大・院理，[6]京大・院生命科学）

PF277　Functional analysis of LjSWEET3, a candidate of sugar transporter in the nodule of *Lotus japonicus*
Mayuko Yoshimizu[1], Akifumi Sugiyama[1], Yuka Saida[1], Kojiro Takanashi[1], Davide Sosso[2], Wolf B Frommer[2], Kazufumi Yazaki[1] ([1]RISH, Kyoto University, [2]Carnegie Institution)

PF278　共生と生殖過程に関与する遺伝子の発現解析
半田佳宏[1]，川口正代司[1]，斎藤勝晴[2]（[1]基礎生物学研究所共生システム研究部門，[2]信州大・農）

■ 植物微生物相互作用（免疫）

PF279　シロイヌナズナのカタラーゼ CAT3 はキュウリモザイクウイルスの 2b タンパク質の認識とウイルスに対する抵抗反応に関与する
室田勝功[1]，松村健[1]，増田税[2]（[1]産総研，[2]北大院・農）

PF280　Investigation of phyllody symptoms caused by downy mildew in foxtail millet
Michie Kobayashi[1], Shinsuke Nakajo[2], Akira Abe[1], Hiroki Yaegashi[1], Satoshi Natsume[1], Hideko Kikuchi[1], Hiroki Takagi[1], Hiromasa Saitoh[1], Ryohei Terauchi[1] ([1]IBRC, [2]IARC)

PF281　PAMP が誘導する病害抵抗性遺伝子発現と光合成電子伝達
青山真夕，中井香奈，下谷紘司，佐野智，椎名隆（京都府立大学大学院生命環境科学研究科）

PF282　転写因子 WRKY45 および WRKY62 はジテルペン型ファイトアレキシン合成遺伝子を制御するイネ転写因子 DPF の遺伝子を協調的に制御する
福島説子[1,2]，赤城文[1]，森昌樹[1]，菅野正治[1]，中山明[1]，高辻博志[1,2]（[1]農業生物資源研究所，[2]筑波大・院・生命環境）

PF283　ベンサミアナタバコの ABC トランスポーター NbPDR1 及び NbPDR2 は, 共にジャガイモ疫病菌に対する侵入前及び侵入後抵抗性に機能する
柴田裕介，小鹿一，川北一人，竹本大吾（名大院生農）

PF284　CERK1 と相互作用する E3 ユビキチンリガーゼの機能解析
出崎能丈，十文字純一，竹田潤，鈴木丸陽，中島正登，高橋昌平，八嶋航平，賀来華江，渋谷直人（明治大・農・生命科学科）

PF285　ベンサミアナタバコの MAPK カスケードを介した防御応答誘導における核膜孔複合体タンパク質 Nup75 の機能解析
大津美奈，柴田裕介，森仁志，川北一人，竹本大吾（名大院・生農）

PF286　膜ラフトは NADPH オキシダーゼの制御を介してイネ自然免疫機構に関与する
長野稔[1]，石川寿樹[2]，藤原正幸[1]，深尾陽一朗[1]，川合真紀[2]，島本功[1]（[1]奈良先端大・バイオ，[2]埼玉大・理工）

PF287　デュアル抵抗性蛋白質システムにおけるタンパク質間相互作用の解析
鳴坂真理[1]，白須賢[2]，豊田和弘[3]，白石友紀[1]，鳴坂義弘[1]（[1]岡山生科研，[2]理研・環境資源科学セ，[3]岡山大院・環境生命）

PF288　イネいもち病菌(*Magnaporthe oryzae*) エフェクター遺伝子 *MoDRP1* の機能解析
西村岳志[1]，望月進[1]，南尚子[1]，藤澤由紀子[1]，寺内良平[2]，南栄一[1]，西澤洋子[1]（[1]生物研・耐病性U，[2]岩手生物工学研究センター）

PF289　Analysis of OsRac1 interacting proteins -lipid recognition protein-
Masayuki Fujiwara[1], Yoichiro Fukao[1], Ko Shimamoto[2] ([1]NAIST Bio Plant Global, [2]NAIST Bio Plant Mol Gen)

PF290　ビール類酵母抽出物による病害抵抗性誘導機構の解明
鳴坂義弘[1]，南太一[2]，浜崎隆史[2]，高崎智子[2]，川村公人[2]，鳴坂真理[1]（[1]岡山生科研，[2]アサヒグループホールディングス（株））

■ データベース

PF291　Plant Genome DataBase Japan (PGDBj), a comprehensive database covering information of plant genome-related databases in Japan
Erika Asamizu[1], Hisako Ichihara[1], Akihiro Nakaya[2], Yasukazu Nakamura[1], Hideki Hirakawa[1], Satoshi Tabata[1] ([1]Dept. Plant Genome Res., Kazusa DNA Res. Inst., [2]Center for Transdisc. Res., Niigata Univ.)

PF292　農畜産ゲノム解析の新たなフレームワーク 総合 DB
ソロビヨワ イェレナ，寺本由美子，伊藤剛，長村吉晃，宮尾安藝雄（生物研・先端ゲノム）

■ トランスクリプトーム

PF293　Transcriptome analysis of plant reprogramming at single cell level
Minoru Kubo[1,2,3], Tomoaki Nishiyama[4], Daniel Lang[3], Olaf Faustmann[5], Taku Demura[6], Mitsuyasu Hasebe[7,8], Ralf Reski[2,3,9] ([1]CFST, NAIST, [2]FRIAS, Univ. Freiburg, [3]Plant Biotech., Fac. Biol., Univ. Freiburg, [4]Adv. Sci. Res. Center, Kanazawa Univ., [5]Eppendorf Co., [6]Fac. Biol. Sci., NAIST, [7]NIBB, NINS, [8]School of Life Sci., Grad. Univ. for Adv. Studies, [9]BIOSS, Univ. Freiburg)

■ プロテオーム

PF294 Analysis of soybean root proteins affected by gibberellic acid under flooding stress
MyeongWon OH[1,2], Yohei Nanjo[2], Setsuko Komatsu[1,2] ([1]University of Tsukuba, [2]National Institute of Crop Science, NARO)

PF295 Analysis of initial changes in the proteome of soybean root tip under flooding stress
XiaoJian Yin[1,2], Katsumi Sakata[3], Yohei Nanjo[2], Setsuko Komatsu[1,2] ([1]Univ. Tsukuba, [2]Natl. Inst. Crop Sci., NARO, [3]Maebashi Inst. Technol.)

PF296 Analysis of soybean root during recovery after flooding using gel-free proteomic technique
Mudassar Nawaz Khan[1,2], Katsumi Sakata[3], Setsuko Komatsu[1,2] ([1]University of Tsukuba, [2]National Institute of Crop Science, NARO, [3]Maebashi Institute of Technology)

PF297 Proteomic and Biochemical Analyses of the Cotyledon and Root of Flooding-Stressed Soybean Plants
Setsuko Komatsu[1], MyeongWon Oh[1], Yohei Nanjo[1], Hiroshi Yasue[2] ([1]Natl. Inst. Crop Sci., NARO, [2]Natl. Inst. Agr. Sci.)

PF298 導管を移行する低分子タンパク・ペプチドの網羅的な解析
岡本暁[1,2]，鈴木孝征[3]，東山哲也[3]，松林嘉克[1]（[1]基礎生物学研究所，[2]日本学術振興会特別研究員PD，[3]JST ERATO 東山ライブホロニクスプロジェクト）

■ メタボローム

PF299 マススペクトル解析ツール ShiftedIonsFinder を駆使したメタボローム解析
解良康太[1]，尾形善之[2]，永島良樹[1]，荒武[1]，櫻井望[1]，柴田大輔[1]，鈴木秀幸[1]（[1](公財）かずさDNA研究所，[2]大阪府立大・生命環境）

PF300 De novo RNA-seq と CE-TOF/MS による代謝産物プロファイリングに基づくシロバナルーピンの低リン耐性機構の解析
丸山隼人[1]，津村暁彦[1]，海野佑介[2]，及川彰[3,4]，俵谷圭太郎[3]，信濃卓郎[5]，和崎淳[1]（[1]広大院 生物圏，[2]北農研，[3]山形大 農学部，[4]理研 鶴岡，[5]東北農研）

PF301 質量分析装置を用いたシロイヌナズナ植物体のオーキシン添加に応答する代謝変動解析
姉川彩[1]，大西美輪[1]，高橋勝利[2]，七條千津子[1]，石崎公庸[1]，深城英弘[1]，三村徹郎[1]（[1]神戸大・院・理，[2]産業技術総合研究所）

■ 技術開発

PF302 NHEJ 欠損が人工制限酵素 TALENs 誘導性の変異様式に及ぼす影響
横井彩子[1]，星野友紀[2]，杉本和彦[2]，ボイタス ダニエル[3]，土岐精一[1,4]（[1]生物研・ゲノム機能，[2]生物研・イネゲノム，[3]ミネソタ大，[4]横浜市大・木原生研）

PF303 透過電顕像広域自動撮影システムの開発と植物組織への応用
佐藤繭子[1]，朽名夏麿[2]，澤木史江[3]，若崎眞由美[1]，橋本恵[1]，桧垣匠[2]，馳澤盛一郎[2]，永田典子[3]，豊岡公徳[1]（[1]理研・CSRS，[2]東京大・院・新領域，[3]日本女子大・理）

PF304 Py-Im ポリアミド結合判定系の開発
中田周斗，小糸喜来美，鈴木優衣，飯田博一，近藤陽一（関東学院大学）

PF305 *Agrobacterium*-mediated genetic transformation of *Hevea brasiliensis* embryogenic callus
Yuki Naito[1], Farida Rosana Mira[1,2], Norie Watanabe[3], Kaoru Suzuki[1] ([1]Bioproduction Research Institute, AIST, [2]Biotech Center, BPPT, Indonesia, [3]Bridgestone Corporation)

PF306 PPR motif as a new DNA/RNA binding module for genome editing
Yusuke Yagi[1], Tetsushi Sakuma[2], Takashi Yamamoto[2], Takahiro Nakamura[1] ([1]Fac. Agr. Kyushu Univ., [2]Grad. Sch. of Sci. Hiroshima Univ.)

■ バイオリソース

PF307 シロイヌナズナ野生株及びシロイヌナズナ近縁種の系統管理とデーターベース開発
井内聖，井内敦子，阿相幸恵，川村節子，小林正智（理研BRC）

■ 光合成・呼吸の環境応答

PF308 Fruit gas exchange characteristics of *Momordica charantia*
Fuka Koja[1], Jyun Tominaga[1], Hideo Araki[2], Yoshinobu Kawamitsu[1] ([1]University of the Ryukyus, [2]Fuji Oil Co.Ltd.,)

■ 光合成色素・光捕集系

PL001　Excitation energy transfer in *Synechococcus* sp. PCC 7002 cells grown in brackish medium and seawater medium, probed by time-resolved fluorescence spectroscopy

Kenta Niki[1], Shimpei Aikawa[2,3], Akihiko Kondo[2,3], Seiji Akimoto[1,3,4] ([1]Grad. Sch. Sci., Kobe Univ., [2]Grad. Sch. Eng., Kobe Univ., [3]CREST, JST, [4]Molecular Photoscience Research Center, Kobe Univ.)

PL002　始原的シアノバクテリア *Gloeobacter violaceus* PCC 7421 は人工的に獲得させたクロロフィル *b* に寛容である

荒木美英[1]，秋本誠志[2,3]，三室守[1]，土屋徹[1,4]（[1]京大院・人間環境，[2]神戸大・分子フォト，[3]JST-CREST，[4]京大院・地球環境）

PL003　緑色硫黄細菌 *Chlorobaculum tepidum* において *bchX* 遺伝子はバクテリオクロロフィル *a* 生合成に必須ではない

浅井智広[1]，溝口正[2]，民秋均[3]，大岡宏造[4]（[1]立命館大・生命科学，[2]立命館大・総合科学，[3]立命館大・院生命科学，[4]大阪大・院理）

PL004　緑色硫黄細菌のバクテリオクロロフィル *c* 生合成における酵素遺伝子 *bchF* と *bchV* の関与した C3 位の立体選択的水和反応

溝口正[1]，寺村美里[1]，原田二朗[2]，塚谷祐介[1,3]，民秋均[1]（[1]立命館大院・生命科学，[2]久留米大・医，[3]JST・さきがけ）

PL005　Light-harvesting like protein 3 (LIL3)がもつ LHC motif のクロロフィル結合能の解析

高橋香織[1,2]，高林厚史[1,2]，田中歩[1,2]，田中亮一[1,2]（[1]北大・低温研，[2]CREST/JST）

PL006　アスタキサンチン生産レタスにおける光合成タンパク質の色素組成

山野奈美[1]，藤井律子[2,3,4]，伊福健太郎[5]，三沢典彦[6]，橋本秀樹[1,3]（[1]阪市大・理，[2]阪市大院・理，[3]阪市大・複合先端研，[4]JST-さきがけ，[5]京大院・生命科学，[6]石川県立大・生物資源工学研究所）

■ 光化学系 I・II

PL007　Crystal structure at 1.5 Å resolution of the PsbV2 cytochrome from the cyanobacterium Thermosynechococcus elongatus

Michihiro Suga[1], Thanh-Lan Lai[2], Miwa Sugiura[3], Alain Boussac[2], Jian-Ren Shen[1] ([1]Grad. Sch. Nat. Sci. & Tech., Okayama Univ., [2]iBiTec-S, CNRS, France, [3]Proteo-Sci. Res. Cen., Ehime Univ.)

PL008　Action of FtsH proteases and structure of spinach thylakoids under light stress

Miho Nishimura[1], Daisuke Nanba[1], Takashi Takaki[2], Kazuyoshi Murata[3], Hirotaka Sakamoto[4], Yasusi Yamamoto[1] ([1]Grad. Sch. of Nat. Sci. and Tech., Okayama Univ., [2]JEOL, [3]NIPS, [4]Ushimado Marine Lab., Okayama Univ.)

PL009　光化学系 II の quality control :光ストレス下でのホウレンソウ葉緑体のグラナ膜構造の変化

難波大介[1]，西村美保[1]，坂本浩隆[2]，村田和義[3]，高木孝士[4]，山本泰[1]（[1]岡山大・院・自然科学，[2]岡山大・牛窓臨海実験所，[3]生理研，[4]日本電子）

PL010　Overexpression of chloroplast *ycf4* gene improves photoautotrophic growth of the green alga *Chlamydomonas reinhardtii*

Sreedhar Nellaepalli[1,2], Hiroshi Kuroda[1,2], Yuichiro Takahashi[1,2] ([1]Graduate School of Natural Science and Technology, Okayama University, [2]JST-CREST)

PL011　PsbA3-D1 タンパク質を発現する光化学系 II 複合体の精製・結晶化

鵜飼奈津美[1]，杉浦美羽[2]，岩井雅子[3]，池内昌彦[3]，沈建仁[1,4]（[1]岡山大学・理・生物，[2]愛媛大・プロテオサイエンス，[3]東京大・院・総合文化，[4]岡山大・院・自然科学）

PL012　時間分解 EPR を用いた S 状態遷移における $Y_Z^{\cdot}$の捕捉

越沼渉，三野広幸（名古屋大院・理）

PL013　多孔質ガラス中のナノ空間に固定化された光化学系 I/Pt ナノ粒子複合体と cyt_{c6} による光誘起水素発生

鈴木孝直[1]，野地智康[2]，近藤政晴[2]，川上恵典[3]，神哲郎[4]，池内昌彦[5]，吉野宏明[5]，大岡広造[6]，伊藤繁[7]，神谷信夫[3]，出羽毅久[2]（[1]名工大，[2]名工大院工，[3]大阪市立大院複合先端，[4]産総研，[5]東大院総合文化，[6]大阪大学院理，[7]名大院遺伝子）

■ 電子伝達系・炭素代謝

PL014　バイオ燃料増産を目指したユーグレナ形質転換技術の確立

小川貴央[1,3]，三根彩佳[2]，作山治美[1,3]，吉田絵梨子[3,4]，鈴木健吾[3,4]，丸田隆典[3,5]，石川孝博[3,5]，田茂井政宏[1,2,3]，重岡成[1,2,3]（[1]近畿大・農・バイオ，[2]近畿大院・農・バイオ，[3]JST, CREST，[4](株)ユーグレナ，[5]島根大・生資科・生命工）

PL015　CRR3 is required for the accumulation of chloroplast NDH
Yoshinobu Kato[1], Toshiharu Shikanai[1,2] ([1]Grad. Sch. Sci., Kyoto Univ., [2]CREST)

PL016　Physiological Functions of PsbS-dependent and -independent NPQ under Naturally Fluctuating Light Conditions
Masahiro Ikeuchi, Nozomu Uebayashi, Fumihiko Sato, Tsuyoshi Endo (Grad. Sch. of Biostudies, Kyoto Univ.)

PL017　チンゲンサイ葉肉プロトプラスト単離時における一次代謝産物の GC/MS 分析
中山善博，渡辺正巳（千葉大学大学院園芸学研究科植物栄養学研究室）

PL018　RNAi 抑制株を用いた C_4 植物 *Flaveria bidentis* (NADP-ME 型)における葉緑体 NAD(P)H dehydrogenase の機能解析
石川規子[1]，高林厚史[1,2]，田副雄士[1,3]，佐藤文彦[1]，遠藤剛[1]（[1]京大・院生命科学，[2]北大・低温科学研究所，[3]東北大・院農学）

PL019　シロイヌナズナのレドックス制御における *m* 型 Trx の役割
桶川友季，本橋健（京都産大・総合生命）

■ 光合成・呼吸の環境応答

PL020　CYO2 による酸素酸化によって失活したルビスコの再活性化機構の解析
白上典彦[1]，高橋俊一[2]，室屋誠人[1]，中原恭俊[1]，伊東千賀子[1]，村中厚子[1]，西村浩二[3]，岡村文音[1]，渡邊俊介[1]，坂本敦[1]，島田裕士[1]（[1]広島大学大学院理学研究科数理分子生命理学専攻分子形質発現学研究室，[2]オーストラリア国立大学，[3]島根大学総合科学研究支援センター）

PL021　CYO1 高発現シロイヌナズナはバイオマスが上昇する
中原恭俊，水谷春香，村中厚子，渡邊俊介，坂本敦，島田裕士（広島大学理学研究科）

PL022　NPP1 は高温・高 CO2 条件下においてイネ芽生えの澱粉蓄積および成長制御に関与する
猪俣拓也[1]，金古堅太郎[2]，増井貴広[1]，伊藤紀美子[1]，ポズエタ-ロメロ ハビア[3]，三ツ井敏明[1,2]（[1]新潟大院・自然科学，[2]新潟大農・応生化，[3]バイオ研・CSIC & UPNA）

PL023　光合成活性を指標とした環境ストレス耐性のナチュラルバリエーション
内藤彩乃，石野はるか，大橋聖，中野友貴，小林佑理子，小山博之，山本義治（岐阜大・応用生物）

PL024　ストレス条件下における光合成関連遺伝子群の発現抑制機構に関する解析
本多剛志[1]，城所聡[1]，戸高大輔[1]，篠崎一雄[2]，篠崎和子[1]（[1]東大院・農学生命科学，[2]理研・環境資源科学研究セ）

PL025　琵琶湖湖岸と海浜に生育するハマエンドウにおける環境ストレスへの適応的な応答
大槻達郎[1]，森泉[2]，松浦恭和[2]，且原真木[2]，瀬戸口浩彰[1]（[1]京大院・人間環境，[2]岡山大・植物研）

PL026　海洋性珪藻 CbbX は RubisCO activase か？
石田沙有里[1]，千代亜希[1]，長里千香子[2]，菊谷早絵[1]，松田祐介[1]（[1]関学大・理工，[2]北大・北方セ）

PL027　Isolation and Characterization of Novel High-CO_2 Requiring Mutants of *Chlamydomonas Reinhardtii*
Lianyong Wang[1], Takashi Yamano[1], Syunsuke Takane[1], Naoko Funatsu[1], Masataka Kajikawa[1], Masafumi Hirono[2], Hideya Fukuzawa[1] ([1]Grad. Sch. Biostudies, Kyoto Univ., [2]Grad. Sch. Sci., Univ. Tokyo)

PL028　【演題取り消し】

PL029　Pattern formation in C4 species of the genus Flaveria leaf development
Yukimi Y. Taniguchi, Risa Kishizaki, Akiho Yokota, Yuri Nakajima Munekage (Nara Institute of Science and Technology)

PL030　新種の海産性油脂産生緑藻を用いた変動外光環境における光合成能力の評価
山﨑広顕，皆川純（基礎生物学研究所）

PL031　海洋性珪藻 Phaeodactylum tricornutum における PtSLC4-4 の機能解析
岩山和史，中島健介，松田祐介（関西学院大学 大学院 理工学研究科 松田研究室）

PL032　緑色植物に保存されている機能未知遺伝子 *TMR1* の解析
宮崎大地[1]，太田啓之[2,3,4]，増田真二[2,4]（[1]東工大・院生命理工学，[2]東工大・バイオ研究基盤支援総合センター，[3]JST・CREST，[4]ELSI）

PL033　ミトコンドリア TCA サイクル酵素のレドックスとアデニレート状態に応じた活性調節
吉田啓亮[1]，久堀徹[1,2]（[1]東工大・資源研，[2]JST・CREST）

PL034　ワサビ (*Wasabia japonica*) 育苗過程における光阻害および光質感受性の変化
佐藤翔[1]，平井裕貴[1]，野末雅之[2]，野末はつみ[3]（[1]信州大・院・理工学系，[2]信州大・繊維・応生学系，[3]信州大・先進植物工場研究教育工場センター）

PL035　シロイヌナズナ緑葉のチラコイド膜構造に関係する強光感受性の可逆的変化
茅野亮幸[1]，野末雅之[2]，野末はつみ[3]（[1]信州大・院・理工学系，[2]信州大・繊維・応生学系，[3]信州大・先進植物工場研究教育センター）

PL036　葉緑体チオール酵素の in vivo レドックス状態に影響を与える因子の探索
松岡裕太[1]，吉田啓亮[1]，紺野宏記[2]，久堀徹[1,3]（[1]東工大・資源研，[2]金沢大・理工・バイオAFM，[3]JST・CREST）

PL037　光化学系 II の quality control: 強光ストレス下でのチラコイド膜のダイナミクスと光化学系 II 複合体の挙動
甲斐卓[1]，大西厚輝[1]，津村和[1]，石川靖夫[2]，山本泰[2]（[1]岡山大・理・生，[2]岡山大・院・自然科学）

PL038　強光適応に重要な LHCSR タンパク質の機能と役割
小菅晃太郎[1,2]，得津隆太郎[1,2]，K.ニョーギクリシュナ[3]，皆川純[1,2]（[1]基礎生物学研究所，[2]総研大 生命科学，[3]カリフォルニア大学 バークレー校）

■ 窒素代謝・栄養代謝

PL039　海洋性珪藻リン酸輸送体候補タンパク質
杉山俊樹，中島健介，松田祐介（関学大・院・理工）

PL040　C/N 栄養応答に関与する BT タンパク質の機能解析
佐々木勇樹[1]，安田盛貴[1]，柳澤修一[2]，佐藤長緒[1]，山口淳二[1]（[1]北大・理，[2]東大・生物生産工学研究センター）

PL041　Nitrate-responsive transcription factor NLP directly regulates expression of BT protein genes
Nozomi Yoshioka, Mineko Konishi, Tetsuya Ishida, Shuichi Yanagisawa (Biotechnology Research Center, The University of Tokyo)

PL042　ソルガムの生育初期における窒素応答の品種間差
箱山雅生[1]，山崎清志[1]，佐々木敦司[2]，徳永毅[2]，藤原徹[1]（[1]東京院・農学生命科学，[2]株式会社アースノート）

■ 遺伝・生殖

PL043　Search for Genes Involved in Cross- and Self-Pollination in the Brassicaceae
Motoko Igarashi[1], Keiko Ohara[1], Megumi Iwano[1], Masahiro Fujita[2], Nori Kurata[2], Seiji Takayama[1] ([1]Grad. Sch. Bio. Sci., NAIST, [2]Plant Genetics Lab., NIG)

PL044　レーザー細胞破壊とライブイメージングによる重複受精機構の解析
永原史織[1]，浜村有希[1]，武内秀憲[1,2]，東山哲也[1,2,3]（[1]名大・院・理，[2]JST・ERATO 東山ライブホロニクスプロジェクト，[3]名大・WPI-ITbM）

PL045　雌性配偶体の遺伝子発現解析による生殖関連因子の探索と機能解析
筒井大貴[1]，鈴木孝征[1,2]，東山哲也[1,2,3]（[1]名大・理・生命，[2]JST・ERATO・東山ライブホロニクス，[3]名大・WPI-ITbM）

■ 花成

PL046　多年生花卉リンドウにおける光周性花成の品種間解析
今村智弘，樋口敦美，高橋秀行（（公財） 岩手生工研セ）

PL047　果実で発現する MdFT 遺伝子の解析
和田雅人[1]，田中紀充[2]，守谷友紀[1]，本多親子[1]，岩波宏[1]，花田俊男[1]，小森貞男[3]（[1]（独）農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所リンゴ研究拠点，[2]弘前大・農学生命，[3]岩手大・農学部）

PL048　Modeling FT transport in SOC1-FUL double-mutant to explain a transition from annual to perennial-like phenotype
Motohide Seki, Akiko Satake (Fac. Env. Earth Sci., Hokkaido Univ.)

PL049　ホウレンソウの抽だい制御機構の解析
安部英里香[1]，山口夕[2]，藤野介延[1]（[1]北大・院農，[2]大坂府大・院生命環境）

■ 光周性・リズム・時計

PL050　Role of RHYTHM OF CHLOROPLAST 15 Protein in the Circadian Clock of the Unicellular Green Alga *Chlamydomonas reinhardtii*
Yoshimi Niwa, Ayumi Kinoshita, Takuya Matsuo, Kiyoshi Onai, Daisaku Kato, Makoto Tachikawa, Masahiro Ishiura (Center for Gene Research, Nagoya University)

PL051 Biochemical approaches to the study of a leaf-opening factor of Cassia plant.
Nobuyuki Kanzawa, Yuki Otsuka, Shoko Hamaguchi, Hideaki Nakano, Masahiro Takahara (Fac Sci & Tech, Sophia Univ)

PL052 基部陸上植物ゼニゴケを用いた光周性花成制御因子 GI-FKF1 複合体の祖先的機能の解析
久保田茜[1]，喜多祥吾[1]，石崎公庸[1,2]，西浜竜一[1]，河内孝之[1]（[1]京大・院生命科学，[2]神戸大・院理）

PL053 Overexpression and Delayed Fluorescence: Tools for High-Throughput Screening of Circadian Transcription Factors in Arabidopsis Thaliana
Andrew Tindall[1,2] ([1]RIKEN BMEP, [2]University of Liverpool)

■ 胚発生，細胞分化

PL054 Transcriptional regulation of epidermal cell fate in *Arabidopsis thaliana* shoots
Shinobu Takada, Ayaka Yoshida, Hiroyuki Iida, Nozomi Takada (Dept. Biol. Sci., Grad. Sch. Sci., Osaka Univ.)

PL055 X 線マイクロ CT によるシロイヌナズナ胚の器官および細胞の形態の三次元解析
栗林剛正[1]，唐原一郎[1]，山内大輔[2]，玉置大介[2]，上杉健太朗[3]，竹内晃久[3]，鈴木芳生[3]，峰雪芳宣[3]（[1]富山大・院・理工，[2]兵庫県大・院・生命理学，[3]高輝度光科学研究センター）

PL056 MAPK カスケードによるイネ胚器官分化機構の解析
石本聖絵，佐藤豊（名古屋大学大学院生命農学研究科）

■ 種子形成，休眠，発芽

PL057 種子糊粉層の消失をもたらすシロイヌナズナ *trg2* 突然変異遺伝子の解析
吉野幸則，五味渕苑子，赤堀一貴，杉山礼央，鴨志田葵，川上直人（明大・農）

PL058 シロイヌナズナの浸透圧ストレス誘導性遺伝子の種子形成における役割
小平憲祐[1]，益田直輝[1]，繁田薫[1]，金井要樹[1]，山田晃嗣[1]，篠崎一雄[2]，篠崎和子[1]（[1]東大院・農学生命科学，[2]理研・環境資源科学研究セ）

PL059 高温による植物ホルモンの量的制御に異常を持つ高温耐性発芽突然変異体の選抜
鍜政徳，森田萌，塩澤快樹，渡邊飛鳥，川上直人（明大・農）

■ 栄養器官の発生・分化

PL060 新規ゼニゴケ CLE 遺伝子の発生遺伝学的解析
平川有宇樹[1,5]，田畑亮[2,3]，本田紘章[3]，打田直行[1]，河内孝之[4]，澤進一郎[3]，ボウマン ジョン[5]（[1]名古屋大・WPI-ITbM，[2]基生研，[3]熊本大院・自然，[4]京都大院・生命科学，[5]モナシュ大・理）

PL061 腋芽形成に異常を示すシロイヌナズナ *chestnut* 変異体の解析
森上敦[1]，稲垣宗一[2]，大藤雅章[3]，塚越啓央[4,5,6]，中村研三[7]（[1]名城大・農，[2]遺伝研，[3]メンデル バイオテック，[4]名大・院・生命農，[5]名大・院・PhD登龍門推進室，[6]JST さきがけ，[7]中部大・応用生物）

PL062 Transcriptome analysis using RNA-seq of Rorippa aquatica, an emerging model of heterophylly
Hokuto Nakayama[1,2], Tomoaki Sakamoto[3], Yasunori Ichihashi[4], Testuya Kurata[3], Seisuke Kimura[1] ([1]Kyoto Sangyo Univ., [2]JSPS, [3]Grad. Sch. Biol. Sci., NAIST, [4]RIKEN CSRS)

PL063 DISCONTINUOUS TRANSITIONS OF PHYLLOTAXIS: THE CASES OF THUJA OCCIDENTALIS (CUPRESSACEAE) AND DIPHASIASTRUM DIGITATUM (LYCOPODIACEAE)
Xiaofeng Yin[1,2,4], Christian Lacroix[2], Denis Barabe[2,3], Roger Meicenheimer[4] ([1]Department of Biological Sciences, Graduate School of Science, The University of Tokyo, [2]Department of Biology, University of Prince Edward Island, [3]Institut de Recherche en Biologie Vegetale, Jardin Botanique de Montreal, [4]Department of Botany, Miami University)

PL064 Control of root cap differentiation by non-cell-autonomous microRNA
Asuka Furukawa[1], Keiji Nakajima[1,2] ([1]Grad. Sch. Biol. Sci., NAIST, [2]PRESTO, JST)

PL065 Genetic interaction between *PLASTOCHRON* and *miR156/OsSPL* genes in plastochron regulation of rice
Manaki Mimura, Yasuo Nagato, Jun-Ichi Itoh (Grad. Sch. Agric. Life Sci., Univ. Tokyo)

PL066 Characterization of axillary bud formation in *Arabidopsis pect1-4* mutants
Saki Ikegai[1], Miki Yadake[2], Masumi Otsuru[2], Mayu Nakagawa[3], Yuki Fujiki[1,2], Ikuo Nishida[1,2] ([1]Fac. Sci., Univ. Saitama, [2]Grad. Sch. Sci. and Eng., Univ. Saitama, [3]Office for Promotion of Gender Equ., Univ. Hirosaki)

PL067　Analysis of CLAVATA signaling with the enhancer of peptide insensitive mutants

Takashi Ishida[1], Ryo tabata[2], Masashi Yamada[3], Katsushi Yamaguchi[4], Shuji Shigenobu[4], Shinichiro Sawa[1] ([1]Grad. Sch. Sci. Technol., Kumamoto Univ., [2]NIBB, [3]Duke Univ., [4]NIBB)

PL068　シロイヌナズナの葉の向背軸形成における AS1-AS2 による KRP5 遺伝子発現の抑制機能の解明

伊藤卓馬[1]，中川彩美[1]，高橋真理[2]，石橋奈々子[2]，高橋広夫[3]，小島晶子[1]，町田泰則[2]，町田千代子[1]（[1]中部大学大学院応用生物学研究科，[2]名古屋大学大学院 理学研究科，[3]千葉大学大学院 園芸学研究科）

PL069　気孔パターン形成の数理モデル解析

藤田浩徳[1]，Robin J Horst[2,3]，Jin Suk Lee[2,3]，川口正代司[1,4]，鳥居啓子[2,3,5]（[1]基生研，[2]HHMI，[3]ワシントン大，[4]総研大・生命科学，[5]名古屋大・ITbM）

■ 生殖器官の発生・分化

PL070　RNA recognition motif-containing protein, which regulates meiotic transition and initiation in rice, binds to a U-rich sequence in vitro.

Saori Miyazaki, Ken-Ichi Nonomura (Experimental farm, NIG)

PL071　花粉エキシン構造の形成に関わるシロイヌナズナ *KAONASHI6* 遺伝子の機能解析

速水彩子[1]，鈴木俊哉[1]，鈴木孝征[2,3]，田畑亮[4]，重信秀治[5]，山田昌史[6]，山口勝司[5]，長谷部光泰[5,7]，澤進一郎[4]，中村研三[8]，東山哲也[2,3,9]，石黒澄衛[1]（[1]名大院・生命農，[2]名大院・理，[3]JST・ERATO，[4]熊大院・自然科学，[5]基生研，[6]Duke University，[7]総研大・生命科学，[8]中部大・応用生物，[9]名大・WPI-ITbM）

■ 老化・細胞死

PL072　Stress-Responsive NAC genes involved in leaf senescence in Arabidopsis

Hironori Takasaki[1], Kyonoshin Maruyama[2], Miki Fujita[1], Takuya Yoshida[3], Kazuo Nakashima[2], Fumiyoshi Myouga[1], Kiminori Toyooka[1], Fuminori Takahashi[1], Kazuko Yamaguchi-Shinozaki[3], Kazuo Shinozaki[1] ([1]RIKEN Center for Sustainable Resource Science, [2]Biological Resources Division, Japan International Research Center for Agricultural Sciences, [3]Laboratory of Plant Molecular Physiology, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo)

PL073　ストリゴラクトンを介した葉老化制御の分子遺伝学的解析

上田浩晶[1]，草場信[1,2]（[1]広島大院・理，[2]CREST）

■ 成長制御

PL074　シロイヌナズナの *acl5* 変異に対するサプレッサー変異 *sac57* の原因遺伝子の同定

蔡青青[1]，福島弘子[1]，石井菜水[1]，坂本智昭[2]，倉田哲也[2]，高橋卓[1]（[1]岡山大学大学院自然科学研究科，[2]NAIST）

PL075　AtPP2CF1 の過剰発現は花茎の成長促進により植物バイオマスの増産につながる

杉本広樹[1]，近藤聡[2]，田中倫子[1]，今村千絵[1]，村本伸彦[1]，服部悦子[2]，田中秀典[1]，北川律子[1]，小川健一[3]，光川典宏[1]，大音徳[2]（[1](株)豊田中央研究所・バイオ研究室，[2]トヨタ自動車(株)・バイオ・ラボ，[3]岡山生物研）

PL076　アッケシソウ胚軸の伸長成長に及ぼす NaCl の影響～特に細胞壁多糖の変化について～

高田明良[1]，吉村祥子[2]，戸田まどか[1]，石井瑞穂[2]，岡真理子[2]（[1]鳥大・院農，[2]鳥大・農）

PL077　Resistance of semidwarf soybean mutant to submergence stress

Susumu Hiraga[1,4], Yohei Nanjo[1], Takuji Nakamura[2], Makoto Tougou[1], Keito Nishizawa[1], Minoru Nishimura[3], David Jackson[4], Setsuko Komatsu[1] ([1]NARO Inst. Crop Sci., [2]NARO Inst. Hokkaido Agric. Res. Cent., [3]Fac. Agric., Niigata Univ., [4]Cold Spring Harbor Labs)

PL078　A search for shoot-derived inhibitor of root nodulation in Rhizobium-legume symbiosis

Takema Sasaki[1,2], Takuya Suzaki[1,2], Takashi Soyano[2], Yoshihiro Handa[2], Hitoshi Sakakibara[3], Mikiko Kojima[3], Yutaka Suzuki[4], Masayoshi Kawaguchi[1,2] ([1]SOKENDAI, [2]NIBB, [3]RIKEN, [4]Tokyo Univ.)

PL079　生育促進を示すイネ完全長 cDNA 過剰発現（FOX）系統を用いた生育制御因子の探索

羽方誠[1]，廣瀬竜郎[1]，中村英光[2]，市川裕章[3]，仲下英雄[4]，山川博幹[1]（[1]農研機構・中央農研北陸センター，[2]東大院農生科，[3]生物研，[4]東京農大）

■ 植物ホルモン・成長調節物質

PL080 Phosphoproteomic analysis of the ABA signaling pathway in Physcomitrella patens.
Yoshimasa Honda[1], Naoyuki Sugiyama[2], Mayuri Kuwamura[3], Ryosuke Terao[1], Kozue Ishizuka[1], Yoichi Sakata[3], Daisuke Takezawa[4], Kazuo Shinozaki[5], Yasushi Ishihama[2], Taishi Umezawa[1,6] ([1]Fac. Agric., Tokyo Univ. Agric. Tech., [2]Grad. Sch. Pharmac. Sci., Kyoto Univ., [3]Dep. Biosci., Tokyo Univ. Agric., [4]Grad. Sch. Sci. Eng., Saitama Univ., [5]RIKEN CSRS, [6]PRESTO, JST)

PL081 微量植物試料からの高速高感度ホルモン定量技術の高度化
小嶋美紀子，榊原均（（独）理化学研究所環境資源科学研究センター）

PL082 Phenyllactic acid, root promoting substance isolated from bokashi, induces auxin response in *Arabidopsis*
Yuko Maki[1], Hiroshi Soejima[1], Toru Kitamura[1], Tamizi Sugiyama[2], Masaaki Watahiki[3], Junji Yamaguchi[3] ([1]Snow Brand Seed Co., Ltd., [2]Fuc. Agr., Meiji Univ., [3]Fuc. Sci., Hokkaido Univ.)

PL083 Effect of oxidative glutathione on adventitious root formation in *Eucalyptus globulus*
Nobuaki Urata[1,4], Naoki Negishi[1,4], Mikiko Kojima[2], Hitoshi Sakakibara[2], Ken'ichi Ogawa[3,4], Akiyoshi Kawaoka[1,4] ([1]Agri-Biotechnology Research Laboratory, [2]Riken CSS, [3]RIBS Okayama, [4]CREST JST)

PL084 Abscisic acid receptors in liverworts
Shuhei Murai[1], Kana Kobayashi[1], Taishi Umezawa[2], Kazuo Shinozaki[3], Kimitsune Ishizaki[4], Takayuki Kohchi[5], Daisuke Takezawa[1] ([1]Grad. Sch. Sci and Eng., Saitma Univ., [2]Tokyo Univ. of Agr., [3]CSRS. RIKEN, [4]Grad. Sch. Sci., Kobe Univ., [5]Grad. Sch. Biostudies., Kyoto Univ.)

PL085 安定同位体標識カーラクトンを用いたシロイヌナズナにおけるストリゴラクトンの生合成研究
浅見慶[1]，瀬戸義哉[1]，花田篤志[1]，佐渡愛香[2]，秋山康紀[2]，山口信次郎[1]（[1]東北大・院生命科学，[2]大阪府立大・院生命環境）

PL086 シロイヌナズナにおけるフェアリーリング形成化合物 ICA, AHX, AOH への生理反応
岩本耕太郎[1]，大門靖史[2]，深沢知加子[1]，Choi Jae-Hoon[2]，河岸洋和[2]，本橋令子[1]（[1]静岡大・農，[2]静岡大・グリーン科学技術研究所）

PL087 緑化制御機能をもつブラシステロイド情報伝達因子 *bpg4* の分子機能解析
阿部晋[1,2,5]，山上あゆみ[1,5]，市川尚斉[3]，松井南[3]，長田裕之[1,3]，久城哲夫[2]，浅見忠男[4,5]，中野雄司[1,3,5]（[1]理研・長田抗生物質研究室，[2]明治大院・農芸化学，[3]理研・CSRS，[4]東大院・農化生，[5]JST CREST）

PL088 シロイヌナズナ NRT1/PTR FAMILY (NPF)の JA-Ile 輸送への関与
清水崇史[1]，千葉康隆[1,2]，宮川慎也[1,2]，菅野裕理[1]，小柴共一[2]，神谷勇治[1]，瀬尾光範[1,2]（[1]理研 CSRS，[2]首都大院 生命）

PL089 シロイヌナズナのロゼット葉におけるストリゴラクトンの生理作用
森本優[1]，東大野むつみ[1]，瀬戸義哉[1]，桧垣匠[2]，馳澤盛一郎[2]，山口信次郎[1]（[1]東北大・院生命科学，[2]東大・院新領域）

PL090 オーキシン生合成のフィードバック制御における *YUCCA* 遺伝子の発現制御機構
三井麻利江[1,2]，石田遥介[1]，鈴木優志[1]，筧雄介[1]，山崎千秋[1]，石井貴広[3]，林謙一郎[4]，藤岡昭三[2]，中村郁子[1]，持田恵一[1,2]，添野和雄[3]，嶋田幸久[1]（[1]横浜市立大学木原生物学研究所，[2]理化学研究所，[3]農研機構・近中四農研，[4]岡山理科大・理）

PL091 イネに対して有効なオーキシン生合成阻害剤の開発
山本光洋[1]，筧雄介[1]，石田遥介[1]，山崎千秋[1]，佐藤明子[1]，成川（奈良）恵[1]，中村郁子[1]，添野和雄[2]，嶋田幸久[1]（[1]横浜市立大学・木原生物学研究所植物応用ゲノム科学部門，[2]農研機構・近中四農研）

■ その他

PL092 運動性シアノバクテリア Geitlerinema のコロニーパターン形成の形態観測とニュートン力学に基づくシミュレーション
糟谷亮[1]，深澤有貴[1]，瀧口雅也[1]，岩崎秀雄[1,2]（[1]早稲田大・院先進理工学電気情報生命専，[2]メタフォレスト）

PL093 運動性シアノバクテリア Pseudanabaena sp. ILC545 の集団パターン形成
山本宏輝[1]，深澤有貴[1]，岩崎秀雄[1,2]（[1]早稲田大学大学院 先進理工学研究科，[2]metaPhorest）

PL094 An integrative approach to elucidate the role of nutrients in process of plant development in Arabidopsis thaliana.
Akie Shimotohno[1], Takafumi Sato[1], Veronica Grieneisen[2], Stan Maree[2], Toru Fujiwara[1] ([1]The University of Tokyo, [2]John Innes Centre, UK)

■ 細胞周期・分裂

PL095　ヒメツリガネゴケの細胞分裂期におけるキネシンスーパーファミリーの網羅的局在・機能解析
三木智博，仁科桃子，五島剛太（名古屋大学・理・生命理学）

PL096　The Arabidopsis condensin II is required for correct chromosome distribution during interphase
Takuya Sakamoto, Tomoya Sugiyama, Takeshi Hirakawa, Sachihiro Matsunaga (Fac. Sci. Tech., Tokyo Univ. Sci.)

PL097　植物細胞核におけるクロマチン動態のライブセルイメージング解析
平川健，林耕磨，松永幸大（東理大・理工・応用生物科学）

PL098　植物における DSB 応答ダイナミクス解析
長谷川淳子，坂本卓也，松永幸大（東理大・院理工学）

PL099　Visualization of cell cycle progression using S/G2- and G2/M-specific reporters
Shiori Aki-Sugamata[1], Hitomi Takagi[1], Ke Yin[1], Chikage Umeda-Hara[1], Minako Ueda[1], Masaaki Umeda[1,2] ([1]Bio., NAIST, [2]JST, CREST)

PL100　細胞周期の制御に関与する GRAS ファミリー転写因子
鈴木俊哉[1,2]，Breuer Christian[3]，石田喬志[4]，杉本慶子[3]，伊藤正樹[1,2]（[1]名大院・生命農，[2]JST・CREST，[3]理研・CSRS，[4]熊大院・自然科学）

PL101　シロイヌナズナにおける APC/C ユビキチンリガーゼ阻害因子 GIG1 と UVI4 の機能分担
齊藤いづみ[1]，小林明日香[1]，池田早希[1]，伊藤正樹[2,3]（[1]名古屋大・農，[2]名古屋大・院・生命農学，[3]JST, CREST）

■ オルガネラ

PL102　酸化的になったペルオキシソームはオートファジーのシステムで分解される
柴田美智太郎[1,2]，及川和聡[3]，吉本光希[4]，近藤真紀[1]，真野昌二[1,2]，山田健志[1,2]，林誠[5]，坂本亘[6]，大隅良典[7]，西村幹夫[1,2]（[1]基生研・細胞領域，[2]総研大・生命科学，[3]新潟大・農，[4]INRA, Versailles，[5]長浜バイオ大・バイオサイエンス，[6]岡山大・資源植物科学研，[7]東工大・統合研究院）

PL103　STEM トモグラフィーを用いたシロイヌナズナの受精過程の解析
堀井真人[1]，岩野恵[1]，森稔幸[2]，高山誠司[1]（[1]奈良先端科学技術大学院大学，[2]早稲田大学高等研究所）

PL104　根の発生におけるプラスチドタンパク質 RFC3 の機能解析
中田未友希[1]，塚谷裕一[2]，堀口吾朗[1,3]（[1]立教大・理・生命理センター，[2]東大・院・理，[3]立教大・理・生命）

PL105　電顕アトラス法を用いたシロイヌナズナ根端組織における ER body 様構造体の分布と超微形態解析
橋本恵[1]，成川苗子[1]，佐藤繭子[1]，若崎眞由美[1]，岡本龍史[2]，豊岡公徳[1]（[1]理化学研究所環境資源科学研究センター，[2]首都大・理工）

PL106　シロイヌナズナ CRUMPLED LEAF タンパク質と ANKYRIN REPEAT-CONTAINING PROTEIN 2 タンパク質との相互作用解析
氏原麻衣，渡部ひかる，竹内公香，北辻彩夏，角田亜希子，村田綾，町田泰則，吉岡泰（名大院・理・生命理）

PL107　ヒメツリガネゴケの 2 つのオルガネラ局在タンパク質性 RNaseP の解析
田中惟睦，杉田千恵子，香村吉洋，杉田護（名大・遺伝子）

PL108　ヒメツリガネゴケの P-type PPR タンパク質の機能解析
川口康弘，一瀬瑞穂，杉田千恵子，杉田護（名大・遺伝子）

PL109　study of organelle interaction between oil bodies and peroxisomes
Songkui Cui[1,2], Makoto Hayashi[3], Mikio Nishimura[2] ([1]Plant Immunity Research Group, CSRS, RIKEN, [2]Division of Cell mechanism, Department of Cell Biology, National Institute for Basic Biology, [3]Department of Bioscience, Nagahama Institute of Bio-science and Technology)

■ 細胞骨格

PL110　Ectopic expression of GFP-tubulin affects morphology and growth of *Populus tremula* × *Populus tremuloides*
Naoki Takata[1], Toru Taniguchi[1,2] ([1]Forest Bio Res. Cent., For. Forest Prod. Res. Inst., [2]Forest Tree Breeding Cent., For. Forest Prod. Res. Inst.)

PL111　Live imaging of actin filaments in the protoplasts of a legume, *Cassia obtusifolia* L., expressing Lifeact-VENUS.
Masahiro Takahara, Jun Nishiya, Nobuyuki Kanzawa (Fac. of Sci. and Tech., Sophia Univ.)

■ 細胞壁

PL112　エノキタケ由来 AGP コアタンパク質分解酵素の精製
吉見圭永[1]，菅原優美[2]，金子哲[3]，五十嵐圭日子[4]，小竹敬久[1]，円谷陽一[1]（[1]埼玉大院・理工，[2]埼玉大・理，[3]食総研・食品バイオ，[4]東京大院・農学生命科学）

PL113　道管分化における新規壁孔局在因子の解析
長島慶宜[1]，小田祥久[1,2]，福田裕穂[1]（[1]東京大・院理・生物科学，[2]科学技術振興機構・さきがけ）

PL114　Ca 欠乏条件下のトマト果実成熟過程におけるペクチン性多糖代謝の変化
兵頭洋美，瀧沢彩水，古川純，佐藤忍，岩井宏暁（筑波大学大学院 生命環境科学研究科 生命共存科学専攻 環境植物生理学研究室）

PL115　トマト果実軟化過程におけるキシログルカン・キシラン代謝の変化
瀧沢彩水，兵頭洋美，佐藤忍，岩井宏暁（筑波大・生命環境）

PL116　花粉細胞壁合成における UDP-アラビノースムターゼ 3 の機能解析
住吉美奈子，稲村拓也，中村敦子，青原勉，石井忠，佐藤忍，岩井宏暁（筑波大・生命環境）

PL117　ラムノガラクツロナン II のホウ酸架橋形成が低下したシロイヌナズナ変異株の探索
船川寛矢[1]，三輪京子[2]（[1]北大院・環境，[2]北大・創成）

PL118　イネの発達過程における細胞壁タンパク質 THRGP の機能解析
宮下彩，住吉美奈子，中村敦子，佐藤忍，岩井宏暁（筑波大・生命環境）

PL119　クラモドモナスの細胞周期における糖ヌクレオチド生合成遺伝子群の発現解析
前田美奈子，小西照子（琉球大学 農学部）

■ 小胞輸送

PL120　SH3 ドメインを持つ SH3Ps タンパク質は根の重力屈性に関与する
市川美恵[1]，三好皓之[1]，鐘尾啓太[1]，深尾陽一朗[2]，藤原正幸[2]，佐藤雅彦[1]（[1]京府大・生命，[2]奈良先端大・バイオ・植物グローバル）

PL121　Plant growth regulation via membrane-localized E3 and SNARE proteins in response to Carbon/Nitrogen nutrient status
Thais Huarancca Reyes[1], Shugo Maekawa[1], Tomohiro Uemura[2], Takeo Sato[1], Junji Yamaguchi[1] ([1]Grad. Sch. Life Sci., Hokkaido Univ., [2]Grad. Sch. Sci., Univ. of Tokyo)

PL122　シロイヌナズナ *ara6-1* 変異体のマイクロアレイ解析
筒井友和[1]，中野明彦[2]，上田貴志[1,3]（[1]東大院・理系，[2]理研・光量子，[3]さきがけ）

■ その他

PL123　シロイヌナズナのホウ素輸送体 BOR1 の局在と分解の解析から見えて来たタバコ培養細胞 BY-2 株細胞膜の極性
山内昇[3]，御書正[4]，浅妻悟[1]，豊岡公徳[2]，藤原徹[4,5]，松岡健[1,2,3]（[1]九大・院農，[2]理研・植物センター，[3]九大・院生資環，[4]東大・生物生産セ，[5]東大・院農）

■ 転写制御

PL124　シロイヌナズナの 4 個の AREB/ABF 転写因子が浸透圧ストレス時のアブシシン酸を介した遺伝子発現において中心的に機能している
吉田拓也[1]，藤田泰成[2,3]，圓山恭之進[2]，篠崎一雄[4]，篠崎和子[1]（[1]東大院・農学生命科学，[2]国際農研・生物資源利用，[3]筑波大院・生命環境，[4]理研・環境資源科学研究セ）

PL125　Identification and Characterization of Transcription Factors Regulating Phosphate Deficiency Responses in Plants
Chuan-Ming Yeh[1,2], Koichi Kobayashi[3], Hidehiro Fukaki[4], Nobutaka Mitsuda[1], Masaru Ohme-Takagi[1,5] ([1]Bioprod. Res. Inst., Natl. Inst. Adv. Ind. Sci. & Technol. (AIST), [2]JSPS, [3]Grad. Sch. Arts Sci., Univ. Tokyo, [4]Grad. Sch. Sci., Kobe Univ., [5]Inst. Environ. Sci. Technol., Saitama Univ.)

PL126　Towards understanding molecular mechanisms of temporal and spatial expression of a master gene for xylem vessel formation
Hitoshi Endo[1], Masatoshi Yamaguchi[2,3], Yoshimi Nakano[1], Taizo Tamura[1], Arata Yoneda[1], Minoru Kubo[1], Ko Kato[1], Taku Demura[1,4] ([1]Grad. Sch. Bio., NAIST, [2]IEST, Univ. Saitama, [3]PRESTO, JST, [4]CSRS, Riken)

PL127　グルタチオン処理シロイヌナズナにおいて誘導される糖飢餓シグナルの効果
大野隆史[1]，髙部圭司[1]，岩﨑（葉田野）郁[2]，逸見健司[2]，小川健一[2,3]（[1]京大院・農，[2]岡山生物研，[3]CREST/JST）

PL128　糖応答性遺伝子発現制御に関わる転写制御因子の解析
中谷有希[1]，前尾健一郎[1]，石黒澄衛[1]，光田展隆[2]，高木優[2,3]（[1]名古屋大・院生命農学，[2]産総研・生物プロセス，[3]埼玉大・環境科学）

PL129　*Anabaena* sp. PCC 7120 におけるペントースリン酸経路構成遺伝子の転写制御機構
西山英里[1]，中村康太[2]，日原由香子[2,3]，得平茂樹[1,3]（[1]首都大・院生命理学，[2]埼玉大・院分子生物，[3]JST・さきがけ）

■ 転写後制御

PL130　シロイヌナズナの環境ストレス誘導性転写因子 DREB2A による標的遺伝子の転写活性化には、DREB2A の安定化に加えて活性化が必要である
森本恭子[1]，溝井順哉[1]，秦峰[2]，金俊植[3]，佐藤輝[1]，刑部祐里子[4]，篠崎一雄[4]，篠崎和子[1]（[1]東大院・農学生命科学，[2]国際農研・生物資源利用，[3]Plant Sci., SNU，[4]理研・環境資源科学研究セ）

PL131　uORF にコードされるペプチドによる翻訳制御の植物種間における多様性
工藤凜[1]，小山博彰[2]，渡部峻[3]，大谷美沙都[4]，髙橋広夫[5]，今西俊介[6]，内藤哲[2,3]，尾之内均[2]（[1]北大・農，[2]北大・院農，[3]北大・院生命，[4]理研・BMEP，[5]千葉大・院園芸，[6]農研機構・野茶研）

PL132　シロイヌナズナの AP2/ERF 型転写因子 DREB2A の翻訳後調節における負の活性制御ドメインの機能解析
溝井順哉[1]，秦峰[2]，城所聡[1]，篠崎一雄[3]，篠崎和子[1]（[1]東大院・農学生命科学，[2]国際農研・生物資源利用，[3]理研・環境資源科学研究セ）

PL133　A halt in poly(A) shortening during *S*-adenosyl-L-methionine-induced translation arrest in *CGS1* mRNA of *Arabidopsis*
Yui Yamashita[1], Ingrid Lambein[2], Soko Kobayashi[2], Hitoshi Onouchi[2], Yukako Chiba[1,3], Satoshi Naito[1,2] ([1]Grad. Schl. Life Sci., Hokkaido Univ., [2]Grad. Schl. Agric., Hokkaido Univ., [3]Fac. Sci., Hokkaido Univ.)

PL134　シロイヌナズナの脱アデニル化酵素 AtCCR4 の相互作用タンパク質の解析
荒江星拓[1]，鈴木悠也[2]，荒木春花[1]，千葉由佳子[2,3,4]（[1]北大・理，[2]北大院・生命，[3]北大院・理，[4]JST・さきがけ）

PL135　シロイヌナズナ葉緑体 PPR タンパク質の RNA 塩基認識と RNA 編集の進化的推移
石橋幸大，藤井壮太，鹿内利治（京都大学大学院理学研究科生物科学専攻植物学系植物分子遺伝学研究室）

■ エピジェネティック制御

PL136　Identification of the KUMONOSU gene involved in heterochromatin-associated silencing
Yoko Ikeda[1,2], Leticia Lopez Gonzalez[2], Isabelle Vaillant[2], Marie-Noelle Pouch-Pelissier[2], Olivier Mathieu[2] ([1]Institute of Plant Science and Resources, Okayama University, [2]CNRS UMR6293 - INSERM U1103 - GReD)

PL137　イネの脱分化・再分化過程において全ゲノムに誘起される DNA メチル化変動
降簾妙子[1]，小林裕子[1]，小林一成[1,2]（[1]三重大院・地域イノベーション，[2]三重大・生命センター）

PL138　シロイヌナズナにおける貧栄養ストレスとダイサー活性の関係
瀬田淳，長野秀昭，大津直子，横山正，森山裕充，福原敏行（東京農工大学 農学府）

■ タンパク質・酵素

PL139　リグニンの高分子化を担う植物ペルオキシダーゼの酸化能と酸化機構
重藤潤，堤祐司（九州大学大学院農学研究院）

PL140　シロイヌナズナのセリン生合成を担うリン酸化経路とその制御
岡村英治，平井優美（理研CSRS）

PL141　グルタチオン結合性アルドラーゼの精製および機能解析
田村はるか[1]，葉田野－岩崎郁[1]，小川健一[1,2]（[1]岡山県生物科学研究所，[2]CREST）

PL142　Synechocystis sp. PCC 6803 の TCA バイパス経路の解明
日浅夏希，吉川勝徳，清水浩（大阪大学大学院情報科学研究科バイオ情報工学専攻 清水研究室）

■ 糖質・脂質

PL143　ペルオキシソームサイズ変化およびタンパク質輸送異常を示すシロイヌナズナ変異体 *apem6* の解析
神垣あかね[1]，真野昌二[1,2]，近藤真紀[1]，西村幹夫[1,2]（[1]基生研・細胞生物，[2]総合研究大学院大・生命科学）

PL144　Rice starch biosynthetic enzyme complexes have the ability to generate glucans.
Naoko Crofts[1], Natsuko Abe[1], Ryo Matsushima[2], Ian J. Tetlow[3], Michael J. Emes[3], Yasunori Nakamura[1], Naoko Fujita[1] ([1]Biol. Sci. , Akita Pref. Univ., [2]Plant Sci. and Res. Inst., Univ. Okayama, [3]Biol.Sci., Univ. Guelph)

PL145　*Synechocystis* sp. PCC 6803 における Sll0822 欠損株の代謝改変：グリコーゲンから油脂へ
齋藤裕次郎[1]，日原由香子[1,2]（[1]埼玉大・院理工，[2]JST・さきがけ）

PL146　セルソーターを用いたクラミドモナス脂質低蓄積変異株の単離と解析
梶川昌孝[1]，椹木裕里[1]，新川はるか[1]，古谷憲一[1]，山野隆志[1]，廣野雅文[2]，福澤秀哉[1]（[1]京大院・生命，[2]東大院・理）

PL147　緑藻 *Chlamydomonas reinhardtii* におけるリン欠乏応答性プロモーターを用いた脂質蓄積強化
岩井雅子[1,2]，池田桂子[3]，下嶋美恵[1]，太田啓之[1,2,4]（[1]東京工業大学バイオ研究基盤支援総合センター，[2]JST CREST，[3]東京工業大学技術部バイオ技術センター，[4]東京工業大学地球生命研究所）

PL148　緑藻クラミドモナスにおける葉緑体膜脂質モノガラクトシルジアシルグリセロール合成酵素の解析
大島（山田）由衣[1]，増田華子[1]，堀孝一[2,3]，下嶋美恵[2]（[1]東工大・院・生命理工，[2]東工大・バイオセンター，[3]JST・CREST，[4]東工大・地球生命研）

PL149　中性脂質の蓄積機構 — タンパク質合成抑制の側面から
佐藤敦史[1,2]，都筑幹夫[1,2]，佐藤典裕[1,2]（[1]東京薬科大学生命科学部，[2]JST）

PL150　Exploration of Polar Lipid Accumulation Profiles in *Euglena gracilis* by Using a MS/MS Spectral Library Constructed *in Silico* (LipidBlast)
Takumi Ogawa[1], Takeshi Furuhashi[2], Kazuki Nishio[1], Atsushi Okazawa[1], Daisaku Ohta[1] ([1]Grad. Sch. life Env. Sci., Osaka Pref. Univ., [2]RIKEN CSRS)

■ 二次代謝

PL151　ニチニチソウ組織における Terpenoid indole alkaloid 合成機構の解明
山本浩太郎[1]，大西美輪[1]，姉川彩[1]，高橋勝利[2]，岩崎哲史[3]，水野初[4]，七條千津子[1]，石崎公庸[1]，山崎真巳[5]，深城英弘[1]，升島努[4]，三村徹郎[1]（[1]神戸大・理・生物，[2]産総研・計測フロンティア研究部門，[3]神戸大・遺伝子実験センター，[4]理研・生命システム研究センター，[5]千葉大・薬）

PL152　Structure and function of motif B' methyltransferases involved in secondary metabolism
Shiho Kanazawa[1], Fumiyo Nakayama[2], Naoko Kitao[1], Kouichi Mizuno[3], Natsu Tanikawa[4], Misako Kato[1,2] ([1]Department of Biological Science, Graduate School of Humanities and Sciences, Ochanomizu Univ., Japan, [2]Department of Biology, Faculty of Science, Ochanomizu Univ., Japan, [3]Faculty of Bioresource of Science, Akita Prefectural Univ., Japan, [4]NARO Institute of Floricultural Science, Japan)

PL153　Molecular Cloning and Characterization of ERF Transcription Factors Possibly Involved in Camptothecin Biosynthesis in *Ophiorrhiza pumila*
Nirin Udomsom[1], Miki Tokoro[1], Ryosuke Imai[1], Kazuki Saito[1,2], Mami Yamazaki[1] ([1]Grad. Pharm. Sci., Chiba Univ., [2]RIKEN CSRS)

PL154　REDUCED EPIDERMAL FLUORESCENCE1 はジャスモン酸シグナルに応答したアントシアニンの蓄積に関与する。
関本（佐々木）結子[1]，榊原圭子[2]，澤田有司[2]，平井優美[2]，斎藤和季[2]，白須賢[2]（[1]東工大・地球生命研究所（ELSI），[2]理研・環境資源科学センター）

PL155　A polyphenol oxidase-like protein LePPO1 and shikonin production in *Lithospermum erythrorhizon*
Yuki Takano[1], Kyoko Yamamoto[1], Ryosuke Munakata[1], Akifumi Sugiyama[1], Sasaki Kanako[1], Kazuaki Ohara[1], Hirobumi Yamamoto[2], Koichiro Shimomura[2], Kazufumi Yazaki[1] ([1]RISH, Kyoto Univ., [2]Grad. Life Sci., Toyo Univ.)

PL156　酵母におけるトリテルペン配糖体生合成マシナリーの構築
辻恵里花，關光，福島エリオデット，土永浩輝，鈴木宗典，村中俊哉（阪大院・工・生命先端）

PL157　苔類ゼニゴケにおけるオキシリピン代謝酵素 CYP74 ファミリー酵素遺伝子の機能解析
肥塚崇男[1,2]，石崎公庸[3]，河内孝之[4]，松井健二[1,2]（[1]山口大・農，[2]山口大・院・医学系，[3]神戸大・院・理，[4]京都大・院・生命）

PL158　ハナビシソウにおけるオウレン norcoclaurine synthase 遺伝子過剰発現体の解析
堀田雅宏[1]，松島康高[1]，南博道[2]，佐藤文彦[1]（[1]京大院・生命，[2]石川県大・生物資源研）

PL159　メチルジャスモン酸で誘導されるトマチン生合成遺伝子の探索
大山清[1,2]，澤井学[2]，村中俊哉[2,3]，斉藤和季[2,4]，梅基直行[5]（[1]東京工業大学大学院理工学研究科，[2]理化学研究所環境資源科学研究センター，[3]大阪大学大学院工学研究科，[4]千葉大学大学院薬学研究院，[5]キリン株式会社基盤技術研究所）

■ 細胞内輸送・蓄積・分泌

PL160　キンギョソウのトランスポゾン *Tam3* TPase の細胞内局在を制御する宿主因子
鈴木智，橋田慎之介，小川昂志，中山優也，藤野介延，貴島祐治（北大・院農）

PL161　Analysis of LeDI-2, a Dark-inducible Membrane Protein in *Lithospermum erythrorhizon*
Kenta Kaminade[1], Hideaki Matsuoka[2], Akifumi Sugiyama[1], Fumihiko Sato[2], Kazufumi Yazaki[1] ([1]Research Institute for Sustainable Humanosphere, Kyoto University, [2]The Graduate School of Agriculture, Kyoto University)

■ 生体膜・イオン輸送

PL162　シロイヌナズナ CPK の脂質修飾による陰イオン輸送体の活性調節の解析
齋藤俊也，浜本晋，武藤潤，魚住信之（東北大学大学院工学研究科バイオ工学専攻応用生物物理化学分野）

PL163　根毛の生理機能とそれを支える膜結合型タンパク質
田中奈月[1]，加藤真理子[2]，奥田祥平[1]，富岡利恵[1]，倉田理恵[3]，深尾陽一朗[3]，青山卓史[2]，前島正義[1]（[1]名大・生命農学，[2]京大・化研，[3]奈良先端大・バイオ）

PL164　イネ OsHAK2 および OsHAK5 輸送体の機能解析
森田重人[1]，門池大樹[1]，浦瀬康代[1]，丹波奈津美[1]，柴坂三根夫[2]，篠野静香[2]，丸山雅充[1]，福岡あぐり[1]，矢内純太[1]，増村威宏[1]，田中國介[1]，荻原保成[3]，佐藤茂[1]，且原真木[2]，新名惇彦[4]，仲山英樹[5]（[1]京都府大・院生環，[2]岡山大・植物研，[3]横浜市大・木原生研，[4]奈良先端大・バイオ，[5]長崎大・院水環）

PL165　海生種子植物アマモにおける原形質膜アクアポリン遺伝子の発現と細胞内局在
近藤果歩，梁田健一，田中一朗，塩田肇（横浜市大院・生命ナノシステム）

PL166　ホウ素に応答した BOR1 の分解に重要なアミノ酸残基の同定と機能解析
荻野由香[1]，吉成晃[2]，内藤哲[2,3]，高野順平[3]（[1]北海道大・農学部，[2]北海道大・生命科学院，[3]北海道大・農学院）

■ 情報伝達

PL167　孔辺細胞アブシジン酸シグナル伝達におけるグルタチオンの役割
宗正晋太郎[1]，室山大地[1]，長橋大樹[2]，中村宜督[1]，森泉[3]，村田芳行[1]（[1]岡山大院・環境生命，[2]岡山大・農，[3]岡山大・IPSR）

PL168　シロイヌナズナにおける新奇 SnRK2 相互作用因子の同定による浸透圧ストレス伝達機構の解明
阿部倉緑[1]，吉田拓也[1]，最上惇郎[1]，高橋史憲[2]，溝井順哉[1]，篠崎一雄[2]，篠崎和子[1]（[1]東大院・農学生命科学，[2]理研・環境資源科学研究セ）

PL169　Two U-box Ubiquitin Ligases Positively Contribute to MAMP-Responsive MAP Kinase Cascade in Arabidopsis.
Yuta Kubo[1], Kazuya Ichimura[1], Junpei Hio[1], Tsuyoshi Mizoguchi[2], Alexander Graf[3], Fuminori Takahashi[4], Kazuo Shinozaki[4], Ken Shirasu[4] ([1]Faculty of Agri, Kagawa Univ,, [2]ICU, Grad, Sch, Arts Sci,, [3]The Sainsbury Lab, JIC, UK,, [4]RIKEN CSRS)

PL170　Forward Genetic Approach Toward Elucidating Complex Regulation Of *Arabidopsis* MEKK1 In Plant Immunity Signaling
Momoko Takagi[1], Kazuya Ichimura[1], Alexander Graf[2], David Greenshields[3], Hiroki Takagi[4], Kazuo Shinozaki[3], Ryohei Terauchi[4], Ken Shirasu[3] ([1]Faculity of Agri., Kagawa Univ., [2]Sainsbury Lab., JIC, UK, [3]RIKEN CSRS, [4]Iwate Biotech. Res. Cent.)

PL171　Involvement of calcium-dependent protein kinase, CPK6, in stomatal closure induced by yeast elicitor in *Arabidopsis thaliana*
Wenxiu Ye[1], Shintaro Munemasa[1], Yoshimasa Nakamura[1], Izumi C. Mori[2], Yoshiyuki Murata[1] ([1]Grad. Sch. Environ. Life Sci., Okayama Univ., [2]IPSR, Okayama Univ.)

PL172　植物細胞における低温刺激受容と細胞内カルシウムイオン動態について
開勇人，上村松生，河村幸男（岩手大学農学部附属寒冷バイオフロンティア研究センター）

■ 光受容体・光応答

PL173　フィトクロム制御下のイネ幼植物での SPA1 相同タンパク質の役割
加川貴俊，稲垣言要，高野誠（農業生物資源研究所）

PL174　Photochemical analysis of Aureochrome1 in *Ochromonas danica* (Chrysophyceae)
Mie Ishikawa-Ikeda[1], Masahiro Kasahara[2], Hironao Kataoka[3], Fumio Takahashi[2,4] ([1]Grad. sch. Sci., Nagoya Univ., [2]Col. Life Sci., Ritsumeikan Univ., [3]Botanical Gardens, Tohoku Univ., [4]PRESTO, JST)

PL175　フィトクロム 3 の細胞内における局在部位の解明
木村泉美，鐘ヶ江健（首都大・院生命科学）

PL176　葉緑体集合反応は植物の生長を促進する
後藤栄治[1]，末次憲之[2]，比嘉毅[2]，和田正三[2]（[1]九大・院農，[2]九大・院理）

PL177　青色光に依存した気孔の開口を欠くシロイヌナズナ T-DNA 挿入変異体の探索
堤俊文[1]，武宮淳史[2]，山内翔太[1]，島崎研一郎[2]（[1]九州大学・システム生命，[2]九州大学・理学研究院）

PL178　シロイヌナズナ FIB5 の光ストレス適応への関与
石井優実，大坪繭子，田村典明（福岡女子大学人間環境学部）

■ 酸化ストレス

PL179　葉緑体翻訳因子 EF-G および EF-Tu の酸化ストレス応答性
米山拓[1]，大窪孝幸[1]，永野孝典[1]，金森崇[2]，上田卓也[3]，久堀徹[4]，西山佳孝[1]（[1]埼玉大・院・理工，[2]ジーンフロンティア，[3]東京大・院・新領域，[4]東工大・資源研）

PL180　葉緑体由来の H_2O_2 シグナリングを介したストレス応答の分子機構
野志昌弘[1]，岡本泰[2]，問田英里[2]，田茂井政宏[1,2]，高木優[3,4]，丸田隆典[5]，石川孝博[5]，重岡成[1,2]（[1]近畿大・農・バイオ，[2]近畿大院・農・バイオ，[3]産総研・生物プロセス，[4]埼玉大・環境科学，[5]島根大・生資科・生命工）

PL181　葉緑体 H_2O_2 応答性 NAC 転写因子ファミリーの包括的な機能解析
森本哉太[1]，丸田隆典[1]，野志昌弘[2]，高木優[3,4]，澤嘉弘[1]，重岡成[2]，石川孝博[1]（[1]島根大・生資科・生命工，[2]近畿大・農・バイオ，[3]産総研・生物プロセス，[4]埼玉大・環境科学）

■ 温度

PL182　Inhibition of Acetolactate Synthase Confers Basal Thermotolerance on Plants
Daisuke Kitazawa, Tetsuya Miwa, Daisuke Igarashi (Institute for Innovation, Ajinomoto Co., Inc.)

PL183　Functional Analysis of CAMTA family proteins in responce to cold stress in Arabidopsis
Koshi Yoneda[1], Satoshi Kidokoro[1], Kyonoshin Maruyama[2], Nobutaka Mitsuda[4], Masaru Takagi[4,5], Kazuo Shinozaki[3], Kazuko Yamaguchi-Shinozaki[1] ([1]Grad. Sch. Agr. Life Sci., Univ. Tokyo, [2]Biol. Resources Post-harvest Div., JIRCAS, [3]Center for Sustainable Resource Science, RIKEN, [4]AIST, Bioproduction Research Institute, [5]Institute for Environmental Science and Technology, Univ. Saitama)

PL184　Low-Temperature Injury to Rice Pollen Development Occurs by Reductions of Bioactive Gibberellins
Susumu Oda[1], Tadashi Sakata[1], Yuta Tsunaga[1], Makiko Kawagishi-Kobayashi[2], Koichiro Aya[3], Kenichi Saeki[4], Takashi Endo[4], Kuniaki Nagano[4], Hitoshi Sakakibara[5], Masao Watanabe[1], Makoto Matsuoka[3], Atsushi Higashitani[1] ([1]Grad. Sch. life, Tohoku Univ., [2]NICS, NARO, [3]Biosci. Biotechnol. Cen., Nagoya Univ., [4]Miyagi Pref. Furukawa Agr. Exp. Stn., [5]Plant Sci. Cen., RIKEN)

PL185　Golgi/plastid-type superoxide dismutase involves in high temperature stress tolerance during grain filling of rice
Maiko Sasaki[1], Takeshi Shiraya[2], Tatsuya Maruyama[1], Toshiaki Mitsui[1,3] ([1]Grad.Sch.Sci.&Tech., Niigata Univ., [2]Niigata Agricultural Research Institute, [3]Dept.Applied Biol.Chem., Niigata Univ.)

PL186　Expression analysis of QTL candidate genes for a cool-temperature tolerance in rice
Hikaru Shomura[1], Susumu Oda[1], Aya Tomoda[1], Kuniaki Nagano[2], Takashi Endo[2], Kenichi Saeki[2], Tadashi Satou[1], Shusei Satou[1], Atsushi Higashitani[1] ([1]Grad. Sch. life, Tohoku Univ., [2]Miyagi Pref. Furukawa Agr. Exp. Stn.)

PL187　コムギ低温誘導性タンパク質 WLT10 の細胞内局在性の解析
大野良子[1]，宅見薫雄[2]（[1]神戸大・先端研究環，[2]神戸大院・農）

PL188　温度・水欠乏応答性遺伝子 At1g73480 のプロモーター領域の網羅的解析
神原綾子[1]，小倉麻耶[2]，佐久間洋[2]，井上雅裕[2]（[1]愛媛大・SSC，[2]愛媛大・理・生物）

PL189　葉緑体タンパク質遺伝子 COR15a の低温誘導性発現抑制における転写抑制因子 ABI4 の機能
中崎智大，松永理，井上雅裕，佐久間洋（愛媛大・理・生物）

PL190　シロイヌナズナにおけるホスファチジン酸ホスホヒドロラーゼを介した凍結ストレス応答機構の解析
石井翠[1]，下嶋美恵[2]，沼田光紗[1]，山岡靖代[3]，西田生郎[3]，太田啓之[2,4,5]（[1]東工大院・生命理工，[2]東工大・バイオセンター，[3]埼玉大・院・理工，[4]東工大・地球生命研，[5]JST/CREST）

PL191　高温ストレスに応答した遺伝子発現を制御するシロイヌナズナの転写因子 HsfA1 の活性制御における HSP70 の機能解析
大濱直彦[1]，草壁和也[1]，溝井順哉[1]，高橋史憲[2]，石田哲也[3]，柳澤修一[3]，篠崎一雄[2]，篠崎和子[1]（[1]東大院・農学生命科学，[2]理研・環境資源科学研究セ，[3]東大・生物生産工学研究セ）

PL192　シロイヌナズナの低温馴化機構に関する細胞膜プロテオームおよびリン酸化プロテオーム解析
三木雄史[1]，竹林裕美子[2]，高橋大輔[1,3]，河村幸男[1,3]，中神弘史[2]，上村松生[1,3]（[1]寒冷バイオフロンティア研究センター、農学部、岩手大学，[2]理研、環境資源科学研究センター、植物プロテオミクス研究ユニット，[3]連合農学、岩手大学）

PL193　ポプラにおける環境ストレスによるラフィノースファミリーオリゴ糖の蓄積
掛川弘一[1]，田原恒[2]，西口満[2]，毛利武[2]，横田智[2]，楠城時彦[2]（[1]森林総研・バイオマス化学，[2]森林総研・生物工学）

■ 乾燥・水分・浸透圧

PL194　L-Glutamate enhances root hydrotropism *via* glutamate-receptor-mediated Ca^{2+} influx independently of MIZ1-signaling in *Arabidopsis thaliana*
Satoru Iwata, Nobuharu Fujii, Akie Kobayashi, Hideyuki Takahashi (Graduate School of Life Sciences, Tohoku University)

PL195　転写活性化ドメインを付加した転写抑制因子の過剰発現により得られた乾燥耐性系統の解析
木越景子[1]，高木優[1,2]，藤原すみれ[1]（[1]産総研・生物プロセス，[2]埼玉大・環境科学）

PL196　天候による蒸散要求の変動がイネのアクアポリン発現の日周変化に及ぼす影響
村井(羽田野)麻理[1]，桑形恒男[2]，石川(櫻井)淳子[1]，林秀洋[1,3]（[1]農研機構・東北農研，[2]農業環境技術研究所，[3]岩手大学・院農学）

PL197　Plasma Membrane Intrinsic Protein1 (PIP1) is a modulator of PIP2 water channel.
Mineo Shibasaka, Maki Katsuhara (IPSR Okayama Univ.)

PL198　Regulation Of Proline Metabolism Differs In *Nicotiana tabacum* (cultivar MSK326) When Exposed To Drought And Chilling Stress
Shasha Wang, Huiqin Yang, Jianbo Zhang, Dahai Hao, Ming Gong (School of Life Sciences, Engineering Research Center of Sustainable Development and Utilization of Biomass Energy, Ministry of Education, Key Laboratory of Biomass Energy and Environmental Biotechnology of Yunnan Province, Yunnan Normal University)

PL199　ダイズの乾燥ストレス応答に関わる包括的代謝物プロファイリング解析
浦野薫[1]，圓山恭之進[2]，草野都[1]，及川彰[1,3]，岡咲洋三[1]，中林亮[1]，小島美紀子[1]，櫻井哲也[1]，高崎寛則[1]，榊原均[1]，斉藤和季[1,4]，篠崎和子[5]，篠崎一雄[1]（[1]理研、環境資源科学研究センター，[2]国際農研、生物資源利用，[3]山形大院・農，[4]千葉大院・薬，[5]東大院・農）

PL200　シロイヌナズナ内生エリシターの耐塩性付与に関する研究
道満剛平[1]，渡部敏裕[1]，藤野介延[1]，山口夕[1,2]（[1]北大院・農，[2]大阪府大院・生命環境）

PL201　ブラキポディウムにおける NCED3 ホモログ候補遺伝子の機能解析
氷室泰代[1]，石山賀奈子[2]，高橋史憲[1]，持田恵一[1]，小林正智[1,2]，篠崎一雄[1]（[1]理研・CSRS・BMEP，[2]理研・BRC・実験植物）

■ イオン・塩・金属

PL202　Physiological characterization of two barley cultivars differing in Cd tolerance and accumulation
Dezhi Wu, Jian Feng Ma (Institute of Plant Science and Resources, Okayama University)

PL203　The Bowman-Birk trypsin inhibitor IBP1 interacts with and prevents degradation of IDEF1 in rice
Lixia Zhang[1], Reiko Itai N.[1], Takashi Yamakawa[1], Hiromi Nakanishi[1], Naoko K. Nishizawa[2], Takanori Kobayashi[2,3] ([1]The University of Tokyo, [2]Ishikawa Prefectural University, [3]Japan Science and Technology Agency, PRESTO)

PL204　イネ地上部の鉄分配に関与するクエン酸トランスポーター OsFRDL1
横正健剛，山地直樹，馬建鋒（岡山大・植物研）

PL205　シロイヌナズナ根端における ^{33}P 局在とリン酸応答性遺伝子の発現誘導
菅野里美[1]，岡田和哉[1]，大西美輪[1]，豊倉浩一[1]，姉川彩[1]，田野井慶太朗[2]，中西友子[2]，Laurent Nussaume[3]，深城英弘[1]，三村徹郎[1]（[1]神戸大学 理学研究科 生物学専攻，[2]東京大学 農学生命科学研究科 応用生命化学専攻，[3]CEA Laboratory of developmental plant biology）

PL206　A magnesium transporter OsMGT1 is required for salt stress tolerance in rice
Zhi Chang Chen, Jian Feng Ma (Institute of Plant Science and Resources, Okayama University)

PL207　Correlation of transcriptome profiles with physiological traits for bread wheat cultivars under salinity stress
Fuminori Takahashi[1,4], Joanne Tilbrook[3], Christine Trittermann[3], Bettina Berger[4], Stuart Roy[3], Motoaki Seki[2], Mark Tester[3,4,5], Kazuo Shinozaki[1] ([1]Biomass Research Platform Team, RIKEN CSRS, [2]Plant Genomic Network Research Team, RIKEN CSRS, [3]Australian Centre for Plant Functional Genomics, [4]The Plant Accelerator, [5]Center for Desert Agriculture, KAUST)

PL208　イネにおけるアコニターゼタンパク質の鉄感知への寄与
瀬野浦武志[1]，小林高範[1]，中西啓仁[2]，西澤直子[1]（[1]石川県大・生物資源工学，[2]東大院・農）

PL209　A seasonal behavior of radiocesium activity from the Fukushima-fallout in litterfalls of some woody plants
Toshihiro Yoshihara, Shin-nosuke Hashida (Plant Mol. Biol., Lab. Env. Sci., CRIEPI)

PL210　様々ストレス耐性に関与するシアノバクテリアの Sll1180 の重金属蓄積機構の解析
内山純爾[1]，田中優[2]，吉原利一[1,3]，小川覚[4]，太田尚孝[1,2]（[1]東理大・総研・RNA，[2]東理大・理，[3]電中研，[4]三重大・医）

PL211　Each metal distribution and chemical form of Cd and Zn on the metal accumulator *Gamblea innovans*
Misuzu Sakurai[1], Rie Tomioka[1], Chisato Takenaka[1], Akiko Hokura[2], Humihiro Masuyama[2], Yasuko Terada[3] ([1]Grad. Sch. Bioagr., Univ. Nagoya, [2]Grad. Sch. Enviro chem., Univ. Tokyodenki, [3]JASRI)

PL212　亜鉛超集積性植物タカネグンバイで発現するスプライシング多型由来アミノ末端切断型 NjZNT1 の機能解析
西田翔[1]，愛須彩加[2]，水野隆文[2]，藤原徹[1]（[1]東大院・農生命，[2]三重大院・生物資源）

PL213　ヘビノネゴザの根における有機酸含有量の Ca および Cd 応答性について
鵜飼優子[1,2]，北﨑一義[2]，橋田慎之介[2]，庄子和博[2]，後藤文之[2]，島田浩章[1]，吉原利一[1,2]（[1]東理大 基礎工 生物工，[2]電中研）

■ 病虫害応答・傷害応答

PL214　シロイヌナズナ傷害時における Lipid Transfer Protein の機能解析
金森美有[1]，陳静[1]，西村浩二[2]，乾薫[1]，森一晃[1]，斉藤洸[1]，関本（佐々木）結子[3]，松海法隆[4]，小林雄一[4]，及川隆也[5]，石丸泰寛[5]，上田実[5]，太田啓之[1,3,6]（[1]東工大・バイオセンター，[2]島根大・総科研センター，[3]東工大・ELSI，[4]東工大院・生命理工，[5]東北大院・理，[6]JST・CREST）

PL215　Two Major Dehydrogenases are Involved in Momilactone Biosynthesis in Rice
Koji Miyamoto[1,3], Morifumi Hasegawa[2], Hideaki Nojiri[3], Hisakazu Yamane[1,3], Kazunori Okada[3] ([1]Dept. of Biosciences, Teikyo Univ., [2]College of Agriculture, Ibaraki Univ., [3]Biotechnology Research Center, The University of Tokyo)

PL216　いもち病応答性の転写活性化因子 OsNAC111 は防御関連遺伝子の発現制御に関与する
横谷尚起[1]，槌田（間山）智子[1]，市川裕章[1]，光田展隆[2]，高木優[2]，南栄一[1]，西澤洋子[1]（[1]農業生物資源研究所，[2]産総研・生物プロセス）

PL217　タバコ抵抗性因子 N のスプライスバリアントはウイルスエリシター誘導性の防御応答を負に制御する
佐々木信光，高岡万純，丹生谷博（東京農工大・遺伝子実験施設）

PL218　タバコ野火病の発病におけるアデニル酸シクラーゼの役割
伊藤慎[1]，山本優[1]，金哲史[1]，大西浩平[2]，曳地康史[1]，木場章範[1]（[1]高知大・農，[2]高知大・総研セ）

PL219　Fine mapping of a quantitative trait locus for resistance to the parasitic plant *Striga hermonthica* in rice.
Kiyosumi Hori[1], Mamadou Cissoko[2], Alexis Moschopoulos[2], Alberto Martin-Sanz[2], Arnaud Boisnard[2], Jon Slate[2], Masahiro Yano[1], Julie D Scholes[2] ([1]Nat. Inst. Agr. Sci., [2]Univ. Sheffield)

PL220　イソコリスミン酸合成酵素の生化学的特性の比較解析－AtICS1タンパク質の高蓄積と高活性には異なる領域が関与している－
横尾尚平[1]，天川奈穂[2]，松井英譲[3]，中神弘史[3]，高橋章[4]，光原一朗[4]，加藤新平[2]（[1]信州大院・農，[2]信州大・農，[3]理研・植物プロテオミクス研究ユニット，[4]生物研）

PL221　ニコチンアミドモノヌクレオチドによる植物の病害抵抗性誘導の解析
三輪晃敬[1]，澤田有司[2]，平井優美[2]，佐藤和広[3]，西内巧[1]（[1]金沢大学・学際センター，[2]理研・環境資源科学研究センター，[3]岡山大学・植資研）

PL222　傷害誘導性 MAP キナーゼである WIPK と SIPK によって制御されるカプシジオール生合成遺伝子のプロモーター解析
小島知弥[1]，光原一朗[2]，加藤新平[1]（[1]信州大院・農，[2]生物研）

PL223　タバコから単離した TRI1 は、ナミハダニ、アザミウマ、ハスモンヨトウに対する抵抗性を誘導し、植物の防御遺伝子の発現を高める
田島直人[1]，村田未果[1]，望月淳[2]，光原一朗[1]，瀬尾茂美[1]（[1]農業生物資源研究所 植物科学研究領域，[2]農業環境技術研究所 生物多様性研究領域）

■ 植物微生物相互作用（共生）

PL224　ミヤコグサ *cerberus* 変異体のトランスクリプトーム解析より示唆されるアーバスキュラー菌根菌の菌糸伸長機構
福原舞[1,2]，半田佳宏[1]，武田直也[1,2]，川口正代司[1,2]（[1]基生研・共生システム，[2]総研大・生命科学）

PL225　硝酸耐性ミヤコグサ突然変異体の単離と表現型解析
西田帆那[1,2]，寿崎拓哉[1,2]，川口正代司[1,2]（[1]基生研・共生システム，[2]総研大・生命科学）

PL226　ミヤコグサの EIN2 遺伝子を介したエチレンシグナリングと根粒形成の制御
宮田佳奈[1]，中川知己[1]，川口正代司[2]（[1]明治大，[2]基生研）

■ 植物微生物相互作用（免疫）

PL227　イネいもち病菌侵入に伴うイネ細胞の膜構造変化の蛍光イメージング
望月進，南栄一，西澤洋子（生物研・耐病性U）

PL228　Identification of a small molecule inhibitor for the salicylic acid signaling pathway
Nobuaki Ishihama[1], Yoshiteru Noutoshi[2], Seung-won Choi[1], Ivana Saska[1], Yuko Nomura[1], Hirofumi Nakagami[1], Kazutaka Murayama[3], Mikako Shirouzu[4], Tamio Saito[1], Hiroyuki Osada[1], Ken Shirasu[1] ([1]Center for Sustainable Resource Science, RIKEN, [2]Faculty of Agriculture, Okayama University, [3]Graduate School of Biomedical Engineering, Tohoku University, [4]Center for Life Science Technologies, RIKEN)

PL229　Identification of Immune Factors Interacted with Xa1, the Bacterial Blight Resistance NB-LRR Protein in Rice.
Nao Hayata, Satomi Yoshimura, Yuta Ido, Tsutomu Kawasaki (Grad. School of Agriculture, Kinki Univ)

PL230　Functional analysis of Anamorsin in plant immunity.
Yuya Yoshimura, Koji Yamaguchi, Takahito Kiyose, Satomi Yoshimura, Tsutomu Kawasaki (Grad. School of Agriculture, Kinki Univ)

PL231　Novel transcription factor, OsNTF1, regulates the plant immune responses in rice
Hiroyuki Hirai[1], Yuta Uno[1], Syota Shii[1], Yuji Terasawa[1], Fumiya Horiie[2], Ken-ichi Kubo[3], Hideo Nakashita[4], Fang-Sik Che[1,2] ([1]Grad. Sch. of Biosci., Nagahama Inst. of Bio-Sci. and Tech., [2]Nagahama Inst. of Bio-Sci. and Tech., [3]Nara Inst. of Sci. and Tech, [4]Depart. of Applied Biol. and Chem., Tokyo Unive. of Agri.)

PL232　Identification of Novel *Ralstonia solanacearum* GMI1000 Effector Which Suppress HR-like Cell Death Induced by MEK2^{DD}
Mikiya Sato[1], Yoshito Taguchi[1], Hirofumi Yoshioka[2], Kazuya Akimitsu[1], Kazuya Ichimura[1] ([1]Fuculty of Agriculture, Kagawa University, [2]Graduate School of Bioagricultural Sciences, Nagoya University)

PL233　大腸菌発現タンパク質を用いたシロイヌナズナキチン受容体 CERK1 キナーゼドメインの機能解析
鈴木丸陽[1]，須藤健吉[1]，藤本瑞[2]，大西美帆子[1]，紀藤圭治[1]，賀来華江[1]，渋谷直人[1]（[1]明治大農 生命科学，[2]農業生物資源研究所）

PL234　シロイヌナズナキチン受容体キナーゼ CERK1 のリン酸化部位の機能解析
島田日加瑠，元山記子，渋谷匡俊，中島正登，鈴木丸陽，賀来華江，渋谷直人（明治大・農・生命科学）

PL235　植物病原細菌 *Acidovorax avenae* N1141 の *tad1* 変異株において認められるイネ過敏感細胞死誘導能欠損の作用機序
宮田千加[1]，柳生暁輝[1]，佐々木悠[1]，川口雄正[2]，近藤真千子[2]，蔡晃植[1,2]（[1]長浜バイオ大院・バイオ，[2]長浜バイオ大・バイオ）

PL236　カルシウム依存性プロテインキナーゼ 12 を介したイネの病原菌認識情報伝達機構
神村麻友[1]，韓宇龍[1]，鬼頭信貴[2]，蔡晃植[1,2]（[1]長浜バイオ大院・バイオ，[2]長浜バイオ大・バイオ）

PL237　イネキチン受容体 CEBiP のリガンド認識機構
早船真広[1]，出﨑能丈[1]，加山実祐[1]，谷本匠[1]，Rita Berisio[2]，Roberta Marchetti[3]，Alba Silipo[3]，Flavia Squeglia[2]，Alessia Ruggiero[2]，徳安健[4]，Antonio Molinaro[3]，渋谷直人[1]，賀来華江[1]（[1]明治大学・農・生命，[2]IBB-NRC，[3]ナポリ大学，[4]食品総合研究所）

PL238　いもち病菌（Magnaporthe oryzae）非病原力因子 AVR-Pik と相互作用するイネタンパク質の同定
神崎洋之[1]，斉藤宏昌[1]，藤崎恒喜[1]，小林光智衣[1]，伊藤和江[1]，神崎英子[1]，三岡周子[1]，Mark Banfield[2]，Sophien Kamoun[3]（[1](公財）岩手生物工学研究センター，[2]John Innes Center, UK，[3]Sainsbury Laboratory, UK）

PL239　ナノファイバー化した高分子キチンのエリシター活性と病害抵抗性誘導能
江草真由美[1,2,3]，松井英譲[4]，奥田真未[1]，伊福伸介[3]，中神弘史[4]，上中弘典[1]（[1]鳥取大・農，[2]鳥取大・産学連携，[3]鳥取大院・工，[4]理研・CSRS）

■ その他

PL240　Regulation mechanisms of NPQ induction under iron deficiency in the Arabidopsis *popeye* mutant.
Ryoichi Araki[1], Takamasa Suzuki[2,3], Tetsuya Higashiyama[2,3], Toshiharu Shikanai[1] ([1]Grad. Sch. Sci., Kyoto Univ., [2]Grad. Sch. Sci. Nagoya Univ., [3]JST ERATO)

PL241　サーモグラフィ測定により見いだされた巨大気孔をもつシロイヌナズナエコタイプ Me-0
門田慧奈[1]，祢冝淳太郎[1]，石垣元気[2]，荒木啓充[3]，高橋將[1]，石川忍[1]，橋本（杉本）美海[1]，久原哲[3]，明石良[2]，後藤伸治[4]，射場厚[1]（[1]九州大・理・生物科学，[2]宮崎大・農・畜産草地，[3]九州大・農・生命機能科学，[4]理研BRC・客員）

■ 重力

PL242　国際宇宙ステーション「きぼう」実験棟で得られたシロイヌナズナ種子の X 線マイクロ CT による三次元観察
後藤圭太[1]，唐原一郎[1]，須藤宇道[1]，栗林剛正[1]，矢野幸子[2]，谷垣文章[2]，嶋津徹[3]，笠原春夫[4]，上杉健太朗[5]，竹内晃久[5]，鈴木芳生[5]，玉置大介[6]，山内大輔[6]，峰雪芳宣[6]，神阪盛一郎[1]（[1]富山大・院・理工，[2]宇宙航空研究開発機構，[3]日本宇宙フォーラム，[4]有人宇宙システム株式会社，[5]高輝度光科学研究センター，[6]兵庫県大・院・生命理学）

PL243　シロイヌナズナ花茎の重力屈性変異 *atlazy1* の新たな抑圧変異体 *dsl2* の解析
佐々木秋[1]，山本興太朗[1,2]（[1]北大・院・生命，[2]北大・院・理）

PL244　リチャードミズワラビの暗所生育配偶体における重力センシング
蒲池浩之（富山大・院理工・生物圏環境）

■ ゲノム・EST

PL245　Sequencing and annotation of wheat chromosome 6B
Tsuyoshi Tanaka[1], Fuminori Kobayashi[1], Giri Prasad Joshi[2], Ritsuko Onuki[1], Hiroaki Sakai[1], Hiroyuki Kanamori[1], Jianzhong Wu[1], Hana Simkova[3], Shuhei Nasuda[2], Takashi R. Endo[3], Katsuyuki Hayakawa[4], Jaroslav Dolezel[3], Yasunari Ogihara[5], Takeshi Itoh[1], Takashi Matsumoto[1], Hirokazu Handa[1] ([1]National Institute of Agrobiological Sciences, [2]Kyoto University, [3]Inst. Exp. Bot., Czech Republic, [4]Nisshin Flour Milling Inc., [5]Yokohama City University)

PL246　Genome Sequencing of the Charophycean Green Alga, *Chara Braunii*
Tomoaki Nishiyama[1], Atsushi Toyoda[2], Yutaka Suzuki[3], Asao Fujiyama[2], Hidetoshi Sakayama[4] ([1]ASRC, Kanazawa Univ., [2]Comp. Genom., Natl. Inst. Genet., [3]Grad. Sch. Frontier Sci., Univ. Tokyo, [4]Grad. Sch. Sci., Kobe Univ.)

PL247　Liverwort Genome Analysis and Construction of the Genome Annotation Database
Hideki Nagasaki[1], Kimitsune Ishizaki[2], Katsuyuki Yamato[3], Takayuki Kohchi[4], Yasukazu Nakamura[1] ([1]Genome Informatics Laboratory, National Institute of Genetics, [2]Kobe University, Graduate School of Science & Faculty of Science, [3]Kinki University, Department of Biotechnological Science Faculty of Biology-Oriented Science and Technology, [4]Kyoto University, Graduate School of Biostudies)

PL248　Genome-wide analysis of intraspecific DNA polymorphism in Micro-Tom, a model cultivar of tomato (*Solanum lycopersicum*)
Koh Aoki[1], Masaaki Kobayashi[2], Hideki Nagasaki[3], Virginie Garcia[4], Daniel Just[4], Cecile Bres[4], Jean-Philippe Mauxion[4], Marie-Christine Le Paslier[5], Dominique Brunel[5], Kunihiro Suda[6], Yohei Minakuchi[7], Atsushi Toyoda[7], Asao Fujiyama[7], Hiromi Toyoshima[2], Takayuki Suzuki[2], Kaori Igarashi[2], Christophe Rothan[4], Eli Kaminuma[3], Yasukazu Nakamura[3], Kentaro Yano[2] ([1]Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, [2]Faculty of Agriculture, Meiji University, [3]Genome Informatics Laboratory, National Institute of Genetics, [4]INRA, Universite de Bordeaux, [5]Unite Etude du Polymorphisme des Genomes Vegetaux, CEA-Institut de Genomique-CNG, INRA, [6]Kazusa DNA Research Institute, [7]Comparative Genomics Laboratory, National Institute of Genetics)

PL249　車軸藻植物門クレブソルミディウムのゲノム解読と他植物との比較解析

堀孝一[1,6]，山本希[2]，梅津純平[2]，富樫智章[2]，円由香[1]，下嶋美恵[1]，瀬尾光範[3]，近藤智[4]，大高きぬ香[4]，唐司典明[4]，渡邊汀[4]，東光一[2]，森宙史[2]，山田拓司[2]，増田真二[1,4,5]，黒川顕[2,5,6]，太田啓之[1,4,5,6]（[1]東京工業大学・バイオセンター，[2]東京工業大学・生命情報，[3]理化学研究所・環境資源科学研究センター，[4]東京工業大学・生体システム，[5]東京工業大学・地球生命研究所，[6]JST, CREST）

PL250　Resequencing analyses of laboratory strains of *Synechococcus elongatus* PCC 7942

Yu Kanesaki[1], Keigo Ozawa[2], Marie Suzuki[2], Yuh Shiwa[1], Satoru Watanabe[2], Hirofumi Yoshikawa[1,2] ([1]Genome Research Center, Tokyo Univ. Agric., [2]Dept. Biosci., Tokyo Univ. Agric.)

PL251　有殻アメーバ *Paulinellachromatophora* におけるシアネレから核に転移した遺伝子群の解析

松尾充啓[1]，潟端篤[1]，佐藤壮一郎[1]，松崎素道[2]，松本拓也[1]，鶴岡愛[1]，野村真未[3]，中山卓郎[3]，壁谷如洋[4]，宮城島進也[4]，石田健一郎[3]，小保方潤一[1]（[1]京都府大・生命環境，[2]東大院・医・生物医科学，[3]筑波大院・生命環境，[4]遺伝研・新分野）

■ バイオインフォマティクス

PL252　Inference of the influence of metabolites on gene expression based on statistical analysis of microarray data

宮本万理子，渡邊俊介，坂本敦，西森拓，粟津暁紀（広島大学大学院理学研究科数理分子生命理学専攻）

■ トランスクリプトーム

PL253　Expression analysis of tea genes regulated by light using custom microarray

Yasuo Niwa[1], Hideki Nishimura[2], Takashi Hirayama[2], Yuji Sawada[3], Masami Hirai[3], Hideki Nagasaki[4], Yasukazu Nakamura[4], Eiji Kobayashi[5], Shoko Watanabe[1], Takeshi Ogawa[1], Yoriyuki Nakamura[1], Hirokazu Kobayashi[1] ([1]University of Shizuoka, [2]IPSR, Okayama Univ., [3]RIKEN Center for Sustainable Resource Science, Metabolomics Research Group, [4]Natl. Inst. Genetics, [5]Shizuoka Tea Res. Ctr.)

PL254　Analysis of the of high-light stress tolerant strain of *Synechocystis* sp. PCC 6803

Katsunori Yoshikawa[1,2], Kenichi Ogawa[1,2], Seiji Akimoto[3], Hiroshi Shimizu[1,2] ([1]Dept. Bioinfo., Grad. Sch. Info. Sci. Tech., Osaka Univ., [2]Crest, JST, [3]Molecular Photoscience Research Center, Kobe Univ.)

PL255　トランスクリプトームによるシス桂皮酸誘導体群の構造活性相関評価

和佐野直也[1]，加茂綱嗣[2]，平舘俊太郎[2]，西川慶佑[3]，奥田勝博[3]，新藤充[3]，藤井義晴[1]（[1]東京農工大・農，[2]農環研・生物多様性，[3]九大・先導物質化学研）

■ 技術開発

PL256　人工リボスイッチを基盤としたラン藻の新規遺伝子発現制御技術

中平洋一[1]，小川敦司[2]，浅野宏幸[3]，小山時隆[3]，戸澤譲[1,2]（[1]愛媛大・VBL，[2]愛媛大・プロテオサイエンス，[3]京大院・理）

PL257　基礎生物学研究所に新たに設置された植物研究のための共同利用設備

諸岡直樹，星野敦（基礎生物学研究所モデル植物研究支援室）

PL258　アガートラップ法：アグロバクテリウムを介したゼニゴケ形質転換法の簡便化

坪山祥子，児玉豊（宇都宮大・バイオセンター）

PL259　植物細胞における GFP 変異体の相対輝度比較

藤井雄太，児玉豊（宇都宮大・バイオセンター）

■ GM 植物の評価リスク

PL260　国道 51 号線沿いに生育していた遺伝子組換えセイヨウアブラナの推移

中嶋信美[1]，西沢徹[2]，玉置雅紀[1]，青野光子[1]，久保明弘[1]，佐治光[1]（[1]国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター，[2]福井大学 教育地域科学部）

■ バイオリソース

PL261　バイオマス評価法の開発

寺村浩[1]，山崎将紀[2]，川口秀夫[1]，合田喬[2]，松田史生[3]，荻野千秋[1]，近藤昭彦[1]（[1]神大院・工，[2]神戸大院・農・附属食資源教育研究センター，[3]阪大院・情報）

PL262　転写因子の機能解明を目的とした形質転換イネ系統群の作出とその網羅的表現型解析

石塚徹[1]，瀧口裕子[1]，松井恭子[2]，佐藤和人[2]，成田聡子[2]，槌田（間山）智子[3]，飯田（岡田）恵子[3]，堀川明彦[3]，四方雅仁[3,6]，阿部清美[3]，宮尾安藝雄[4]，市川裕章[3]，光田展隆[1]，髙木優[1,5]（[1]産総研・生物プロセス，[2]（株）グリーンソニア，[3]生物研・植物科学，[4]生物研・先端ゲノム，[5]埼玉大・環境科学，[6]筑波大・生命環境）

PL263　Development of F2 population between ‘Micro-Tom’ and ‘Ailsa Craig’ to elucidate genes responsible for fruit bearing in low light intensity condition

Nobuaki Chiba, Koh Aoki (Sch. Life Environ. Sci., Osaka Pref. Univ.)

PL264　Development of TILLING resources using Brachypodium distachyon ‘Bd21’

Daisuke Saisho[1], Keiichi Mochida[2], Takakazu Matsuura[1], Ryo Matsushima[1], Kazuo Shinozaki[2], Takashi Hirayama[1] ([1]IPSR, Okayama University, [2]CSRS, RIKEN)

PL265　平成 26 年度における理研 BRC の植物培養細胞リソースに関連する事業について

小林俊弘，安部洋，井内聖，小林正智（理研・BRC）

PL266　新興モデル生物ゼニゴケ無性芽の超低温保存法の開発

田中大介[1]，大和勝幸[2]，石崎公庸[3]，河内孝之[4]（[1]基礎生物学研究所，IBBPセンター，[2]近畿大学，生物理工学部，[3]神戸大学，院理学，[4]京都大学，院生命科学）

■ その他

PL267　Exploration of genes that contribute to traits of Hokkaido rice cultivars by whole-genome sequencing

Sho Takano[1], Takashi Sato[2], Kiyoaki Kato[1] ([1]Agro-Environmental. Sci., Univ. Obihiro, [2]Hokkaido Research Organization., Kamikawa)

第55回日本植物生理学会年会　座長リスト

第1日　2014年3月18日（火）　午前

1aA　老化・細胞死／成長制御
藤原　徹
川合　真紀
倉田　哲也

1aB　情報伝達／光受容体・光応答
根本　圭一郎
橋本(杉本)　美海
広瀬　侑

1aC　植物微生物相互作用（免疫）
松井　英譲
西條　雄介
津田　賢一

1aD　光化学系 I・II
加藤　祐樹
加藤　裕介
田中　歩

1aE　栄養器官の発生・分化
澤　進一郎
篠原　秀文
川口　正代司

1aF　細胞周期・分裂
池内　桃子
高橋　直紀
西浜　竜一

1aG　糖質・脂質／二次代謝
鈴木　石根
下嶋　美恵
片山　健太

1aH　細胞内輸送・蓄積・分泌／吸収・転流・蒸散／生体膜・イオン輸送
且原　真木
吉田　久美
山地　直樹

第1日　2014年3月18日（火）　午後

1pA　胚発生，細胞分化／種子形成，休眠，発芽
石田　哲也
西村　泰介
佐藤　雅彦

1pB　光受容体・光応答
児玉　豊
末次　憲之
芳賀　健

1pC　植物微生物相互作用（免疫）
朽津　和幸
石川　和也
中川　知己

1pD　光合成色素・光捕集系／光化学系 I・II
原田　二朗
藤田　祐一
宮下　英明

1pE　栄養器官の発生・分化
高塚　大知
豊倉　浩一
久永　哲也

1pF　細胞骨格／細胞壁
富永　基樹
堀田　崇
神谷　岳洋

1pG　二次代謝
小埜　栄一郎
松井　南
吉本　尚子

1pH　電子伝達系・炭素代謝
牧野　周
宗景(中島)　ゆり
山本　宏

第2日　2014年3月19日（水）　午前

2aA　ゲノム・EST／トランスクリプトーム／メタボローム／バイオインフォマティクス／データベース／その他
持田　恵一
永野　惇
矢野　健太郎

2aB　栄養器官の発生・分化
青山　卓史
町田　千代子
吉田　明希子

2aC　生殖器官の発生・分化／植物ホルモン・成長調節物質
岡本　昌憲
武田　征士
清水　健太郎

2aD　オルガネラ／小胞輸送
上田　貴志
嶋田　知生
真野　昌二

2aE　イオン・塩・金属
小林　高範
内藤　健
太治　輝昭

2aF　光合成・呼吸の環境応答　西山　佳孝
野口　航
増田　真二

2aG　転写制御／転写後制御　小山内　崇
上中　弘典
藤原　すみれ

2aH　温度　仲本　準
石川　雅也
渡辺　悦子

第2日　2014年3月19日（水）　午後

2pA　小胞輸送　高野　順平
海老根　一生
楢本　悟史

2pB　遺伝・生殖／光周性・リズム・時計　北山　陽子
武内　秀憲

2pC　植物ホルモン・成長調節物質　綾野　まどか
坂口　潤
山上　あゆみ

2pD　オルガネラ　泉　正範
杉田　護
坂本　亘

2pE　イオン・塩・金属　小林　佑理子
佐々木　孝行
馬　建鋒

2pF　電子伝達系・炭素代謝／光合成・呼吸の環境応答／その他　小島　幸治
上坂　一馬

2pG　転写後制御／エピジェネティック制御／タンパク質修飾・分解　千葉　由佳子
辻　寛之
中邨　真之

2pH　乾燥・水分・浸透圧／病虫害応答・傷害応答　楠見　健介
刑部　祐里子
黒森　崇

第3日　2014年3月20日（木）　午前

3aA　窒素代謝・栄養代謝　小西　美稲子
佐藤　長緒
草野　都

3aB　花成　田岡　健一郎
中村　友輝

3aC　細胞壁　横山　隆亮
馬場　啓一
桧垣　匠

3aD　植物微生物相互作用（共生）／その他　高橋　秀行
小八重　善裕
武田　直也

3aE　植物ホルモン・成長調節物質　朝比奈　雅志
廣田　敦子
米山　香織

3aF　バイオインフォマティクス／トランスクリプトーム／技術開発／バイオリソース　遠藤　真咲
吉積　毅
朽名　夏麿
松田　修

3aG　UV障害／レドックス制御／酸化ストレス／重力　小杉　真貴子
日原　由香子
森田（寺尾）　美代